

ご使用前に必ずお読みください

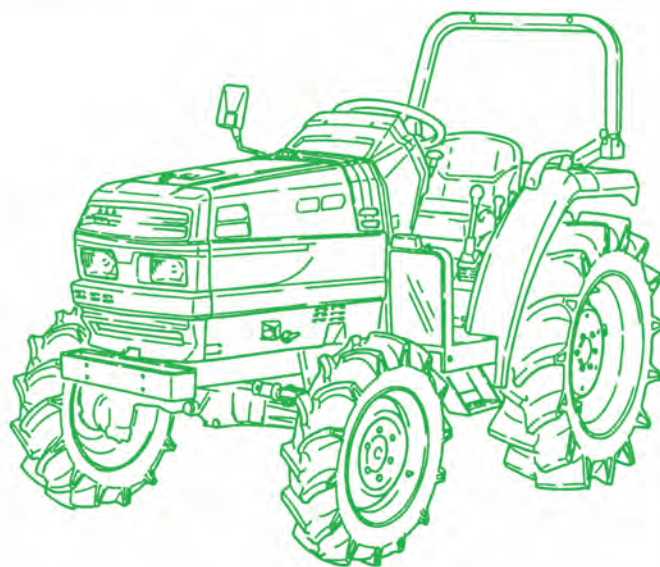


# 三菱トラクタ

MT226・MT246・MT266・MT266H  
MT286・MT286H・MT306・MT306H・MT336・MT336H

## パルシードGO

### 取扱説明書



## はじめに

このたびは、トラクタをお買いあげいただき、まことにありがとうございます。


このトラクタの性能を発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用のまえに「取扱説明書」をよくお読みいただき、機械の使い方を理解してから正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。

いつまでもすぐれた性能を発揮できるよう本書をいかして、機械を大切にお使いください。

## 安全のポイント

安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

この取扱説明書のなかでぜひ守っていただきたい**安全作業**のポイントをそのつど  マークで表示し説明しています。さらに安全のポイントを抜粋した「安全ポスター」を添付しておりますので合わせてお読みいただき、事故のない楽しい作業をしてください。

◆トラクタの転落事故は自動車への積込み・積降ろしや、ほ場への出入りおよび路肩への寄りすぎの時に多く発生しています。

アユミの上ではクラッチ操作、変速操作や必要以上のハンドル操作をしないでください。

ほ場以外では左右のブレーキペダルを連結してデフロックを解除し、周囲を確認して低速で運転してください。

◆トラクタの負傷事故はロータリへの土の詰まりや草の巻付を除去する時に多く発生しています。

回転部分やロータリ部が最も危険な部所ですので作業中は触れないでください。

詰まり等の除去、点検、掃除の時はエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。



## 安全作業をするために

### 1. 点検・エンジン始動

- (1) 給油・注油・点検は平坦な場所で駐車ブレーキをかけて、エンジンを停止して行なってください。
- (2) 燃料補給時は火気を近づけないようにしてください。
- (3) 火災防止のため、エンジン、マフラー、燃料タンク回りのワラズを取除いてください。
- (4) ラジエータキャップの取外しはエンジンが冷えてから行なってください。
- (5) エンジンを始動するときは、主変速・副変速・PTO変速レバーを《N》(中立)にし、駐車ブレーキをかけてクラッチを切って行なってください。
- (6) 屋内やハウスでの始動は窓や戸をあけて、換気を行い、排気ガス中毒にならないようにしてください。
- (7) 発進するときは、周囲を確認し機械のそばに人を近づけないようにしてください。

### 2. 自動車への積込み、積降ろし

- (1) 積込み、積降ろしは強度、幅、長さ(荷台高さの4倍以上)のあるスベリ止め、フック付のアユミを使用し、低速で行なってください。
- (2) アユミの上ではクラッチ操作、変速操作、必要以上のハンドル操作は、落下・転倒の恐れがありますので行わないでください。
- (3) 積込みは後進、積降ろしは前進で低速で行なってください。

### 3. 路上走行

- (1) ナンバープレートの交付を受けて、運転免許証を携帯し、交通法規を守って走行してください。
- (2) 公道走行時は作業機を装着しないでください。
- (3) 左右のブレーキペダルを連結します。
- (4) デフロックを解除してください。
- (5) 発進、旋回は、低速で行います。
- (6) 路肩の軟弱な所や草の生い茂っている所は転落の恐れがありますので走行しないでください。

### 4. ほ場での作業

- (1) ほ場への出入り、あぜ越えは、低速であぜに対して直角に行なってください。
- (2) 高いあぜや溝越えはアユミを使用します。
- (3) 作業中は、ワラなどの巻きつきや詰まりに手を出さないでください。異常が発生した場合はエンジンを停止してから掃除してください。
- (4) あぜ際での旋回時は周囲を確認してください。
- (5) 作業中の飛乗り、飛降りを行わないでください。
- (6) 安全カバー、保護カバーは全て取付けて作業してください。
- (7) 急傾斜地での走行や作業はしないでください。

### 5. その他

- (1) 次のような状態では運転しないでください。  
飲酒運転、過労運転  
いねむり運転、妊娠中
- (2) 服装はキチンと身体に合ったものを着用してください。
- (3) 点検整備、掃除およびロータリ爪の交換などの時はエンジンを停止して取扱説明書に従って行なってください。
- (4) 駐車時は、駐車ブレーキをかけて作業機を降ろしてください。
- (5) 機械を他人に貸す時は、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」「安全ポスター」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを理解してから作業するように指導してください。機械と一緒に「取扱説明書」を貸してあげてください。
- (6) 機械の整備点検は、定期的に行なってください。定期点検整備は「お買いあげ先」の整備工場で純正部品を使用して行なってください。

トラクタ作業で起こりやすい事故を未然に防止していただくための注意事項を記しました。詳細は本文の中で⚠印の安全注意マークを符しておりますので、よくお読みいただき必ず守って事故のないようにしてください。

## ⚠ ラベルについて

安全な取扱いについて説明している「ラベル」を機械に貼付しています。

- ⚠ 印付きの下記マークは、つぎのように区分しております。

**⚠ 危険** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

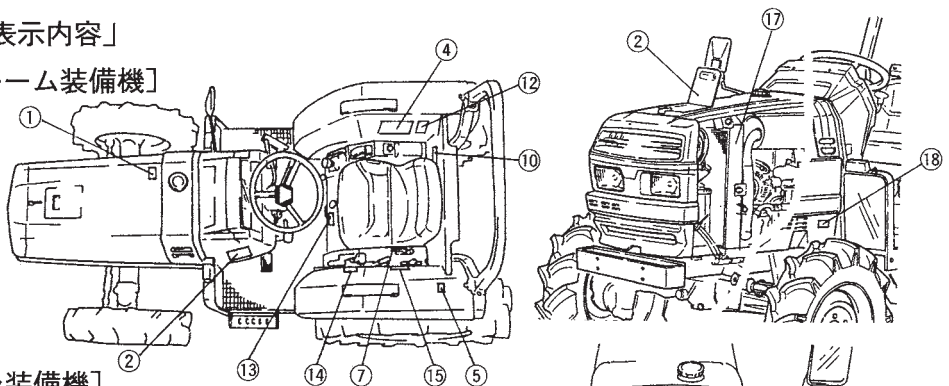
**⚠ 警告** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

**⚠ 注意** その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

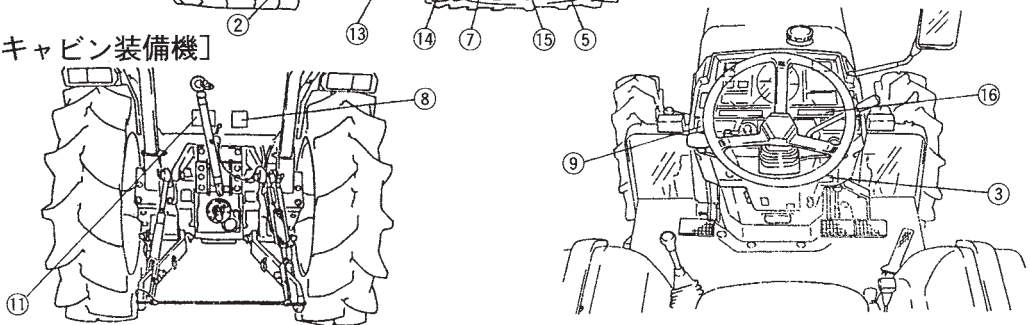
- ラベルをすべて読んでから使用してください。
- 機械に貼ってあるラベルが破損したり、なくなったり、塗料が付いたり、または読めなくなったら、新しいラベルに貼り替えてください。
- ラベルが付いている部品を交換するときは、新しいラベルも一緒に付けてください。
- ラベルは機械のお買いあげ先に注文してください。

### 「ラベル位置と表示内容」

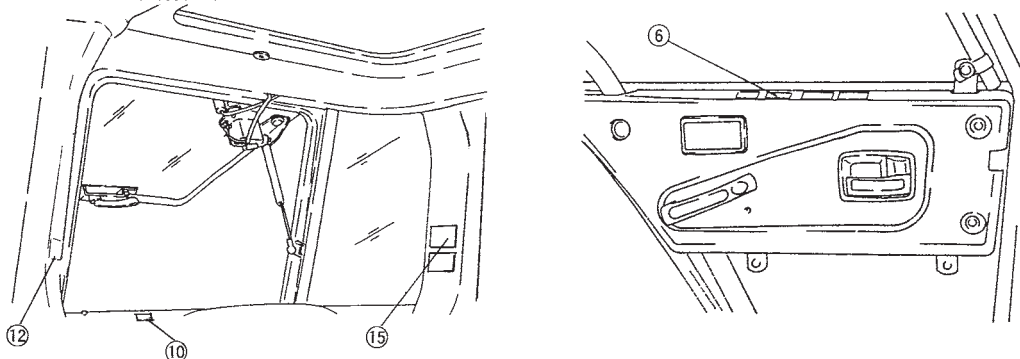
#### 〔2柱フレーム装備機〕



#### 〔キャビン装備機〕



#### 〔キャビン装備機〕



①




**危険**

- 火気厳禁
- 給油時エンジン停止

軽油

09603000015

②




**警告**

- エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。

09603200013

③



**警告**

- 駐車する時や、ほ場作業以外の走行をする時は、左右のブレーキペダルを連結してください。

09603200016

④

**警告**

ケガや死亡事故を起こさないために

■エンジンを始動する前に

- 本機や作業機の周囲から人を遠ざけてください。
- すべてのカバーをセットして、安全フレームをおこしてください。
- 座席に座り、駐車ブレーキをかけ、シートベルトをしてください。
- 変速レバー及びPTOレバーを〈N〉(中立)にして、クラッチペダルを踏んでください。
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をしてください。

■正しい操作方法で

- 運転する時は、本機や作業機に入や物をのせないでください。
- エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけないでください。
- 公道を走行する時は、作業機を昇着しないでください。

■転倒防止

- ほ場の出入り、アユミの上、遊路を走行する時は、左右のブレーキペダルを連結してください。デフロックは使用しないでください。
- 急進、旋回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転してください。
- 傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。下り坂ではエンジンブレーキを使用し、クラッチ操作や変速操作はしないでください。

●路肩に寄りすぎないでください。軟弱な路肩、草の生い茂っている所は走行しないでください。

- あぜを横切るときは、低速であぜに對して直角に走行してください。
- 自動車への横込み・横断ろし、嵩あげ・溝越えは、アユミを使用し、上がる時は後進、降りる時は前進で、低速で行なってください。クラッチ操作や変速操作はしないでください。
- けん引作業はトローバを使用してください。

■停止する時は

- 平坦な場所、駐車ブレーキをかけ、変速レバー及びPTOレバーを〈N〉(中立)にし、作業機を降ろした後、エンジンを停止してください。座席を離れる時はキーを抜取ってください。

■清掃・点検・整備

- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は、油圧をロックして、さらに作業機の下に固定脚を置いてください。
- ラジエータキャップを開けたり、エンジン回りを清掃・点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行なってください。
- 火災防止のため、エンジン、マフラ、燃料タンク周囲のフラワや草等を掃除してください。

09603200032 ト777

● 傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

⑤ [2柱フレーム装備機]

**警告**




■運転する時は

- 安全フレームを起こし矢印の位置にピンをセットしてください。
- シートベルトを締めてください。

09603200021

⑥ [キャビン装備機]

**警告**



●運転する時は、シートベルトを締めてください。

12086266001

⑦ [パルシフト装備機]

**警告**

- 寒冷時には十分暖気運転を行なってください。暖気運転を短時間にして発進する時は、クラッチペダルを踏んで変速操作をしてください。寒冷時、ミッションオイルの粘度が上がるまでは、トラクタの発進が遅れることがあります。
- トラクタから降りる時は、変速位置を〈N〉(中立)にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- 駐車時は、駐車ブレーキをかけてください。本機は、変速を入れていてもエンジンを停止すると、エンジンブレーキはききません。
- 急な坂道、トラクタへの横み込み・横断ろし、ほ場への出入り、あぜ越え等での変速操作は行わないでください。あらかじめ低速にしてから進入してください。

⑧

**警告**



●エンジンまたは動力シャフトが回転しているときは手・足・衣服等を近づけないでください。

09603200019

⑨

**警告**

- 屋内やハウスでの始動や作業は、排気ガス中毒にならないように窓や戸を開けて換気をしてください。

10352835001

⑩

重量作業機を装着する時は次のようにすると作業機揚力を増すことができます。

- 座席下にある配線コードのギボシ端子(重量作業機用)を外します。

**警告**

傷害事故や機械の破損を防止するために

- 作業機を上げトラクタとの隙間が20cm以上になるように上げ規制をしてください。(傾斜しても当たらないようにします)
- 通常作業時はギボシ端子(重量作業機用)を「接続」しておいてください。

10362746000

11

**警告**




●エンジン回転中は作業機昇降装置及び作業機にはさまれ、ケガをするおそれがあるので近づかないでください。

09603200045

12

**警告**



偶発事故や機械の破損を防止するために

- 作業機を装着するときは
  - ポジションコントロールレバーの上限ストッパで上げ高さを規制してください。
  - MAC仕様の場合はフックアップレバーおよびバックアップスイッチ<入>を使用する前に上げ規制ボリュームで上げ高さを規制してください。
- 本機および作業機の取扱い説明書をよく読み正しく装着してください。
- キャビン装着機ではリアウインドウの開閉時についても当たらないようにしてください。

10372782000

[226・246型]

13

**注意**

本車両は、後軸距を下表の通り調整（調整零補は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

軸距 mm	後軸	1015
----------	----	------

10352766001

[266・266H型]

13

**注意**

本車両は、後軸距を下表の通り調整（調整零補は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

軸距 mm	後軸	1050
----------	----	------

10352767001

[286・286H・306・306H・336・336H型]

13

**注意**

本車両は、後軸距を下表の通り調整（調整零補は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

軸距 mm	後軸	1095
----------	----	------

10292716001

14

**注意**

- トラクタから降りる時はエンジンを停止してください。乗り降りする時変速レバーに触れると、トラクタが動き出すことがあります。

10382764001

15

**注意** ●道路走行、自動車への積み降ろし、巨場への出入り、傾斜地作業、フロントローダ作業はオートブレーキターンを使用しないでください。

**オートブレーキターン取扱いのポイント** 10362797000

- オートブレーキターンを使用する時は、左右のブレーキペダルの連結を外してください。
- オートブレーキターンレバーを操作する時は、副変速レバーを<N>、<低速>、<中速>のいずれかに入れ、前輪タイヤを直進状態にしてください。ノークラッチ仕様は、超低速レバーを<N>にして前輪タイヤを直進状態にしてください。
- 副変速が<高速>の時は、オートブレーキターンレバーの<入>操作は、できません。また、オートブレーキターン<入>では副変速レバーを<高速>にすることはできません。無事に操作しないでください。
- ノークラッチ仕様は超低速レバー<超低速>ではオートブレーキターン<入>操作はできません。超低速レバーを<N>にしてオートブレーキターンレバーを操作してください。オートブレーキターンレバー<入>の時は超低速レバー<超低速>でギヤ5～8速の変速操作はできません。

**超低速の使い方**

主変速	1
	2
	3
	4

- 超低速はロータリー深耕、ロータリー細土、プランタ、農用トレンチャ作業に使用してください。
- 超低速は次の作業に使用しないでください。
  - 浸田脱出、ドッキングローダ、牽引、土木、フロントブレード、巨場への出入、車への積み降ろし作業

16

**ダイヤフックターン取扱いのポイント**

- 副変速が高速の場合、ダイヤフックターンは作動しません。
- パルシフト仕様車は、副変速が高速でパルシフト5速以上の場合、ダイヤフックターンは作動しません。
- ダイヤフックターンの入・切時は、前輪タイヤを直進状態にしてください。

**注意** ●路上走行、傾斜地作業、フロントローダ作業や巨場の出入りの時は、ダイヤフックターンを使用しないでください。

10362836001

17

**注意**



●やけどをするのでマフラーにふれないでください。

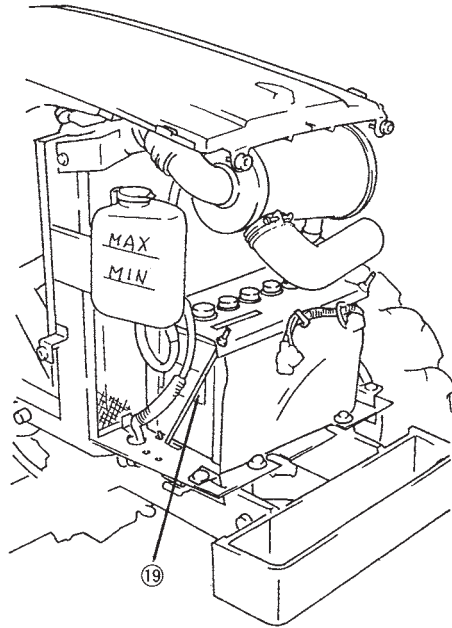
09603100026

18







**注意**

- カバーを取外したままで使用するどケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017



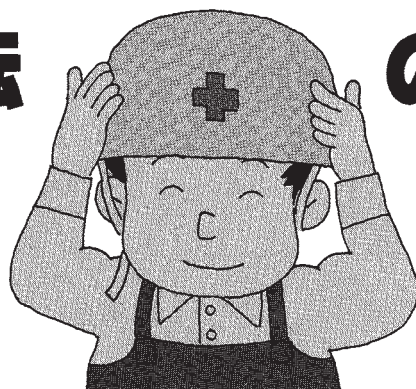
19

     	<p>火気禁止    メガネ着用    こども禁止    硫酸注意    説明書熟読    爆発注意</p> <p><b>△</b> バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火爆発のおそれがあります。      ●この12Vバッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。      ●充電は風通しのよいところで行ない、ショートやスパークをさせないでください。      ●ブースターケーブルの使用は車両またはバッテリーの取扱説明書をお読みください。      バッテリー液（希硫酸）で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに大量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに大量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。      液面がLOWER LEVEL近かったら補水し、UPPER LEVEL 以上入れないでください。</p>
---	--

ご使用前に安全作業説明編を含めた取扱説明書を必ずお読みください

# 安全作業説明編

**安全運転**



**のために**

お客さまの安全をまもる

**安全確認を習慣づけるようにしましょう。**

この中で説明している守っていただきたい安全作業のポイントはトラクタ作業全般についてのものです。



# 安全作業説明編

## もくじ

---

- 作業前にこれだけは守りましょう！…………… 1
- トラクタ作業の安全注意ポイント…………… 2
- 作業前の点検・整備・掃除をするときは… 4
- エンジンを始動するときは…………… 9
- 走行運転をするときは…………… 10
- 狭い農道・凸凹道・坂道の走行は…………… 12
- 自動車への積込み・積降ろしのときは…… 14
- ほ場で作業をするときは…………… 15
- 1日の作業が終わったら…………… 18
- 長期格納するときは…………… 19

この「安全作業説明編」はイラスト，内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

# ⚠️ 作業前にこれだけは守りましょう！

## こんな人は、運転しないでください

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、正常な運転操作ができない人



- 酒気をおびた人



- 妊娠している人



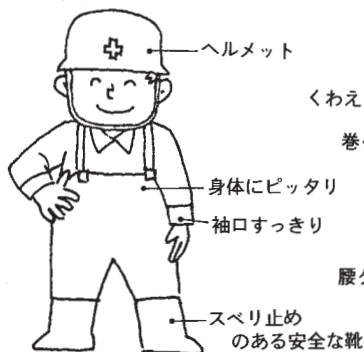
- 若年者
- 未熟練者



## 服装は作業に適していますか？

活動的なすっきりした服装を！

こんな服装は事故のもと



## トラクタを他人に貸すときは…

他人に機械を貸すときには、「取扱説明書」をよく読んでもらい取扱い方法や本書に書かれている安全作業のポイントをよく理解してから作業するように指導してください。

機械と一緒に「取扱説明書」を貸してあげてください。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりすると、せっかくの親切があだとなってしまいます。

## 安全フレームを付けましょう！

トラクタ事故の第1原因は、転倒や転落。死亡事故や大けがも、ほとんどがこの原因によるものです。

万が一のとき、安全フレームを装着してシートベルトをしていれば、最悪の事態は防げます。このような事故を防ぐためにも、安全フレームを正しく装着し、倒すことのできる安全フレームは起こして使用してください。安全フレームを起こして使用するときにはシートベルトを着用してください。





## 安全運転

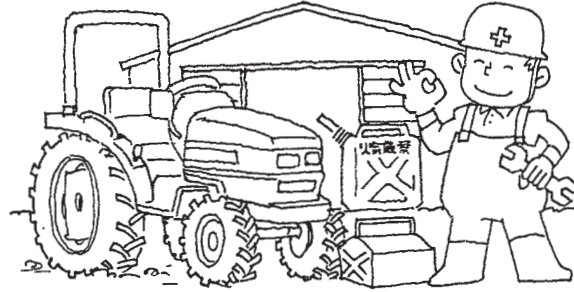


## のために

- 取扱説明書、機械のラベルをよく読んでから運転する

### 始業・点検 準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり、汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン回り、バッテリー、燃料タンクの周辺を掃除
- バッテリーコードや電気配線、燃料ホースの点検
- 給油、冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う
- 燃料補給時は火気を近づけない
- 各部の締付けを確認する
- ブレーキの作動具合と左右の遊び量の点検
- ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認
- 方向指示器などの保安部品の作動確認
- 作業機を上げて点検するときは油圧をロックして作業機の下に固定脚を置く
- 作業機の装着時はトラクタと作業機の間立たない
- 油脂類の廃却は、廃却設備のある所で処理する



### エンジン始動

- すべてのカバーを取付け、安全フレームをおこす
- 本機や作業機の周囲から人を遠ざける
- 運転席に座り駐車ブレーキをかけ、シートベルトをする
- 主変速、副変速、PTO変速を《N》(中立)にし、クラッチペダルを踏む
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする

### 走行・運転

- 左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認
- PTO変速の《N》(中立)、ダイヤクイックターンの「切」、マイコン自動スイッチの「OFF」を確認する
- 本機や作業機に人や物を乗せない
- 発進時は周囲をたしかめる
- エンジンコントロールレバーを「低」にし、フートアクセルで走行する
- 急発進、急ブレーキ、急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない



### 道路(公道)走行

- ナンバープレートの交付を受ける
- 運転免許証を携帯し、交通法規を守る
- 公道走行する時は作業機を装着しない
- 前後左右を確認し、低速車線を走る
- 夜間の移動はライトをつける
- 走行中に飛び乗り、飛び降りはない

### 狭い農道・凸凹道・坂道の走行

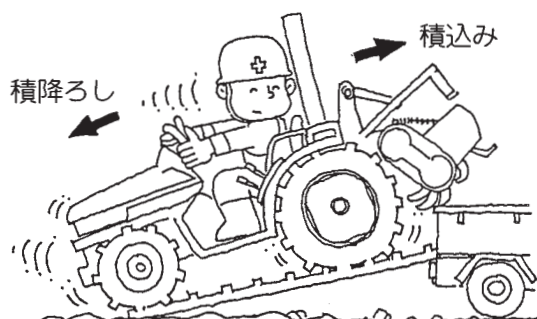
- 狭い農道や凸凹道は低速で走行する
- 対向車を避ける時、端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 登り坂では急発進しない
- 下り坂では速度を下げエンジンブレーキを使用する
- 坂道では走行クラッチを切らない、変速レバーを《N》(中立)にしない

### 停車・駐車

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、主変速・副変速、PTO変速を《N》(中立)にし作業機を降ろしてからエンジンを停止して、変速レバーを「低速」に入れておく
- 坂道では駐車しない  
(やむをえず駐車するときは歯止めをする)
- 機械を離れる時は始動キーを抜取る

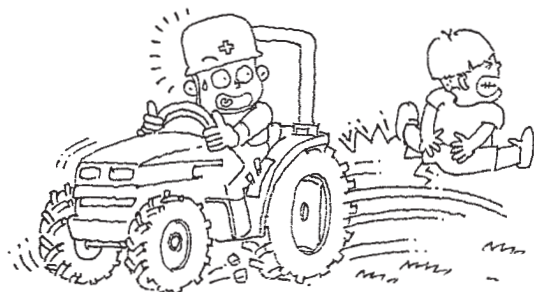
## 自動車への積込み・積降ろし

- アユミは強度、幅、長さ、すべり止め、フックのあるものを使用する
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ、フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械の回りには人を近づけない
- PTO変速を《N》(中立)にする
- 積込みは後進、積降ろしは前進で低速で行う
- ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする
- アユミの上ではクラッチ操作や変速操作をしない
- 片ブレーキ、デフロックは使用しない



## ほ場作業 ほ場の出入り

- PTO変速を《N》(中立)にする
- 左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認
- 低速であぜに対して直角に行く
- 高あぜ、溝越え、急傾斜はアユミを使用する
- 上がる時は後進、降りるときは前進で行う
- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う



## ほ場での作業

- 人をそばに近づけない。2人乗りはしない
- ウエイトがわりに人や物を乗せない
- 回転時は周囲を確認する
- わき見運転や手放し運転はしない
- 急傾斜地では作業をしない
- デフロック使用後は解除を確認する
- けん引作業は純正ドローバを使用し、後車軸の高さより上では引っ張らない
- 疲労を感じたら無理に作業を続けず休憩をする

## 作業中途の点検

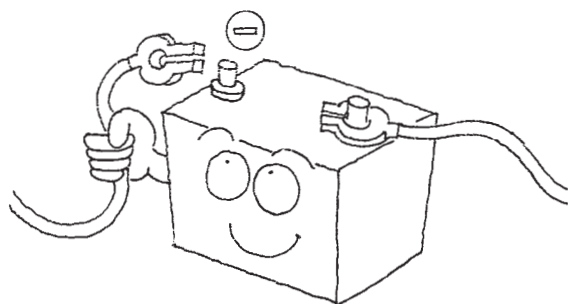
- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 作業機の点検をする時は油圧をロックする
- エンジン回りの点検はエンジンが冷えてから行う

## 終業・格納 1日の作業が終わったら

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけて作業機を降ろしエンジンを停止して始動キーを抜取る
- エンジン回り、バッテリー、燃料タンク周辺を掃除する
- マフラ、ラジエータ等は冷えるまで直接触れない
- タイヤの交換、輪距の変更はジャッキと固定脚を使用
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

## 長期格納

- 作業機は外すか、降ろしておく
- 燃料は満タンにし、燃料コックをOFFにする
- バッテリーのアースコードを外すか、バッテリーを取外す
- クラッチペダルを踏込んでペダルロックをかける
- 後輪の前後に歯止めをし、駐車ブレーキを解除する
- 機械は改造しない
- 部品(バッテリー等)または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する



# ⚠ 作業前の点検・整備・掃除をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

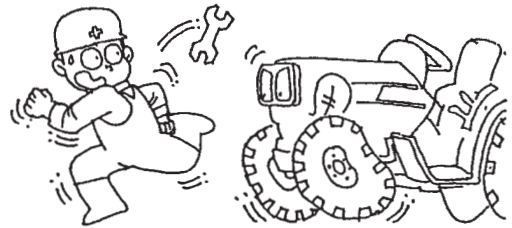
- ◆給油、注油、点検時はエンジンを停止しエンジン回転中や、エンジンが熱い間は給油、注油をしないでください。
- ◆燃料補給時は、くわえタバコなどの火気を近づけないでください。
- ◆エンジンオイル等の油脂類の廃却は、廃却設備のある所で処理してください。
  - 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとる。
  - エンジン始動前に、給油、注油、各部の点検をする。

燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因となることがあります。



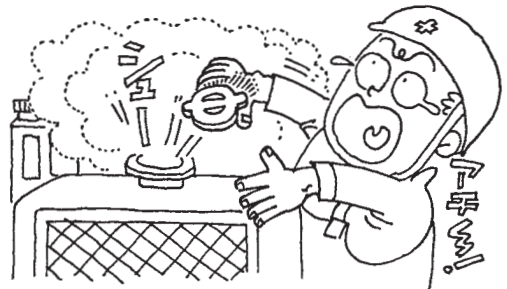
- ◆点検、整備、掃除は平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止させてから行なってください。
  - 主変速、副変速、PTO変速レバーが《N》(中立)になっていることを確認する。
  - タイヤに歯止めをする。

変速やクラッチが入っていると機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。



- ◆ラジエータが熱い時は、ラジエータキャップを開けないでください。
  - 冷却水の点検は、補助タンクで行う。(補助タンク付車)

熱湯が吹きだし、ヤケドをすることがあります。



- ◆バッテリーの点検時、火気(煙草・ライターなど)を近づけないでください。

バッテリーの液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。



◆バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

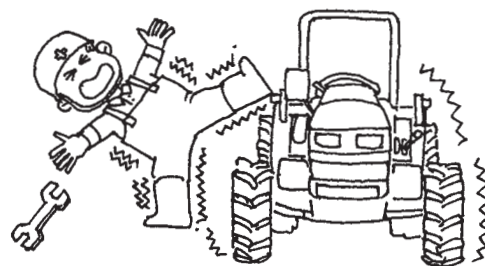
服が破れたり、ヤケドをすることがあります。



◆バッテリー端子の取外しは、⊖側を取外した後⊕側を取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください。

ショートして、ヤケドや火災の原因となります。

- バッテリーの交換は指定されたバッテリーを使用。
- 取外し、取付け時に⊕端子を機体に接触させない。
- 逆に接続しない。



◆配線コードが他の部品に接触していないか、はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。

火災事故を起こすことがあります。

◆燃料ホースの損傷や燃料もれがないか点検してください。

- もれている場合は交換する。



◆ブレーキのききが悪くないか、片ぎきなどがなく基準寸法に合わせて点検調整してください。

正常な走行運転ができず事故を起こす原因となります。

(調整方法は取扱説明書参照。)

- ◆機械は改造しないでください。
- 左右のブレーキのきき具合は良いか、また左右ブレーキの踏代が同一になっているか確認する。
- 改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく、人身事故の原因になることがあります。



◆エンジン、マフラ、バッテリー、燃料タンク回りにワラズ・ゴミなどが付着していないか、作業前に点検して付着していれば取除いてください。

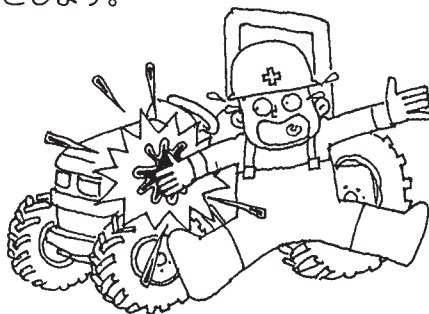
火災事故を引起こすことがあります。



◆点検・整備などで外した回転部のカバーなどは、全て取付けてください。

●カバーは正しく取付ける。

機械に巻きこまれたりして、傷害事故を起こします。



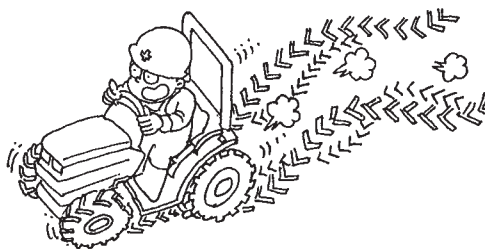
◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。

交通事故を引起こす原因となります。

◆ステアリングハンドルの遊びやガタが大きくないか確認してください。

◆前後輪取付ボルトのゆるみがないか確認してください。

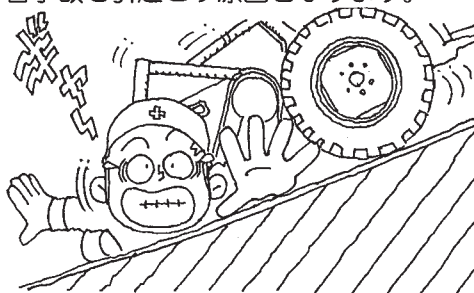
正常な走行ができなくなり、事故を引起こす原因となります。



◆作業機を着脱する時は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の動きが止ってから行なってください。

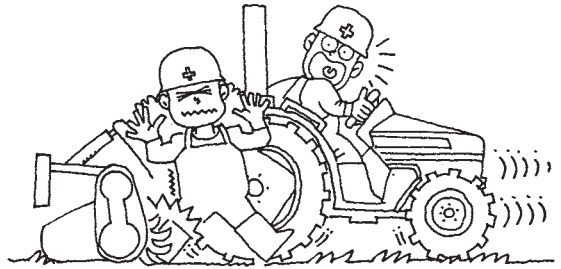
●着脱は平坦な場所で、地盤のしっかりしたところで行う。

トラクタが動き出したりして、思わぬ傷害事故を引起こす原因となります。



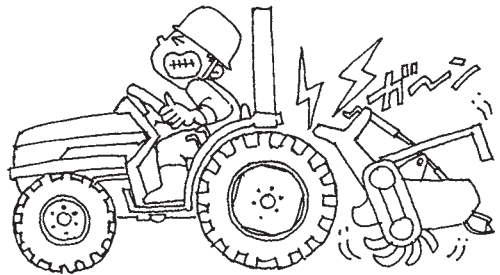
- ◆作業機の着脱で2人作業の時は合図を確実にし合って行なってください。
- 作業機の着脱時は、トラクタと作業機の間立たない。
- 装着は手順通り正しく行う。
- 確実に装着して、ピンに抜け止めピンをする。
- 作業員以外の人を近づけない。
- ◆トップリンクの調整は作業機を下げてから行ってください。
- 上げたままで行うと、トップリンクが抜けて作業機が落下することがある。

機械にはさまれたりして、傷害事故を起こします。



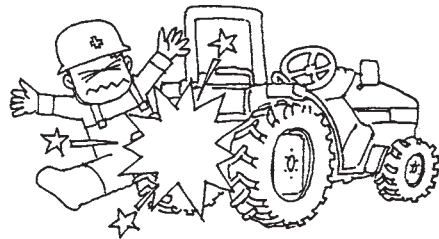
- ◆2点リンク、3点リンク、特殊3点リンクなどの装着方式に合った作業機を装着してください。
- 吊り穴は作業機に応じて指定された穴位置で使用する。
- 左右のチェックチェーンを調整し、作業機が振れてもタイヤに触れないようにする。

思わぬ事故を引起こすことがあります。

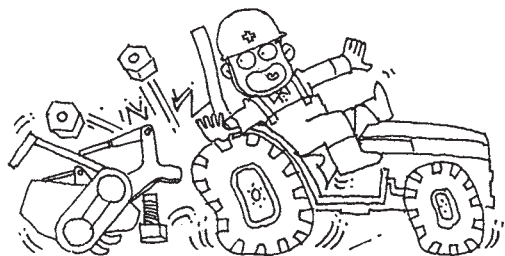


- ◆ユニバーサルジョイントの安全カバーは取外さないでください。
- 安全カバーの回り止めをする。
- ◆ユニバーサルジョイントのかみあい代を適正にして確実にロックピンで固定してください。
- ユニバーサルジョイントは作業機に標準装備されているものを使用する。
- ユニバーサルジョイントは作業中できるだけ真っ直ぐになるようにトラクタに装着する。

巻きこまれたりして傷害事故を引起こすことがあります。



作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。





◆タイヤの空気圧は取扱説明書に記載してある空気圧を守ってください。

●タイヤの空気は入れすぎない。

◆タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。

◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。

（特別教育を受けた人が行うように法で義務づけられています。）

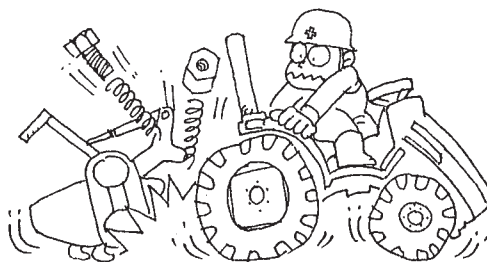
タイヤに空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と、タイヤが破裂し、死傷事故につながる可能性があります。



◆各部のボルト、ナット、ロータリの爪等がゆるんでいないか確認してください。

●ボルト、ナット類、耕うん爪等の取付ボルトがゆるんだ状態であれば、直ちに締める。

作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。



◆トラクタを使用する前に始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。

また、作業終了後も点検を行なって異常がないかをチェックしてください。

◆1シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。

●部品（バッテリー等）または機械を廃棄するときは「お買いあげ先」に相談して処理します。



# ⚠ エンジンを始動するときは……

必ず守ってください

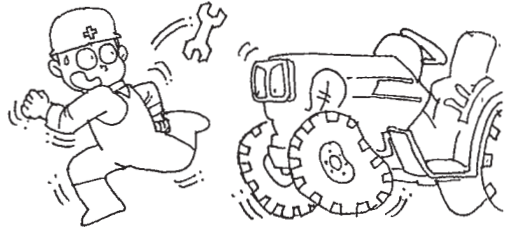
守らないとこんな事故が！

◆主変速、副変速、PTO変速を《N》（中立）にしてください。

◆取外したカバー類はすべて取付けてください。

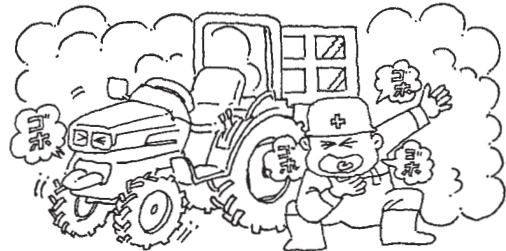
- 主変速、副変速、PTO変速のレバーが《N》（中立）になっているかレバーを手で動かして確認する。
- 周囲を確認し、合図してから始動する。
- クラッチを切ってからスタータを回す。

変速やクラッチが入っていると機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。



◆屋内での始動は窓や戸をあけて換気を十分にしてください。

排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。



◆始動はシートに座って正しい姿勢で行なってください。

機械が急に動き出し、人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

◆暖機運転は、主変速、副変速、PTO変速を《N》（中立）にし、駐車ブレーキをかけて行なってください。

急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。



# ⚠ 走行運転をするときは……

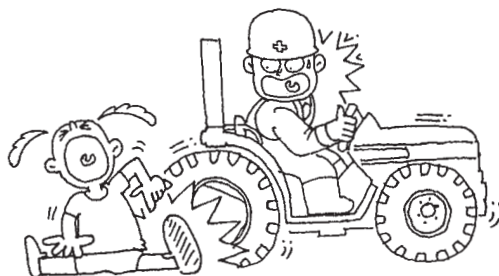
必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

◆発進するときは、周囲を確認してから発進してください。

◆エンジンコントロールレバーを「低」にし、フットアクセルで走行してください。

傷害事故を引起こす原因となります。

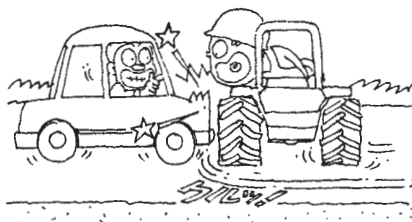


◆左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認してください。

●発進前に、ブレーキペダルの連結を確認する。

●デフロックを入れたままハンドル操作しても旋回できない。発進前に解除を確認する。

ブレーキが片ぎきになったり、ハンドル操作しても旋回できなかつたりして事故を引起こす原因となります。



◆ダイヤクイックターンの「切」、PTO 変速の《N》(中立)を確認してください。

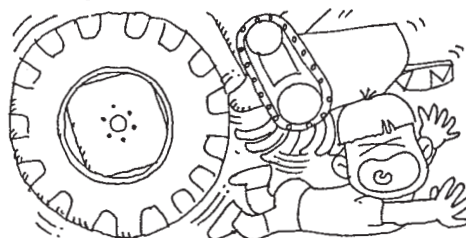
●発進前に、ダイヤクイックターンレバーを「切」にする。

●発進前に、PTO 変速の《N》(中立)を確認する。

●マイコン自動切替を「OFF」にする。

●PAC/ドラフトコントロールレバーを「解除」にする。

旋回時に急旋回をしたり、作業機が動き出したりして傷害事故を引起こすことがあります。



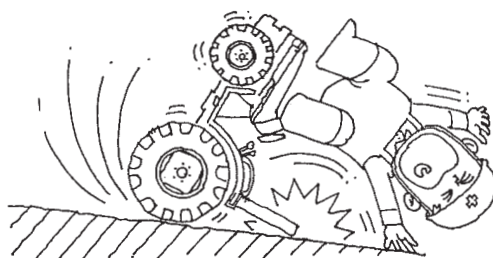
◆急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。

●主変速を低速に入れて発進する。

●クラッチペダルをゆっくり離す。

●旋回するときは、エンジン回転を低速にして行う。

転倒事故を引起こすことがあります。



◆機械に人や物を乗せたり、人を近づけないでください。

- トラクタや作業機の上に人や物を乗せない。
- 子供は機械に近づけない。

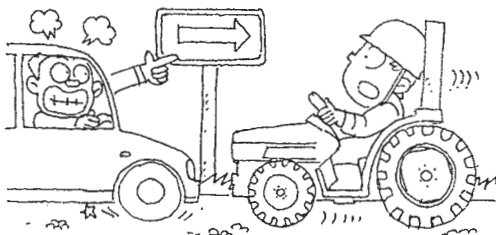
思わぬ事故を引起こす原因となります。



◆道路を走行するときは、交通法規を守り、安全フレームを起こしてヘルメットを着用してシートベルトをしてください。

- 運転免許証を携帯する。
- ナンバープレートの交付を受ける。
- 周囲を確認しながら走行する。
- わき見運転をしない。
- 低速車線を走る。

思わぬ傷害事故の原因となります。トラクタ運転中は、気のゆるみが重大事故につながることを忘れないようにしてください。



◆公道を走行するときは作業機を装着しないでください。

- ロータリなどの作業機は、めんどうでもトレーラの荷台に乗せて運搬するか、別の自動車で運搬する。

作業機を付けて公道を走行すると道路運送車両法の違反になります。

他の車、電柱又はガードレールなどに、作業機を引っ掛けたりして、思わぬ事故の原因となります。

◆走行中の飛び乗り、飛び降りはいしないでください。

- 機械の状態や周囲を確認するときは走行を停止し、駐車ブレーキをかけ、PTOを《N》(中立)にしてから降りて確認する。

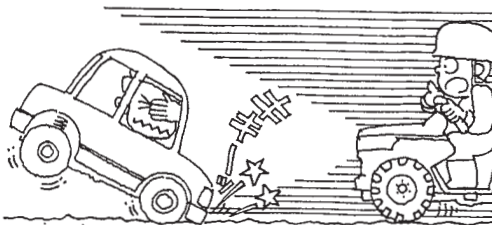
巻きこまれたりして傷害事故を引起こすことがあります。



◆夜間の移動はライトをつけてください。

- 夜間道路走行時、対向車とすれ違う場合は、前照灯を下向きにして走行する。

対向車の運転者が目をくらまし、交通事故を引起こす原因となることがあります。



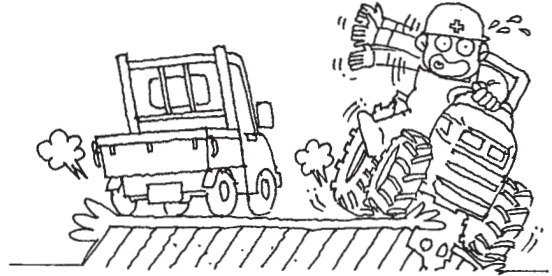
# ⚠️ 狭い農道・凸凹道・坂道の走行は……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

- ◆道路の端には寄りすぎないでください。
- 対向車を避けるとき、端に寄りすぎない。
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。
- 雨天や雨あがりのときは、低速で慎重に走行する。
- 凸凹道、下り坂はスピードを落とし、慎重に走行する。

路肩がくずれ転倒事故を引起こすことがあります。



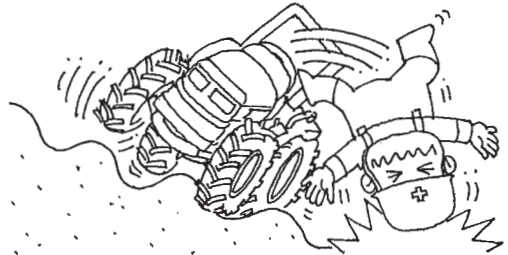
- ◆坂道走行，道路走行時は片ブレーキ，デフロックは使用しないでください。
- 左右のブレーキペダルの連結を確認する。
- デフロックが解除されていることを確認する。

思わぬ事故を引起こすことがあります。



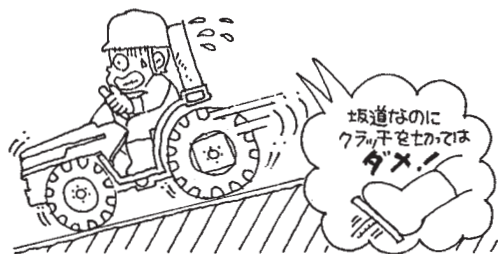
- ◆坂道や凸凹道，カーブの多い道路では，高速運転をしないでください。
- スピードを落として慎重に走行する。

転倒事故を引起こします。



- ◆坂道では，主変速や副変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして，ニュートラルで走行しないでください。
- 坂にさしかかったら，坂の手前でいったんトラクタを止めて変速を低速に入れ変えて走行する。
- 下り坂では，速度を下げてもエンジンブレーキを使用する。

スピードが速くなり事故の原因となります。



◆駐車・停車するときは、平坦な場所で  
駐車ブレーキをかけてエンジンを停止  
してください。

- 作業機（ロータリ等）を降ろす。
- 機械を離れる時は始動キーを抜取っておく。

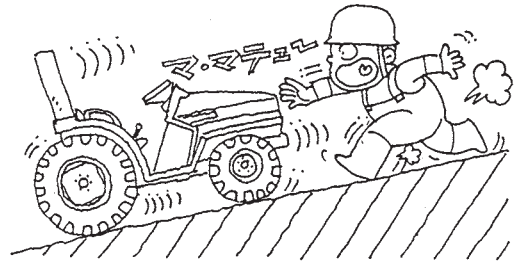
トラクタが動き出し、思わぬ事故の原因  
となることがあります。



◆やむをえず坂道の途中で駐車するとき  
は駐車ブレーキをかけて後輪に歯止め  
をしてください。

- 坂道ではやむをえない時のほかは、駐・  
停車しない。
- 副変速を「低」に入れ、主変速レバー  
を登り坂では「1速」、下り坂では  
「後進」に入れておく。
- パルシフト装備機は変速を入れていて  
も、エンジンを止めるとエンジンプレー  
キはききません。駐車ブレーキをかけ、  
後輪に歯止めをする。

トラクタが動き出し、思わぬ事故の原因  
となります。



# ⚠ 自動車への積み込み・積降ろしの際は……

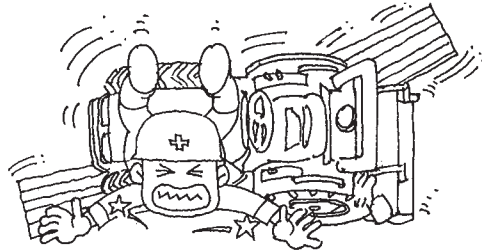
必ず守ってください。

守らないとこんな事故が！

◆アユミは強度、幅、長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め、フックのあるものを使ってください。

- 前後輪のタイヤがはみ出さない幅の広いアユミを使用する。
- 自動車は積載重量を超えない車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用する。
- 自動車はエンジンを停止し変速を1速かバックに入れ駐車ブレーキをかけ、歯止めをする。

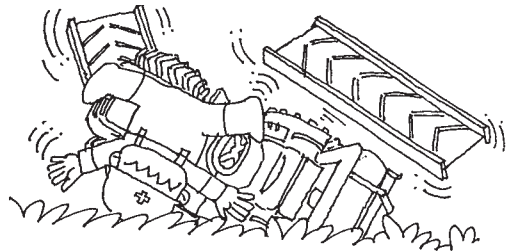
アユミが折れたりして、転倒事故を起こすことがあります。



◆アユミを自動車の荷台に平行に確実にかけてください。

- 荷台にアユミのフックを確実にかけ、はずれないかを確認する。
- 積み込みは後進、積降ろしは前進で行う。
- ロータリの爪がアユミに引っかからない状態を確認して走行する。

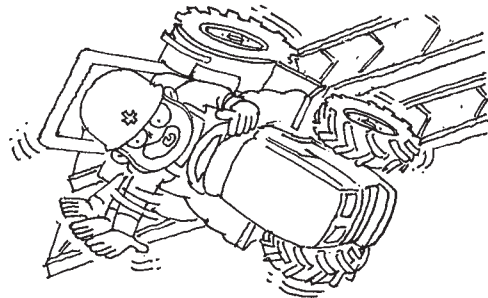
バランスがくずれて、転倒事故を起こすことがあります。



◆アユミの上では、必要以上のハンドル操作はしないでください。

- 2枚のアユミを左右のタイヤの間隔に合わせて置き、荷台に対して真っ直ぐにする。
- 左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認する。

進路変更するとバランスがくずれて、転倒事故を起こすことがあります。



◆アユミの上では走行クラッチを切らないでください。

- 途中でトラクタを止める必要がないよう、アユミの左右位置や平行、安定を確認し、低速で積み・降ろしを行う。
- 積み・降ろしの際は機械の回りに人を近づけない。

エンジンブレーキがきかなくなり、急降下して事故を起こすことがあります。

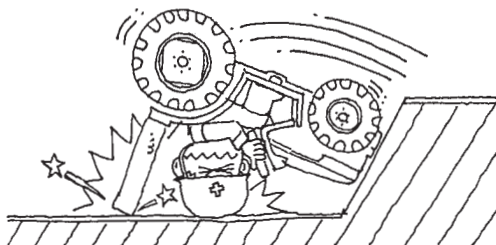
# ⚠ ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

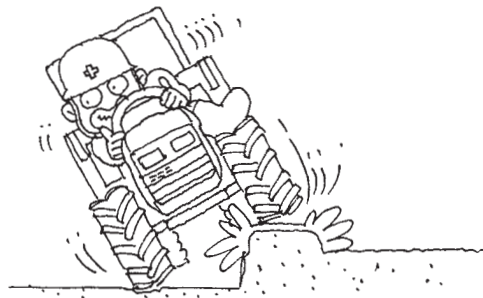
- ◆急傾斜、溝越え、高いあぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。
- ほ場への出入りは上がるときは後進、降りるときは前進で低速で行う。
- PTO変速を《N》（中立）にする。
- アユミの上では必要以上のハンドル操作をしない。

バランスをくずしたりして、転倒事故を引起こします。



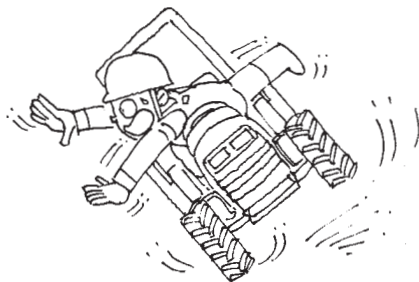
- ◆あぜ越えは、低速であぜに直角に行なってください。
- 左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認する。
- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う。

転倒事故を引起こすことがあります。



- ◆トラクタ作業での傷害事故の大半は転倒事故です。安全フレームを装着してください。
- ◆通常の作業では安全フレームを「おこして」シートベルトを着用してください。
- ◆高さ制限のある場所では安全フレームを後方に倒すことができますが、この位置では身体を保護することはできません。その際はシートベルトは締めないでください。
- ヘルメットをかぶる。
- 急傾斜地では作業をしない。
- 果樹園作業、ハウス内作業では、走行速度を落とし周囲を確認して、慎重に運転する。
- 切り株に乗り上げたり、機械に枝をひっかけない。

転倒したときは死亡または傷害事故になります。



張り出した木の枝や、頭上の障害物に頭部や胸部を打って死亡または障害事故になることがあります。  
切り株等で転倒したり、ひっかけた枝にたたかれ死亡または障害事故になることがあります。



◆作業中は、トラクタに人を近づけないようにしてください。

- わき見運転をしない。特にあぜ際での旋回は、周囲に人がいないことを確認して行う。
- あぜ際での作業はむりをせず、枕地を十分にとって、余裕をもって旋回する。

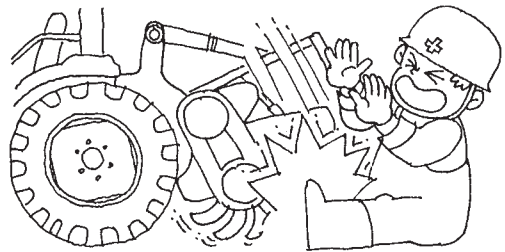
作業機が衝突したりして傷害事故を起こすことがあります。



◆作業機の下へもぐったり、足を踏んだりしないでください。

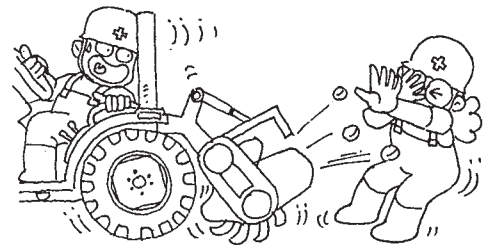
- 駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めてPTO変速を「N（中立）」にする。
- 作業機を上げて点検するときや、草・ワラの巻付の除去するときは油圧をロックし、作業機が降りないことを確認する。

何かの原因でロータリが急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。



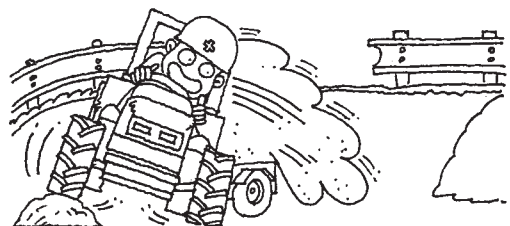
◆点検、調整時、爪交換時などにはずしたカバー類は、すべて元の位置に正しく装着してください。

機械に巻込まれたり、泥や石がはねたりして傷害事故を起こすことがあります。



◆けん引や傾斜地での作業をするときは、輪距を広くしてください。

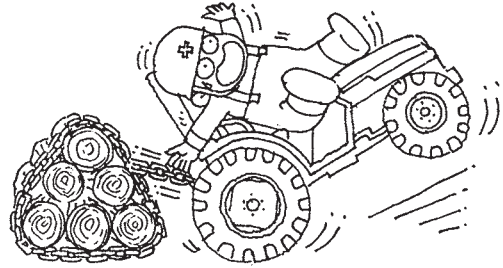
転倒事故を起こす原因となります。



◆けん引作業は純正ドーバを使用し、後車軸の高さより上で引っ張らないでください。

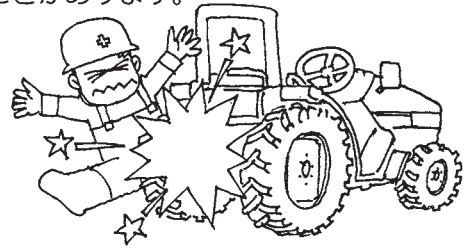
- 負荷の大きなけん引をするときは、トラクタが後方に転倒しないように純正ドーバを使用し、ゆっくりスタートする。

転倒事故を引起こす原因となります。



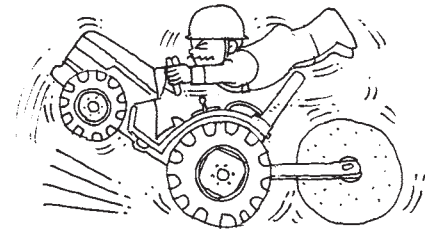
◆PTO軸を使用しないときは、PTO軸にグリスを塗り、PTOキャップを取付けてください。

巻きこまれたりして傷害事故を引起こすことがあります。



◆重い作業機を装着したときは、トラクタのフロントに、バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。

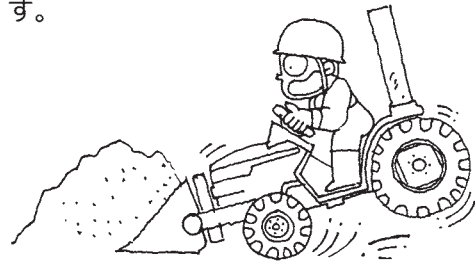
トラクタがバランスをくずし傷害事故を引起こすことがあります。



◆フロントローダ作業をするときは、後方に他の作業機を装着するなどして、バランスを保ってください。

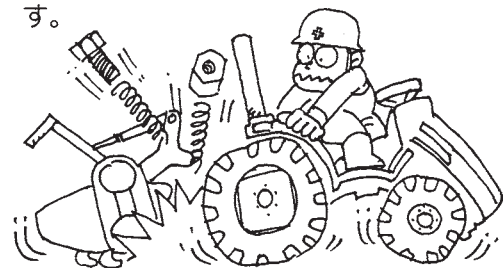
- ウエイトがわりに人や物を乗せない。ローダに見合ったバランスウエイトを装着する。

バランスをくずし転倒事故を引起こします。



◆低速回転用作業機を高速回転で使用しないでください。作業機ごとに指定されたPTO回転速度で使用してください。

作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。



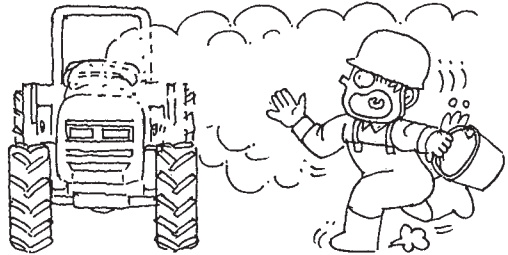
# ⚠ 1日の作業が終わったら……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

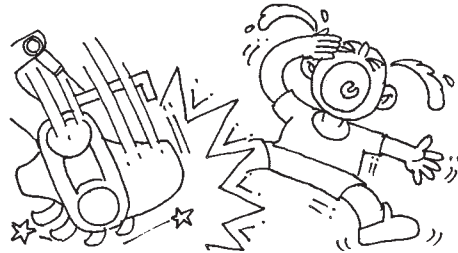
- ◆作業が終了したら、平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い、掃除をしてゴミなどを取除いてください。
- エンジン、マフラ、燃料タンク回りのワラ、草等を除去・掃除する。
- 清掃後注油個所に注油する。

火災の原因となることがあります。



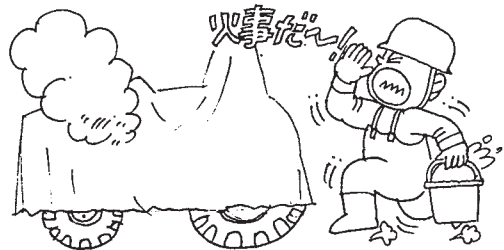
- ◆保管は平坦な場所に置き、ロータリ等作業機部分は地面に降ろし、駐車ブレーキをかけてください。
- 始動キーは抜取っておく。
- 副変速を「低速」に入れ、主変速は「1速」に入れ、シャトル変速は「前進」に入れておく。
- PTO変速は《N》(中立)にしておく。

油圧が抜けたりして、作業機が急降下するなどして思わぬ事故を引起こします。



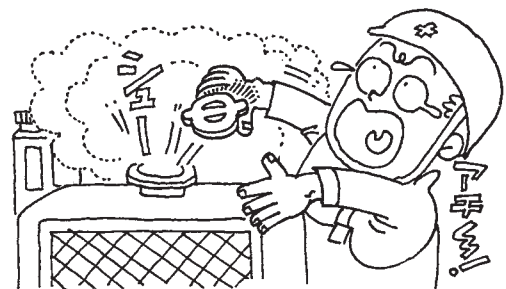
- ◆シートカバーをかける場合は、マフラやエンジンが確実に冷えてから行なってください。

火災事故を引起こすことがあります。



- ◆ラジエータが熱い時は、ラジエータキャップを開けないでください。
- 冷却水の点検は、補助タンクで行う。(補助タンク付車)

熱湯が吹きだし、ヤケドすることがあります。



# ⚠ 長期格納するときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

◆各部を水洗いして平坦なところに格納し、キーを抜取ってください。

◆機械は改造しないでください。

- 故障箇所、爪の摩耗があれば、早目に修理、交換する。
- ボルトやナットがゆるんだ状態であれば、直ちに締める。
- バッテリーを外して保管する。バッテリーは、1ヶ月毎に充電を行うと寿命が長くなります。
- 燃料は満タンにし、燃料コックをOFFにしておく。

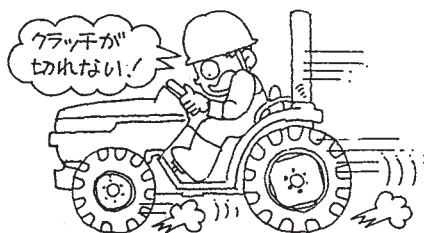
思わぬ事故の原因となることがあります。



◆格納するときは、クラッチ板錆付防止のためクラッチ板を離れた状態にしておいてください。

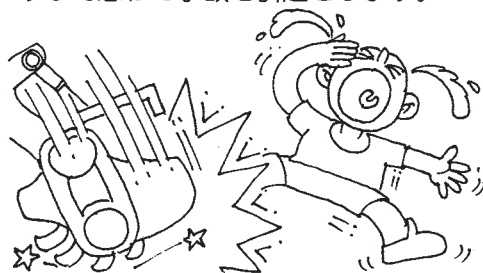
- クラッチペダルを一杯踏込んでフックをかける。
- 後輪の前後に歯止めをし、駐車ブレーキを解除しておく。

クラッチが切れなくなり思わぬ事故の原因となるときがあります。



◆作業機は外すか、降ろしておいてください。

油圧が抜けたりして、作業機が下がったりして思わぬ事故を引起こします。



◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。

- 1年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。
- 部品（バッテリー等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談して処理します。



# 取扱説明書もくじ

## ご使用まえに

1 「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」について	1
2 「用語」と「マーク」について	1
3 「仕様（装備）」について	2
4 小型特殊自動車について	3
1 小型特殊自動車の届出	3
2 運転免許	3
3 公道を走行するとき	4

## 主な名称

	5
--	---

## 各部の取扱いかた

1 運転装置の取扱い	6	2 作業機降下速度の調節	24
1 スイッチ，計器関係	6	3 フロントローダの取扱い （オプション）	25
2 レバー，ペダル，シート関係	10	4 パワーステアリングの取扱い	26
2 安全フレームの取扱い	19	5 3点リンクの取扱い	27
1 安全作業について	19	1 トップリンクの取付け（オプション）	27
2 安全フレームの たおしかた・おこしかた	19	2 作業機を取付けないときの注意	27
3 電装関係の取扱い	21	3 ドローバ（オプション）	27
1 ヒューズおよびヒューズブルリンク の取扱い	21	4 PTOキャップ	27
4 油圧装置の取扱い	23	5 ロータリの取付け	27
1 コントロールレバーの操作 （PAC仕様・JAC仕様機）	23		

## 上手な運転のしかた

1 運転まえの点検と準備	28	2 発進のしかた	35
1 運転まえの点検	28	3 走行のしかた	38
2 給油・給脂・給水個所	29	4 停止のしかた	39
3 給油・給脂・給水表	30	5 自動車への積込み・積降ろし	40
2 運転操作のしかた	34	6 坂道での運転のしかた	41
1 エンジンの始動	34		

## 上手な作業のしかた

1 ほ場作業のしかた……………	42	2 作業に必要な装置の使いかた……………	47
1 ほ場への出入りのしかた……………	42	1 トレッドの調節のしかた……………	47
2 作業に適した速度の選びかた……………	43	2 3点リンクの取付け寸法の 設定のしかた……………	49
3 デフロックの使いかた……………	44	3 作業機の取扱い……………	50
4 ほ場での旋回のしかた……………	45		
5 ダイヤクイックターンの使い方……………	45		
6 オートブレーキターンの使い方……………	46		
[オートブレーキターン装備機]			

## マイコン装備機の取扱い

1 マイコンの取扱い……………	51	4 傾斜自動の取扱い[MAC・JAC仕様]	59
1 マイコンの機能……………	51	1 運転装置……………	59
2 マイコンの概要……………	51	2 取扱い操作……………	59
3 マイコン操作要領……………	52	5 安全装置の取扱い……………	62
2 ポジションコントロールの取扱い		1 安全装置……………	62
[MAC仕様]……………	53	6 作業機切替……………	62
1 運転装置……………	53	1 作業機切替機能……………	62
2 取扱い操作……………	53	7 マイコン装備機の作業別、組合せ操作	
3 耕深自動の取扱い[MAC仕様]……………	56	……………	63
1 運転装置……………	56	1 標準機……………	63
2 取扱い操作……………	56	2 パルシフト装備機……………	65

## キャビン装備機の取扱い

1 各部の取扱い……………	67	4 室内装備の取扱い……………	73
1 ドア・リヤウインドウ・ルーフの 開閉のしかた……………	67	1 灰皿……………	73
2 スイッチの取扱い……………	69	2 カーステレオの取扱い……………	74
1 操作装置……………	69	3 エアコン……………	78
2 取扱い操作……………	69	5 キャビンの注油、給水個所……………	82
3 運転装置の取扱い……………	72	1 注油・給水表……………	82
1 バックミラー……………	72		

## 手入れのしかた

1 定期点検整備表	85	9 タイヤの点検	94
2 点検と掃除	87	10 ハンドルの点検	94
1 エンジンオイル、オイルフィルタの 点検と交換	87	11 ホース類の点検	94
2 燃料の補給	88	12 電気配線の点検と掃除	95
3 冷却水の保守管理	89	13 バッテリーの点検と充電	95
4 エアクリーナの掃除	91	3 調整のしかた	99
5 ラジエータ・ ラジエータスクリーンの掃除	91	1 ベルトの点検・調整	99
6 ミッションオイルの点検と交換	92	2 ベダルの点検・調整	99
7 油圧フィルタの交換	92	3 トーインの点検・調整	101
8 フロントアクスルオイル の点検と交換	93	4 格納のしかた	102
		1 機械の掃除・洗浄・格納	102
		2 格納中の手入れ	103
		3 再使用にあたって	103

## 不調の発見と処置

1 エンジン部	104	3 油圧部	109
2 走行・運転操作部	107	4 電気・自動制御部	110

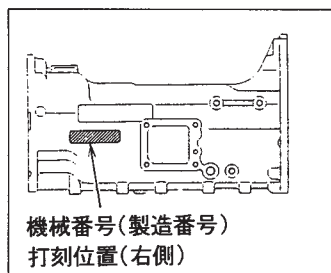
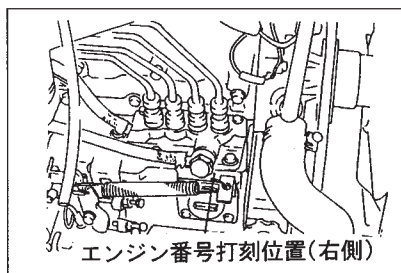
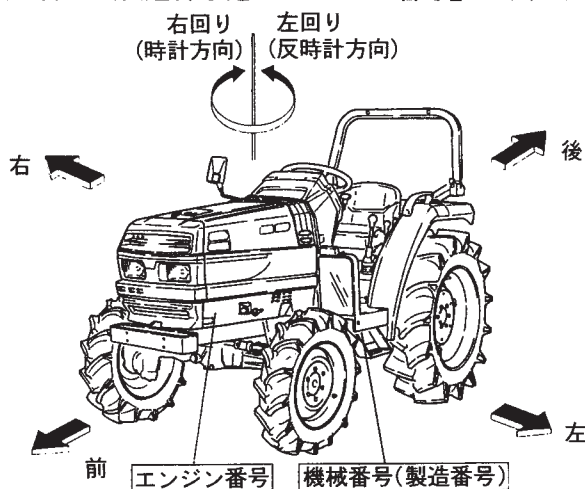
## 付 表

1 主要諸元	113	4 アタッチメント一覧表	123
2 電気配線図	115	5 潤滑油	125
3 主な消耗部品	121	6 トラクタ関連商品	127

# ご使用まえに

## 1 「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」について

このトラクタには「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」がそれぞれ図示のところに表示してあります。サービスについてのお問い合わせや部品などご用命のときには、「お買いあげ先」に「型式」・「機械番号（製造番号）」・「エンジン番号」をお知らせください。



## 2 「用語」と「マーク」について

この取扱説明書で使用している「前後・左右・左回り・右回り」などの用語は、上記図のように決めております。またこの取扱説明書では特に注意していただくところに下記マークを使用しております。



### 安全のポイント

- ◆重要な安全事項について説明しています。守らないと人身事故の危険性がありますので、必ず読んでください。

### 取扱いのポイント

- 機械の性能を最大限に発揮するための説明をしています。守らないと本来の性能を発揮できません。また故障の原因になることがあります。



### 3 「仕様（装備）」について



◆機械は改造しないでください。改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく人身事故の原因になることがあります。

226・246・266・266H・286・286H・306・306H・336・336H型の主な仕様（装備）は次のようになっています。

仕様（装備）の異なる製品については、異なる点のみ追加説明していますので、お買いあがの製品の仕様（装備）をお確かめのうえ、まちがいのないように活用してください。

品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

型式名 区分 仕様	MT225・MT245							MT265							MT285					MT285H				MT305・MT336																	
	226・246						2 4 6 G	266					266H					286					286H				306・336			306H・336H											
	J	V	L	X	X	X		J	V	A	X	X	X	J	V	X	X	X	J	V	A	X	X	J	V	X	X	J	M	A	V	X	X	J	M	V	X	X	X		
2柱安全フレーム	○	○	○	○			○	○	○	○	○					○	○	○	○	○					○	○	○				○	○	○	○	○						
パワーステアリング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
チルトハンドル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイヤクイックターン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オートブレーキターン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リターンPTO	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハイスピード仕様															○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○													
AGタイヤ									○									○																						○	
大径タイヤ			○			○						○																													
MAC		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○						○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
JAC	○					○	○							○																											
PAC	○					○								○																											
パルシフト		○	○		○	○			○	○	○	○	○				○	○	○							○	○													○	
デラックスエアコンキャビン				○	○	○											○	○	○	○																				○	

#### 型式記号の説明

X=デラックスエアコンキャビン H=ハイスピード仕様

J=マイクロコンピュータ装備機(JAC傾斜自動) M=マイクロコンピュータ装備機(MAC, 耕深・傾斜自動)

V=パルシフト・MAC A=AGタイヤ L=大径タイヤ G=鳴門専用機

## 4 小型特殊自動車について

このトラクタは、道路交通法、道路運送車両法の「小型特殊自動車」に該当します。

### 1 小型特殊自動車の届出

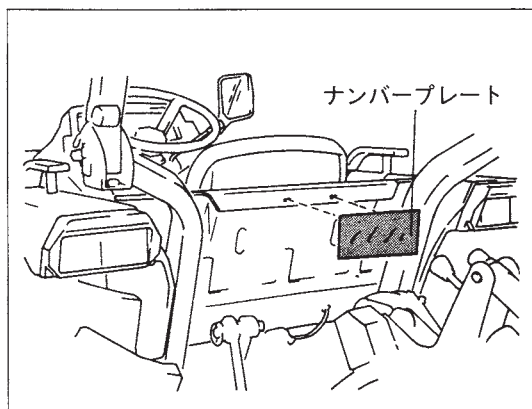
#### ① 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は、市(町・村)条例により、その取得を市(町・村)役所に届出て、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市(町・村)により多少異なりますので、詳しいことは「市(町・村)役所」または「お買いあげ先」にご相談ください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等(「お買いあげ先」で準備します)をそえて市(町・村)役所に届出て、ナンバープレートの交付を受けてください。

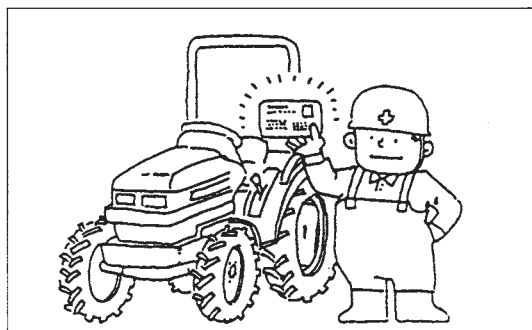
ナンバープレートは、機械の指定された位置に取付けます。



### 2 運転免許

① 公道走行する時は、次の運転免許証が必要です。運転免許証を所持して運転してください。

区 分	運 転 免 許
226・246・266・ 286・306・336型	小型特殊自動車免許
266H・286H・ 306H・336H型	大型特殊自動車免許



#### ② 「小型特殊自動車免許」で運転ができる自動車の基準

車体の大きさ	全長	4.70m以下
	全幅	1.70m以下
	全高	2.00m以下
最 高 速 度	15km/時以下	
原 動 機 の 総 排 気 量	1500cc以下	

③ 上表の基準を越える「小型特殊自動車」は、「大型特殊自動車免許」が必要です。

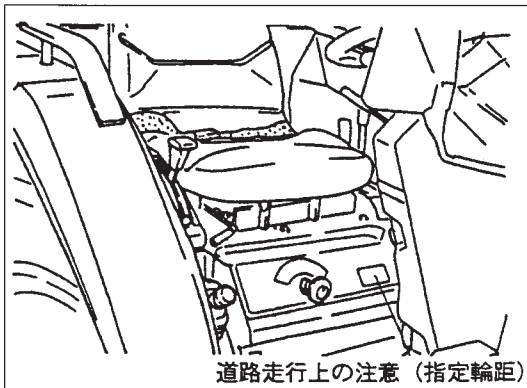
### ③ 公道を走行するとき

公道を走行するときは、道路交通法等関係法規を守り次の注意事項に従って、「安全速度」で走行します。

- ① 作業機を取付けた状態では走行しない。
- ② 指定輪距以外では走行しない。

指定輪距にして走行してください。

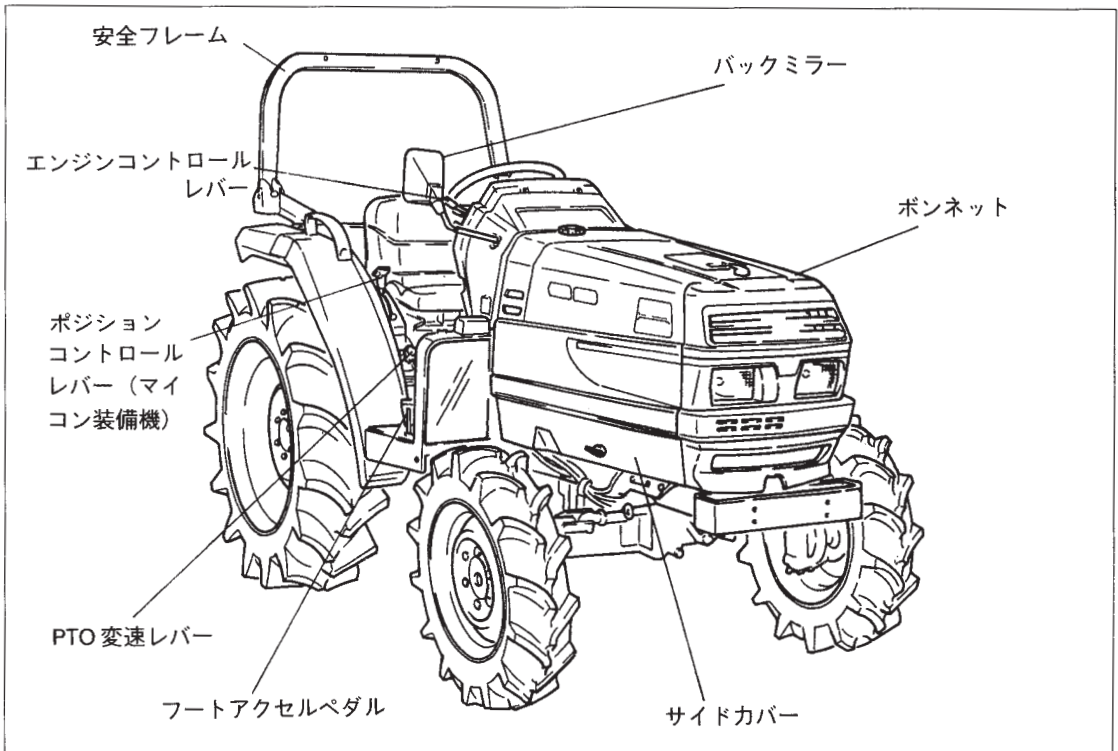
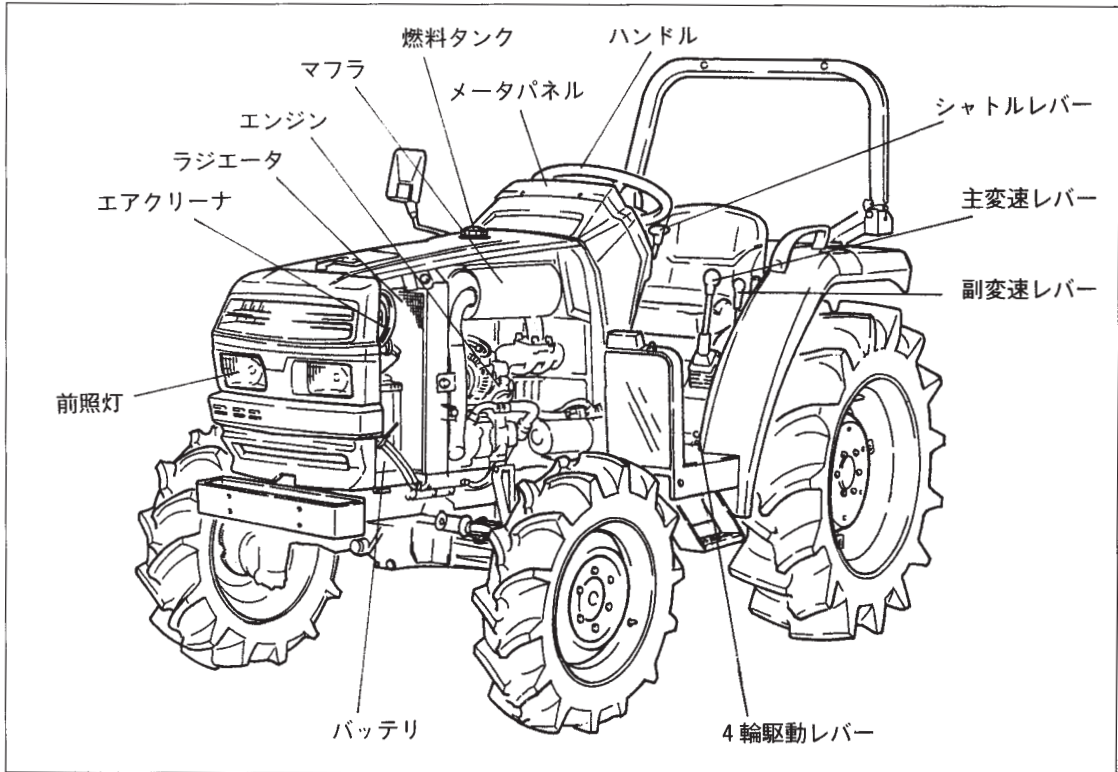
シート下のカバーに指定輪距表を貼付しています。(47ページ参照)



### ③ 任意保険のお勧め

万一の交通事故にそなえ、任意保険に加入されるようお勧めします。

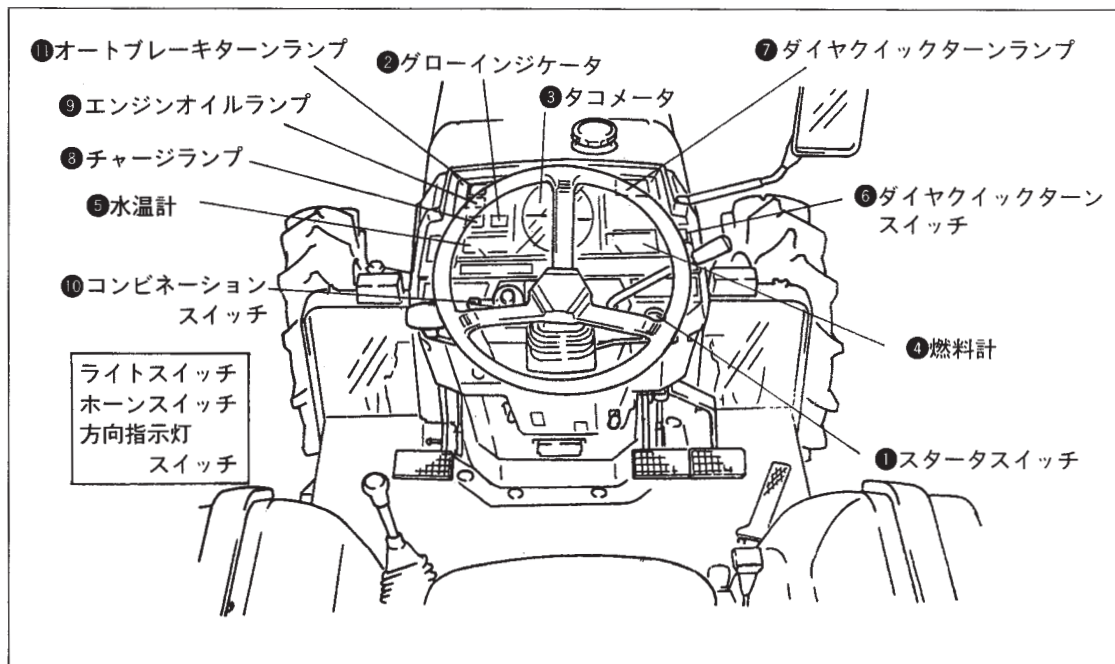
# 主な名称



# 各部の取扱いかた

## 1 運転装置の取扱い

### 1 スイッチ、計器関係



#### 1 スタータスイッチ(始動キー)



#### 安全のポイント

◆トラクタを使用しないときは始動キーを抜いておいてください。

- 《 》(停止) ……電源切(エンジン停止)キーを《 》(停止)にするとエンジンが停止します。
- 《 》(予熱) ……電源入(運転中)キーを《 》にするとメータ内のグローインジケータが点灯し、エンジンが予熱されます。予熱が完了するとグローインジケータが消灯しますので始動操作をします。

グローインジケータ点灯時間

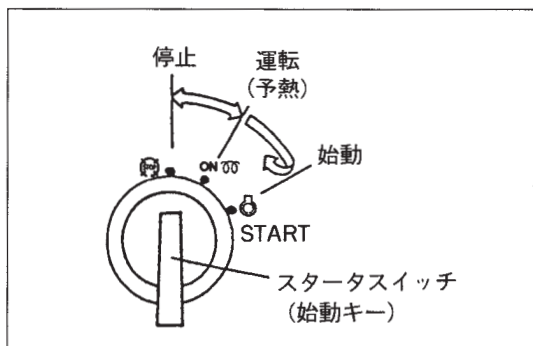
冷却水温 5℃以上 …… 1秒

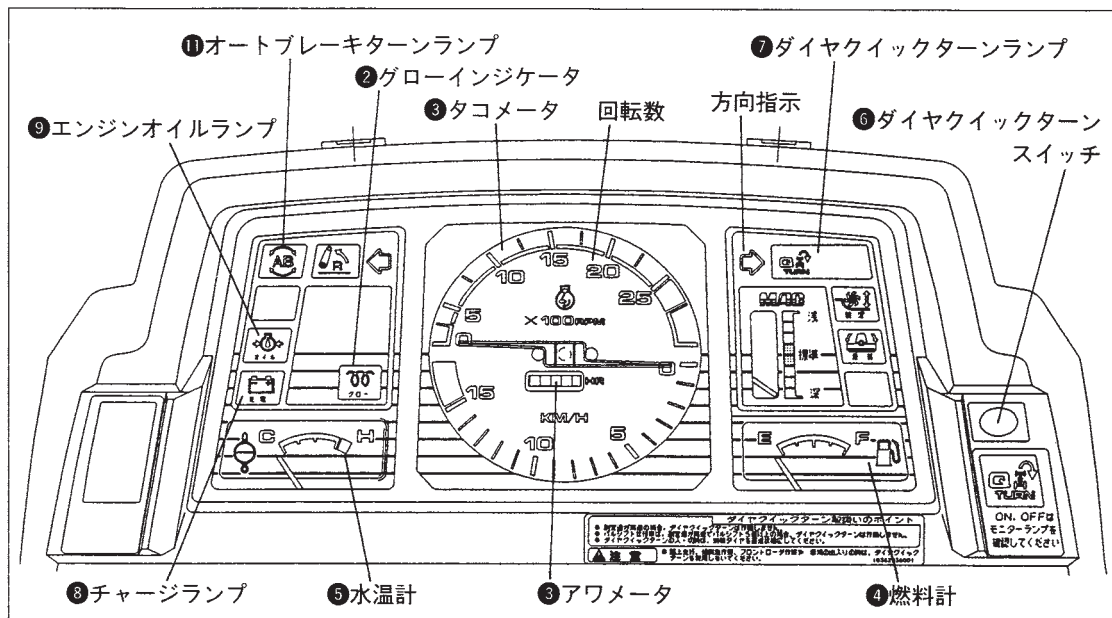
冷却水温 5℃以下 …… 3秒

- 《 START 》 ……エンジン始動手を放せば自動的に《 》にもどります。

#### 取扱いのポイント

- クラッチペダルをいっぱい踏込まないと、エンジンは始動しません。





## ② グローインジケータ



スタータスイッチを《 ON 00 》にすると、点灯してエンジンが予熱状態であることを示します。

## ③ タコメータ・アワメータ

・タコメータはエンジン回転数を示します。

### (1) 上側の目盛

エンジン回転数を示します。

### (2) 下側の目盛

最高速度段の走行速度を示します。

・アワメータは稼働時間を表示し、たとえば **00191** は19.1時間（19時間6分）使用したことを示します。

## ④ 燃料計



スタータスイッチ《 ON 00 》の状態では燃料の残量を示します。

針が“E” 近くになったら早めに補給してください。

## ⑤ 水温計



スタータスイッチ《 ON 00 》の状態ではエンジン冷却水温度を示します。

## 取扱いのポイント

●水温計の針が《H》を示した場合は、オーバーヒート状態です。作業を中断しエンジンを低回転にし冷えてから停止してください。その後冷却水の量、ラジエタの目詰まり、ファンベルトの張りを点検してください。（89, 91, 99ページ参照）冷却水量、ラジエタの目詰まり、ファンベルトが正常であれば、ほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。

## ⑥ ダイヤクイックターンスイッチ

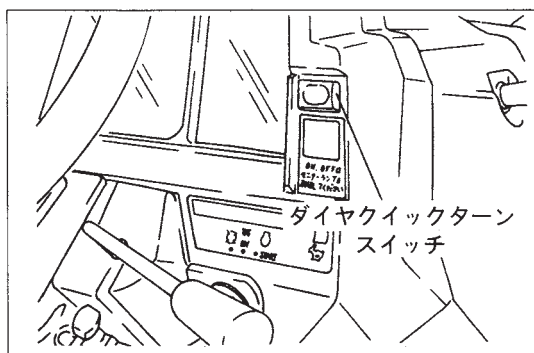


## ⑦ ダイヤクイックターンランプ

### 安全のポイント

◆道路走行、ほ場への出入り、あぜ越え、アユミ使用、傾斜地作業の時はダイヤクイックターンスイッチを切ってください。ダイヤクイックターンを使用すると、旋回速度が通常より速くなり、また、旋回半径も小さく車体が急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

- 4輪駆動レバーを《入》れダイヤクイックターンスイッチを押すとパネル内のダイヤクイックターンが点灯し、ダイヤクイックターンが働く状態になります。ハンドルを切ってダイヤクイックターンが作動すると旋回時の速度が早くなり小回りができます。スイッチをもう一度押すとランプが消灯しダイヤクイックターンが働かなくなります。
- 安全のため副変速レバーが《高速》のときはダイヤクイックターンが作動しない構造になっています。このときはパネル内のダイヤクイックターンランプは点灯しません。



### 取扱いのポイント

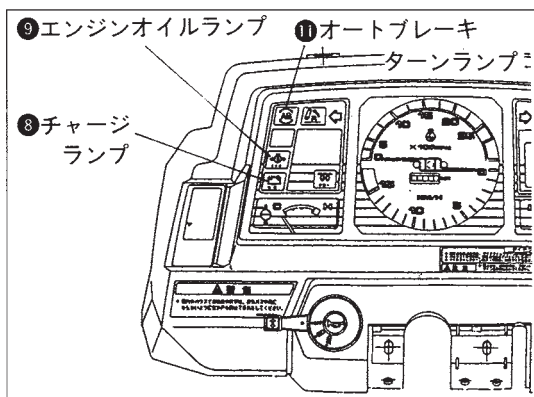
- ダイヤクイックターンに入れたり、切ったりするときは前輪タイヤを直進状態にしてください。
- 副変速レバーが《高速》のときはダイヤクイックターンが、作動しない構造になっています。



### 8 チャージランプ

エンジン運転中、充電系統に異常があると点灯して警告します。

エンジンを停止しているとき、スタータスイッチを《ON/OFF》位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯するのが正常です。



### 取扱いのポイント

- エンジンの運転中にチャージランプが連続点灯するときは、エンジンを停止し、エンジンファンベルトを張ってください。(99ページ参照)

エンジンファンベルトが正常であれば、ほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。



### 9 エンジンオイルランプ

エンジン運転中、エンジンの潤滑系統に異常があると点灯します。

エンジンが停止をしているとき、スタータスイッチを《ON/OFF》位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

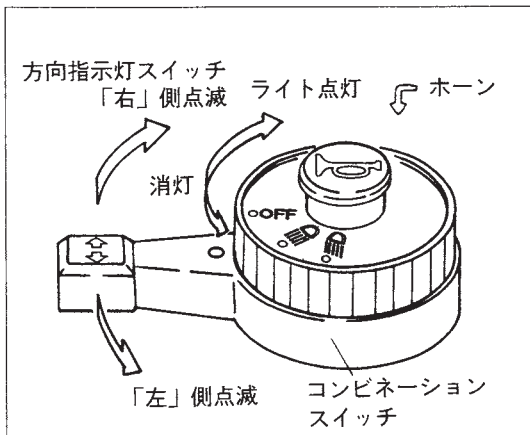
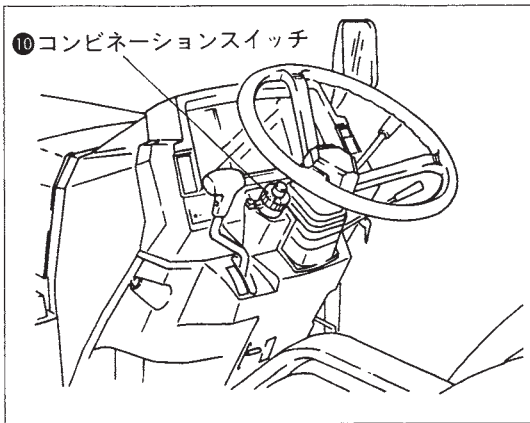
### 取扱いのポイント

- 運転中にエンジンオイルランプが点灯したときは、エンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。(30, 31, 87ページ参照)

オイル量が正規であれば、ほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。



## 10 コンビネーションスイッチ





## 11 オートブレーキターンランプ

オートブレーキターンレバーを《入》にするとオートブレーキターンランプが点灯します。

### (1) ライトスイッチ

《OFF》……消灯

《》……メータ類ランプ点灯及び前照灯上向点灯

《》……メータ類ランプ点灯及び前照灯下向点灯



### (2) ホーンスイッチ

ホーンスイッチを押すと警笛が鳴ります。



### (3) 方向指示灯スイッチ

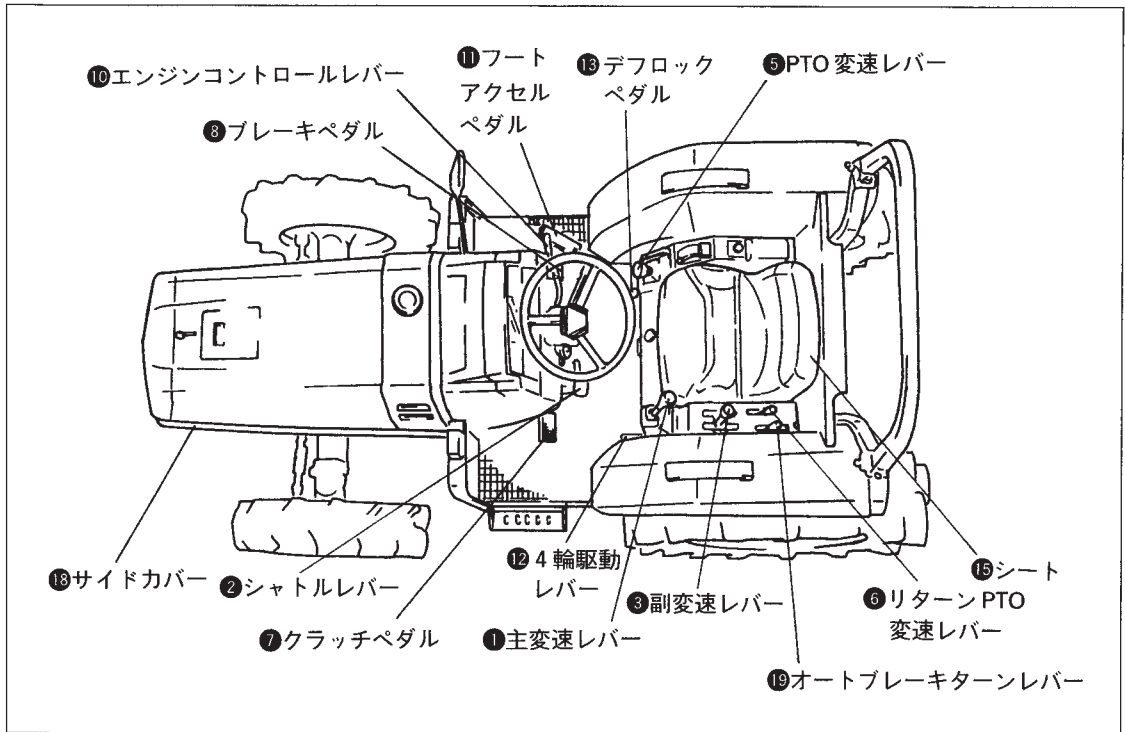
右折、左折のとき使用します。



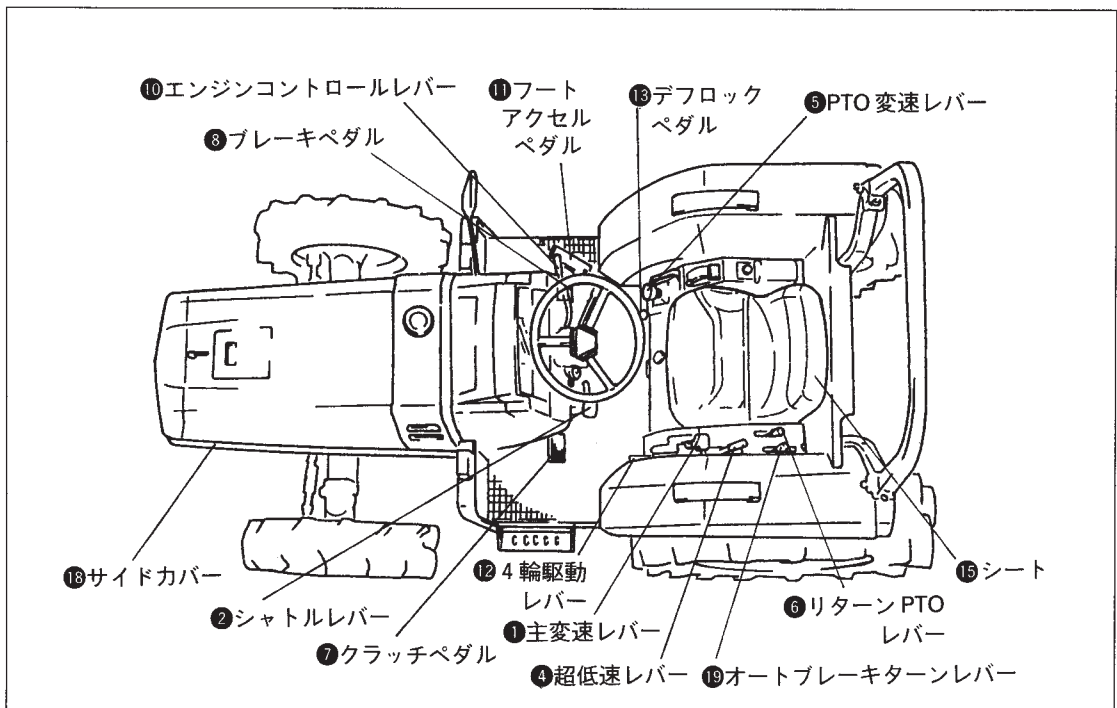


## ② レバー、ペダル、シート関係

[標準機]



[パルシフト装備機]



## 取扱いのポイント

- パルシフト装備機は、主変速とシャトル変速がノークラッチで変速できますが、他の変速レバーは、標準機と同様にクラッチペダルを踏んで変速してください。

	変 速 方 法	
	ノークラッチ変速	クラッチペダル操作
主変速レバー	可能	可能 (併用可)
シャトル変速レバー	可能	可能 (併用可)
超低速レバー	不可	可能
PTO 変速レバー	不可	可能
リターン PTO レバー	不可	可能

### ① 主変速レバー

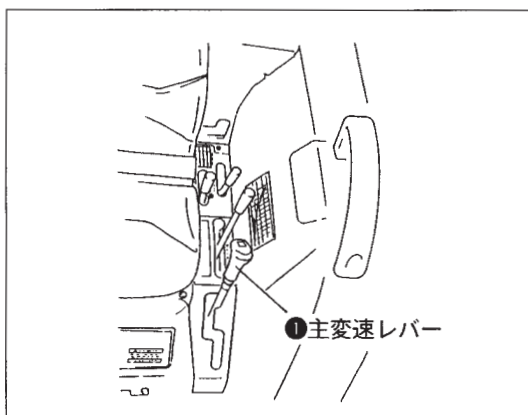
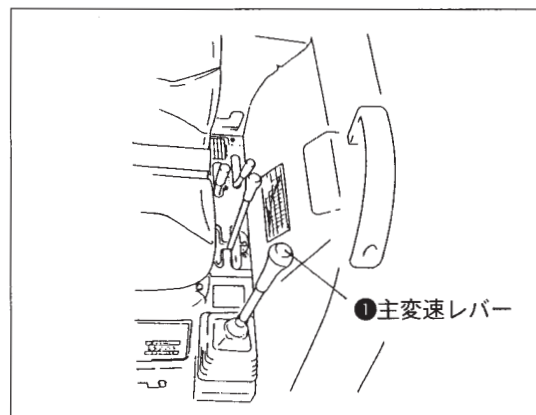
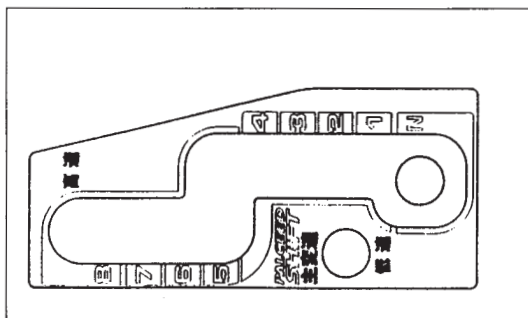
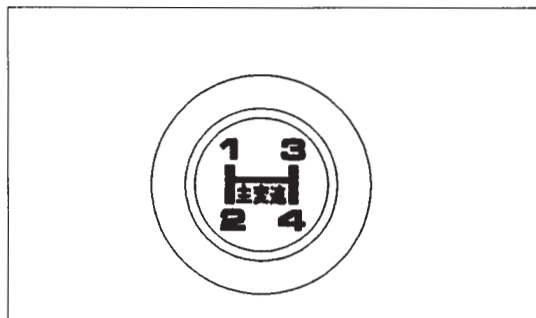
主変速

[標準機]

4段の変速位置があります。副変速レバー・超低速レバーと併せて、16段の変速ができます。

[パルシフト装備機]

8段の変速位置があります。超低速レバーと併せて、16段の変速ができます。



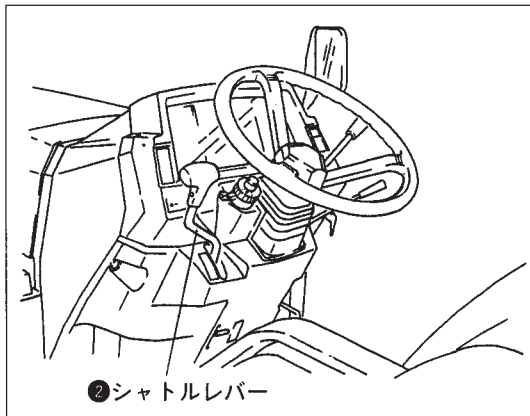
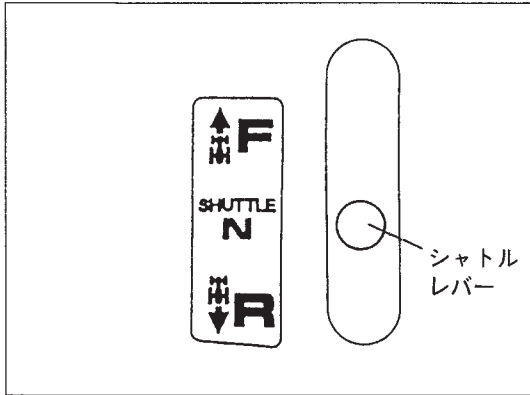
## ② シャトルレバー



安全のポイント

◆後進は、エンジンの回転を下げて、後方を確認してから行なってください。

前進、後進の切換えができます。レバー位置は前側《F》が前進、後側《R》が後進となっています。

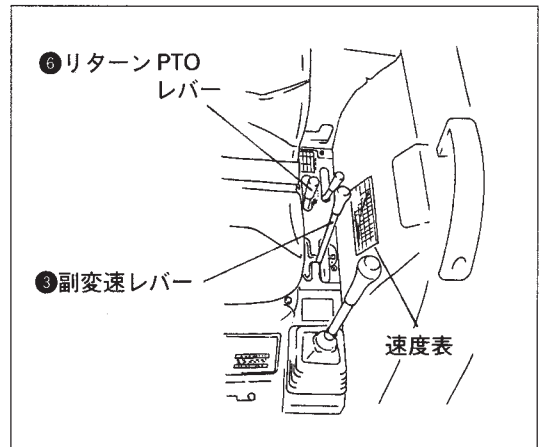
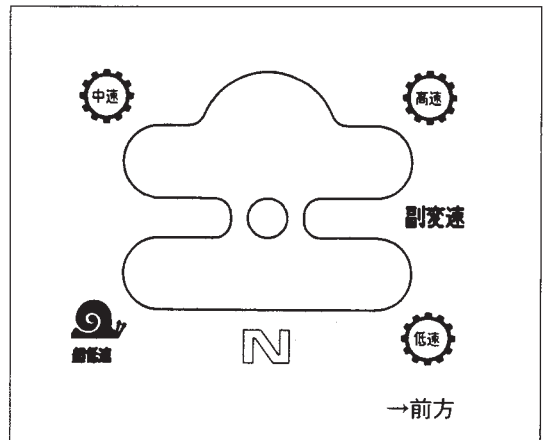


## ③ 副変速レバー [標準機のみ]

副変速

《 高速 》 《 中速 》 《 低速 》 《 超低速 》

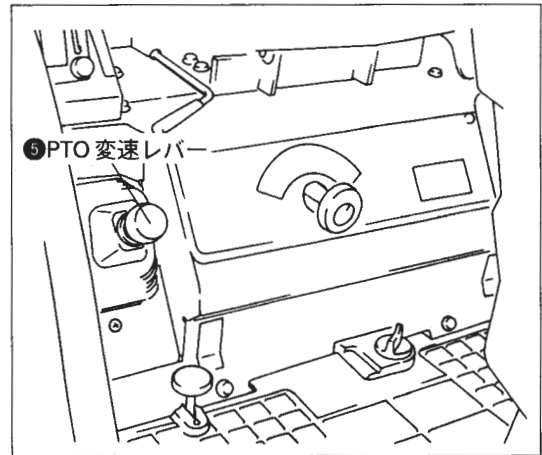
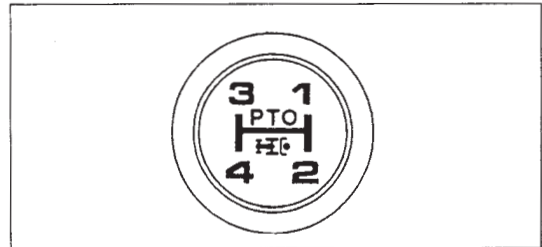
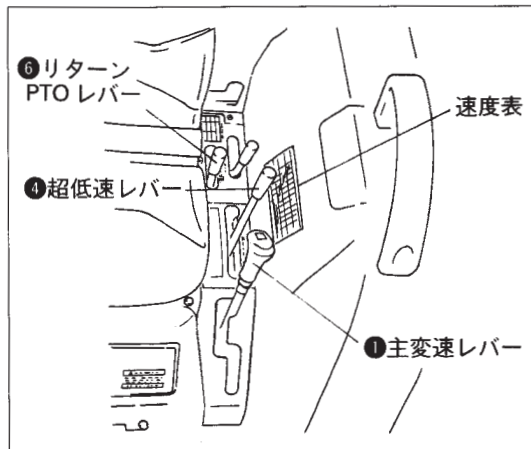
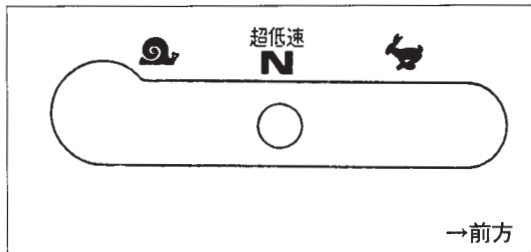
4段の変速位置があります。



#### ④ 超低速レバー [パルシフト装備機]

《》(高速)と《》(低速)の2段の変速位置があります。

変速時はクラッチペダルを踏んで走行が完全に停止してから変速します。



#### ⑥ リターン PTO レバー

PTO 軸の回転方向を正転と逆転に切替えます。

PTO 変速レバーと合わせて正転4段・逆転4段の変速ができます。

### 取扱いのポイント

- 主変速、副変速の各々の位置での車速はフェンダ(左)に貼り付けてある速度表をご覧ください。(作業速度と PTO 回転速度は43, 44ページ参照)

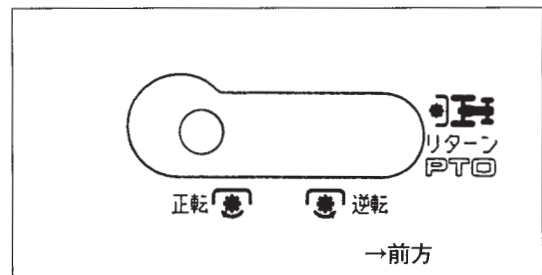
#### ⑤ PTO 変速レバー



安全のポイント

- ◆作業機に指定された PTO 軸回転数を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を高速回転で使用すると作業機が壊れ傷害事故の原因となることがあります。

PTO 軸の回転速度は4段に変速できます。

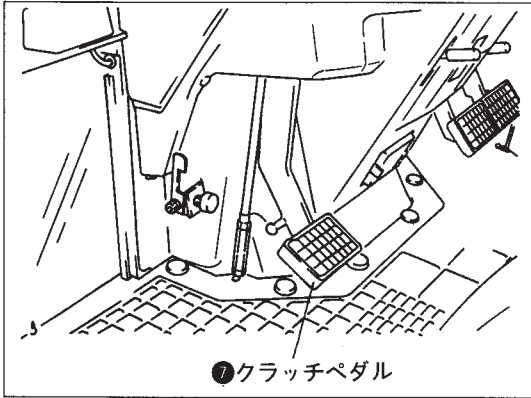


### 取扱いのポイント

- PTO 変速レバー、リターン PTO レバーの操作は作業機(ロータリ等)を上げた後、クラッチペダルを踏込んで、PTO 回転が停止してから行なってください。入りにくい場合は、無理な操作をせず、もう一度、クラッチペダルを踏み直してから操作をします。
- 逆転は純正ロータリで使用できます。純正ロータリ以外の場合は、「お買いあげ先」にご相談ください。

## 7 クラッチペダル

- ペダルをいっぱい踏込むと、クラッチが切れます。
- エンジン始動、変速、停止のとき踏込みます。



### 取扱いのポイント

- クラッチペダルを踏込む時は早く踏込み、離す時はゆっくり離してください。
- 安全上、始動安全スイッチが装備されており、ペダルを踏込まないと始動できないようになっています。

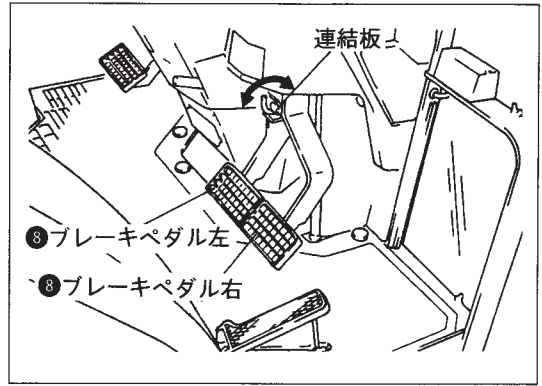


## 8 ブレーキペダル

### 安全のポイント

- ◆道路走行、ほ場への出入り、あぜ越え、アユミ使用、傾斜地作業、フロントローダ装着時等は連結板で左右のブレーキペダルを連結してください。片ブレーキでは横転、衝突、転落等の事故になることがあります。

- 左右のペダルに分かれており、連結板をはずして左のペダルを踏むと左後輪に、右のペダルを踏むと右後輪にブレーキがかかります。
- 左右のブレーキペダルを連結してブレーキペダルを踏むと、左右の後輪にブレーキがかかります。



### 取扱いのポイント

- 運転時は、クラッチペダル、ブレーキペダルから足を離してください。足を乗せたまま運転すると故障の原因となります。
- 停止する場合は、ブレーキペダルと同時にクラッチペダルも踏込みます。

P

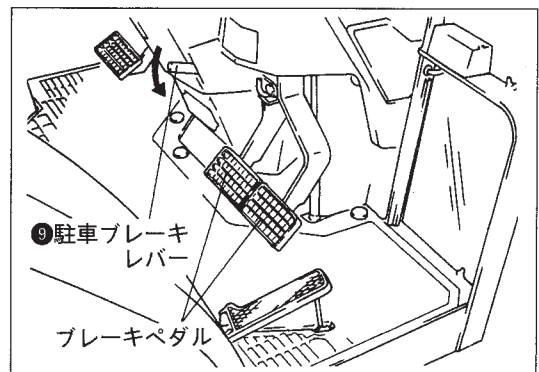
## 9 駐車ブレーキレバー



### 安全のポイント

- ◆駐車・停車時には、左右のブレーキペダルを連結して駐車ブレーキレバーをかけてください。

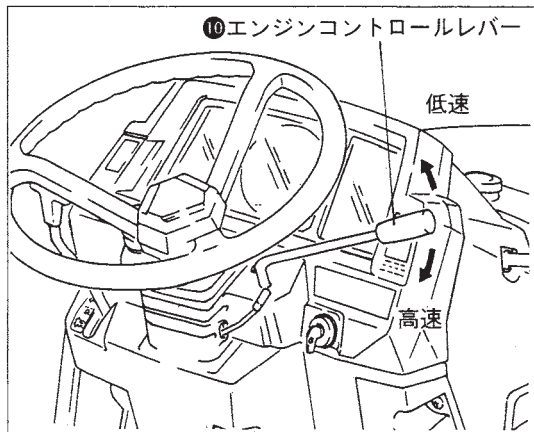
- 左右のブレーキペダルを連結し、駐車ブレーキレバーを下方に押さえながらブレーキペダルを強く踏込み駐車ブレーキをかけます。
- 駐車ブレーキを解除するときは、ブレーキペダルを強く踏込めば外れます。



## ⑩ エンジンコントロールレバー

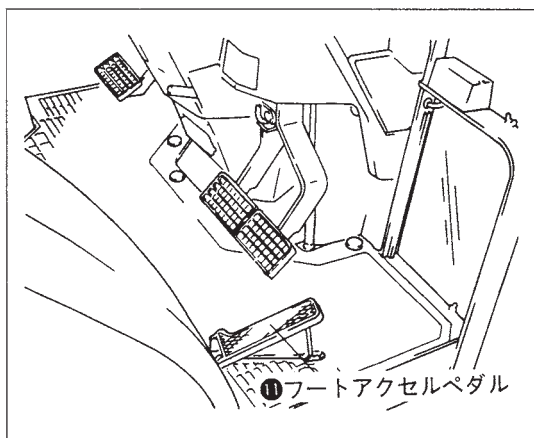


レバーを手前に引けば高速となり、前方へ押せば低速となります。



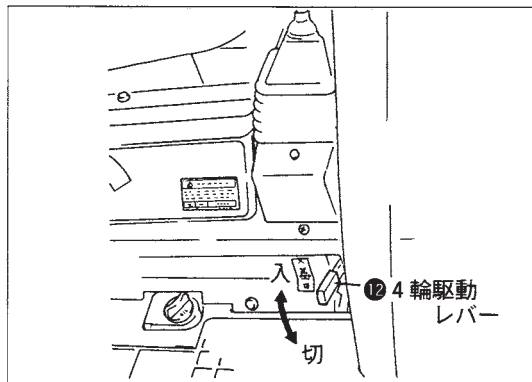
## ⑪ フートアクセルペダル

・道路走行に使用します。この時、エンジンコントロールレバーは低速にしておきます。



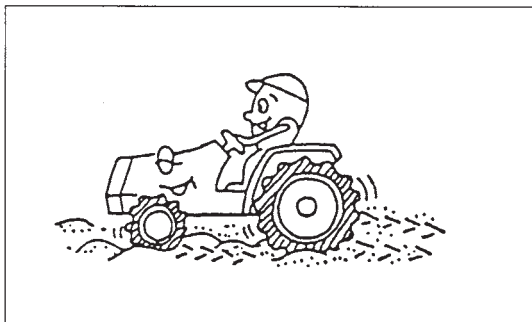
## ⑫ 4輪駆動レバー

4輪駆動レバーを上方に引上げると前輪駆動が入ります。



4輪駆動にすると、次のような場合に威力を発揮します。

- (1) 傾斜地、湿田、トレーラ、フロントローダ、プラウ作業時でけん引力を必要とする場合。
- (2) 砂地で作業をする場合。
- (3) 固いほ場で、ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
- (4) ほ場への出入りやあぜ越えおよび自動車への積降ろしを行う場合。



### 取扱いのポイント

- 4輪駆動レバーを操作するときは、クラッチペダルを踏込んで行なってください。
- トラクタ単体での平坦な路上走行時は、タイヤ摩耗防止のため、4輪駆動レバーを《切》にし、走行します。

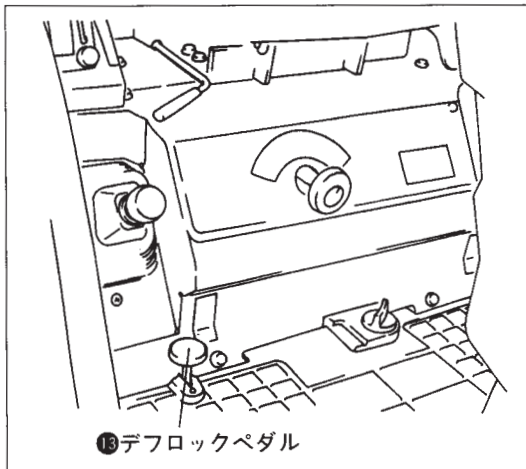
### 13 デフロックペダル



#### 安全のポイント

◆自動車への積込み・積降ろしおよび道路走行するときは、デフロックを使用しないでください。またデフロックが外れていることを確認してください。デフロックを使用すると、ハンドルを切っても直進しかできなくなり思うように旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとする、思わぬ事故になることがあります。

- ペダルを踏むと左右の後輪が同じ回転になります。
- 片側車輪がスリップするときに使用します。
- ペダルから足を離すと外れます。外れない場合はクラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏めば外れます。



#### 取扱いのポイント

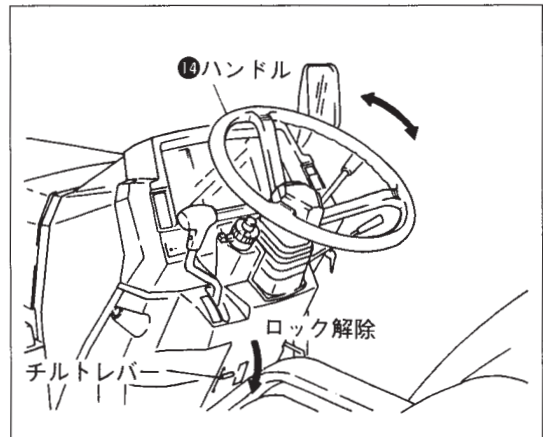
- 片側のタイヤが空転しているときはデフロックペダルを踏んでもデフロックが入らないことがあります。この場合は一度クラッチを切ってから行なってください。

### 14 チルトハンドル



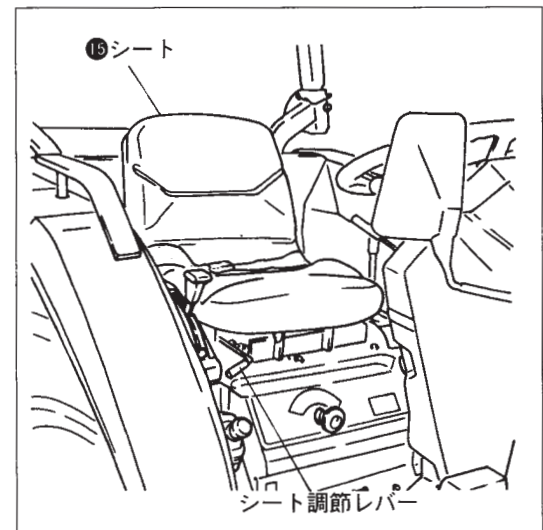
◆ハンドルの角度を変えた時は、チルトレバーが上方に戻り、ハンドルが確実にロックされていることを確認してください。

- チルトレバーを押し下げると、ハンドルの角度を前後3段階に変えることができます。
- レバーから手を離すとハンドルはロックされます。



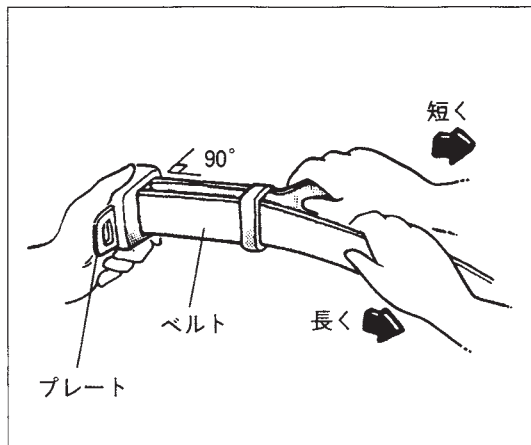
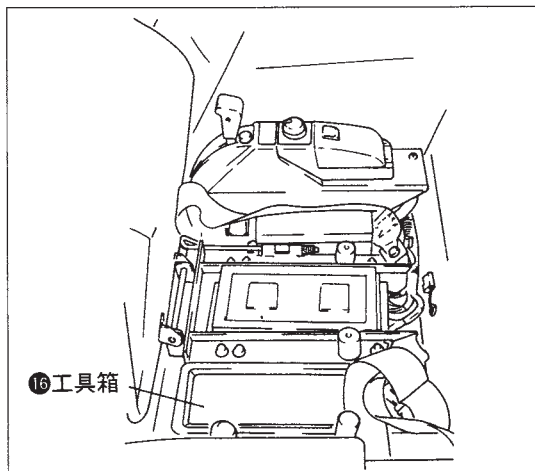
### 15 シート

シートの前後位置がシート調節レバーで5段階に調節できます。



## 16 工具箱

工具箱はシート下の左側にあります。



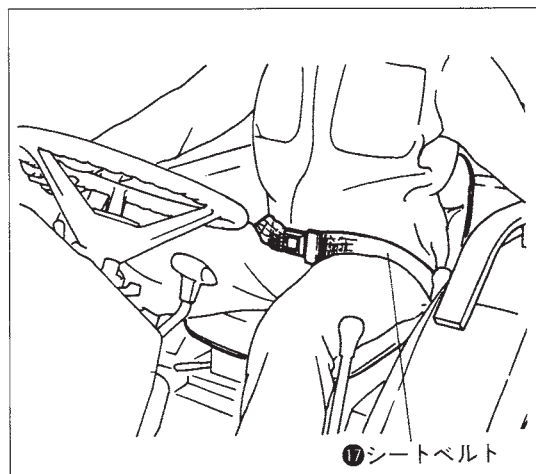
(2) 長さの調整は、ベルトをプレートと直角にして行います。ベルトが着けたときに腰部とベルトの間に手のひらが入る程度に長さを調整します。

## 17 シートベルト

### 安全のポイント

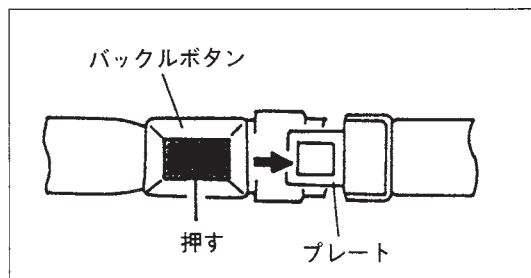
◆安全フレームをおこして使用するとき、シートベルトをしてください。

◆安全フレームをたおして使用するとき、シートベルトはしないでください。(19ページ参照)



(1) シートベルトがねじれないようにして、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまではめ込みます。

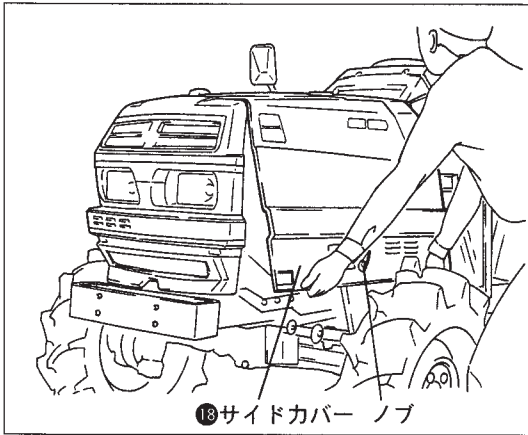
(3) シートベルトを外すときはバックルのボタン（中央の赤い部分）を押すと外れます。外したベルトはバックルとプレートをはめておきます。





## 18 サイドカバー

左右のサイドカバーは、カバー中央部のノブを回してフックを解除し、カバーの下方両端を手前に引いた後、持上げるようにして外します。



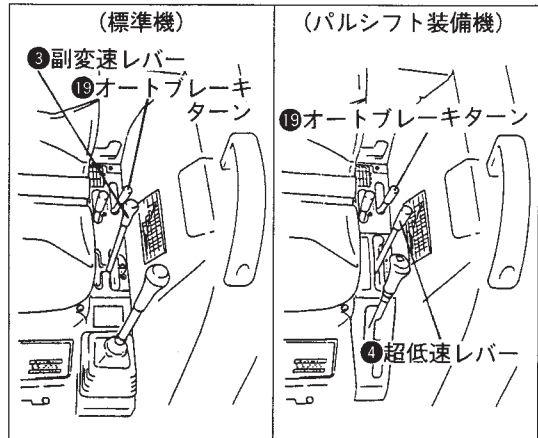
## 19 オートブレーキターンレバー [オートブレーキターン装備機]



安全のポイント

- ◆オートブレーキターンは旋回時にハンドルを回すとブレーキが自動的にきき旋回が楽に行えますが、ほ場作業以外では使用しないでください。使い方を誤ると横転することがあります。
- ◆オートブレーキターンは、道路走行・ほ場への出入り・自動車への積降ろし・傾斜地作業・フロントローダ作業では使用しないでください。横転や傷害事故の原因になることがあります。ほ場から出る時はオートブレーキターンを《切》にして左右のブレーキペダルを連結してください。パネル内のオートブレーキターンランプが消灯していることを確認してください。

- 左右のブレーキペダルの連結を外して、副変速レバーを《低速》に入れ、前輪タイヤを直進状態にします。(標準機)
- オートブレーキターンレバーを《入》にします。(パネル内のオートブレーキターンランプが点灯します)
- 旋回時にハンドルを回すと旋回内側後輪のブレーキが自動的にききます。(ブレーキペダルも動きます)



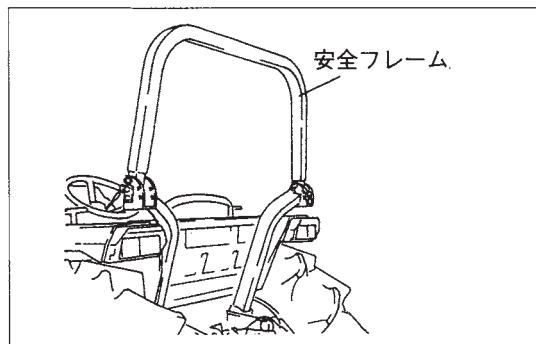
## 取扱いのポイント

- オートブレーキターンを使用する時は左右のブレーキペダルの連結を外してください。
- オートブレーキターンレバーは前輪タイヤを直進状態にして操作してください。
- 副変速レバーが《高速》に入っている時はオートブレーキターンレバーの《入》操作はできません。またオートブレーキターン《入》では副変速レバーを《高速》にすることはできません。(標準機) 無理に操作しないでください。
- ノークラッチ仕様は超低速レバー《>》ではオートブレーキターン《入》操作はできません。超低速レバーを《N》にしてオートブレーキターンレバーを操作してください。オートブレーキターンレバー《入》の時は超低速レバー《>》でパルスシフト5～8速の変速操作はできません。

## 2 安全フレームの取扱い

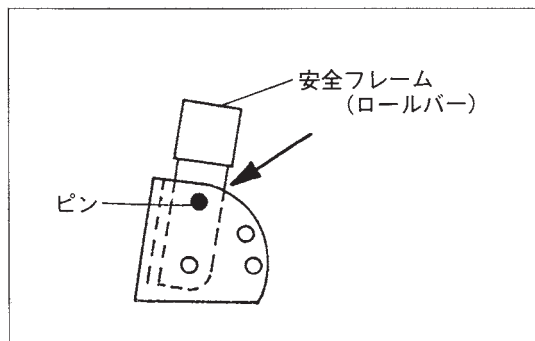
### 1 安全作業について

安全で快適な農作業をしていただくために、下記のことを守って行います。あわせて「安全作業をするために」の項をよく読み正しい取扱いをします。



#### 安全のポイント

◆安全フレームは、トラクタが転倒した時に身を守るものですから、安全フレームを「おこして」矢印の位置にピンをセットして使用してください。



- ◆安全フレームを「おこして」使用する場合はシートベルトを締めてください。
- ◆安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してから行なってください。
- ◆高さ制限のある屋内、果樹園等での作業は安全フレームを後方にたおして行うことが

できますが、この位置では身体を保護することはできませんのでシートベルトは締めないでください。

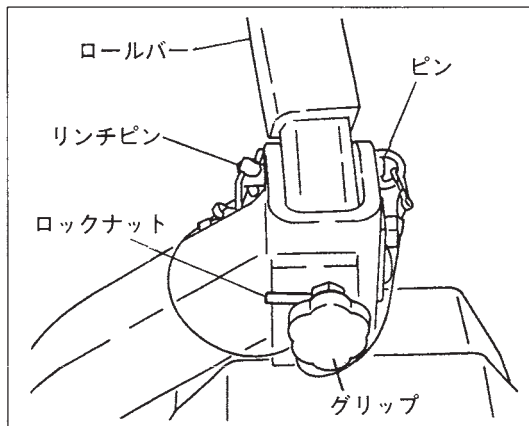
- ◆たおして使用するときは、フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくり最大高さまで上げて確認してください。
- ◆安全フレームに別部品を溶接したり、穴をあける等の改造はしないでください。
- ◆万一、事故により安全フレームが変形した場合は、新しい部品と交換してください。
- ◆交換部品は、純正部品を使用してください。ボルト、ナットは適正な工具を使用して下表のトルクで締めつけてください。

サイズ	M10	M12	M14
締めつけトルク (kgf・m)	4.0	8.5	15.0
	~4.5	~9.5	~17.0

### 2 安全フレームのたおしかた・おこしかた

安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは、次の要領で行います。

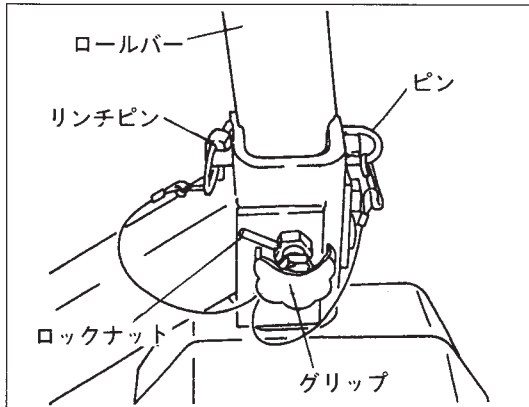
#### ① たおしかた



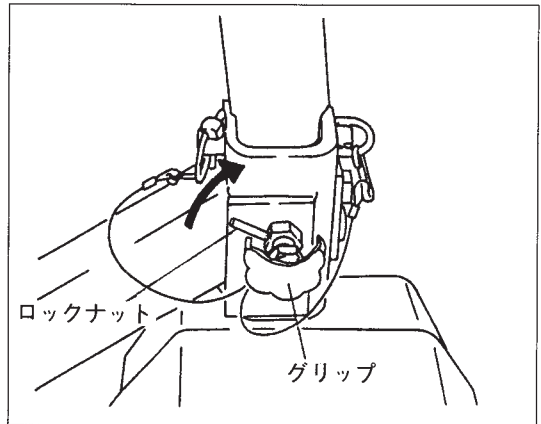
- (1) リンチピンを抜きます。
- (2) ロックナットをゆるめ、ピンが手で抜けるまでグリップをゆるめます。

- (3) 反対側も同様にリンチピンを抜き、ロックナットとグリップをゆるめます。
- (4) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。
- (5) ロールバーを後方にたおした位置で左右のピンを差込みます。
- (6) 左右のリンチピンを差込みます。

## ② おこしかた



- (1) 左右のリンチピンを抜きます。
- (2) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。
- (3) ロールバーを前方におこして直立にした位置で左右のピンを差込みます。
- (4) 左右のリンチピンを差込みます。
- (5) グリップをいっぱい締めます。
- (6) ロックナットをいっぱい締めておきます。
- (7) 反対側も同様にグリップとロックナットをいっぱい締めておきます。



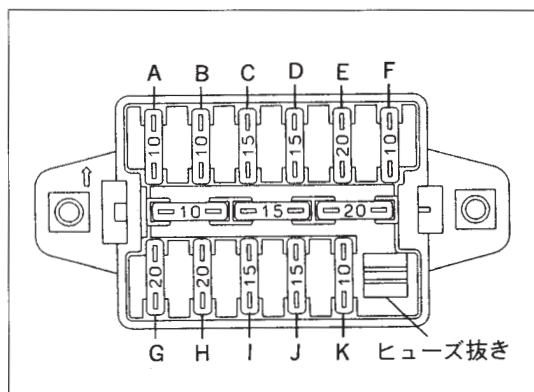
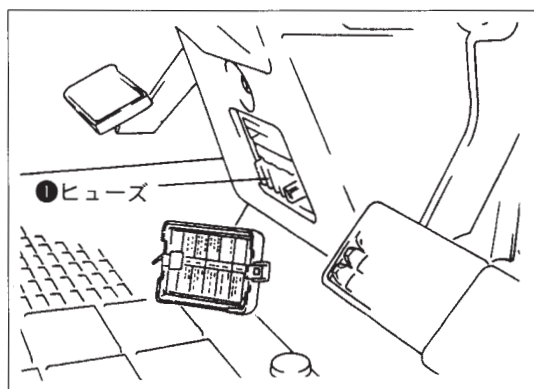
### 3 電装関係の取扱い

#### 1 ヒューズおよびヒューズブルリンクの取扱い

配線の回路に異常を生じたとき、事故を未然に防止するためにヒューズおよびヒューズブルリンクを設けています。

運転中、電気系統に異常を確認したときは、ヒューズおよびヒューズブルリンクが切れていないかチェックします。

##### 1 ヒューズ



ローラン	エンジン駆動装置	エンジン駆動装置	前照灯	クイックターン	マイコン	作業機用電源	ノック用
10A	10A	15A	15A	15A	20A	20A	10A
スベア・10A	スベア・10A	スベア・15A	スベア・15A	スベア・20A	スベア・20A	スベア・20A	スベア・20A
ブレーキ灯	ワイパーモーター	作業機用電源	エアコン用	室内灯	室内灯	室内灯	室内灯
20A	(キップ用) 20A	(キップ用) 15A	(キップ用) 15A	(キップ用) 10A	(キップ用) 10A	(キップ用) 10A	(キップ用) 10A
							1036282926

- (1) Aのヒューズ溶断
  - ・グローランプが点灯しません。
- (2) Bのヒューズ溶断
  - ・エンジンが始動しません。
  - ・エンジン回転中に溶断するとエンジンが停止します。
- (3) Cのヒューズ溶断
  - ・前照灯が点灯しません。
  - ・ホーンが鳴りません。
  - ・メータ照明が点灯しません。
- (4) Dのヒューズ溶断
  - ・マイコン機能が作動しません。
  - [マイコン装備機]
  - ・ダイヤクイックターンが作動しません。
- (5) Eのヒューズ溶断
  - ・作業機用電源が使用できません。
- (6) Fのヒューズ溶断 [パルシフト装備機]
  - ・走行ができません。
- (7) Gのヒューズ溶断
  - ・方向指示灯が点灯しません。
  - ・車幅灯が点灯しません。
  - [266H・286H・306H・336H]
  - ・尾灯が点灯しません。
  - [266H・286H・306H・336H]
  - ・後退灯が点灯しません。
  - [266H・286H・306H・336H]
- (8) Hのヒューズ溶断 [キャビン装備機]
  - ・ワイパ（前）が作動しません。
  - ・ワイパ（後）が作動しません。
  - ・ウォッシュ液が出ません（前・後）。
  - ・カーステレオが作動しません。
- (9) Iのヒューズ溶断 [キャビン装備機]
  - ・作業灯が点灯しません。
- (10) Jのヒューズ溶断 [キャビン装備機]
  - ・エアコンの送風がありません。
  - ・エアコンが作動しません。
- (11) Kのヒューズ溶断 [キャビン装備機]
  - ・室内灯が点灯しません。
  - ・カーステレオの時計が表示しません。


## ・ヒューズの交換

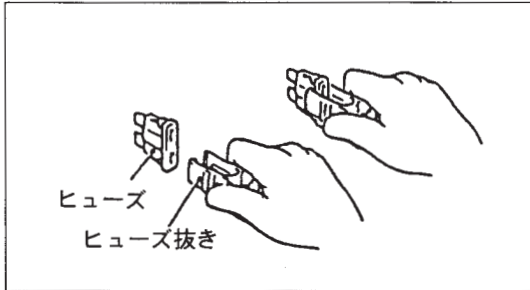


### 安全のポイント

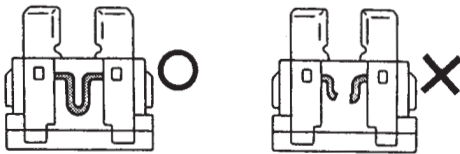
- ◆取付けてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金、銀紙などを使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

各ヒューズが受け持っている装置が作動しないときは次のように処置してください。

- (1) スタータスイッチを《》にします。
- (2) ヒューズ抜きを使ってヒューズを引抜きます。(ヒューズ抜きはヒューズボックスの中に入っています。)



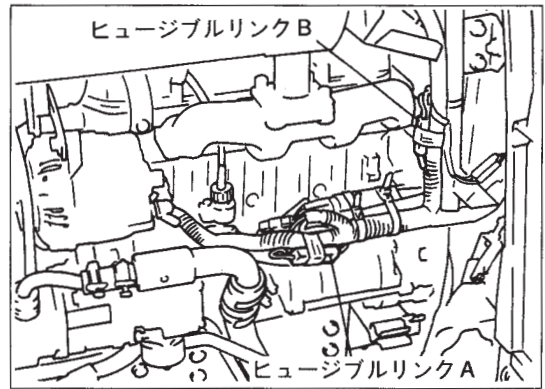
- (3) ヒューズが図の右側(×印)のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。



### 取扱いのポイント

- ヒューズボックスを開ける時は、ボックス蓋左右の凸部を押すように持ち、手前に引いてください。
- 取りかえてもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

## ② ヒューズブルリンク



- (1) Aのヒューズブルリンク溶断  
スタータは回りますが、エンジンがかかりません。
- (2) Bのヒューズブルリンク溶断  
すべての電気系統が作動しません。

### 取扱いのポイント

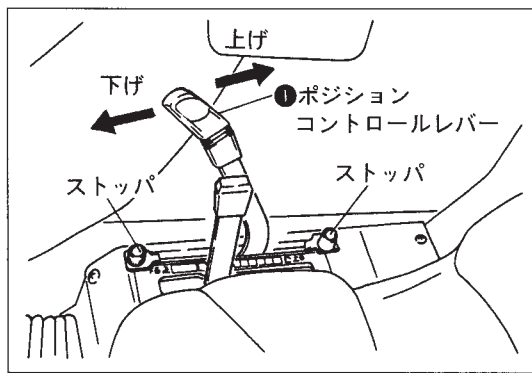
- ヒューズブルリンクが切れた場合は、切れた原因を調べ修理後、純正部品のヒューズブルリンクと交換してください。

## 4 油圧装置の取扱い

### ① コントロールレバーの操作 (PAC仕様・JAC仕様機)

この油圧装置にはポジションコントロールレバーおよびPACレバーを備えています。

マイコン装備機については「マイコン装備機の取扱い」の項(51ページ)を参照して操作します。



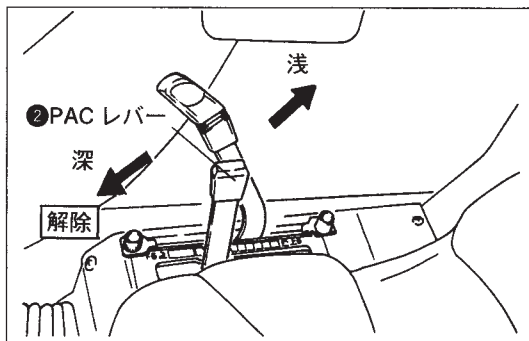
#### ① ポジションコントロールレバー

ポジションコントロールレバーは作業機の位置が自由に決められ一定に保たれます。ポジションコントロールレバーを使用する場合は次のように操作します。

- ポジションコントロールレバーを前方に押せば作業機は自重で下がります。
- ポジションコントロールレバーを任意の位置にすると、作業機はそのレバー位置に対応した高さまで上下した所で止まります。

- 作業機を一定の高さに保ちたい場合は、「ストップ」を任意の位置に固定しポジションコントロールレバーの位置を決めることにより、作業機の上げ・下げの位置は同じになります。

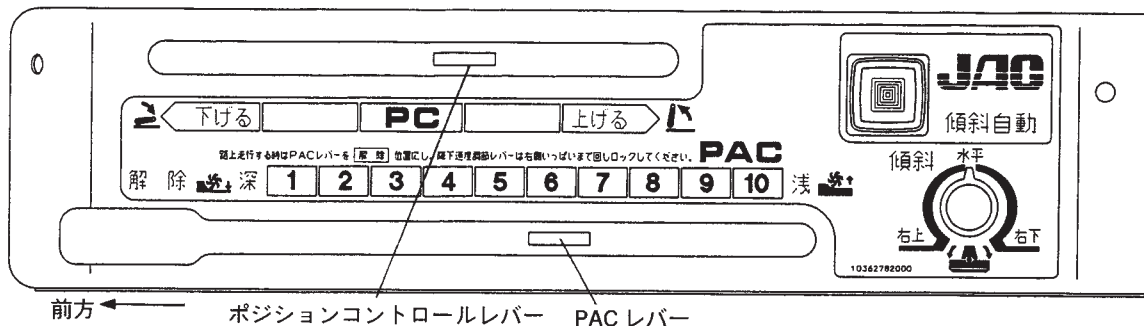
### ② PACレバー (耕深自動調節)



PACレバーは、ロータリ耕うん作業において耕深を自動調節します。

ロータリの耕深をレベラで検知して、自動的に油圧を作動させ、耕深を一定に保持します。PACレバーを使用する場合は、次のように操作します。

- ポジションコントロールレバーを《下げ》位置にします。ロータリは自重で下がります。
- PACレバーを操作して任意の位置にセットすると、ロータリの耕深を一定に保つことができます。PACレバーを前方にするほど耕深は《深》く、後方にするほど《浅》くなります。



- ポジションコントロールレバーでロータリを上げ・下げをします。ポジションコントロールレバーを下げて耕うんすると、PACレバーでセットしている耕深が維持できます。

### 取扱いのポイント

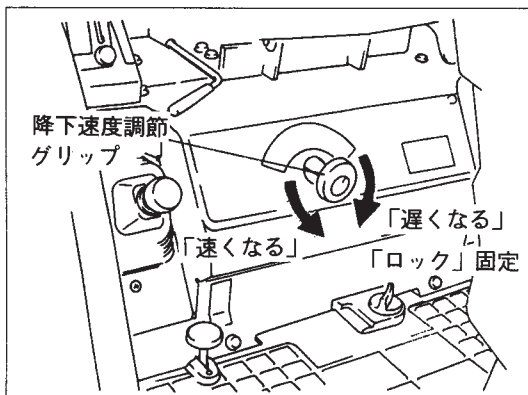
- ロータリのフラップカバー位置が《代かき》状態のときは、PACレバーは《浅》方向にして作業してください。
- ほ場移動するときはロータリを上げてPACレバーを《解除》位置にしてください。

## 2 作業機降下速度の調節



### 安全のポイント

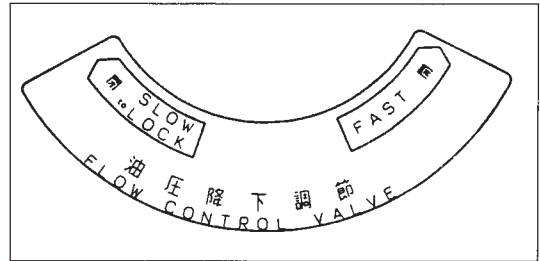
- ◆作業機を上げて、整備・点検・掃除を行う時は、エンジンを停止し降下速度調節グリップを《閉》にして、油圧をロックしてください。ポジションコントロールレバーを《下る》の方向に動かして、作業機が落下しないか確認してください。さらに作業機の下に「固定脚」を入れてください。
- ◆道路走行時は降下速度調節グリップを《閉》位置にしてください。



- 降下速度調節グリップはシートの下にあります。
- 降下速度調節グリップを回すことにより調

節できます。

降下速度調節グリップ	降下速度
右に回す《閉》	遅くなる
左に回す《開》	速くなる
右に軽く締込む	ロックされる



- 作業機の種類、作業状況によって降下速度を調節してください。
  - ロータリ作業…降下速度を遅く
  - プラウ作業……降下速度を速く
- 硬いほ場でのロータリ作業では、普通の場合より降下速度を遅くすると飛び出しにくくなります。
- 軟らかい土質又は砂地では降下速度調節グリップを《開》の方向にして飛び出ししない程度、速くします。

### ③ フロントローダの取扱い (オプション)

#### ① フロントローダ



安全のポイント

◆フロントローダ使用の場合は、ダイヤクイックターン、オートブレーキターンは使用しないでください。バランスがくずれ横転や傷害事故の恐れがあります。

フロントローダの油圧取出しは、センタケース右側のブロック下側のメクラ栓（3個）を外し、Nポート側（後側）に六角穴付き止めネジをネジ込み、コネクタとホースを取付けます。

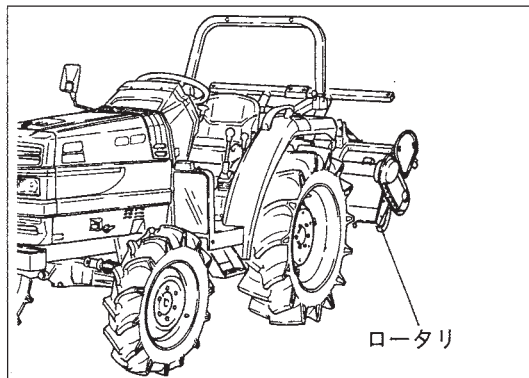
装置、取扱いの際はフロントローダの取扱説明書に従って行います。

#### 取扱いのポイント

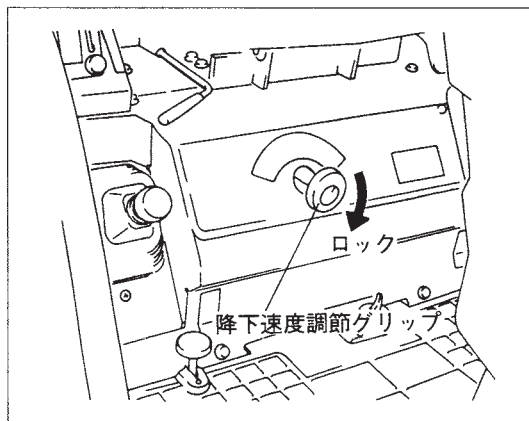
- フロントローダを装着する時は購入先にご相談ください。当社の規格外のフロントローダは使用しないでください。
- フロントローダを使用される場合はトラクタのポジションコントロールレバーをリリース位置にしないでください。  
リリース位置にした場合、フロントローダが作動しなくなり油圧トラブルの原因となります。
- フロントローダ以外で作業機側でコントロールバルブを準備している場合はこの油圧取出口を利用してください。但し、フロントローダとの共着はできません。
- フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を2.5kg/cm<sup>2</sup>にしてください。

#### ② 重量バランスの取り方

フロントローダを取付けたときは、バランスをよくするためロータリを取付けます。



ロータリはいっぱい上げて降下速度調節グリップを《閉》位置にし、油圧をロックしてロータリが下がらないようにします。





## 4 パワーステアリングの取扱い



- ◆下り坂でエンジンを停止しないでください。また、走行中エンジンが停止したときは、すみやかにエンジンを再スタートします。エンジンが停止するとパワーステアリング装置が働かなくなり、ハンドルが重くなり、衝突・転落等の事故になることがあります。
- ◆ハンドルをいっぱいに切ると安全弁が働きリリーフ音が出ます。短時間であればかまいませんが、この音が鳴ったままで運転しないでください。
- ◆長時間、機械を放置したり、油温の冷えた状態でエンジンをかけないで他車にけん引してもらう場合はまえもって手動操舵ができることを確認してからけん引してもらってください。他車にけん引してもらう場合は速度を5 km/h以下としてください。
- ◆シリンダ部のホースは「2年ごと」に交換してください。

このトラクタは、全油圧形パワーステアリングが装備されています。従来形のパワーステアリングに比較し、操作感覚が少し異なりますので、以下の内容を理解してから運転します。

- ① ハンドルから前車軸までの間にリンク機構がありませんので、いっぱいに切った後でも、力を加えることにより更にハンドルは回ります。ハンドルは軽い力でも切れるため、必要以上に力を加えてハンドルを切らないようにします。(リリーフ圧力以上の過大出力で装置の寿命を縮める原因となります。)
- ② ハンドルを切ったときのみ車輪が切れますので、旋回から直進に移るときも、ハンドルを回して直進に戻します。

- ③ 高速走行時は、ハンドルが軽く感じますので、急にハンドルを切らないようにします。
- ④ エンジンが停止するとハンドルが非常に重くなります。

他車にけん引してもらう場合は速度を5 km/h以下で行います。

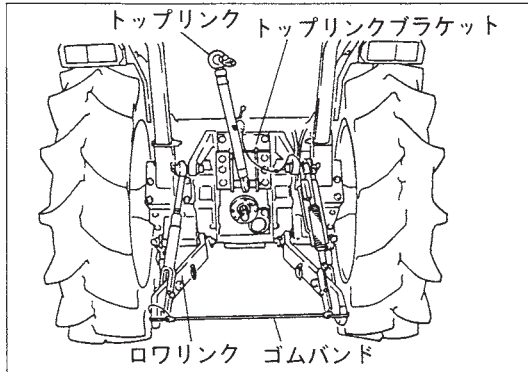
### 取扱いのポイント

- フロントローダ作業ですえ切りができないときには荷を軽くするか、前後に動く操舵できます。
- 寒冷地等で始動時異音が発生し、使用しているうちに止まるのは油がかたいためです。暖機運転をしてから走行してください。
- 操舵時、油圧系から異音が発生する場合、油圧回路に空気が入っていることがあります。5秒程度左右一杯にハンドルを切ったままにすると空気が抜けますので、異音はしなくなります。それでも音が止まらないときは「お買いあげ先」にご相談ください。

## 5 3点リンクの取扱い

### 1 トップリンクの取付け (オプション)

トップリンクブラケットにトップリンクのボール幅が広い方を取付けます。



### 2 作業機を取付けないときの注意

- ① トップリンクを外します。
- ② 左右のロワリンクをゴムバンドでつなぎ振れ止めをします。

### 3 ドローバ (オプション)

#### 安全のポイント

- ◆けん引作業をするときは、純正ドローバを使用し、ドローバ以外で引っ張らないでください。トップリンクブラケットなど車軸より高い位置でけん引すると転倒することがあります。
- ◆ドローバは、横方向へは引かないようにしてください。横方向では、ドローバが外れたり、フレームが曲がる恐れがあります。
- ◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は輪距を広くして使用してください。(47ページ参照) 最小輪距では、左右のバランスが不安定になり転倒することがあります。

- ・けん引はこのトラクタに合った作業機を使用します。不明な点がありましたらお買いあげ先に相談し、無理なけん引は避けます。
- ・けん引作業をする場合は、ドローバを利用します。他の所を利用してけん引すると転倒することがあります。  
(装着の際はドローバの取扱説明書に従って行います。)

#### 取扱いのポイント

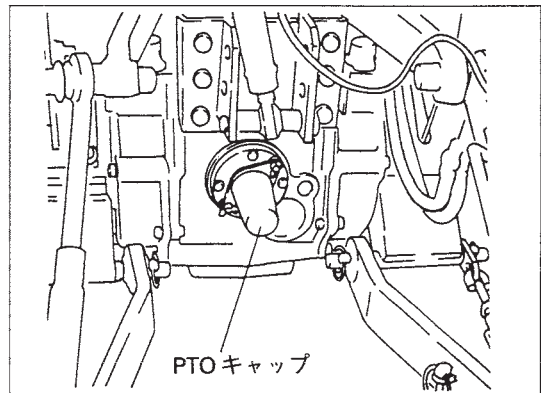
- けん引作業では超低速を使用しないでください。

### 4 PTO キャップ

#### 安全のポイント

- ◆PTO 軸を使用しない時は、PTO キャップを取付けてください。PTO キャップを取付けずに作業をすると巻込まれによる傷害事故を引起こす恐れがあります。

PTO を使わないときは、PTO 軸にグリスを塗布し、PTO キャップを取付けておきます。



### 5 ロータリの取付け

ロータリの取付けは「ロータリ取扱説明書」をよく読んでから行います。

# 上手な運転のしかた

## 1 運転まえの点検と準備



安全のポイント

- ◆点検や給油・給水・注油するときには、機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してから行なってください。
- ◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は燃料補給をしないでください。
- ◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
- ◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- ◆ラジエータキャップの取外しは、エンジンが冷えてから行なってください。

### 1 運転まえの点検

- ・点検は「定期点検整備表」(85～86ページ)を参考に作業前に欠かさず行なってください。
- ・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「お買いあげ先」に相談し点検を受けてください。

点 検 個 所		処 置
運 転 ま え に	エンジンオイル (エンジン クランクケース)	・レベルゲージの上下限線の間に油量があれば良い。 ・油面がレベルゲージの上下限線間になるまで補給する。(29～31ページ参照)
	冷 却 水 (ラジエータ)	・補給タンクに適量あるか。 (給水レベルの上限と下限の間にあること) ・不足していれば冷却水を補助タンクに適量補給する。(29～32, 89～90ページ参照)
	ラジエータスクリーン ラジエータフィン	・スクリーンを抜き取り掃除してください。 ・圧縮空気で掃除してください。(91ページ参照)
	エアクリーナ	・エアクリーナエレメントの汚れ目詰りはないか。 ・エレメントを取外し掃除してください。(91ページ参照)
	タ イ ヤ	・空気圧は適正か。 ・前輪1.5kgf/cm <sup>2</sup> 後輪1.0kgf/cm <sup>2</sup> (94ページ参照)
	燃 料 ホ ー ス	・燃料ホースの損傷、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料もれがないか。 ・もれている場合、燃料ホースの交換。(94ページ参照)
ス タ ー タ ス イ ッ チ を O N に し て	燃 料 計	・作業に必要な燃料があるか。 ・ディーゼル軽油を補給する。 (31ページ参照)
	ホ ー ン	・ホーンボタンを押せば鳴るか。 ・ヒューズ切れ、配線の外れを調べ処置する。(21～22ページ参照)
	方向指示灯等の保安部品	・正常に作動するか。 ・球切れ、ヒューズ切れ、配線の外れを調べ、処置する。(21～22ページ参照)

点 検 個 所		処 置
エンジンを開始して	インジケータランプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジンオイルを補給する。</li> <li>・充電する。</li> <li>・異常個所を調べ、処置する。(7～8, 34～35ページ参照)</li> </ul>
	回転計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常に作動するか。</li> <li>・異常個所を調べ、処置する。(7ページ参照)</li> </ul>
	ステアリング及び各レバー類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドルを回し正常に作動するか。</li> <li>・各レバーを操作し正常に作動するか。</li> <li>・異常個所を調べ、処置する。(26, 94ページ参照)</li> <li>(11～13 // )</li> </ul>
	ブレーキペダルクラッチペダル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低速で走行してペダル操作時に正常に作動するか。</li> <li>・異常個所を調べ、処置する。(14, 99～100ページ参照)</li> </ul>

## 2 給油・給脂・給水個所

・工場から出荷のときは、各給油・給脂個所ともオイル・グリスは入っていますが、使用前に点検します。

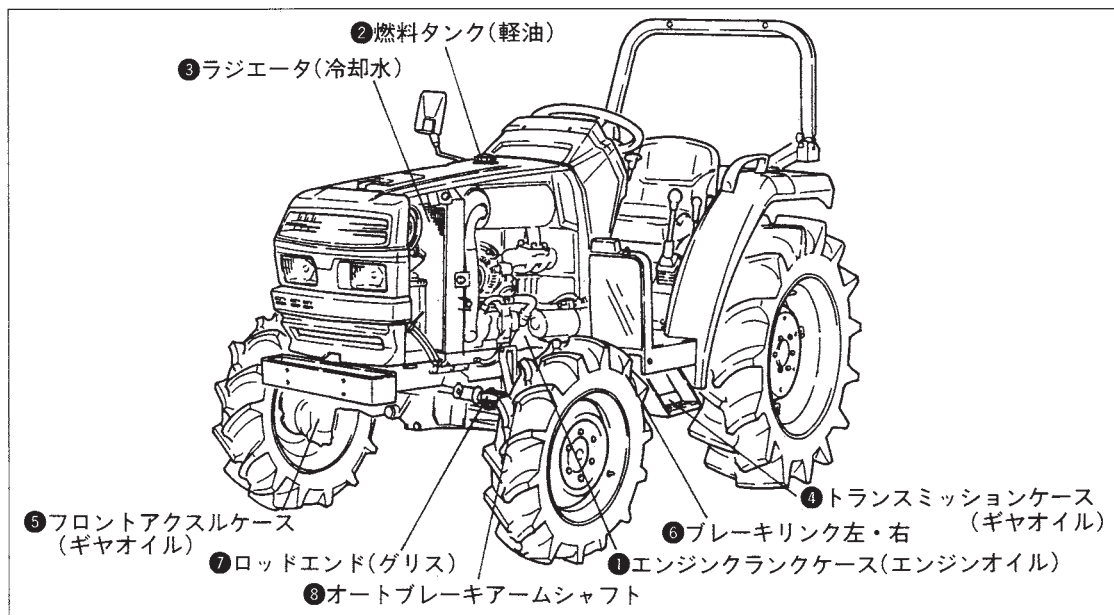


安全のポイント

- ◆エンジン停止直後のエンジンオイル交換はエンジンやオイルが熱くヤケドする恐れがありますので冷えてから行なってください。
- ◆エンジンオイル等の油脂類及び不凍液を交換して廃却するときは、廃却設備のある所で廃却処理してください。

### 取扱いのポイント

- 各給油個所には、指定オイルを規定量給油してください。



### ③ 給油・給脂・給水表

No.	個 所	種 類	分 類		容 量 (ℓ)	交 換 時 間
			APIサー ビス分類	SAE 粘度番号		
①	エ ン ジ ン クランクケース	エ ン ジ ン オ イ ル	CC級以上	10W-30	4.5	作業前点検・100時間ごと 交換（新車時50時間で交換）
②	燃 料 タ ン ク	軽 油	—	—	28	作業前点検（必要量補給）
③	ラ ジ エ ー タ	冷 却 水 (不凍液40～45%含む)	—	—	6.4	" ( " )
					336型 336H型 7.1	
④	トランスミッション ケ ー ス	ギヤオイル (マルチSTOU)	GL-4	80W (10W-30)	41	初回100時間、後は200時間 ごと交換
⑤	フロントアクスル ケ ー ス	ギヤオイル	GL-4	80W	3.0	"
⑥	ブレーキリンク (左・右)	グ リ ス	—	—	適 量	作業前点検・50時間ごと給 脂
⑦	ロ ッ ド エ ン ド …4 個所	"	—	—	"	"
⑧	オートブレーキ アームシャフト	"	—	—	"	"

●エンジンオイル……純正油またはディーゼルエンジンオイルAPI分類CC級以上,  
SAE・10W-30

●燃 料……ディーゼル軽油 JIS 2号（-10℃まで）  
JIS 3号（-10℃から-20℃まで）  
JIS特3号（-20℃以下）

●ギヤオイル……純正油またはAPI分類GL-4級以上、SAE・80W

※使用オイルの詳細は潤滑油の項（125ページ）を参照して使用します。

#### 取扱いのポイント

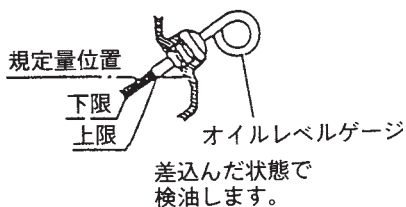
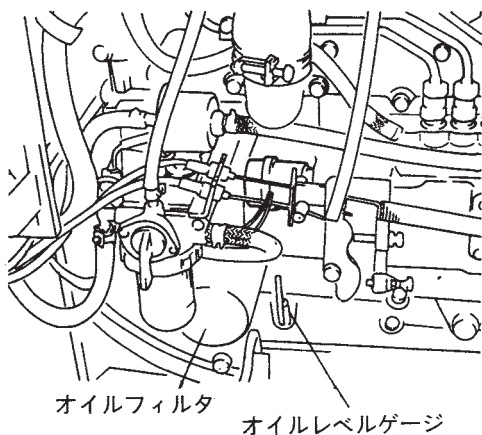
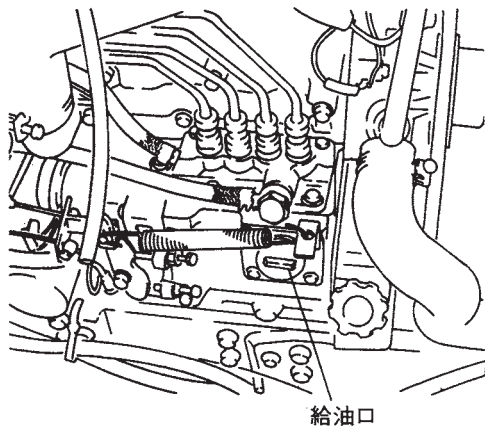
●パルシフト装備機のトランスミッションオイルは、マルチ<sup>スト</sup>STOUオイルをお使いください。

## ① エンジンクランクケース



- オイル……ディーゼルエンジン用オイル、  
CC級以上
- オイル量……4.5ℓ

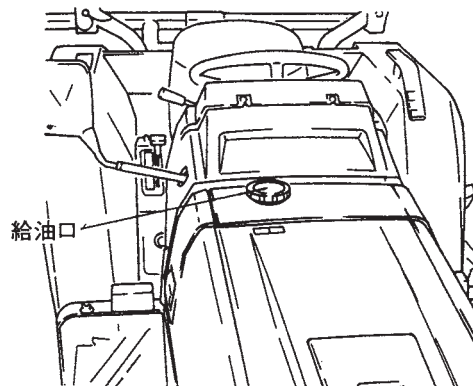
オイルレベルゲージの刻み  
線まで給油します。



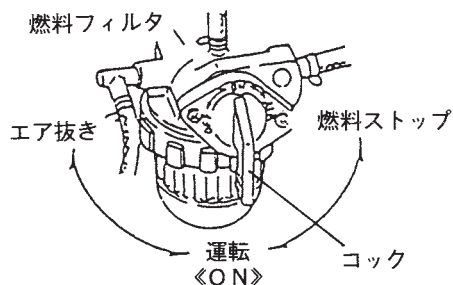
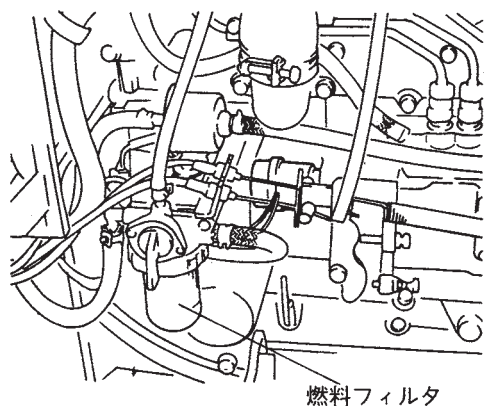
## ② 燃料タンク



- 燃料……ディーゼル軽油
- タンク容量……28ℓ



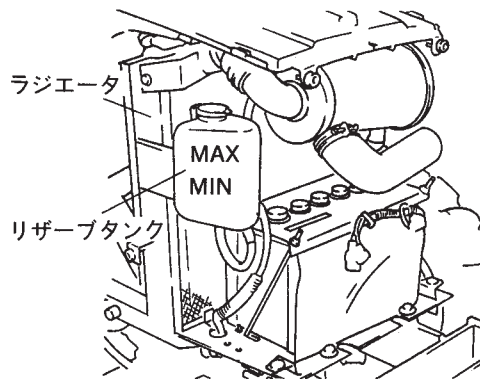
- 燃料の供給はこし網を使用し、ゴミや水  
が混入しないようにします。
- 燃料フィルタのコックを《ON》にしま  
す。



## ③ ラジエータ



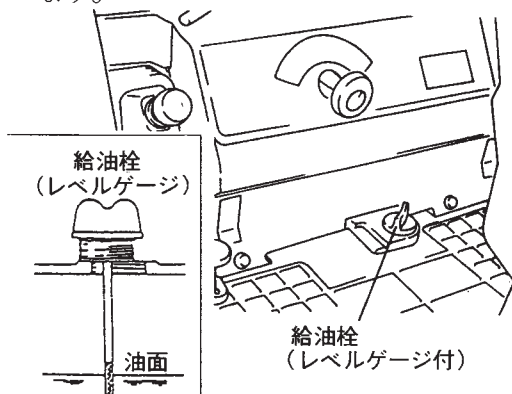
- 冷却水（不凍液40～45%含む）
- 容量……6.4ℓ
- リザーブタンクの《MAX》（上限）、《MIN》（下限）の間まで冷却水を給水します。



## ④ トランスミッションケース



- ギヤオイル……API, GL-4級以上で湿式ブレーキ適正オイル。
- オイル量……41ℓ
- 給油栓のレベルゲージ刻目線まで給油します。

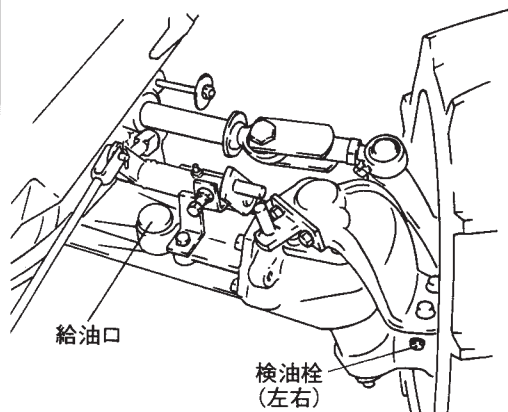


- 給油はゆっくり行います。
- 検油は給油後約5分間放置したのち行います。
- 検油は、給油栓を給油口にあてた状態で行います。

## ⑤ フロントアクスルケース

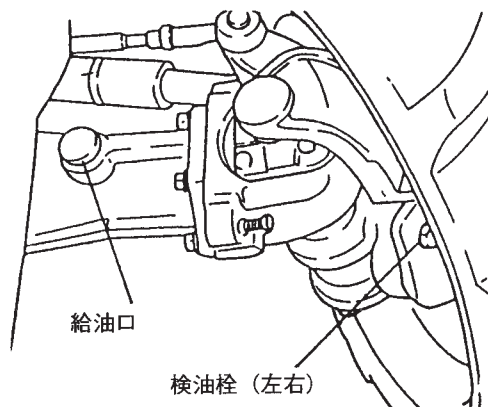


- ギヤオイル……API, GL-4級  
SAE80W
- オイル量……3.0ℓ
- 左右の検油栓を外し、オイルを給油します。オイルが出たら栓を締めます。



## [246G型]

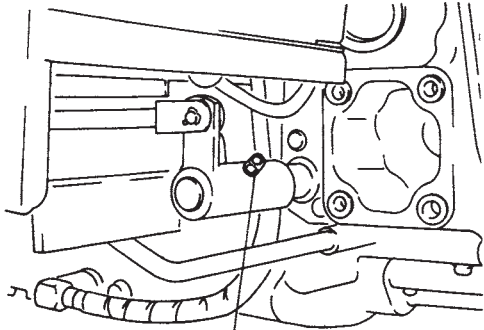
- ギヤオイル……API, GL-3級  
SAE 80W
- オイル量……3.0ℓ
- 左右の検油栓を外し、オイルを給油します。オイルが出たら栓を締めます。



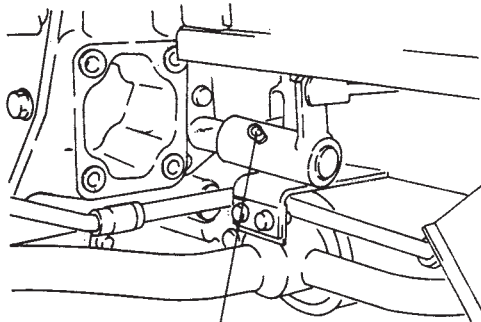
## 6 ブレーキリンク



- ・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。



グリスニップル  
(ブレーキリンク右)

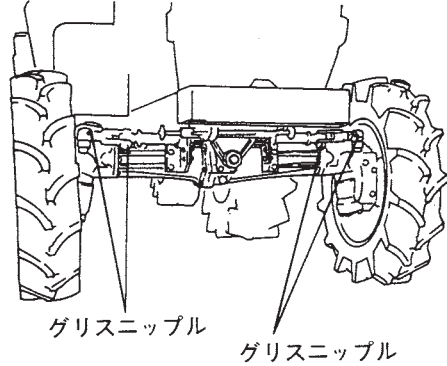


グリスニップル  
(ブレーキリンク左)

## 7 ロッドエンド

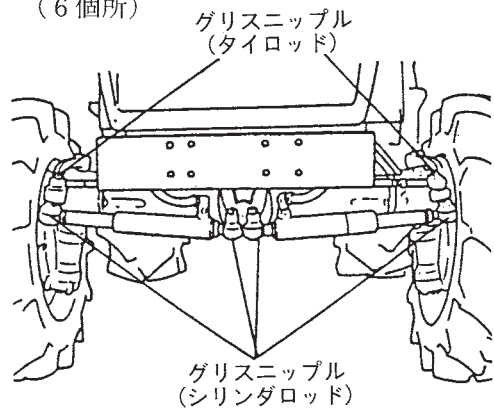


- ・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。(4 個所)

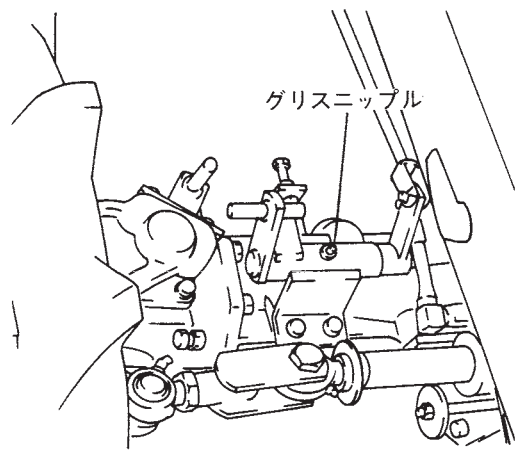


### [246G 型]

- ・グリスニップルより適量給脂。  
(6 個所)



## 8 オートブレーキアームシャフト





## 2 運転操作のしかた

- 本機や作業機の周囲から人を遠ざけます。
- 点検などで取外したすべてのカバーをセットして安全フレームをおこします。
- ステップの左側から乗降します。
- シートに座り、シートベルトをします。

### 1 エンジンの始動

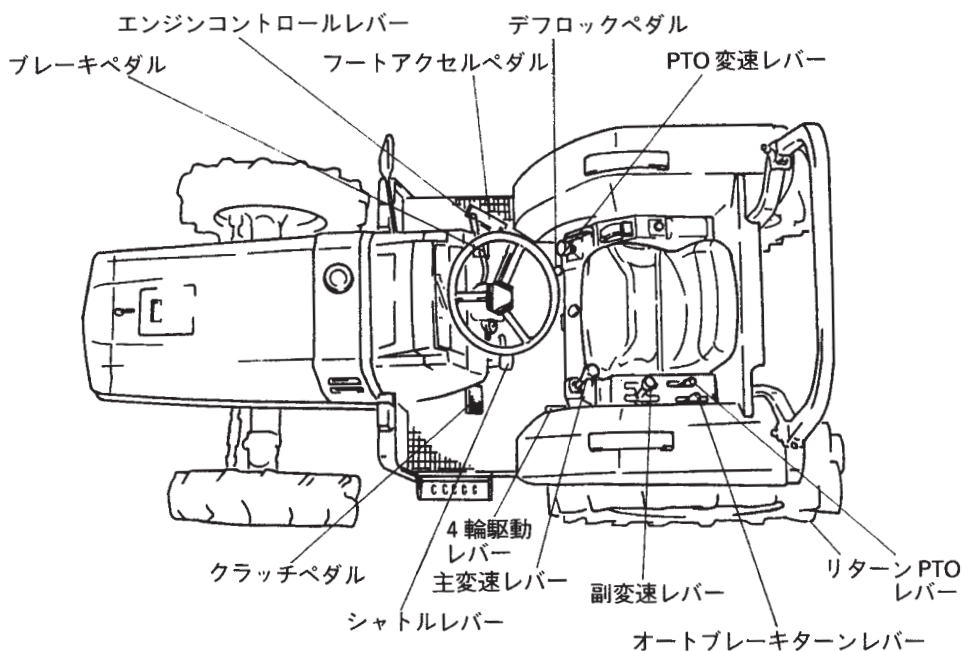



#### 安全のポイント

- ◆点検などで取外したカバー類は全て取付けてください。カバーがないと衣服が巻込まれたりしてけがをすることがあります。
- ◆トラクタに乗車する前に、トラクタの外周を見て回り、異常がないことを確認してください。
- ◆主変速、PTO 変速レバーを中立にし、駐車ブレーキをかけてから、エンジンを始動してください。

- ◆エンジンの始動、発進するときは、周囲の人に気づくをトラクタや作業機のまわりから人を遠ざけてください。
- ◆エンジンの始動はシートに座ってから行なってください。
- ◆トラクタや作業機に他の人や物を乗せないでください。
- ◆暖機運転は主変速、PTO 変速レバーを中立にし、駐車ブレーキをかけてから行なってください。

- 1 左右のブレーキペダルを連結し駐車ブレーキをかけておきます。
- 2 主変速レバー、PTO 変速レバーを中立にします。
- 3 エンジンコントロールレバーを手前にいっぱいに引きます。
- 4 クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。
- 5 スタータスイッチを《ON 00》にするとエンジンオイルランプ、チャージランプ、グローインジケータランプが点灯します。



⑥ グローインジケータランプが消灯してから、スタータスイッチを《  START 》位置にします。

⑦ 始動したら、ただちにスタータスイッチより手を離します。キーは自動的に《 ON/OFF 》の位置に戻ります。

⑧ エンジンオイルランプ、チャージランプが消えれば正常です。消えないときは、すぐエンジンを停止して点検します。

⑨ エンジン回転を約1500回転にして暖機運転します。(約5分間)




#### ⑩ 寒冷時の始動

- 下表のエンジンオイル，燃料を使用してエンジンを始動し易くします。

(エンジンオイル，冷却水を一度別の容器で暖めれば始動が容易になります。)

気温(℃)	-20	-10	0	10	20
エンジン オイル	SAE10W-30		SAE20		SAE 30
燃料 (軽油)	JIS 特3号	JIS 3号	JIS 2号		

### 取扱いのポイント

- 走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないと、エンジンは始動しません。
- エンジンが暖まっているとき，および気温の高いとき(夏期)は《  》(停止)から直接スタータスイッチをまわしてエンジンを始動してください。
- スタータはエンジンが少しでも回転しているときは，使用しないでください。故障の原因となります。
- 始動操作を繰返した場合，グローインジケータランプは点灯しません。またエンジン停止後，すぐにエンジンを再始動する場合にも点灯しないか，点灯時間が短いことがあります。保護回路が作動するため，故障ではありません。

- 暖機運転は，寒冷時に限らず行なってください。エンジンが暖まらないうちに走行すると，エンジンの寿命を短くします。

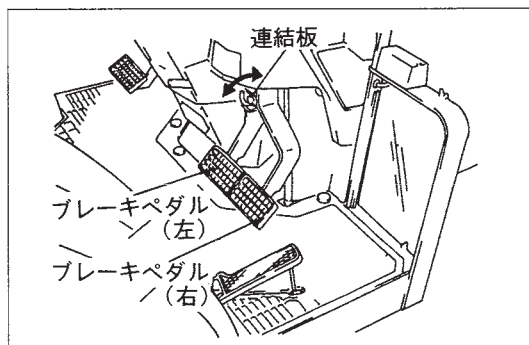
#### 【パルシフト装備機】

- パルシフト装備機は，油圧で変速していますので暖機運転を十分行なってください。
- 暖機運転中は駐車ブレーキをかけ，エンジン回転をアイドルリングから《中速》回転にします。
- 主変速レバーを《中立》位置にし，シャトルレバーを《前進》または《後進》位置にし，油温が20℃以上になるまで暖機運転を行います。
- 暖機運転を行う時間がないときは，クラッチペダルを踏んで変速を行なってください。
- 寒い時には，発進が遅れたり，ギヤ鳴りがすることがありますが，油温が上がると正常に動き出します。

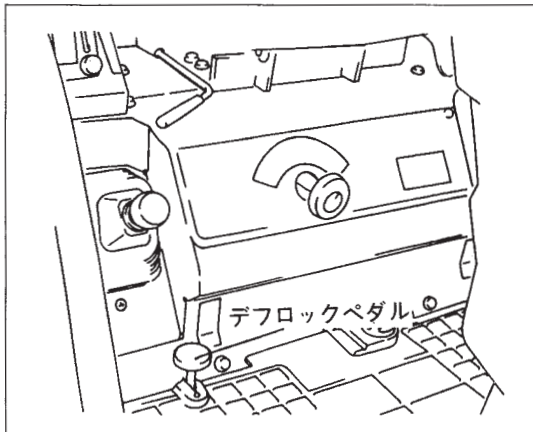
## 2 発進のしかた



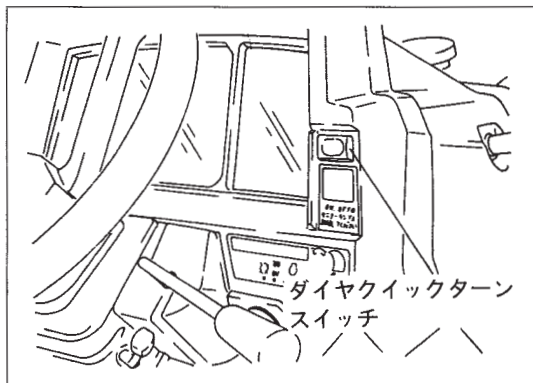
- ◆ 発進するときはクラッチペダルはゆっくり離してください。急に離すと急発進して事故の原因になります。
- ◆ 左右のブレーキペダルは連結してください。



- ◆デロックが外れていることを確認してください。



- ◆ダイヤクイックターンスイッチを切って走行してください。

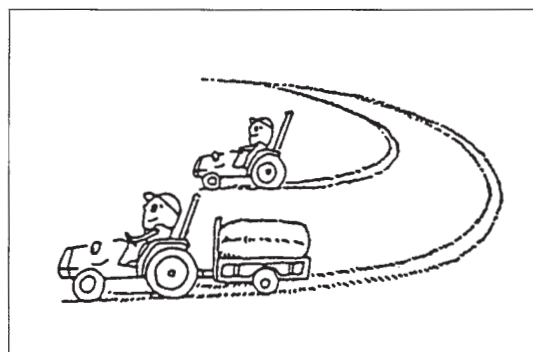


- ◆オートブレーキターンレバーを「切」にしてください。

- ◆走行中はクラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。

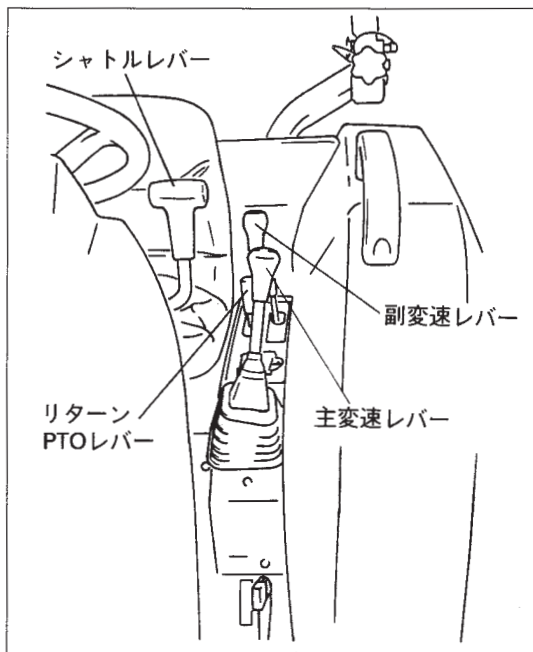
- ◆作業機を装着しているときは、周囲を確認し、ゆっくりと旋回してください。

- ◆高速で急旋回しないでください。エンジン回転を下げ、ゆっくりと旋回してください。



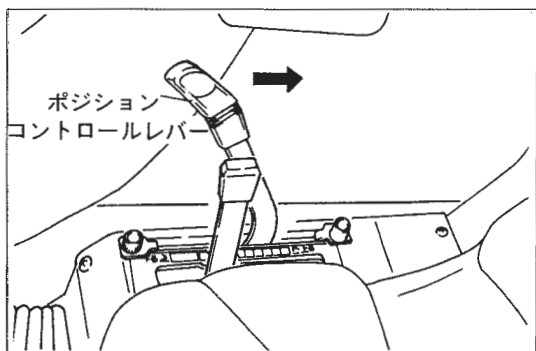
- ◆下り坂ではエンジブレーキを使用してください。

主変速、副変速レバー、シャトルレバーを《N》(中立) にしないでください。



### 【標準機】

- ① ポジションコントロールレバーを後方に引き、作業機を持上げます。



- ② エンジン回転を約1500回転位にします。

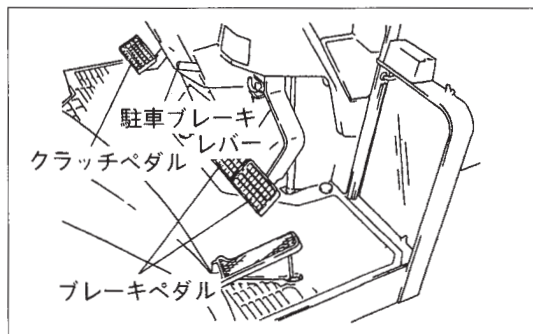


- ③ クラッチペダルを、いっぱい踏込みます。

- ④ 主変速レバー・副変速レバー・シャトルレバーを所要変速位置に入れます。

### 取扱いのポイント

- 変速はクラッチペダルをいっぱい踏込んで、行なってください。
  - 変速が入り難い場合は、無理な操作をせず、もう一度クラッチペダルを踏み直してから変速操作を行なってください。
- ⑤ ブレーキペダルを強く踏込み、駐車ブレーキを外します。



- ⑥ クラッチペダルをゆっくり離して発進します。

### [パルシフト装備機]



#### 安全のポイント

- ◆ 急な坂道、車への積込み・降ろし作業、ほ場への出入り、あぜの乗り越えなどでは途中で変速すると変速が入らず、暴走することがありますので、あらかじめ低速度位置に変速しておいてください。
- ◆ パルシフト装備機は油圧クラッチを使用しているため、エンジンを止めるとエンジンブレーキはききません。トラクタから離れるときは、駐車ブレーキをかけてください。坂道では変速を入れていても駐車ブレーキ

をかけないと、トラクタが動きだし傷害事故を起こすことがあります。

- ◆ トラックで輸送する時は駐車ブレーキをかけロープで固定してください。

前項〔標準機〕の①～③項までの取扱い操作手順は〔パルシフト装備機〕も同じです。

- ① 超低速レバーを所要の変速位置に入れます。
- ② クラッチペダルをゆっくり離します。
- ③ ブレーキペダルを強く踏込み、駐車ブレーキを外します。
- ④ シャトルレバーを《前進》または《後進》にします。
- ⑤ 主変速レバーを《1速》に入れるとトラクタが動き始めます。
- ⑥ 主変速レバーを1段ずつ変速して、希望する位置まで変速します。

### 取扱いのポイント

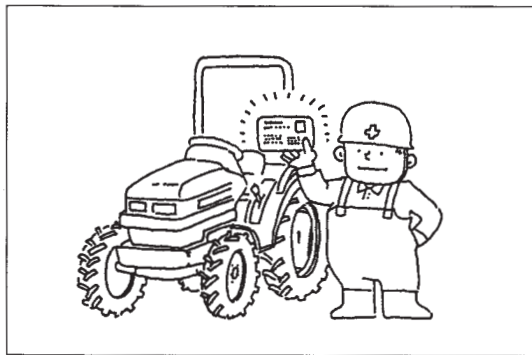
- 主変速レバー・シャトルレバーはノークラッチ操作で変速することができますが、シャトルレバー操作は、いったん《中立》位置にして走行が停止してから操作してください。
- 一度に2段以上の急激なノークラッチ変速は避けてください。
- 緊急停止や、作業機の脱着時など微妙な走行が必要な時はクラッチペダルを使用してください。

### ③ 走行のしかた



安全のポイント

- ◆公道を走行するときは、運転免許証を携帯し、交通法規を守り、安全のためヘルメットを着用してください。



- ◆運転者の他に人や者を乗せないでください。
- ◆道路を走行するときは、左右のブレーキペダルを連結してください。左右のブレーキペダルを連結しておかないとブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

- ◆デフロックの解除を確認してください。
- ◆道路走行時には標準機はPACレバーを《解除》位置にしマイコン装備機はマイコン自動切替を《OFF》位置にして走行してください。

また、降下速度調節レバーを固定にして作業機の落下を防止してください。

- ◆ダイヤクイックターンスイッチを「OFF」にしてください。オートブレーキターン装備機はオートブレーキターンレバーを《切》にしてください。ダイヤクイックターン・オートブレーキターンが《入》では車体が急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

- ◆安全フレームは、おこした位置で、シートベルトを締めて走行してください。

- ◆安全のため、急激な変速は避けてください。変速は1段ずつ行なってください。

- ◆発進・旋回、傾斜地、荒地では低速にし、急傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。

- ◆走行中は、クラッチペダルに足を置いたり主変速レバーに手を置いたままにしないでください。

- ◆ロータリなど作業機を装着すると、トラクタの前部が軽くなって、ハンドル操作しても思うように操作できないことがあります。バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。

- ◆軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。

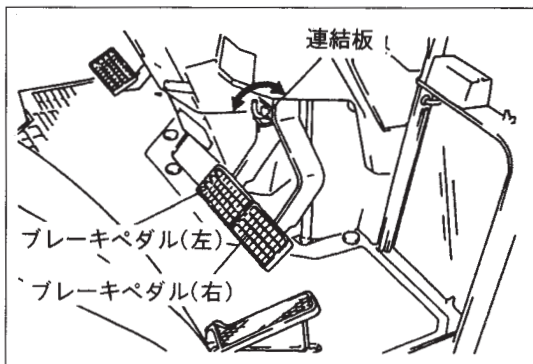
- ◆狭い農道や傾斜地では路肩に寄りすぎないで低速で走行してください。

- ◆急な登り傾斜では、後進で走行してください。

- ◆公道走行時は、作業機を装着しないでください。

- ◆公道走行時は、補助車輪はつけないでください。

- PTO変速レバーを《N》(中立)位置にして、左右のブレーキペダルを連結します。



- デフロックが外れていることを確認します。

- 油圧降下速度調節レバーを固定にして作

業機の落下を防止します。

④ 標準機 [PAC仕様] [JAC仕様] のPACレバーは《解除》位置にします。

マイコン装備機は傾斜自動切替スイッチ、耕深自動切替スイッチを《OFF》にします。

⑤ ダイヤクイックターンスイッチを「切り」ます。パネル内のインジケータランプが消えていることを確認します。

⑥ オートブレーキターンレバーを《切》にします。パネル内のインジケータランプが消えていることを確認します。

⑦ 走行スピードはフットアクセルペダルで調整します。

⑧ 進路変更するときは、方向指示灯スイッチによって進行方向を他の車に知らせます。

⑨ バックミラーで後続車を確認し、追越しの妨害にならないようにしてください。

⑩ 夜間走行時、対向車とすれ違うときは、前照灯を下向きにし、対向車の妨害にならないようにします。

⑪ 狭い農道や傾斜地では路肩に寄りすぎないでスピードを落として走行します。

⑫ 軟弱な路肩、草の生い茂っている所は、走行しない。

⑬ 公道を走行する時は、作業機を装着しない。

⑭ 公道では低速車線を走行します。

## 4 停止のしかた

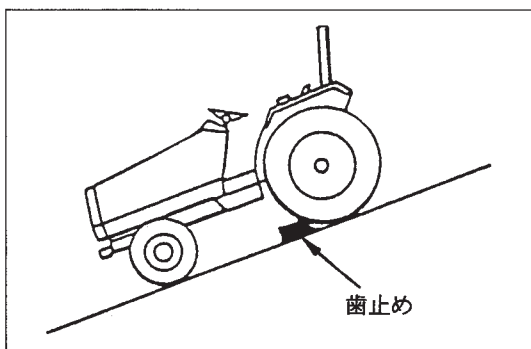


◆駐車する場合は平坦な場所を選んでください。

◆駐車・停車時には駐車ブレーキをかけてください。

◆傾斜地では駐車しないでください。やむをえず駐車する時は、駐車ブレーキをかけ、変速レバーを低速に入ると共に後輪に歯止めをしてください。

「パルシフト装備機」はエンジンを止めると、変速を入れていてもエンジンブレーキはききませんので、駐車ブレーキを確実にかけ、後輪に歯止めをしてください。




◆トラクタを停止するときは、乾いた草やワラの近くに止めないでください。マフラ排気口に草やワラが触れると、火災の恐れがあります。

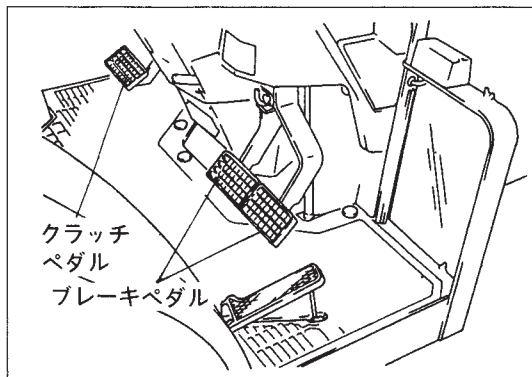
◆停車時、エンジンを空吹かししたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火する恐れがあります。

◆シートカバーは、エンジンが冷えてから掛けてください。エンジンが熱いうちに掛けると「火災」の原因になります。

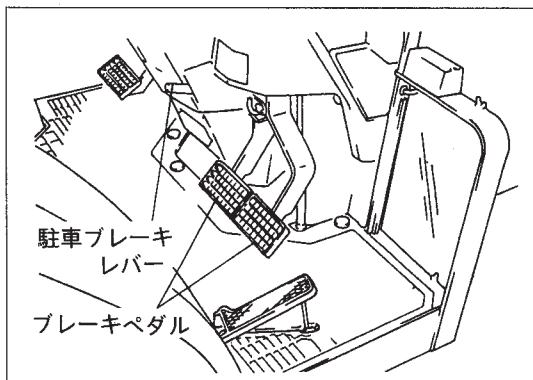
◆トラクタを離れる場合は、キーを抜取ってください。


① エンジンコントロールレバーを  前方に押して、エンジンを低速回転にします。

② クラッチペダルとブレーキペダルを同時に踏んで停止します。



- ③ 左右のブレーキペダルが連結してあることを確認し、駐車ブレーキレバーを手前に引きながらブレーキペダルを踏込み、駐車ブレーキをかけます。ブレーキペダルより足を離します。



- ④ 主変速レバー、シャトルレバーおよびPTO変速レバーを《N》(中立)にしてから、クラッチペダルより足を離します。
- ⑤ 作業機をおろします。
- ⑥ スタータスイッチを《》(停止)にします。

### 取扱いのポイント

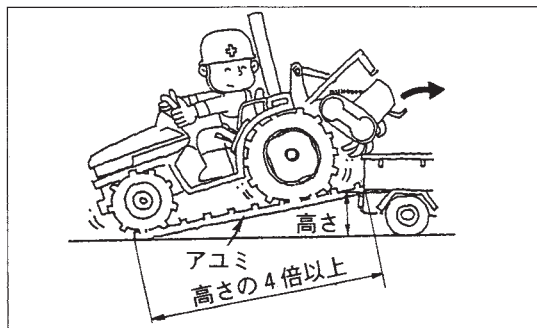
- 作業が終わってもエンジンをすぐ停止させず、アイドリング回転で5分間ほど回転させてください。すぐ停止させますと、エンジンの冷却が悪くなり、寿命を縮めます。

## ⑤ 自動車への積込み・積降ろし



- ◆アユミは、強度、幅（前後輪が外れない幅）、長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め、フック付きのものを使用してください。
- ◆トラクタの重量で、アユミが傾いたりしない平坦な場所を選んで、補助者立会誘導のもとに行なってください。また、トラクタの周囲に人を近づけないでください。
- ◆アユミのフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように荷台と平行に掛けてください。
- ◆アユミの上でのクラッチ操作、変速操作をしなくてもいいように、前後輪のタイヤをアユミに、真っ直ぐにのせてください。
- ◆自動車への積込み、積降ろし中は、変速レバー、クラッチペダル、デフロック、片ブレーキは使用しないでください。急に方向転換したり転落する恐れがあります。
- ◆積込みは後進、積降ろしは前進で低速で行い、必要以上のハンドル操作はしないでください。
- ◆ロータリの爪がアユミに引っかからないようにしてください。

- ① 積載重量を超えない自動車でも荷台から作業機がはみ出さない車を使用します。自動車は変速を入れてサイドブレーキをかけます。
- ② アユミは、強度、幅（前後輪が外れない幅）、長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め、フック付きのものを使用し、トラクタの車輪幅に合わせ荷台と平行にかけます。



- ③ 左右のブレーキペダルを連結します。
- ④ デフロックが外れていることを確認します。
- ⑤ PTO変速を中立にしダイヤクイックターン、オートブレーキターンレバー、バックアップ解除スイッチを《切》の位置にします。
- ⑥ トラクタの車輪とアユミを一直線上に合わせ、作業機をいっぱいに上げます。
- ⑦ 変速は低速位置で「4輪駆動」に入れ、積込みは後進、積降ろしは前進で行います。
- ⑧ 途中でエンジンがストップした場合は、すぐブレーキペダルを踏込み、徐々にブレーキをゆるめ、いったん下まで降りてエンジンを再スタートします。
- ⑨ ハンドル操作は脱輪しないように慎重に行います。
- ⑩ 積込み後は、駐車ブレーキをかけて作業機を降ろし、エンジンを切り、変速を低速に入れロープで本機を固定します。

## ⑥ 坂道での運転のしかた

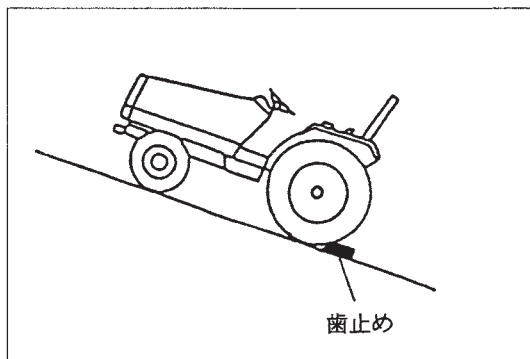
### 安全のポイント

- ◆坂道を走行するとき、左右のブレーキペダルの連結およびデフロックの解除を確認してください。
- ◆下り坂では、エンジンプレーキを使用し、クラッチペダルは踏まないでください。
- ◆下り坂では主変速、副変速、シャトルレバーを《N》(中立)にしたり、クラッチを切っ

たままで走行しないでください。

- ◆坂道では変速しないでください。あらかじめ遅い速度に変速してから走行してください。高速位置で急発進すると前輪がはね上がったり、トラクタがすべり落ちたりして傷害事故を引き起こすことがあります。
- ◆坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、変速を登りでは前進側に、下りでは後進側に入れさらに後輪に歯止めをしてください。「パルシフト装備機」はエンジンを止めると、変速を入れていてもエンジンプレーキはききませんので、駐車ブレーキを確実にかけ、後輪に歯止めをしてください。

- ① 坂道では、速度を落として走行します。
- ② 坂の途中ではクラッチペダルを踏まないようにします。
- ③ 変速は坂を登りきってから、適切な変速位置に入れます。
- ④ 上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくりと発進します。
- ⑤ 急な下り坂ではエンジンプレーキを使用します。変速位置を下げるとエンジンプレーキはよくききます。
- ⑥ 坂道では駐車しない。やむをえず坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキをかけ、変速を登りでは前進側に、下りでは後進側に入れさらに後輪に歯止めをします。





# 上手な作業のしかた

## 1 ほ場作業のしかた

### 1 ほ場への出入りのしかた



安全のポイント

◆ほ場の出入りや、あぜ越えは左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認してください。

◆ほ場の出入りや、あぜ越えはPTO 変速レバーを中立にしてください。

◆ほ場の出入りや、あぜ越えは低速で、あぜに直角に行なってください。

◆高あぜ、急傾斜、溝越えは、アユミを使用してください。

◆アユミの上では必要以上のハンドル操作や変速はしないでください。

◆あぜがくずれないようにゆっくり行なってください。

- ① 左右のブレーキペダルを連結します。
- ② デフロックが外れていることを確認します。
- ③ ダイヤクイックターンスイッチ・オートブレーキターンレバーを切ってランプが消灯していることを確認します。
- ④ 副変速レバーを《低速》の位置にします。
- ⑤ バックアップ機能を《OFF》にします。
- ⑥ 高低差が大きいほ場への出入りは、アユミを利用します。
- ⑦ ほ場への出入りや、あぜ越えは、直角に行います。
- ⑧ ゆるい傾斜を前進で登るときは、登り始めは、作業機を下げて行くと前輪が浮き上がりません。トラクタの後輪があぜに上がると

同時に作業機を上げます。

常に前・後輪のバランスを考えながら、操作します。

⑨ 4輪駆動の特色を生かして、後進で上がると上がる能力が増します。そのときは、作業機をいっぱい上げて行きます。

⑩ ほ場への出入りの際は、途中で変速しないようにします。

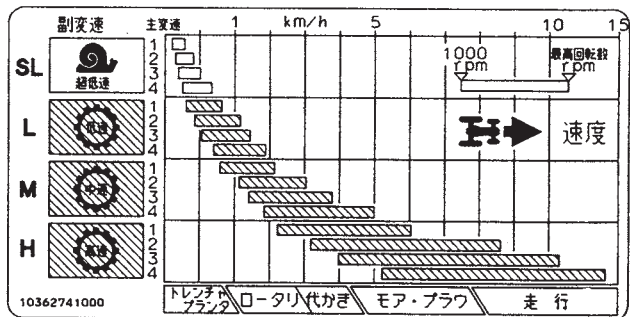
## ② 作業に適した速度の選びかた

トラクタの走行速度およびPTO回転速度は、作業内容、ほ場の条件によって異なります。安全で最適な速度で運転します。

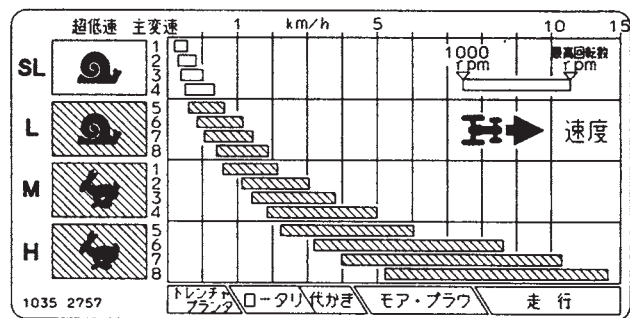
### ① 走行速度

[226・246・266・286・306・336型]

「標準機」

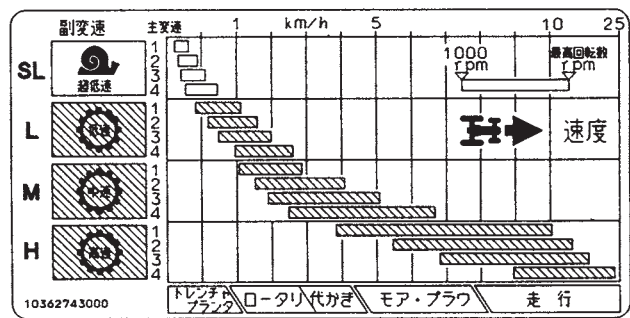


「パルシフト装備機」

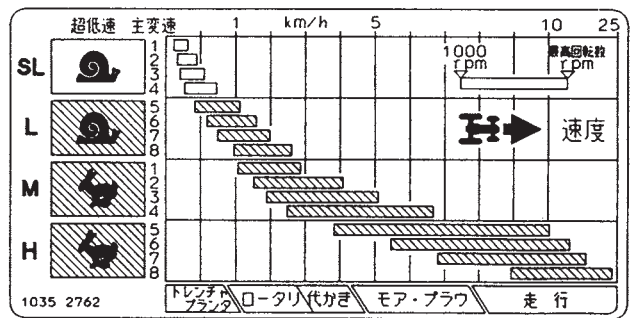


[266H・286H・306H・336H型]

「標準機」



「パルシフト装備機」



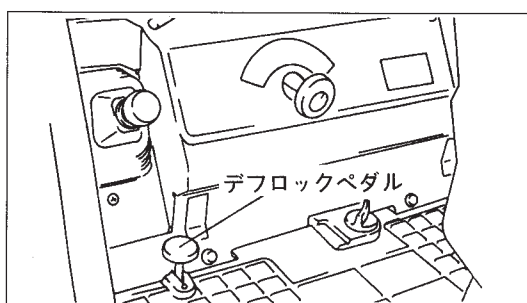
上手な作業のしかた

## ② PTO 回転速度

P T O		作業内容	回転数/分			
			226型 246型	266・266H型 286・286H型	306・306H型	336・336H型
正 転	1 速	ロータリ耕うん・うね立	543	555	581	569
	2 速	ロータリ耕うん・うね立	774	791	828	811
	3 速	代かき・砕土	965	986	1033	1011
	4 速	代かき・砕土	1266	1294	1312	1284
逆 転	1 速	} 逆転耕うん	513	500	523	512
	2 速		731	712	746	730
	3 速	} 土 寄 せ	912	888	930	910
	4 速		砕 土	1197	1165	1181

### 取扱いのポイント

- 逆転は純正ロータリで使用できます。ロータリの取扱説明書をお読みください。
- 純正ロータリ以外で逆転させる場合は「お買いあげ先」にご相談ください。



ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。

湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行しにくいときに使用すると効果があります。

上手に使用すると効果がありますが、使い方を誤ると事故や故障の原因となります。

## ③ デフロックの使いかた



### 安全のポイント

- ◆自動車への積み込み・積降ろしおよび道路走行するときは、デフロックを使用しないでください。またデフロックが外れていることを確認してください。デフロックを使用すると、ハンドルを切っても直進しかできなくなり思うように旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとする、思わぬ事故になることがあります。

片側の車輪がスリップし前後進しない場合はデフロックペダルを踏みます。デフロックペダルを踏むと、差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。

次のような場合に効果がでます。

- ・軟らかいほ場
- ・プラウ作業

### 取扱いのポイント

- デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行なってください。抜けにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
- 両輪の回転差が大きい場合は、一度クラッチを切ってから行なってください。
- 超低速でのデフロックは使用しないでください。

## 4 ほ場での旋回のしかた



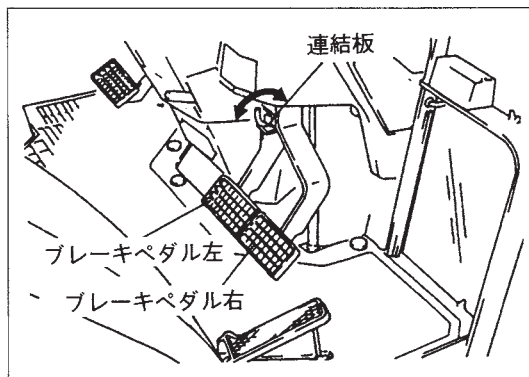
安全のポイント

◆道路走行時は左右のブレーキペダルを連結してください。

◆急傾斜地では作業をしないでください。

急傾斜地で旋回すると、転倒による傷害事故を起こすことがあります。

① ほ場では、ブレーキペダルの連結板を外し、左右独立して使用すれば小さく旋回できます。そのときは旋回する側のブレーキを踏込みます。



② 作業速度やほ場の傾斜の度合を考慮し、周囲を確認して作業をします。

## 5 ダイヤクイックターンの使い方



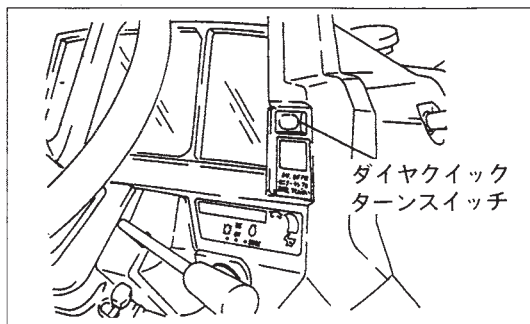
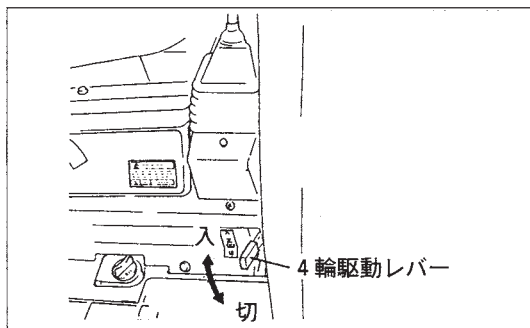
安全のポイント

◆ダイヤクイックターンは、小さく旋回でき、旋回速度も速くなり、作業能率が上がりますが、ほ場作業以外では使用しないでください。使い方を誤ると横転することがあります。

◆ダイヤクイックターンスイッチ《入》では道路走行や傾斜地作業は行わないでください。横転や傷害事故の原因になることがあります。ほ場から出るときは、ダイヤクイックターンを《切》にしてください。

◆ダイヤクイックターンは、フロントローダ作業等、前輪に重荷重のかかる作業に使用しないでください。バランスがくずれ横転や傷害事故の恐れがあります。

4輪駆動レバーを《入》にしダイヤクイックターンスイッチを「ON」にすると小さく素早く旋回できます。



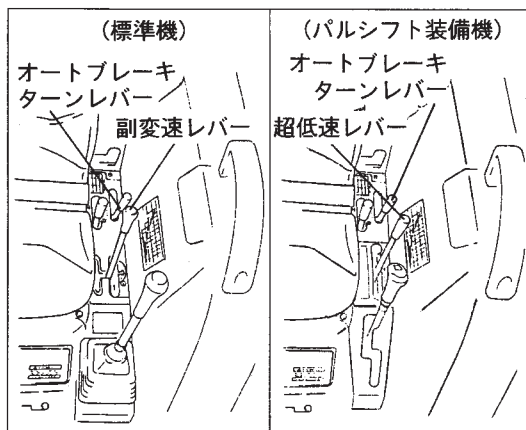
## 6 オートブレーキターの使い方 [オートブレーキター装備機]





### 安全のポイント

- ◆オートブレーキターは旋回時にハンドルを回すとブレーキが自動的にきき旋回が楽に行えますが、ほ場作業以外では使用しないでください。使い方を誤ると横転することがあります。
- ◆オートブレーキターは道路走行・ほ場への出入り・自動車への積降ろし・傾斜地作業・フロントローダ作業で使用しないでください。横転や傷害事故の原因になることがあります。ほ場から出るときは、オートブレーキターを《切》にして左右のブレーキペダルを連結してください。

左右のブレーキペダルの連結板を外し、オートブレーキターレバーを《入》にすると、ハンドルを回した時、旋回内側の後輪に自動的にブレーキがきき、旋回が小さく楽にできます。



### 取扱いのポイント

- 副変速レバーが《高速》に入っている時はオートブレーキターレバーの《入》操作はできません。またオートブレーキター《入》では副変速レバーを《高速》にすることはできません。(標準機) 無理に操作しないでください。
- オートブレーキターレバーは前輪タイヤを直進状態にして操作してください。
- ノークラッチ仕様は超低速レバー《》ではオートブレーキター《入》操作はできません。超低速レバーを《N》にしてオートブレーキターレバーを操作してください。オートブレーキターレバー《入》の時は超低速レバー《》でパルスシフト5～8速の変速操作はできません。

## 2 作業に必要な装置の使いかた

### 1 トレッドの調節のしかた

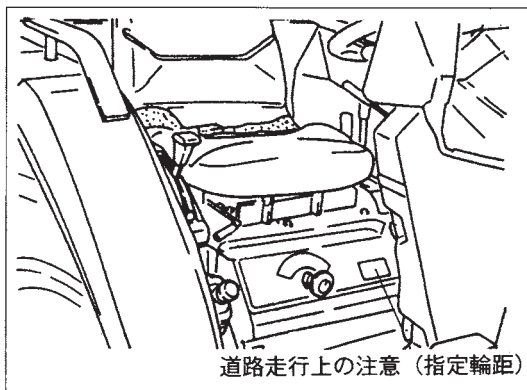


安全のポイント

◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は、  
輪距を広くして使用してください。

最小輪距では、左右のバランスが不安定になります。急ると転倒による傷害事故を起こすことがあります。

◆公道は指定輪距（シートの下のカバーに道路走行上の注意として指定輪距を貼付しています）で走行してください。



道路走行上の注意（指定輪距）

後輪トレッドは左右タイヤの入替えをすることにより2段に調節できます。但し、前輪はトレッド調節はできません。公道を走行するときは、指定輪距（※印）にします。

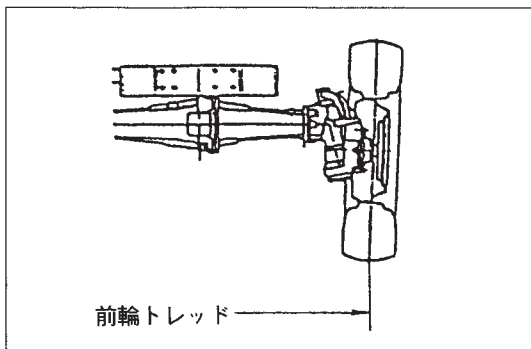
[標準タイヤ仕様]

区 分	タイヤサイズ		駆動方式	調節段数		前 輪 トレッド (mm)	後輪トレッド (mm)		備 考
	前 輪	後 輪		前輪	後輪		※最小 (指定輪距)	最 大	
226型	6-14	9.5-22	4 駆	1	2	1,070	1,015	1,160	
246型	7-14	9.5-24	↑	1	2	↑	↑	1,160	
246G 型	↑	9.5-26	↑	1	1	950	940	—	
266型 266H 型	7-16	11.2-24	↑	1	5	1,115	1,050	1,350	
266A 型 266HA 型	↑	11.2-24	↑	1	5	↑	↑	↑	並ラグ
286型 286H 型	↑	11.2-26	↑	1	4	↑	1,095	1,345	
286A 型	↑	12.4-24	↑	1	4	↑	↑	1,395	並ラグ
306・336型 306H・336H 型	↑	↑	↑	1	4	↑	↑	↑	
306A 型・306HA 型 336A 型・336HA 型	↑	↑	↑	1	4	↑	↑	↑	並ラグ

[大径タイヤ仕様]

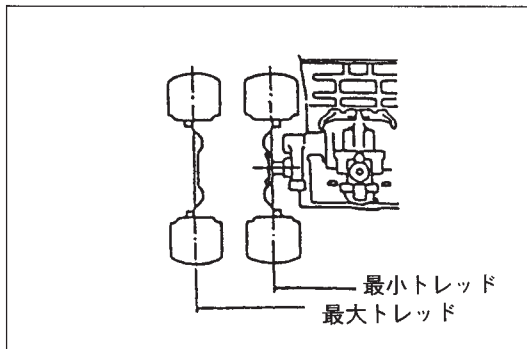
区 分	タイヤサイズ		駆動方式	調節段数		前 輪 トレッド (mm)	後輪トレッド (mm)		備 考
	前 輪	後 輪		前輪	後輪		※最小 (指定輪距)	最 大	
226L 型	7-14	9.5-24	4 駆	1	2	1,070	1,015	1,160	
246L 型	7-16	11.2-24	↑	1	5	1,115	1,050	1,350	
266L 型 266HL 型	↑	11.2-26	↑	1	4	↑	1,095	1,345	

### ・前輪

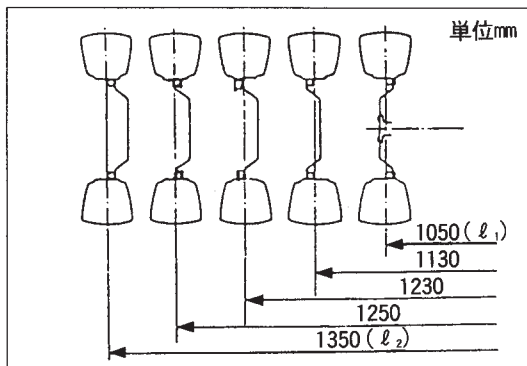


### ・後輪

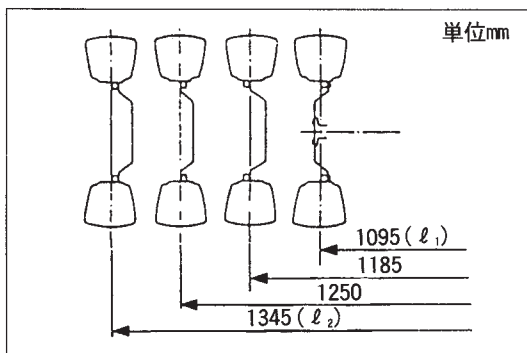
[226・246型]



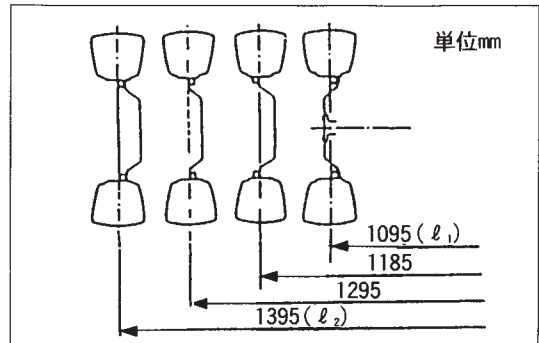
[266・266H型, 266A・266HA型, 246L型]



[286型, 286H型, 266L・266HL型]

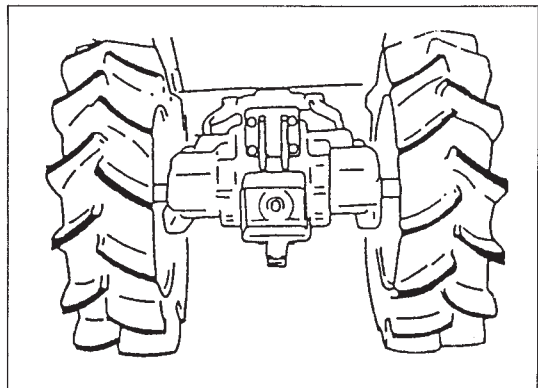


[286A型, 306・306H型, 306A・306HA型,  
336・336H型, 336A・336HA型]



### 取扱いのポイント

- トレッド調節する時はタイヤラグの方向を間違えぬようにしてください。  
(後方より見て「ハ」の字になるように)



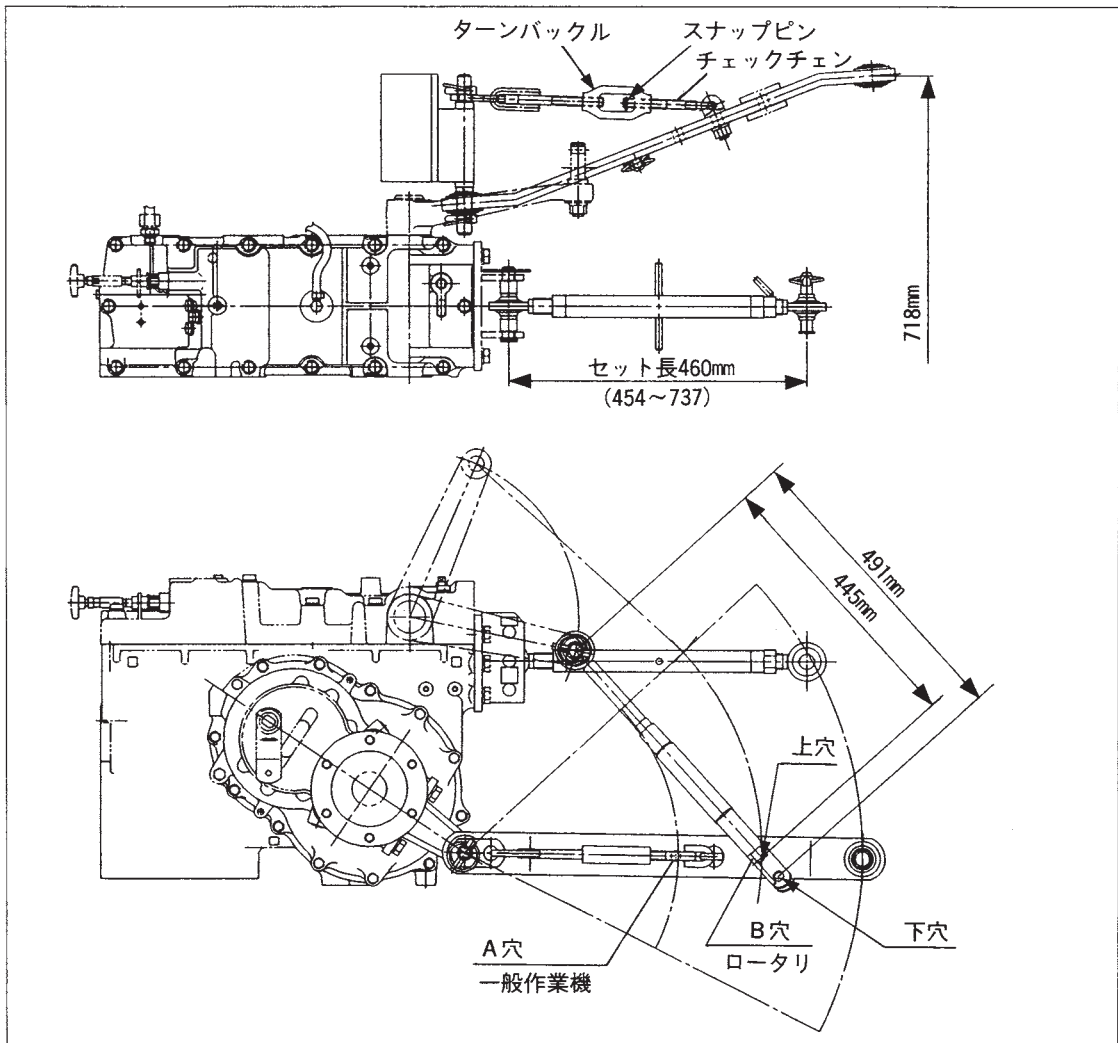
- トレッド調節後は適正な工具を使用して確実にボルト・ナットを締付けてください。
- タイヤホイール締付トルク  
前輪……15.0～17.0kgf・m  
後輪……15.0～17.0kgf・m
- リムとディスクの締付トルク  
(246L, 266, 266H, 266A, 266HA, 286A, 306, 306H, 306A, 306HA, 336, 336H, 336A, 336HA型)  
後輪……15.5～17.5kgf・m  
(266L, 286, 286H型)  
後輪……20.0～22.0kgf・m

## ② 3点リンクの取付け寸法の設定のしかた

3点リンクに作業機を取付けるときは作業機に応じて最も適した位置に取付けます。作業機ごとに寸法を指定しておりますので「作業機の取扱説明書」を参照します。

① リフトロッド、トップリンクの長さの調整範囲は次の通りです。

- ・リフトロッド右（標準機）およびトップリンク（オプション）の調整は、ロックナットをゆるめ、ターンバックルを回して調整します。調整後ロックナットで固定します。





## ② ロワリンク後方目玉の地上高

(単位mm)

区 分	ロワリンク	A穴 (一般作業機)		B穴 (ロータリ)	
	リフトロッド	下 穴	上 穴	下 穴	上 穴
226型	最下げ	57	162	264	353
	最上げ	719	790	740	790
	揚 程	662	628	476	437
246型	最下げ	86	192	293	383
	最上げ	748	819	769	819
	揚 程	662	627	476	437
246G 型	最下げ	104	209	310	399
266型	最上げ	766	836	786	837
266H 型	揚 程	662	627	476	437
286型	最下げ	148	252	354	442
	最上げ	809	879	830	879
	揚 程	662	627	476	437
306型・306H 型	最下げ	148	252	354	442
	最上げ	809	879	830	879
	揚 程	662	627	476	437

※純正ロータリの取付けは、ロータリの取扱説明書により行います。

### ③ チェックチェン

作業機の横振れをスナップピンを抜き取りターンバックルで次のように調整します。調整後は確実にスナップピンを差込みます。

- (1) プラウ、ハロー、サブソイラ等の作業機は、作業機が左右に5～6cm動く程度に調整します。調整後、作業機が横振れしてタイヤに当たらないことを確認します。
- (2) ロータリ・モア等の作業機は、作業機が左右に振れない程度に調整します。

### ③ 作業機の取扱い

下記の事項を守って作業機の取扱いを行います。



安全のポイント

- ◆作業機の着脱は、平坦な場所で、正しい手順で行なってください。
- ◆作業機を着脱調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO 変速レバーを《N》(中立)にして行

なってください。

- ◆トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に入らないでください。
- ◆重い作業機を連結または装着した場合は、トラクタにバランスウエイトを付けて、バランスを保ってください。
- ◆低速回転用作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定のPTO 回転速度を守ってください。
- ◆けん引作業、傾斜地での作業などの場合は、輪距を広くして使用してください。
- ◆トレーラをけん引するときは、坂の途中で変速しないでください。
- ◆作業機を装着すると、長さが長くなりますので、旋回時は周囲を確認して行なってください。
- ◆公道を走行するときは、作業機を取外し別の自動車で運搬してください。作業機を装着して走行すると道路運送車両法の違反になります。

# マイコン装備機の取扱い

## 1 マイコンの取扱い

### 1-1 マイコンの機能



安全のポイント

◆ほ場作業以外では、傾斜自動および耕深自動スイッチを《OFF》にしてください。

マイコン装備機は、高性能マイクロコンピュータ（略：マイコン）が搭載されています。  
 [MAC仕様, JAC仕様] これにより下記の制御が集中コントロールされ、オペレータの作業が軽減されます。

#### マイコンによる制御機能

##### [MAC仕様]

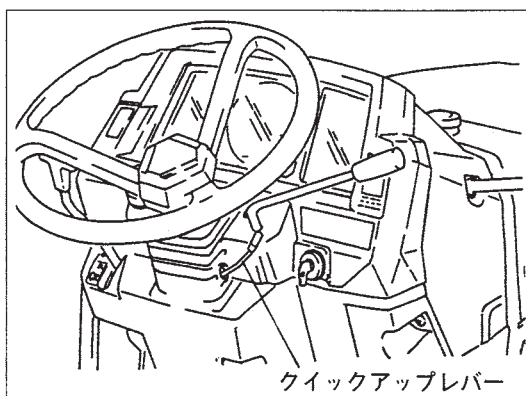
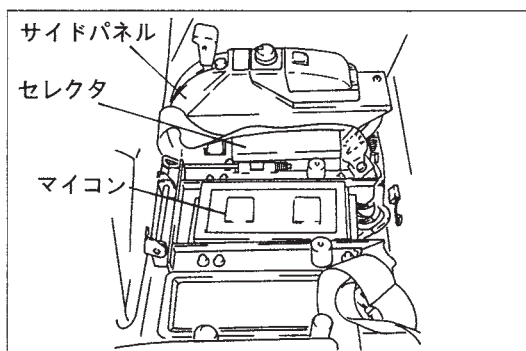
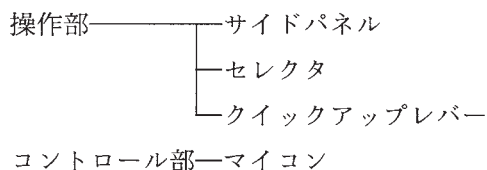
- ポジションコントロール
  - ・バックアップ機能
  - ・クイックアップ機能
  - ・上げ規制機能
- 耕深自動
  - ・ダッシング防止機能
- 傾斜自動
  - ・平行復帰機能
- 安全装置
  - ・エンジン始動時の安全機能
- その他
  - ・作業機切替え機能

##### [JAC仕様]

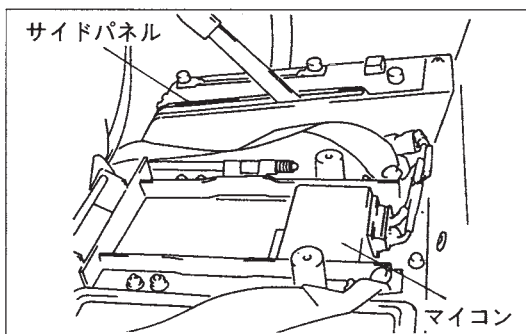
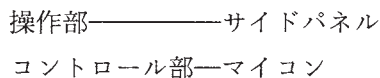
- 傾斜自動
  - ・平行復帰機能

### 1-2 マイコンの概要

#### [MAC仕様]

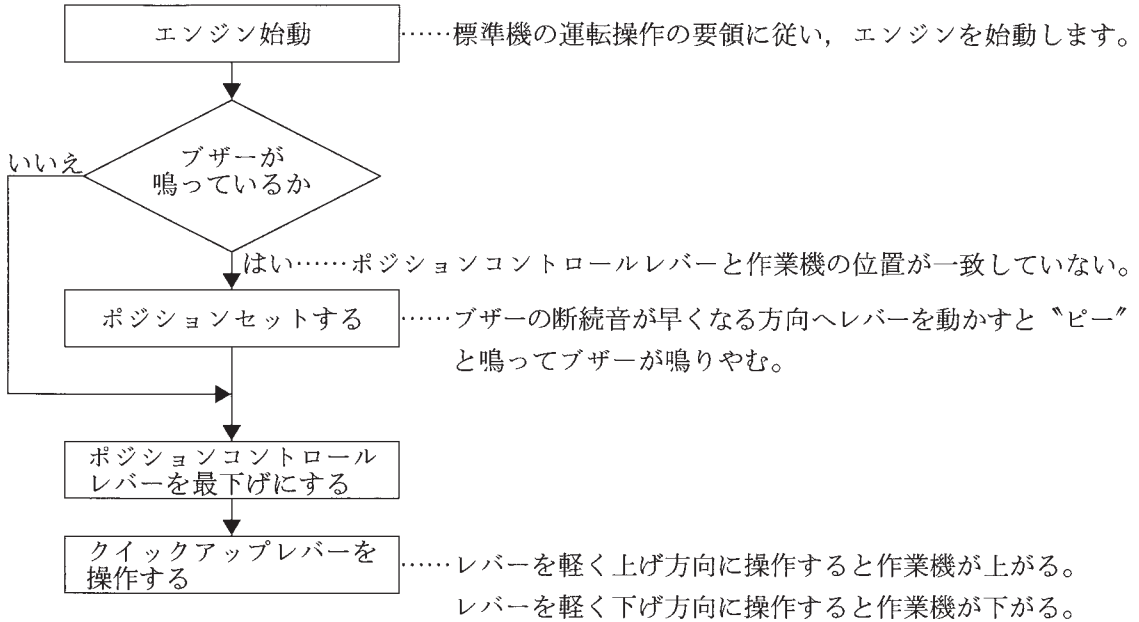


#### [JAC仕様]

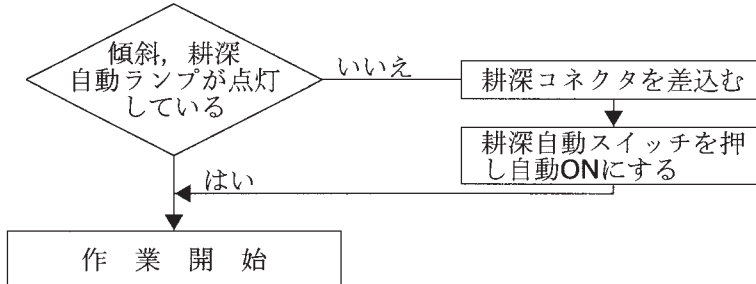


### ③ マイコン操作要領

#### [MAC仕様]



#### <傾斜，耕深自動を使いたいとき>

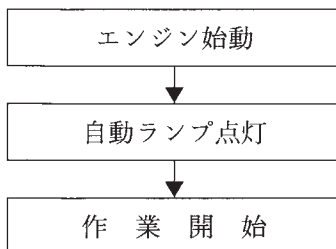


#### <傾斜，耕深自動を使わないとき>

傾斜，耕深自動スイッチをそれぞれ押して自動を《OFF》にする。

#### [JAC仕様]

##### <傾斜自動を使いたいとき>

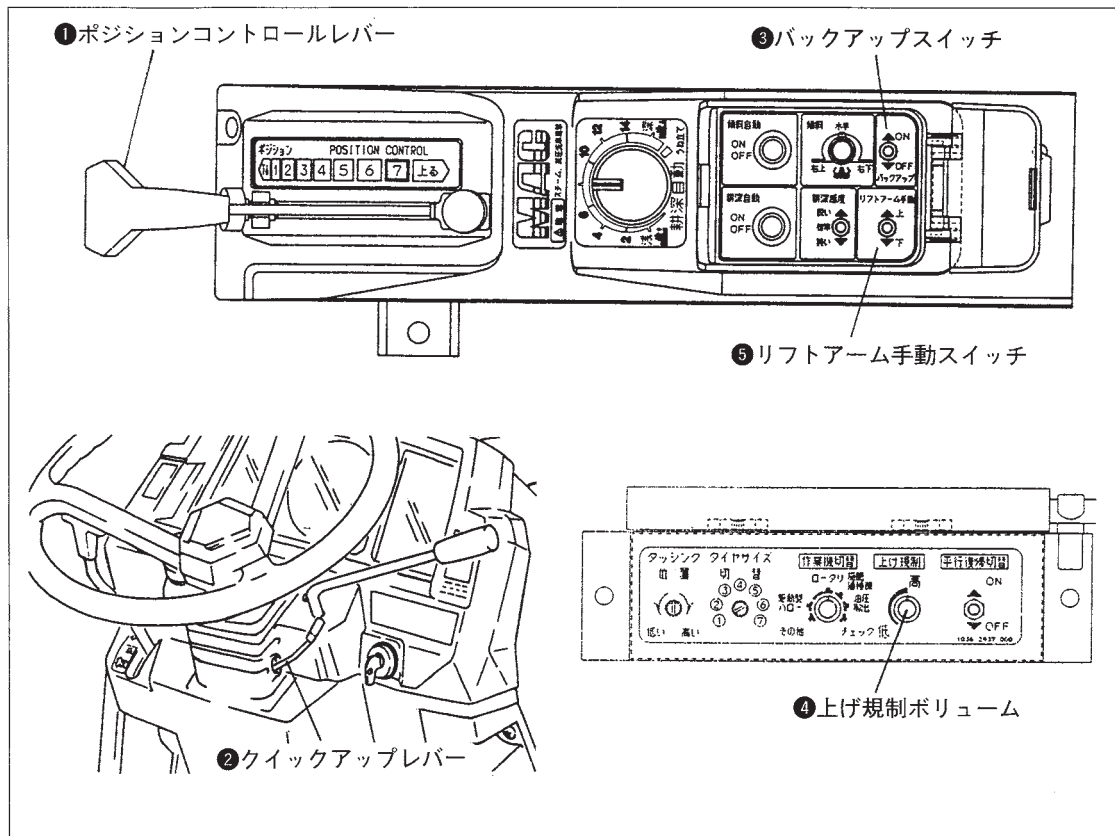


##### <傾斜自動を使わないとき>

傾斜自動スイッチを押して自動を《OFF》にする。

## 2 ポジションコントロールの取扱い [MAC仕様]

### 1 運転装置



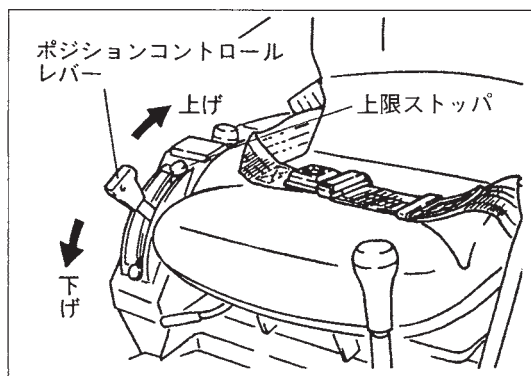
### 2 取扱い操作

#### ① ポジションコントロールレバー



安全のポイント

- ◆ポジションコントロールレバーの上限ストップで作業機の上げ高さを規制してください。上げ高さを規制しないと作業機の種類によって上げた時に本機や「キャビン装備機」のリアウインドウを破損し、傷害事故になることがあります。



ポジションコントロールレバーの操作によって作業機の停止位置が自由に決められます。

## 「下げ規制」

クイックアップレバーで作業機を下げる場合、ポジションコントロールレバーで下げ位置を規制することができます。

### 取扱いのポイント

- 作業機切替ダイヤルが《その他》の位置では上げ規制が低くセットされていると上限まで作業機が上がりません。

## ② クイックアップレバー



### 安全のポイント

◆クイックアップレバーの使用およびバックアップ機能は、ほ場以外や、果樹園、ハウス内など支柱や木など障害物に当たる場所では使用しないでください。守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

◆クイックアップレバーおよびバックアップスイッチ《入》を使用する前に上げ規制ボリュームで作業機の上げ高さを規制してください。

上げ高さを規制しないと作業機の種類によって上げた時に本機や〔キャビン装備機〕のリアウインドウを破損し、傷害事故になることがあります

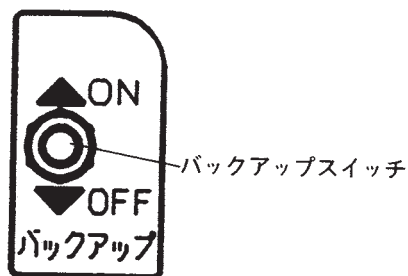
クイックアップレバーを上げ方向に操作すると作業機が上昇し、下げ方向に操作すると作業機が下降します。尚操作時には“ピッ”とブザー音がします。

### 取扱いのポイント

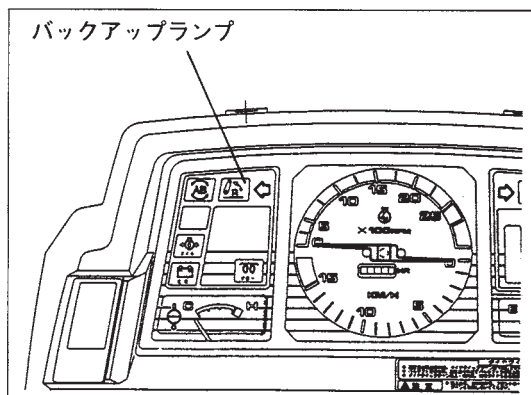
- クイックアップレバーの操作は上げ、下げ方向に軽く行なってください。

## ③ バックアップスイッチ

バックアップ機能の作動、解除は、バックアップスイッチにより行うことができます。



- (1) バックアップスイッチが《ON》の時、シャトルレバーを後進に入れると、メータパネル内のバックアップランプが点滅し、作業機が自動的に上昇します。



- (2) 作業機を下げるときは、クイックアップレバーを軽く下げ方向に操作するとバックアップランプが消え、作業機が下がります。ポジションコントロールレバーで下げる場合は、レバーを一度最上げにし、その後レバーを下げることにより、作業機が下がります。

#### ④ 上げ規制ボリューム

クイックアップレバーで作業機を上げる場合、上げ規制ボリュームで上げ位置を規制することができます。

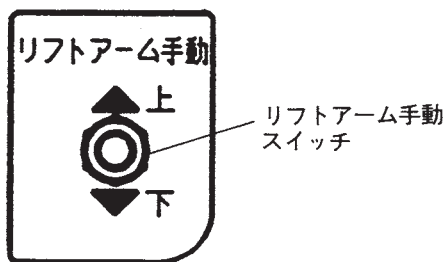


#### ⑤ リフトアーム手動スイッチ



◆非常時に作業機を上昇させる場合、作業機の種類によって、本機や〔キャビン装備機〕のリヤウインドウを破損し、傷害事故になるおそれがありますので確認しながら操作してください。

ポジションコントロールレバーで操作できなくなったときはリフトアーム手動スイッチにより、作業機を動かし安全な所まで移動した後、ただちに点検を受けます。

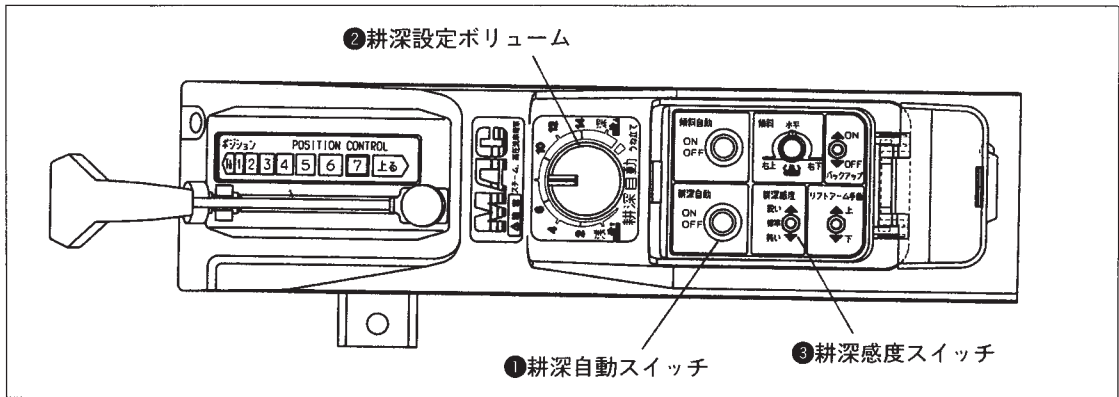


#### 取扱いのポイント

- リフトアーム手動スイッチは、非常時に作業機を上昇させるスイッチであり、通常作業中は使用しないでください。通常作業中に使用するとマイコンがリセットされ自動制御が作動しなくなります。

### 3 耕深自動の取扱い [MAC仕様]

#### 1 運転装置



#### 2 取扱い操作



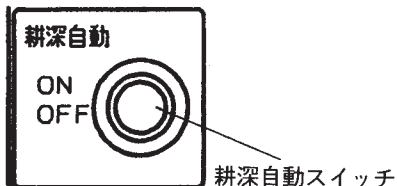
安全のポイント

◆走行時は耕深自動スイッチを《OFF》(耕深自動ランプ消灯)になるようにスイッチを押してください。《OFF》にしないと作業機が自動的に作動し事故になることがあります。

##### ① 耕深自動スイッチ

スタータスイッチを《ON》にすると耕深自動が《ON》になります。《OFF》にする時は、エンジン始動後スイッチを押します。

(スイッチを押すたびにON-OFFを繰り返します。)



##### ② 耕深設定ボリューム

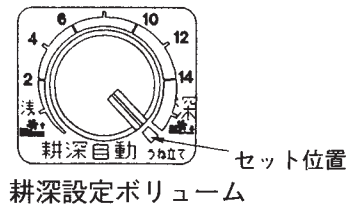
ロータリの耕深量の調整は耕深設定ボリュームによって行います。

・《12》～《14》位置……120～140mmの耕深を維持します。

(純正ロータリにおける一般的なほ場)

- ・《浅》へ回す……耕深が浅くなります。
- ・《深》へ回す……耕深が深くなります。
- ・《うね立て》……うね立て作業等耕深制御を使用しないときは

耕深設定ボリュームを下図のセット位置(うね立て)にします。(耕深自動ランプが消灯し、耕深自動がOFFになります)



#### 取扱いのポイント

- 耕深自動は、作業機切替ダイヤルが《油圧取出》または《チェック》の位置では作動しません。

#### 取扱いのポイント

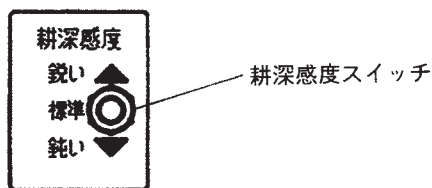
- 耕深自動ランプが点滅しているときは耕深センサのコネクタが外れています。確実にコネクタを差込んでください。

### ③ 耕深感度スイッチ

耕深自動（リフトアームの動作）の感度を作業に応じて切替えることができるスイッチです。

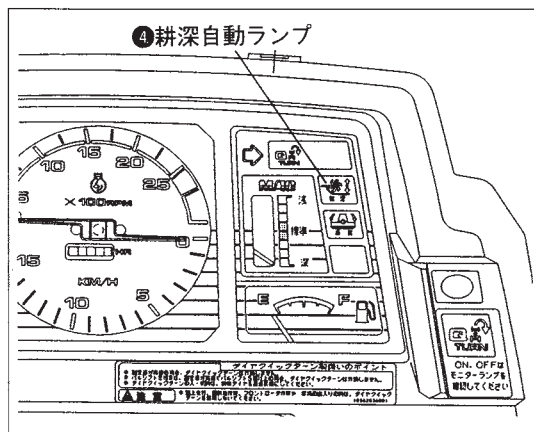
- ・《鋭い》……しろかき作業などに適します。
- ・《標準》……通常の作業に適します。
- ・《鈍い》……浅耕・除草などの作業に適します。

仕上りを確認しながら、ほ場条件によって切替えます。



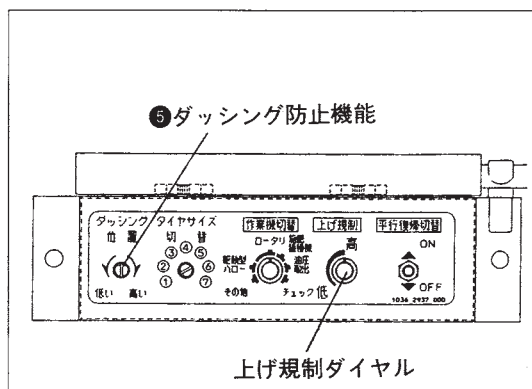
### ④ 耕深自動ランプ

耕深自動《ON》で点灯し、耕深自動状態を示します。



### ⑤ ダッシング防止機能

耕深制御が《ON》のとき、ロータリが地面に接触する付近で降下速度が遅くなり、硬いほ場でのロータリ耕うん爪でのかけだしおよびエンストを防止します。

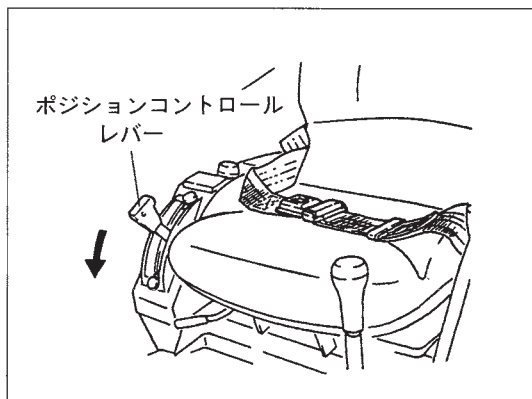


- (1) ほ場条件、作業条件によってダッシング防止効き始め位置を変更することができます。

ダッシング防止効き始め位置を低くする時はダッシング位置ボリュームをドライブで反時計方向に回します。

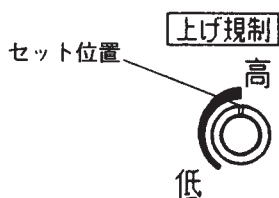
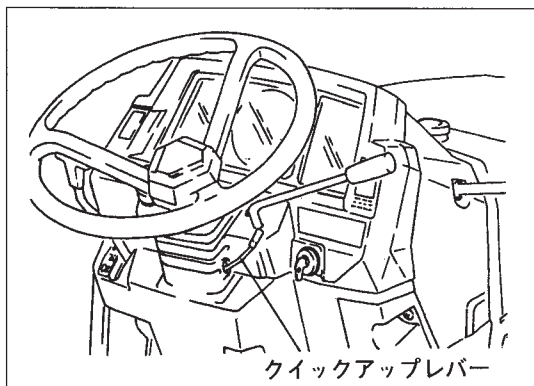
ボリュームを反時計方向いっぱい《低い》にすると解除となり、ダッシング機能が働きません。

- (2) ポジションコントロールレバーの操作でダッシング防止機能を使用するときは、レバーを最上げ位置まで上げてから下げ操作をします。





- (3) クイックアップレバーの操作でダッシング防止機能を使用するときは、上げ規制を下記の位置にセットしておいてください。



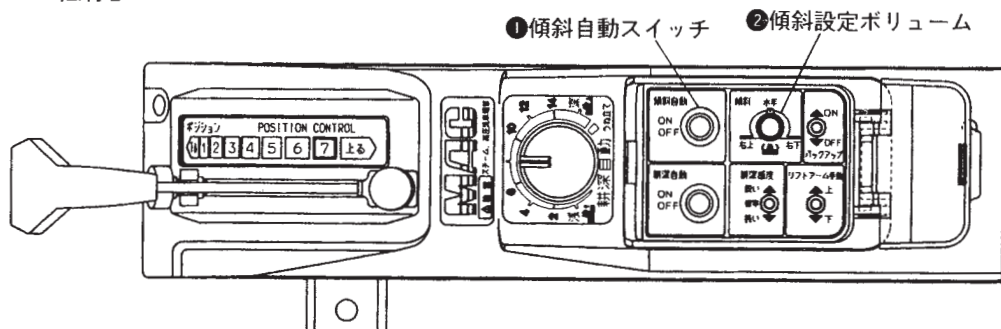
### 取扱いのポイント

- ダッシング防止機能は、作業機が「最上げ」からでないとは作動しません。
- ダッシングするような場合は4輪駆動レバーを《入》で作業をしてください。
- ダッシング位置ボリュームは工場出荷時中央部にセットされていますが《低い》↔《高い》の間でダッシング効き始め位置が約250mm変更可能です。

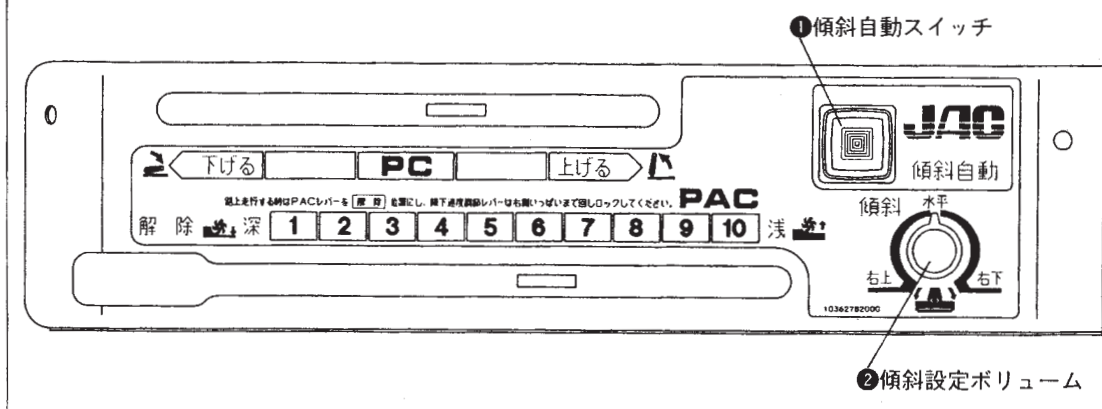
## 4 傾斜自動の取扱い [MAC・JAC仕様]

### 1 運転装置

[MAC仕様]



[JAC仕様]



### 2 取扱い操作



安全のポイント

- ◆走行時は傾斜自動スイッチを《OFF》(傾斜自動ランプ消灯)になるようにスイッチを押してください。《OFF》にしないと、作業機の傾斜が自動的に作動し、事故になることがあります。

#### ① 傾斜自動スイッチ

スタータスイッチを《ON》にすると、傾斜自動が《ON》になります。《OFF》

にしたときは、エンジン始動後にスイッチを押してください。(スイッチを押すたびにON-OFFを繰り返します。)

[MAC仕様]



[JAC仕様]

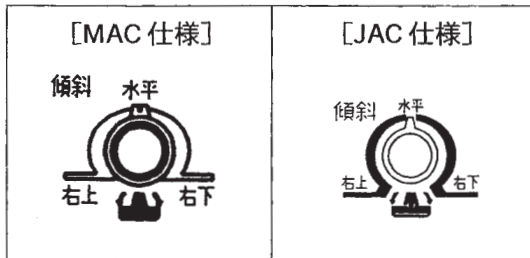


## ② 傾斜設定ボリューム

### (1) 傾斜自動《入》の場合

傾斜設定ボリュームによって作業機の傾きを調整します。

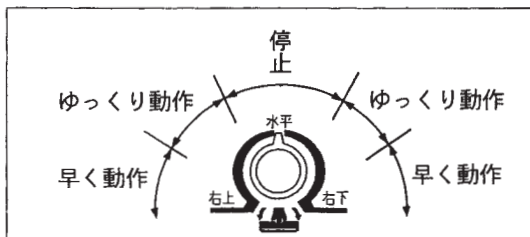
- ・《水平》……作業機は常に水平となるよう自動的にコントロールされます。
- ・《右上》……常に右上がりです。
- ・《右下》……常に右下がりです。



### (2) 傾斜自動《切》の場合

リフトロッドシリンダを伸縮したい時は、傾斜設定ボリュームの操作でシリンダを動作させてください。

- ・《水平》……リフトロッドシリンダは停止します。
  - ・《右上》……リフトロッドシリンダは縮みます。
  - ・《右下》……リフトロッドシリンダは伸びます。
- 動作させたい位置までシリンダが伸縮したら傾斜設定ボリュームを《水平》にして停止させます。

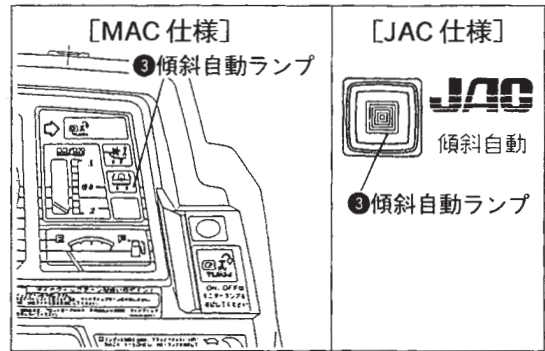


### 取扱いのポイント

- 作業機着脱時の右リフトロッドシリンダの長さ調整は傾斜自動を《入》にし、傾斜設定ボリュームの操作により行なってください。

## ③ 傾斜自動ランプ

傾斜自動《ON》で点灯し、傾斜制御中を示します。



## ④ 重量作業機の装着



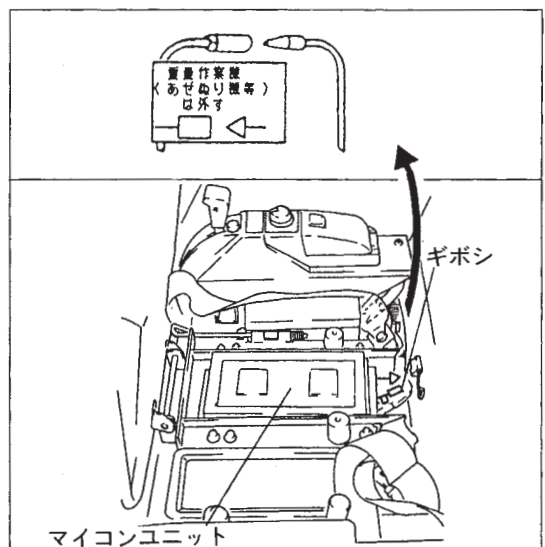
安全のポイント

傷害事故や機械の破損を防止するために

- ◆重量作業機（あぜぬり機等）を装着する場合は、作業機を上げた時、トラクタとの隙間が20cm以上になるように「上げ規制」をしてください。
- ◆重量作業機を装着しない時は、ギボシ端子（重量作業機用）を「接続」しておいてください。

重量作業機（あぜぬり機等）を装着し、作業機が上らない時は次のようにします。

座席下にある配線コードのギボシ端子（重量作業機用）を外します。



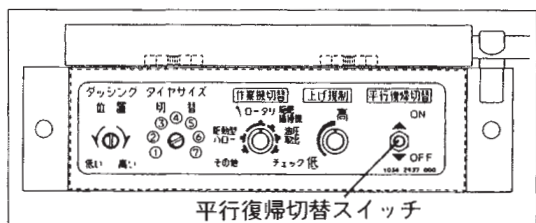
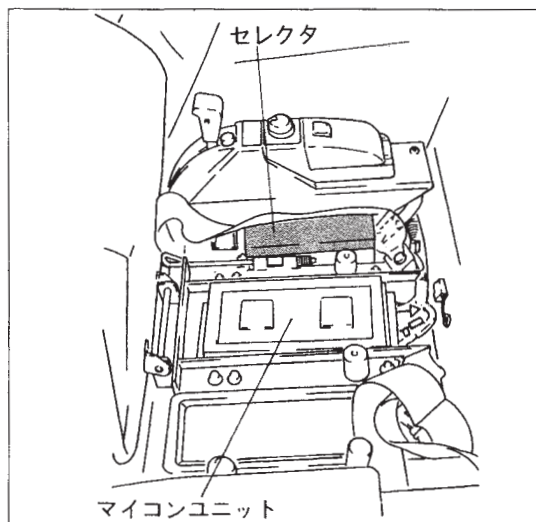
### 取扱いのポイント

- ギボシの切替えはスタータスイッチを《STOP》（停止）にして行ってください。

## ⑤ 平行復帰機能

### [MAC仕様]

- (1) 傾斜自動が《ON》(傾斜自動ランプ点灯)のときは平行復帰切替スイッチに関係なく作業機を「最上げ」にすると、自動的に本機と平行になります。
- (2) 傾斜自動が《OFF》(傾斜自動ランプ消灯)のときは、平行復帰切替スイッチにより平行復帰機能を「ON」「OFF」できます。



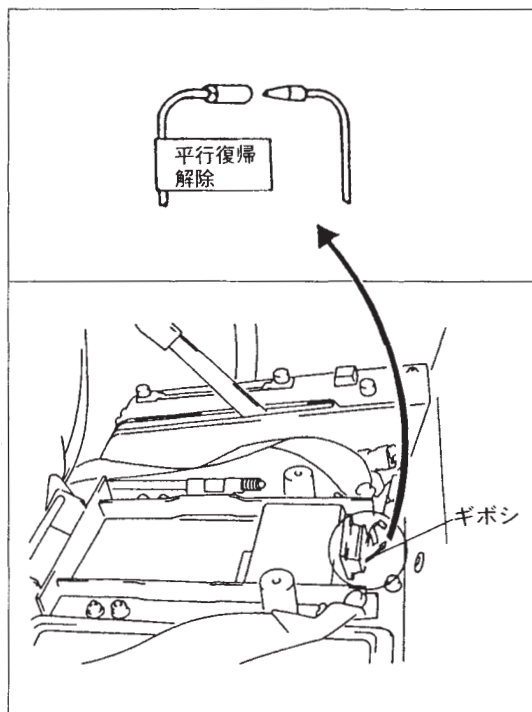
### [JAC仕様]

重量作業機用ギボンを接続した場合にのみ平行復帰機能が働きます。

- (1) 傾斜自動が《ON》(傾斜自動ランプ点灯)のときは平行復帰切替ギボンに関係なく作業機を「最上げ」にすると、自動的に本機と平行になります。
- (2) 傾斜自動が《OFF》(傾斜自動ランプ消灯)のときは、平行復帰切替ギボンにより平行復帰機能を「ON」「OFF」できます。

「ON」……ギボンを接続する。

「OFF」…ギボンを外す。



## 5 安全装置の取扱い

### 1 安全装置

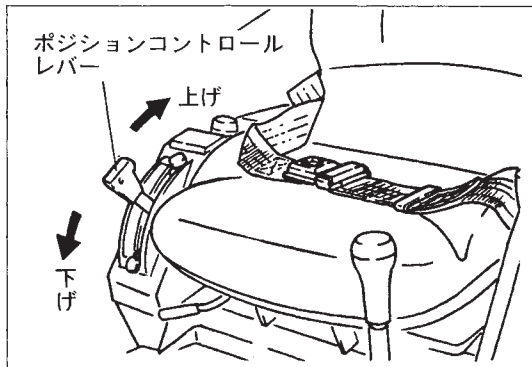
#### ① エンジン始動時の安全機能

[MAC仕様]

エンジン始動後、ポジションコントロールレバーの設定値と作業機の位置が一致するまでブザーが“ピッ、ピッ、ピッ”と鳴り一致点に近づくにしたがって、ブザーの断続音が早くなります。ブザーが鳴らなくなったところが一致点です。

#### 取扱いのポイント

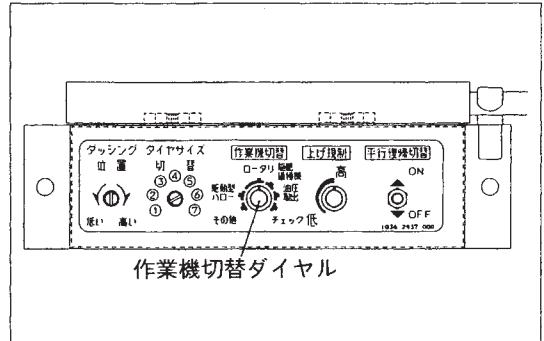
- ポジションコントロールレバーはゆっくりと操作してください。



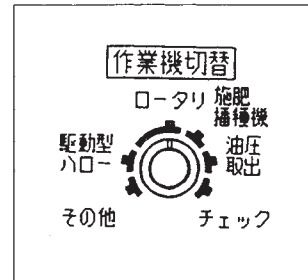
## 6 作業機切替

### 1 作業機切替機能

作業機切替ダイヤルを、各作業機に応じてセットします。



作業機切替ダイヤル



ダイヤル位置	条 件
ロータリ	純正ロータリでの一般作業
駆動型ハロー	駆動型ハロー装着時
施肥播種機	施肥播種機装着時
油圧取出	ダンプトレーラのダンプ等操作時
その他	その他の作業機装着時
チェック	マイコンのチェックに使用

# 7 マイコン装備機の作業別，組合せ操作

マイコン装備機による作業は下記の操作手順を参考にして作業します。但し，一般的に表してあり条件により例外もあります。

## 1 標準機

- ※1. 走行変速とロータリ変速の組合せは，エンジン馬力によりエンストの発生がないように選定します。
- ※2. リヤカバーの加圧は，耕うん中に耕深ハンチングが発生する場合，加圧します。
- ※3. 耕深自動においてハンチングが発生する場合には感度スイッチの切替を鈍い方にします。  
また，枕地整地において湿田の場合にも条件によって鈍い方が仕上がりが良い場合もあります。
- ※4. 作業機切替ダイヤルは使用する作業機に合わせて切替えます。

●印は一般的な組合せ

作業名	耕うん深さ mm	主 変 速				副 変 速				ロータリ 速 度				リヤカバ   加 圧		感度切替			作業機切替					備 考		
		1	2	3	4	超低速	低速	中速	高速	1	2	3	4	有	無	耕 深			ロータリ	駆動型	その他	施肥播種機				
																鋭い	標準	鈍い								
ロータリ耕うん	浅 耕 80~120		○	○	●		●				●	○			●		●	○							(注)・耕うん深さは耕深設定で調整します。	
	標準 耕 120~150		○	○	●		●			○	●	○			●		●		●							
	深 耕 150~		○	●	○		●			●	○				●		●									
施肥播種																							●			
ロータリ しろかき	浅耕~標準	○	●	○			●				○	●	○		●	○	●		●							
除草・浅耕	浅 耕 0~80										○	●	○		●		●	○	●						(注)・加圧はハンチングする場合に行います。	
うねくずし	深 耕	○	●	○			●			●				○	●		●		●							
ハロー		○	●	○			●			○	●	○		-	-	○	●			●					(注)・左記は参考ですので作業機取扱説明書及び作業機マニュアルに従って作業をします。	
プラウ		○	●	○				●		-	-	-	-	-	-	-	-	-			●					
その他																					●					

2 パルシフト装備機

- ※1. 走行変速とロータリ変速の組合せは、エンジン馬力によりエンストの発生がないように選定します。
- ※2. リヤカバーの加圧は、耕うん中に耕深ハンチングが発生する場合、加圧します。
- ※3. 耕深自動においてハンチングが発生する場合には感度スイッチの切替を鈍い方にします。  
また、枕地整地において湿田の場合にも条件によって鈍い方が仕上がりが良い場合もあります。
- ※4. 作業機切替ダイヤルは使用する作業機に合わせて切替えます。

●印は一般的な組合せ

作業名	耕うん深さ mm	主 変 速								超低速		ロータリ 速 度				リヤカ バ ー 加 圧		感度切替			作業機切替				備 考			
		1	2	3	4	5	6	7	8			1	2	3	4	有	無	耕 深			ロータリ	駆動型	その他	施肥播種機				
		鋭い	標準	鈍い																								
ロータリ耕うん	浅 耕 80~120						○	○	●	●			●	○		●	●	○										
	標準 耕 120~150						○	○	●	●		○	●	○		●	●		●									(注)・耕うん深さは耕深設定で調整します。
	深 耕 150~						○	●	○	●		●	○			●	●											
施肥播種																									●			
ロータリ しろかき	浅耕~標準	○	●	○							●	○	●	○		●	○	●		●								
除草・浅耕	浅 耕 0~80												○	●	○	●	○	●	○	●								(注)・加圧はハンチングする場合に行います。
うねくずし	深 耕					○	●	○		●		●			○	●	●		●									
ハロー		○	●	○						●	○	●	○	-	-	○	●			●							(注)・左記は参考ですので作業機取扱説明書及び作業機マニュアルに従って作業をします。	
プラウ						○	●	○		●	-	-	-	-	-	-	-	-	-						●			
その他																									●			

# キャビン装備機の取扱い

## 1 各部の取扱い

### ① ドア・リヤウインドウ・ルーフの開閉のしかた

#### ① ドア



安全のポイント

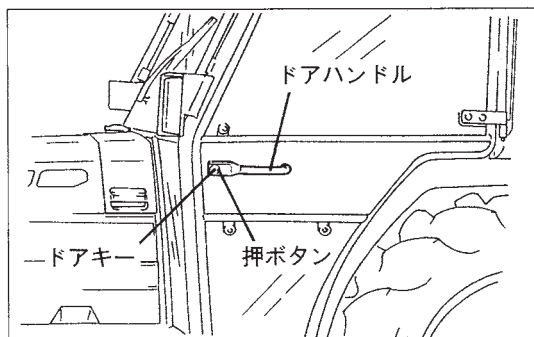
◆半ドアの状態では運転すると、急にドアが開いて事故になることがあります。走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

#### ・ドアの施錠・解錠

ドアキーを差込み、右方向に回すと施錠・左方向に回すと解錠となります。

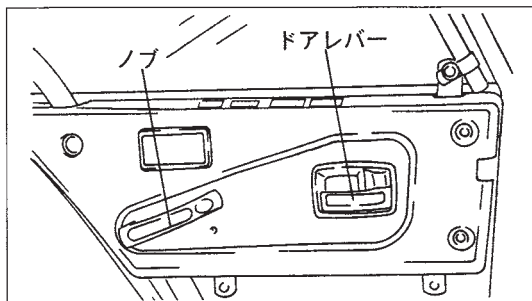
#### ・車外からの開けかた

押ボタンを押しながらドアハンドルを引くと、ドアが開きます。



#### ・車内からの開けかた

ドアレバーを引くと、ドアが開きます。また、閉じるときはノブを引きます。



#### ② リヤウインドウ

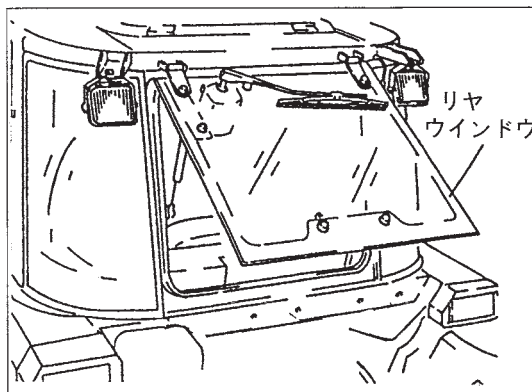


安全のポイント

◆トラクタ後方での作業機の脱着、調整等の作業をする時は、開放されているリヤウインドウで頭などを打つ恐れがありますのでリヤウインドウの位置を確認して行ってください。

◆作業機を装着する時は、「上げ規制ボリューム」で作業機の上げ高さを規制してください。

上げ高さ規制をしないと作業機の種類によって上げた時にリヤウインドウを破損し、傷害事故となるおそれがあります。(53～55ページ参照)





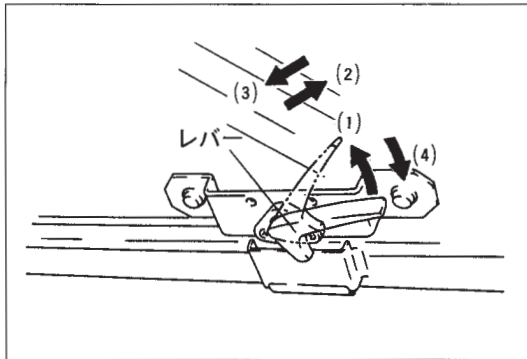
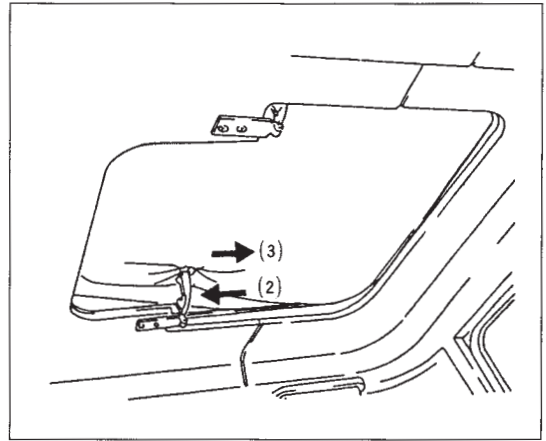
リヤウインドウは、跳ね上げ式です。

・開けかた

- (1) レバーを左に回します。
- (2) レバーを外側に押出して開けます。

・閉じかた

- (3) レバーを手前に引き、リヤウインドウを閉じます。
- (4) レバーを手前に引きながら右に回し、確実に固定します。



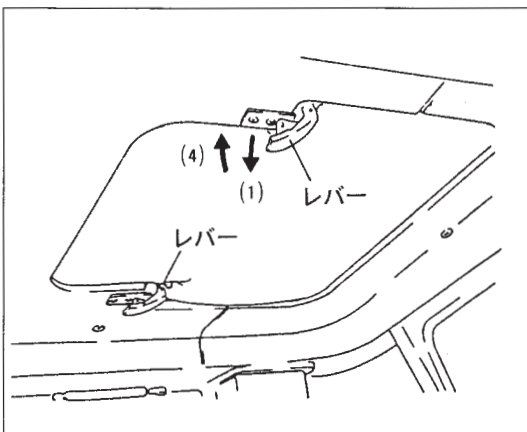
③ ルーフ

・開けかた

- (1) レバーを下に引きます。  
(左右2箇所)
- (2) レバーを前方に押出して固定します。

・閉じかた

- (3) レバーを手前に引き、ルーフを閉じます。
- (4) レバーを元に反して、確実に固定します。  
(左右共レバーを手前に引いてから固定してください。)

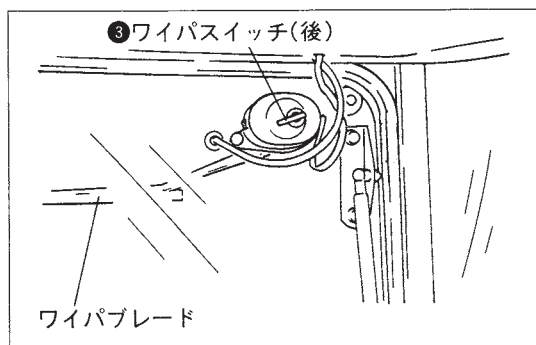
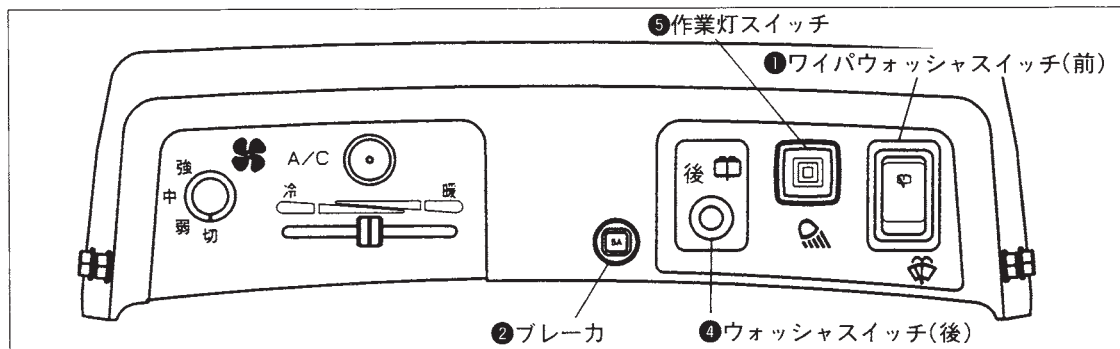


取扱いのポイント

- 作業機によっては、リヤウインドウが開けられないことがありますので、事前に確認して行なってください。
- トラクタ後方での作業機の脱着、調整等の作業をするときは、リヤウインドウを閉めるか、開放位置を確認して行なってください。
- リヤウインドウを開放したままでの道路走行は行わないでください。振動でガラスが破損することがあります。リヤウインドウを閉じ、レバーを確実に固定してください。
- 寒冷時にドア・ルーフおよびリヤウインドウが凍結している場合は、無理に開けるとゴムがはがれたり、損傷することがあります。ぬるま湯で解凍してから開けるようにしてください。

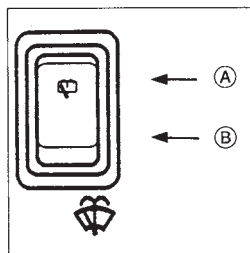
## 2 スイッチの取扱い

### 1 操作装置



### 2 取扱い操作

#### ① ワイパ・ウォッシュスイッチ(前)



##### (1) ワイパの操作

スイッチ①側を押すとワイパが作動し、  
スイッチ②側を押すとワイパが停止します。

##### (2) ウォッシュの操作

- ワイパ作動中……スイッチ①側をさらに押すと、押している間、ウォッシュ液が噴射します。
- ワイパ停止中……スイッチ②を押すと、押している間、ウォッシュ液が噴射します。

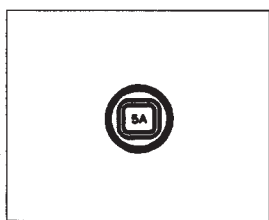
### 取扱いのポイント

- スタータスイッチが《OFF》のときは、作動しません。  
スタータスイッチを《ON》またはエンジンを始動してから操作してください。
- ガラスがほこりや泥で汚れたままでワイパを使用しますとガラスに傷が付くことがあります。洗車または、ウォッシュ液を噴射してから使用してください。
- 寒冷時にワイパブレードが凍結してガラスに張りついたままでワイパを使用すると、ワイパが作動できずブレーカが作動します。使用する前にワイパブレードの状態を点検してください。
- ワイパ使用中、積雪等によりワイパブレードが途中で止まったときは、ワイパスイッチを《OFF》にしても電気が流れておりスタータスイッチを切らないと、ブレーカが作動します。トラクタを安全な場所に停止してスタータスイッチを切り、ワイパブレードが作動できるように積雪等を取除いてください。
- ウォッシュ液を連続で60秒以上噴射したり、ウォッシュ液が出ないときに20秒以上使用すると、モータが焼付くことがあります。

- 寒冷時にウォッシャーを使用するときは、ガラスに噴射したウォッシャー液が凍って視界を妨げることがありますので、先にウインドウガラスをヒーターにより暖めてから使用してください。
- ウォッシャー液は、市販のウォッシャー液を使用してください。寒冷時に清水のみで使用すると凍結し、ウォッシャータンク、ホース等を破損することがあります。

## ② ブレーカ

ワイパモータを保護するため、ブレーカが設けてあります。(前側のみ)



ワイパスイッチを《ON》にしても作動しない場合は、ブレーカを確認します。

### ・正常な状態



### ・異常な状態

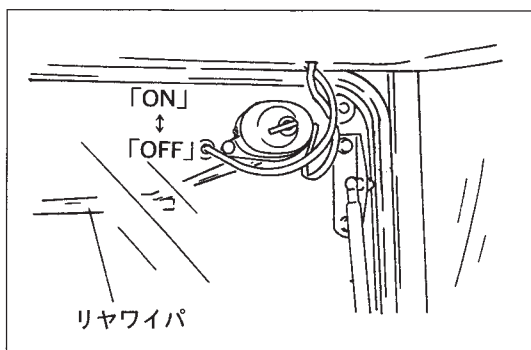


突出 (赤色)

## 取扱いのポイント

- ブレーカを押しても正常な状態に復帰しない場合は、《お買いあげ先》に点検を依頼してください。

## ③ ワイパスイッチ(後)

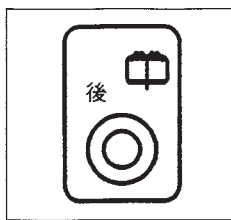


スイッチを《ON》にすると、ワイパが作動します。

## 取扱いのポイント

- ワイパ使用中、積雪等によりワイパブレードが途中で止まったときは、ワイパスイッチを《OFF》にしても電気が流れておりスタータスイッチを切らないと、ワイパが作動しなくなります。トラクタを安全な場所に停止してスタータスイッチを切り、ワイパブレードが作動できるように積雪等を取除いてください。
- 寒冷時にワイパブレードが凍結してガラスに張りついたままでワイパを使用すると、ワイパが作動できません。使用する前にワイパブレードの状態を点検してください。
- 作動しなくなった場合は《お買いあげ先》に点検を依頼してください。

## ④ ウォッシャスイッチ(後)

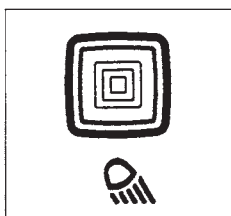


スイッチを押している間、ウォッシャ液が噴射します。

## 取扱いのポイント

- ウォッシャ液を連続で60秒以上噴射したり、ウォッシャ液が出ないときに20秒以上使用すると、モータが焼付くことがあります。
- 寒冷時にウォッシャを使用するときは、ガラスに噴射したウォッシャ液が凍って視界を妨げることがありますので、先にウインドウガラスをヒーターにより暖めてから、使用してください。
- ウォッシャ液は、市販のウォッシャ液を使用してください。寒冷時に清水のみで使用すると凍結し、ウォッシャタンク、ホース等を破損することがあります。

## ⑤ 作業灯スイッチ



スタータスイッチを《ON》にし、作業灯スイッチを押すと、作業灯とスイッチ内のランプが点灯します。

再度、押すと消灯します。

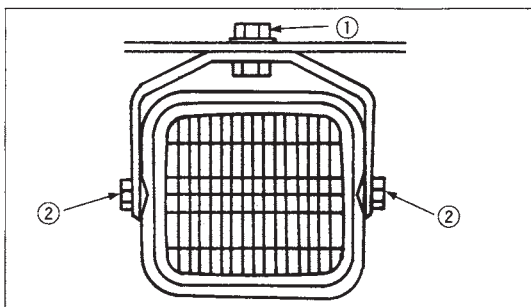
- ・OFF……消灯
- ・ON……点灯



## 取扱いのポイント

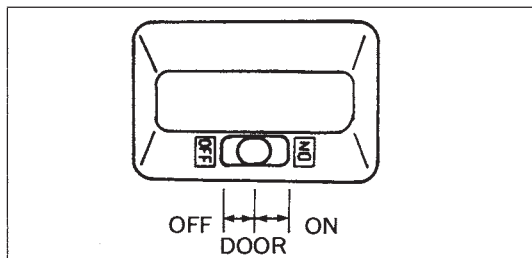
- 作業灯を使用するときは、バッテリーがあがらないようにエンジンを始動してから使用してください。
- 道路走行時は、作業灯を消してください。

## ・作業灯



作業灯は、①のボルトとナットで左右方向を②のボルトで上下方向を変えることができるので適宜、調整します。

## ⑥ ルームランプスイッチ



キャビン室内の照明に使用します。

《OFF》……ランプが消灯します。

《DOOR》…左側ドアを開くとランプが点灯し、閉じると消灯します。

《ON》……ランプが点灯します。

## 取扱いのポイント

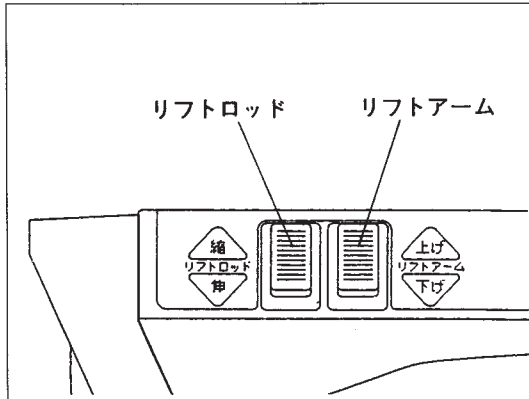
- エンジンが停止しているときに、長時間ランプを点灯させておくとバッテリーがあがることがあります。トラクタから離れるときは、ランプが消えていることを確かめてください。

## ⑦ 3点リンクリモコンスイッチ



安全のポイント

- ◆作業機装着時、3点リンクリモコンスイッチで作業機を上昇させる場合、作業機の種類によってリヤウインドウに当たり破損するおそれがありますので、確認して操作してください。



3点リンクリモコンスイッチは、作業機装着時に使用してください。

### (1) リフトアーム

《上げ》……作業機が上がります。

《下げ》……作業機下がります。

### (2) リフトロッド

《縮》……リフトロッドシリンダが縮みます。

《伸》……リフトロッドシリンダが伸びます。

### 取扱いのポイント

- スイッチ操作時は通常のマイコン制御時よりゆっくり動作します。
- リフトロッドシリンダはリフトアームが最上げ位置より10°以上下がっていないと伸縮しません。

## ③ 運転装置の取扱い

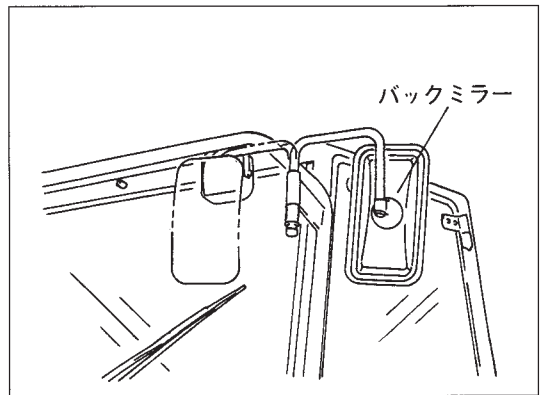
運転各種スイッチ、計器、レバー、ペダルなどの配置、操作方法は、標準機と同様です。

「各部の取扱いかた」の項を参照して行います。

### ① バックミラー

バックミラーは、運転席に座って見やすい位置に調節します。

狭い所へトラクタを格納する場合には、バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。



### 取扱いのポイント

- バックミラーがキャビンより張り出しているため狭い場所でのすれ違いや格納時は、接触しないように注意してください。
- 路上走行時は、バックミラーを倒したままで運転しないでください。

## 4 室内装備の取扱い

### 1 灰皿



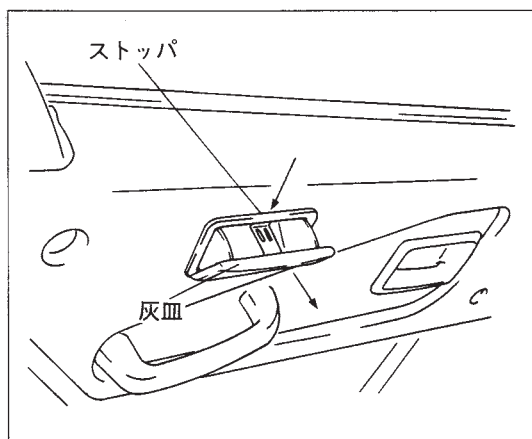
安全のポイント

◆タバコ、マッチの火は、消してから灰皿に入れてください。

使用後、開けたままにしておくと他の吸がらに火が燃え移ることがありますのでフタを閉めてください。

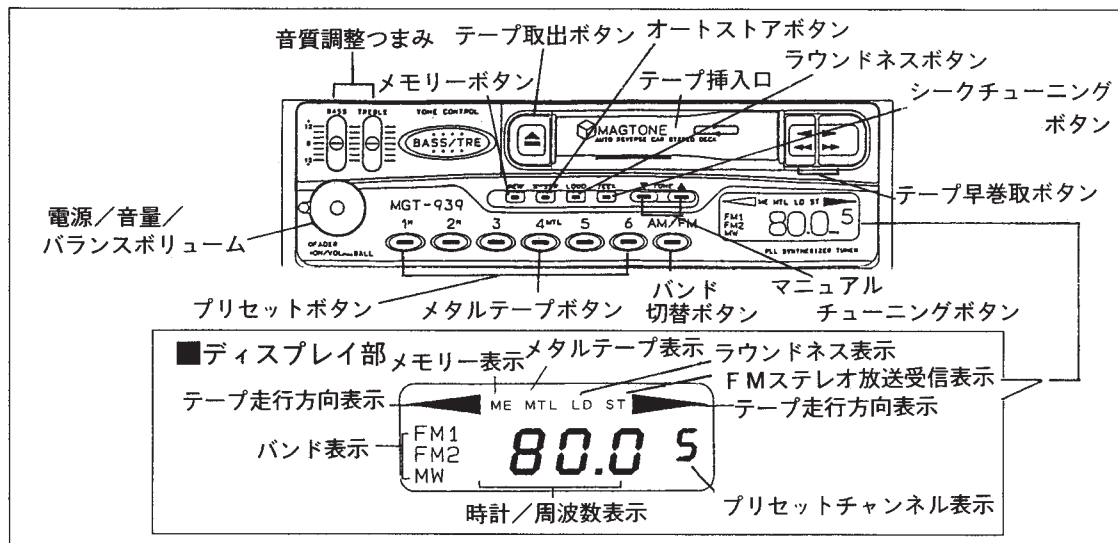
◆灰皿には、吸がらをためすぎたり、紙屑などの燃えやすいものを入れないでください。火災の原因となります。

手前に引出して使用します。取外すときは、灰皿のストッパを押したまま引きます。



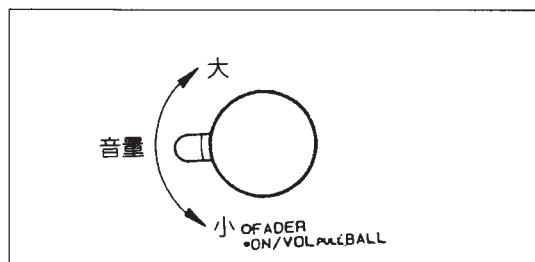
## 2 カーステレオの取扱い

### 1 各部の名称

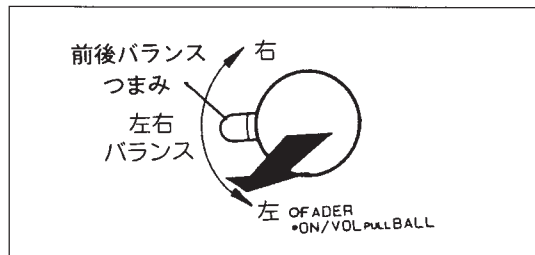


### 2 基本操作

#### (1) 電源/音量/バランスボリューム



右へ回すと電源が《ON》します。さらに右へ回すと音量が大きくなります。カセットテープが入っている時はテープ動作，入っていない時はラジオの状態になります。

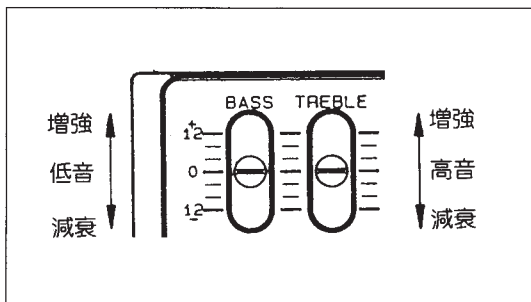


引きながら右に回すと右スピーカの音が大きくなり，引きながら左に回すと左スピーカの音が大きくなります。通常は中央の位置にしておきます。

#### 取扱いのポイント

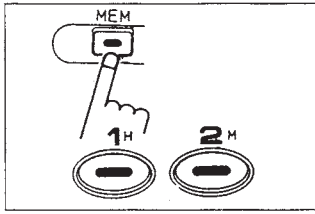
- 前後バランスつまみは，2スピーカでは使用しません。

#### (2) 音質調整つまみ



- 1) 低音調節つまみで低音部をお好みの音量に調整します。通常は中央位置にしておきます。上に上げると増強，下に下げると減衰します。
- 2) 高音調整つまみで高音部をお好みの音質に調整します。通常は中央の位置にしておきます。上に上げると増強，下に下げると減衰します。

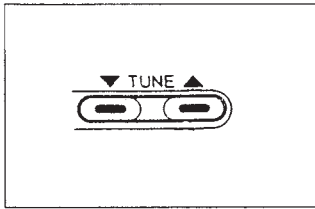
### ③ 時計セット



メモリー・ボタンを押しながらプリセット・ボタンの1または2を押すと、時刻の修正ができます。プリセット・ボタンの1を押すと「時間」が、プリセット・ボタンの2を押すと「分」が変わります。時刻セットはディスプレイ部が時刻を表示しているときに、行なってください。

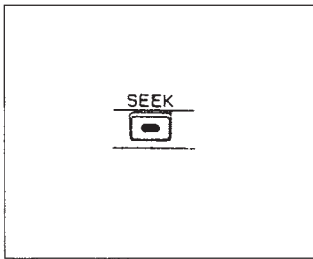
### ④ ラジオの操作

#### (1) マニュアル・チューニングボタン



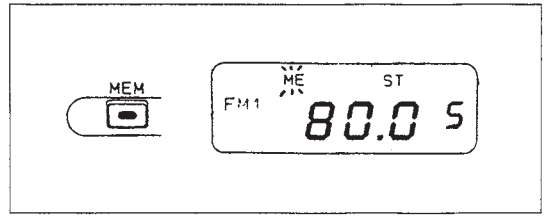
手動にて選局操作を行います。ボタンの右側を押すと受信周波数が高く、左側を押すと低くなります。ボタンを押し続けていると早いペースで周波数が増減します。

#### (2) シークチューニングボタン



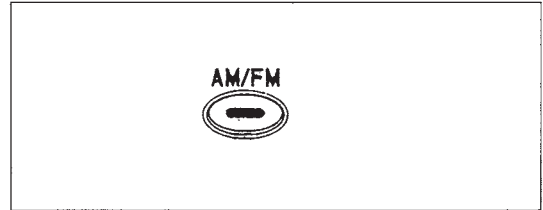
このボタンを押すと自動的に周波数が高い方に変化して放送局を探します。受信可能な放送局があると、その周波数で停止して継続受信します。

#### (3) マニュアルメモリーボタン



記録したい放送局をマニュアル・チューニング・ボタンか、シーク・チューニング・ボタンで選局します。周波数表示中にこのボタンを押すとディスプレイ部の《ME》が点滅します。この時1から6までのプリセットボタンを押すとその周波数が記録され点滅は停止し、チャンネル局が表示されます。

#### (4) バンド切替ボタン



バンド切替ボタンを押すと、受信周波数が変わります。

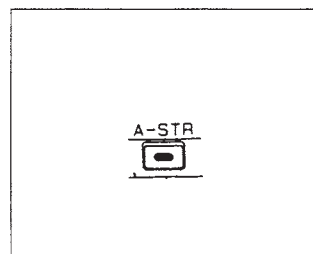
1度押すごとに、FM1→FM2→AMと切替わります。

FM1…ディスプレイ部の《FM1》が点灯します。

FM2…ディスプレイ部の《FM2》が点灯します。

AM……ディスプレイ部の《MW》が点灯します。

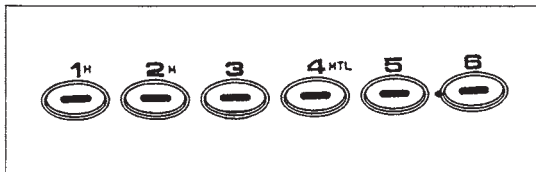
#### (5) オートストアボタン





ラジオ受信中にこのボタンを押すと現在受信中のバンド内の放送を自動的に探してその周波数をプリセット・メモリーに記録します。この動作中、ディスプレイ部の右側のチャンネル表示が変化します。これは、各メモリー・チャンネルに記録中であることを示します。

#### (6) プリセットボタン



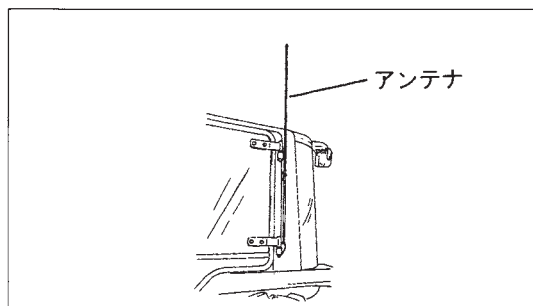
マニュアルメモリーまたは、オートストアでメモリーされた放送局を1から6のボタンで受信することができます。

1から6のボタンからはFMおよびAM共用で使用し、合計18局の放送局を受信できます。

#### 取扱いのポイント

- バッテリー端子を外したときはメモリーが消されます。メモリーをやり直してください。
- ラジオはアンテナをいっぱいに伸ばしてから聞いてください。
- 屋根の低い所へ入るときは、アンテナを格納してください。
- 停車中でもスタートスイッチを《ON 00》にすればラジオを聞くことができます。但し長時間の使用は、バッテリーがあがる原因となりますので避けてください。

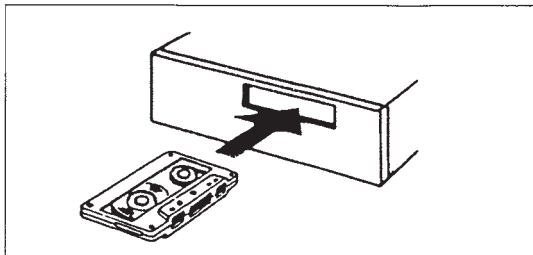
#### (7) アンテナ



アンテナは、3段階に伸びます。

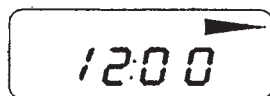
#### 5 カセットテープ操作

##### (1) テーププレイ

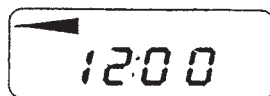


カセットテープを上図のように挿入すると演奏が始まります。

- テープの上面のプログラムを演奏  
(テープ走行表示右側が点灯)



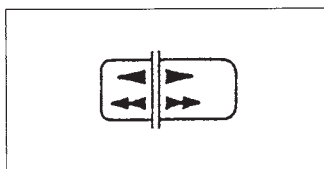
- テープの下面のプログラムを演奏  
(テープ走行表示左側が点灯)



#### 取扱いのポイント

- テープは鉛筆等でたるみをなくしてからご使用ください。たるみのあるときは誤作動を起こす場合があります。
- 120分テープは、テープ自身が非常に薄く、伸びたり切れたりしますので、使用しないでください。
- 停車中でもスタートスイッチを《ON 00》にすればラジオを聞くことができます。但し長時間の使用は、バッテリーがあがる原因となりますので避けてください。

## (2) テープ早巻取ボタン



## 1) 早送り

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と同じ方向のボタンを押します。

早送りを解除する時は、押込まれているボタンとは逆のボタンを軽く押してください。

## 2) 巻戻し

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と逆方向のボタンを押します。

巻き戻しを解除する時は、押込まれているボタンとは逆のボタンを軽く押してください。

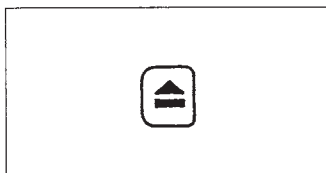
## 3) 反転

演奏面を反転させるときは、2個の早巻取りボタンを同時に押してください。演奏面が反転すると同時にテープ走行方向表示の点灯も変わります。

## 取扱いのポイント

- 本機はフルオートリバースメカを使用していますので、テープ再生あるいは早巻取りでテープが終端まで巻取られると、自動的にテープの走行方向が変わり、反対面のプログラムが再生されます。テープをいれたままにしておきますとA面B面を繰返し演奏を続けます。

## (3) テープ取出しボタン

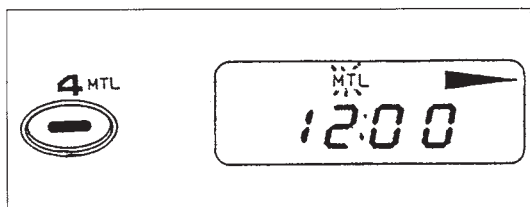


テープ演奏を停止する時に押してください。テープを取出すと、ラジオの状態になります。テープを聞かない時はカセットを抜取っておいてください。

## 取扱いのポイント

- スタータスイッチを《停止》にした時はテープ取出しボタンを押してテープを取出してください。
- テープのラベルがはがれかけていたり、厚みのあるラベルが貼ってあるテープは使用しないでください。テープが取出せなくなる場合があります。
- テープはケースに入れて保管してください。
- テープは直射日光に長時間あてないでください。

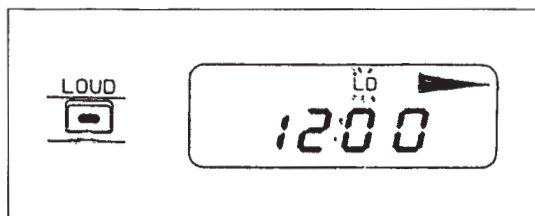
## (4) メタルテープボタン



このボタンはプリセットボタンの4と兼用です。

使用するテープの種類によって使い分けてください。メタルまたはクロムテープ使用時は、ボタンを押してください。ディスプレイ部に《MTL》が表示されます。解除する時はもう一度、ボタンを押してください。

## (5) ラウンドネスボタン



小音量で音楽を聞くと、低音が弱く感じます。ラウンドネス・ボタンを押すとディスプレイ部に《LD》が表示され、低音が強調されて聞きやすい音質になります。解除するときはもう一度ボタンを押してください。

## ⑥ 日常のお手入れ

## (1) パネル面の掃除

乾いた柔らかい布でふいてください。汚れがひどいときは中性洗剤を少し含ませてふきます。

ベンジン、シンナー、化学ぞうきん類はパネル表面が変質しますので絶対に使用してはいけません。

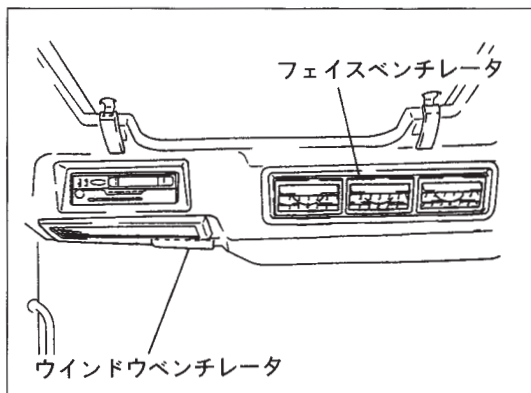
## (2) ヘッドの掃除

ヘッドが汚れると音程が狂う、音質が悪くなる、などの原因になりますのでときどき掃除をします。お手入れには市販のクリーニングテープを使用すると便利です。

## 取扱いのポイント

- 本機やカセットテープに磁気を帯びたものを近づけますと、ヘッドに磁気を帯び、性能を損なったり、テープの音を消してしまうことがあります。ヘッドにドライバやピンセットなど金属物も近づけないでください。
- 極端に暑いときや寒いときは、車内を適温にしてからご使用になりますと、よりよい性能が得られます。
- 水がかかると故障の原因になります。車内掃除には十分ご注意ください。

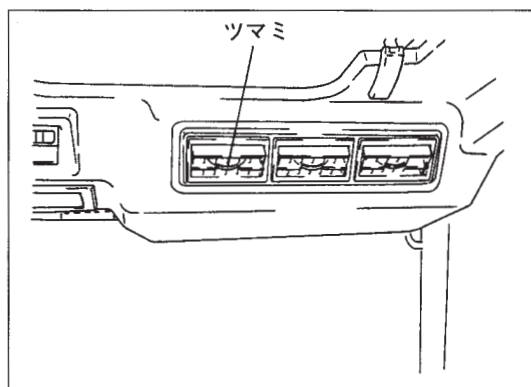
## ③ エアコン



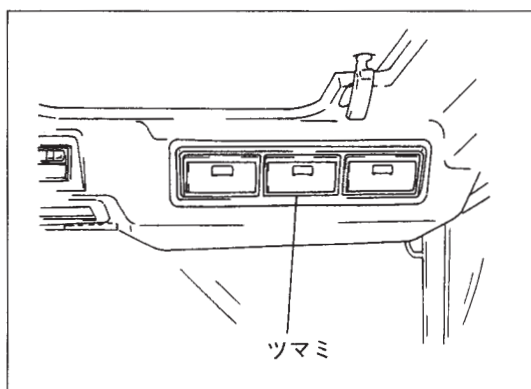
## ① 吹出し口

(ウィンドウ&フェイスベンチレータ)

- ツマミを動かして風向きを調節します。



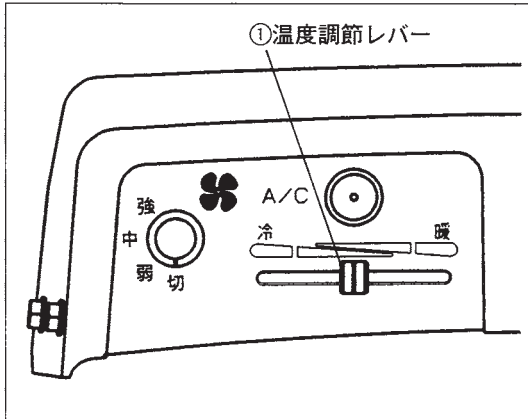
- 送風を止めたいときは、図のように閉じてください。



## 取扱いのポイント

- 冷房し始めたとき、一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。

### ② コントローラ

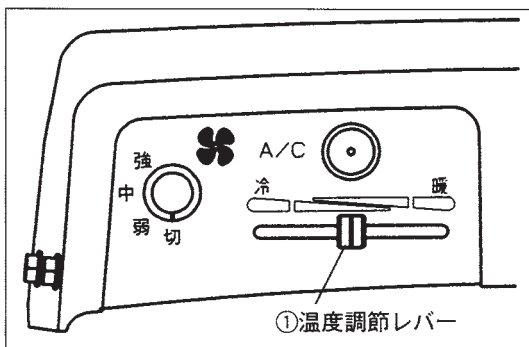


#### ① 温度調節レバー

レバーを動かして送風温度を調節します。

《冷》…温度が低くなります。

《暖》…温度が高くなります。

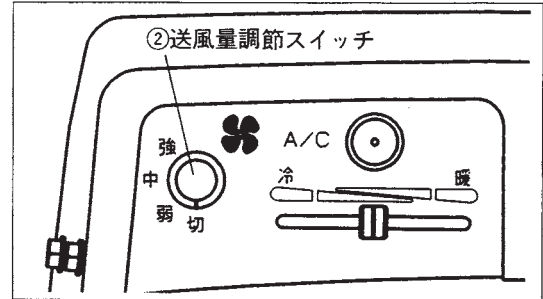


## 取扱いのポイント

- エンジン冷却水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。

### ② 送風量調節スイッチ

送風量を3段階に調節します。



《切》…送風は止まります。

エアコンも同時に切れます。

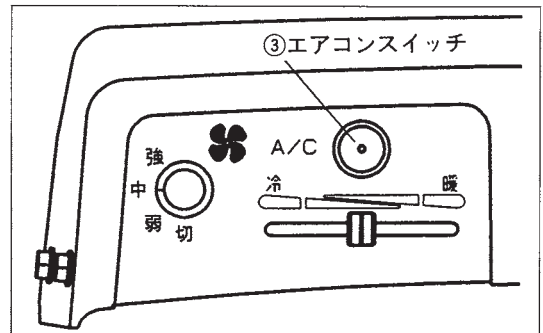
《弱》…送風量は少になります。

《中》…送風量は中になります。

《強》…送風量は多になります。

### ③ エアコンスイッチ

エアコンの《ON, OFF》を切替えます。



「ON」……エアコンが入ります。(スイッチ内のランプが青色に点灯)

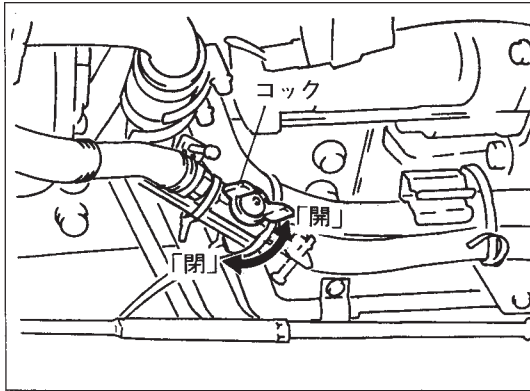
「OFF」……エアコンが切れます。

### ③ ヒーター用コック



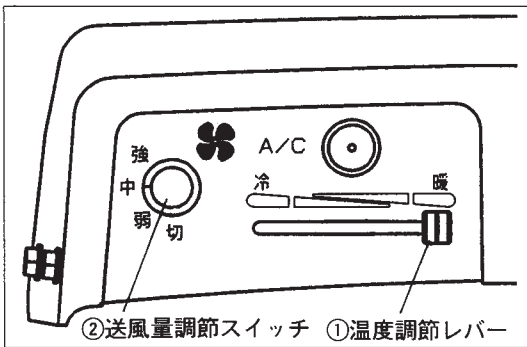
- ◆運転中またはエンジン停止直後は、コックの温度が上昇していますので、冷えてから操作してください。

暖房したいとき、およびガラスの曇り、霜を取りたいときはボンネット内のコックを左に回して開にします。冷房したいときはコックを右に回して閉じます。



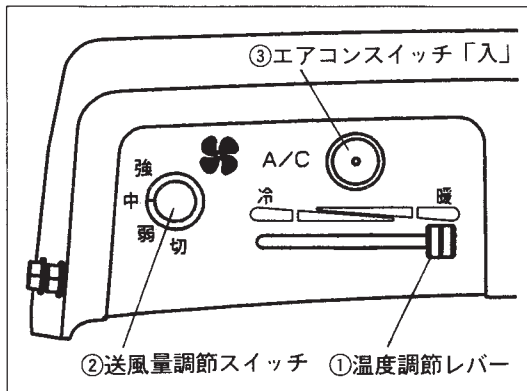
#### ④ 使用方法

##### (1) 暖房したいときは



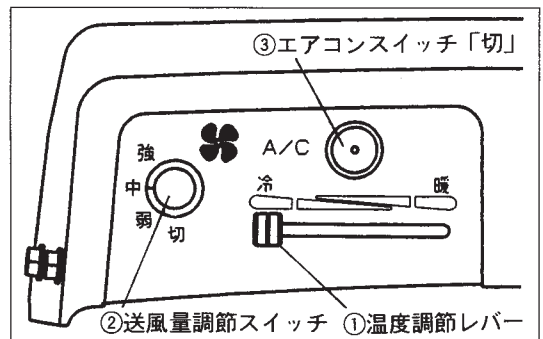
- ①温度調節レバー，②送風量調節スイッチを上図位置にセットします。
- 送風温度および送風量は、それぞれ①温度調節レバー，②送風量調節スイッチで適宜、調節します。

##### (2) ガラスの曇り、霜を取りたいときは



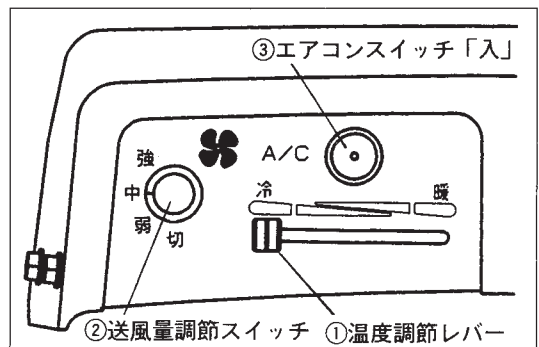
- ①温度調節レバー，②送風量調節スイッチ，③エアコンスイッチ「入」を図位置にセットします。
- ウィンドウベンチレータをフロントガラスの方向に向け、フェイスベンチレータは適宜、風向きを調節します。
- 送風温度および送風量は、それぞれ①温度調節レバー，②送風量調節スイッチで適宜、調節します。
- 夏期に曇り止めするときは、①温度調節レバーで送風温度を調節します。

##### (3) 送風したいときは



- ①温度調節レバー，②送風量調節スイッチ，③エアコンスイッチ「切」を上図位置にセットします。
- ウィンドウベンチレータの送風を止め、フェイスベンチレータは適宜、風向きを調節します。
- 送風量は、②送風量調節スイッチで適宜、調節します。

##### (4) 冷房したいときは



- ①温度調節レバー、②送風量調節スイッチ、③エアコンスイッチ「入」を図位置にセットします。
- ウィンドウベンチレータの送風を止め、フェイスベンチレータは、適宜、調節します。
- 送風温度および送風量は、それぞれ①温度調節レバー、②送風量調節スイッチで適宜、調節します。

### 取扱いのポイント

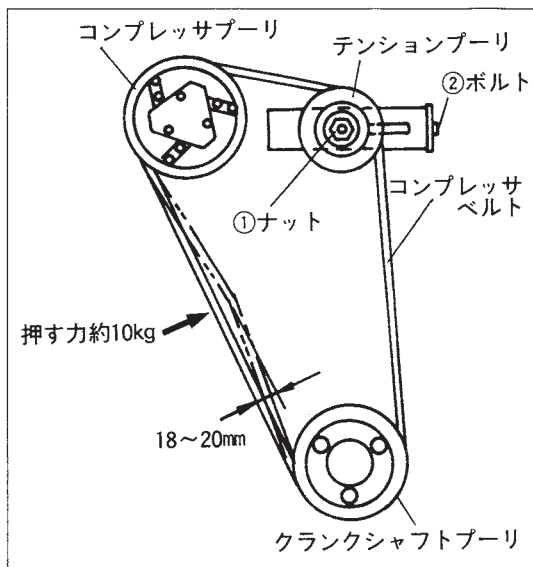
- 長時間作業されるとき、またはタバコを吸われているときは、時々、室内の換気をしてください。
- ウィンドウガラスが曇ると視界を妨げますので、やわらかい布で水気をふき取ってください。
- エアコンは、温度を下げるばかりでなく、湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差5～6℃）に調節してください。また、冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。

### 5 保守管理

- (1) エアコンは、シーズンオフでも1ヶ月に1度数分間運転してください。  
運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ、エアコンを常時最良の状態に保つことができます。
- (2) コンプレッサベルトのタワミは、図のように中央部を押して（押す力約10kg）18～20mmの範囲であれば良好です。ベルトが新品の内は初期伸びが大きいのので50時間使用後に点検調整を行います。
- (3) コンプレッサベルトの張り調整のしかた
  - 1) テンションプーリの①ナットをゆるめます。

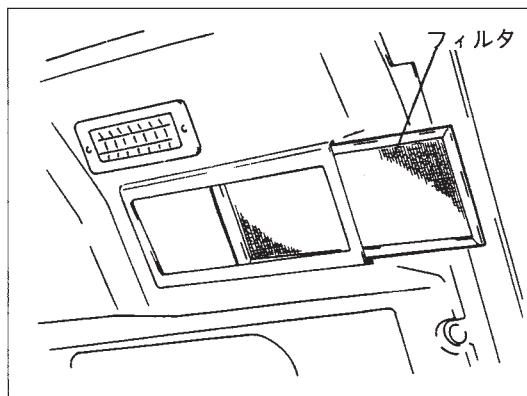
- 2) テンションプーリの②ボルトを右に回して調整します。
- 3) テンションプーリの①ナットを締付けます。

締付トルク3.7～4.2kgf・m



- (4) コンプレッサおよびレシーバへのスチーム洗浄は、冷媒ガスの圧力が上昇して危険ですので避けてください。
- (5) 内気循環口の掃除

フィルタが汚れて目詰まりすると、吹き出し風量が少なくなりますので、水洗いまたは、圧縮エアで汚れを落とします。



## 5 キャビンの注油，給水個所

出荷のときは，ウォッシュタンクにウォッシュ液が入っていますが，作業する前に点検してください。

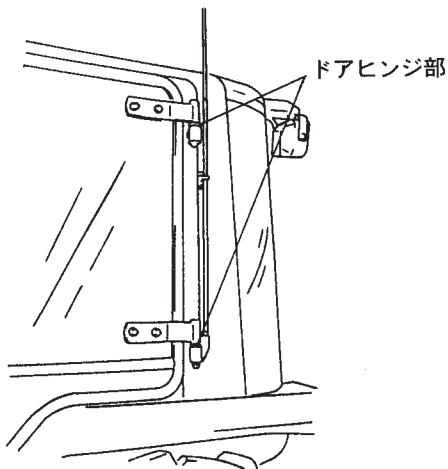
### 1 注油・給水表

No.	油種（水）	注油，給水個所	個所数	容 量	交 換 時 間
①	ギヤオイル	ドア（左，右）	4	適量	作業前点検
②	〃	リヤウインドウ	2	〃	〃
③	ウォッシュ液	ウォッシュタンク	1	2 l	〃（必要量補給）

#### ① ドア（左・右）



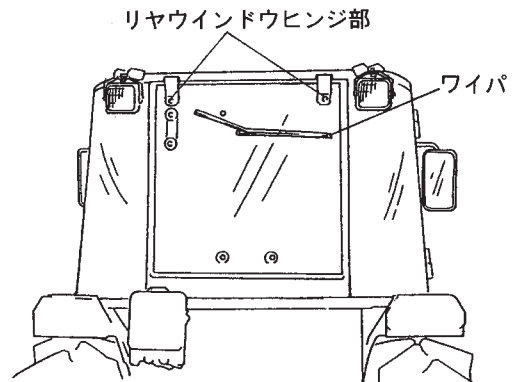
- ・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。（4 個所）
- ・ドアの開閉が重いとき，または開閉時に音がする場合は注油します。



#### ② リヤウインドウ

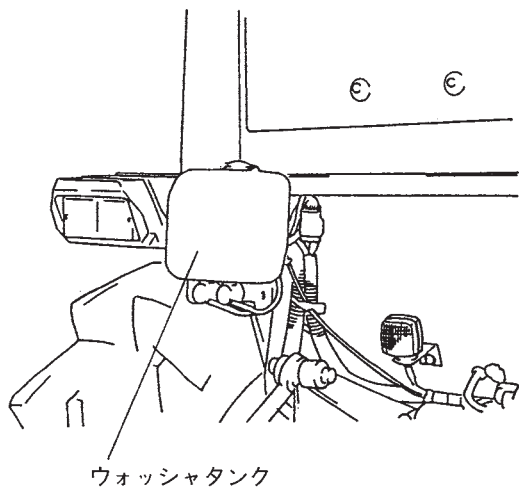


- ・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。（2 個所）
- ・リヤウインドウの開閉が重いとき，または開閉時に音がする場合は注油します。



**3** ウォッシュタンク

- タンクキャップを外し、ウォッシュ液を給水します。
- 容量…… 2 ℓ



ウォッシュタンク



# 手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが、使用による摩耗や伸びが生じますので点検・再調整を行い、損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。



- ◆掃除・点検・調整・整備する時は、トラクタを平坦な広い場所に置き、駐車ブレーキをかけ、作業機を降ろし、エンジンを止め各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆エンジン回りの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
- ◆作業機を上げて、掃除、点検、調整、整備する時は、油圧をロックし、作業機が降りないことを確認し、作業機の下に固定脚を置いてください。
- ◆取外したカバーは、全て取付けてからエンジンを始動してください。
- ◆定期点検整備表に記載されていない部所の点検、整備は「お買いあげ先」へ申しつけてください。
- ◆エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却するときは、廃却設備のある所で廃却処理してください。
- ◆部品（バッテリー等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」にご相談ください。

## 1 定期点検整備表

- ・正常な機能を発揮し、いつも安全な状態であるように「定期点検整備表」を参考に点検・整備をします。
- ・「定期点検整備表」は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度、調整をします。
- ・表示記号の説明
  - ……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
  - ◎……指定時間ごとに点検し、調整・補給・掃除などの処置をします。
  - ……指定時間ごとに交換します。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔					備考	参照ページ
			作業前	50時間	100時間	200時間	300時間		
エンジン関係	燃料タンク	点検・補給・タンクの掃除	○				◎	軽油 JIS 2号又は3号・特3号28ℓ	31, 88
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換		◎		●		エレメント	89
	燃料ホースの劣化と洩れ	点検・交換	○			●			94
	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	●(初回のみ)	●			ディーゼルオイル CC級以上4.5ℓ	28~30, 87
	エンジンオイルフィルタ	交換		●(初回のみ)	●			フィルタ	88
	ラジエータ(冷却水)	点検・補給・掃除・交換	○					清水, 不凍液6.4ℓ, 336・336H型7.1ℓ, 1年ごとに交換(ロングライフクーラント)	28~30, 89, 90
	ラジエータスクリーン	点検・掃除		◎				ゴミの多いところでは作業前	91
	エアクリーナエレメント	点検・掃除		◎				〃	91
ファンベルト	点検・調整		◎				ベルト中央部押し 10~13mm	99	
電装関係	バッテリー液	点検・補給	○						95~98
	電気配線(配線, 接続部のゆるみ, 損傷)	点検・修正	○					損傷の場合交換	95
	計器類	点検	○						6~9, 51~62, 69~72
本機関係	油圧フィルタ	交換			●(初回のみ)		●		92
	ミッションオイル	点検・補給・交換		◎	●(初回のみ)	●		API.GL-4級以上で湿式ブレーキ用 41ℓ	92
	フロントアクスルオイル	点検・補給・交換		◎	●(初回のみ)	●		API.GL-4級 SAE80 3.0ℓ	93
	タイロッド(左・右), ロッドエンド	点検・補給		◎				グリス適量	33
	ブレーキリンク	点検・補給		◎				〃	33
	オートブレーキアームシャフト	点検・補給		◎				〃	33
	クラッチペダル	点検・調整	○					遊び 20~30mm	99
	ブレーキペダル	点検・調整	○					遊び 20~30mm	100
	各レバー類の作動	点検	○						11~13
	ボルト, ナットのゆるみ	点検	○						19, 48
	タイヤ空気圧	点検	○					前輪 1.5kgf/cm <sup>2</sup> , 後輪 1.0kgf/cm <sup>2</sup>	94
	トーイン	点検・調整				◎		0~10mm	101
	パワステシリンダ油圧ホース	点検・交換						2年ごとに交換	26, 94
エアコンコンプレッサベルト	点検・交換		◎				ベルト中央部押し 18~20mm キャビン装備機	81	

## 2 点検と掃除

### 1 エンジンオイル、オイルフィルタの点検と交換



安全のポイント

◆エンジンオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

#### 取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。
- オイル交換は、オイルが冷えてから行なってください。
- エンジンオイルは推奨銘柄をご使用ください。(125ページ参照)
- オイルの粘度は、外気温によって下表のように使い分けてください。

気温(℃)	-20	-10	0	10	20
エンジン オイル	SAE10W-30		SAE20		SAE 30
燃料 (軽油)	JIS 特3号	JIS 3号	JIS 2号		

#### 1 エンジンオイルの点検

レベルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから拔出し、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より規定量位置まで入れます。さらに、油もれのないことも調べます。

#### 2 エンジンオイルの交換

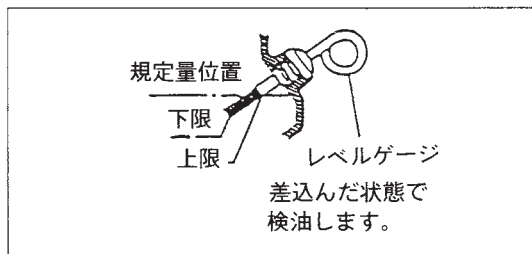
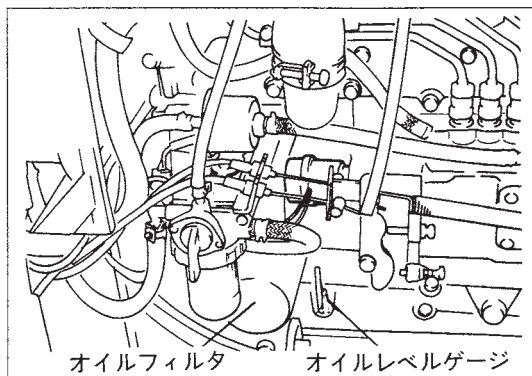
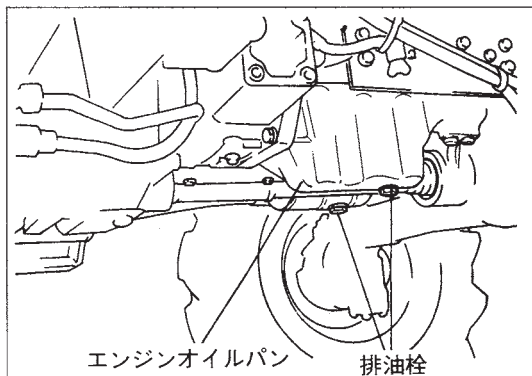
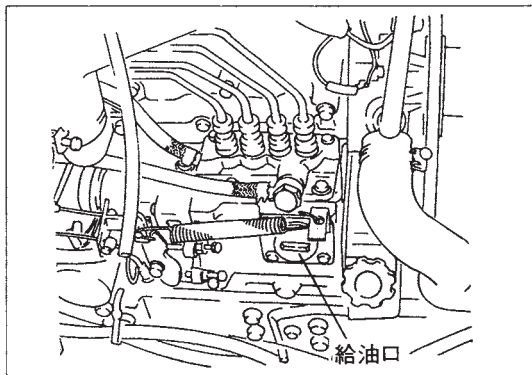
エンジンオイルの交換は、初回は50時間運転後に、第2回目からは100時間運転ごとに行います。

(1) オイルレベルゲージとエンジンオイルパンの排油栓(2箇所)を外し、オイルを抜

きます。

(2) 排油栓を締め新しいエンジンオイルを、オイルレベルゲージの刻み線《上》まで給油します。

- オイル……純正油またはディーゼルエンジンオイルAPI分類CC級以上
- オイル量……4.5ℓ



### ③ オイルフィルタの交換

オイルフィルタは「カートリッジタイプ」ですので、ご購入のうえ交換します。

- ・第1回目……………50時間運転後に交換
  - ・第2回目より…100時間運転ごとに交換
- (1) オイルフィルタ（カートリッジタイプ）は手でゆるまない場合は専用工具（市販品）を使用して、外します。
- (2) オイルフィルタを交換したときは、「オイル量」が多く入るのでオイルレベルゲージでオイル量を確認し、不足のときは規定量まで補給します。

#### 取扱いのポイント

- オイルフィルタを取付けるときは、パッキン面にオイルを塗り、オイルフィルタを手で締め、パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。

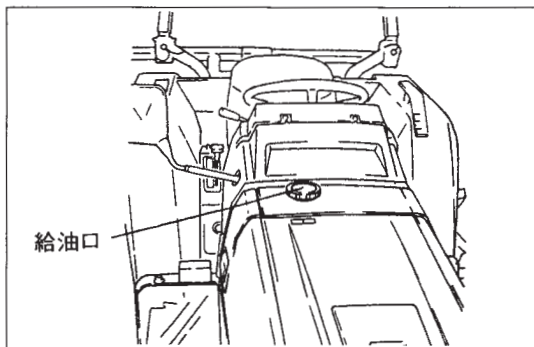
## ② 燃料の補給



安全のポイント

- ◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因となります。
- ◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- ◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料もれがないか点検をし、もれている場合は交換してください。

燃料タンクの残量を確認し、「こし網をとおして」燃料（ディーゼル軽油JIS 2号または3号・特3号軽油）を補給します。



#### 取扱いのポイント

- 軽油は、気温に合わせて、JIS 2号、3号、特3号軽油を使用してください。
  - −10℃までは 2号
  - −20℃までは 3号
  - −20℃以下は特3号

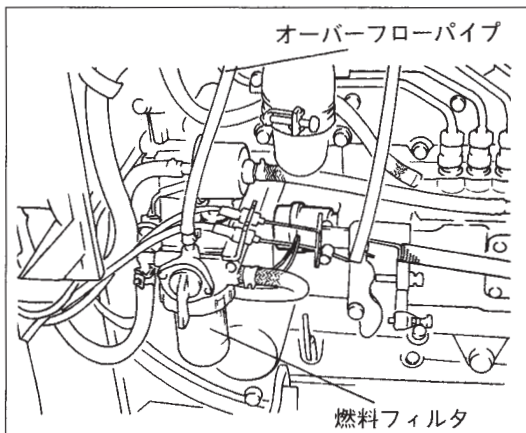
#### ① エア抜き要領（エア抜き容易化装置）

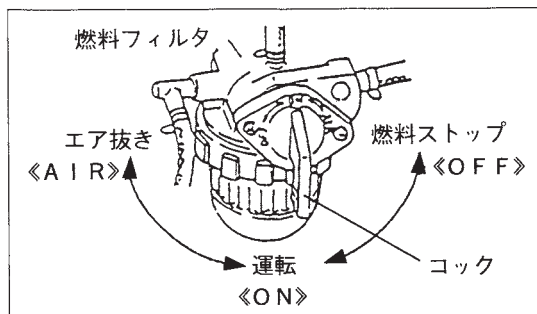


安全のポイント

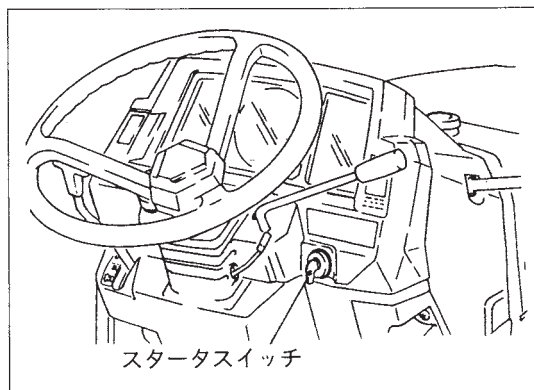
- ◆燃料満タン時や、前傾になっているときは、コックが《AIR》状態になったままですとオーバーフローホースより燃料がもれますのでこぼれた燃料をふきとってください。

- (1) 燃料が空のときは5ℓ以上補給します。
- (2) ボンネットを開け、右サイドカバーを取外します。
- (3) 燃料フィルタのコックを《AIR》にします。





- (4) オーバーフローホースに燃料が上って来るのを確認します。
- (5) オーバーフローホースに燃料が上ったら燃料フィルタのコックを《ON》に戻します。
- (6) スタータスイッチを《ON/OFF》にすると燃料ポンプが作動します。

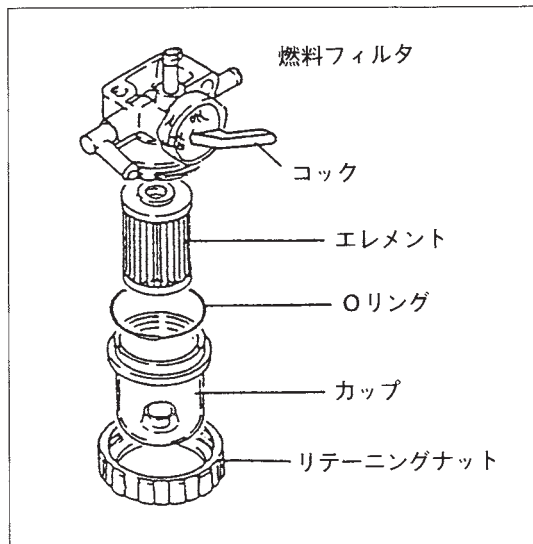


- (7) (6)項の状態を約15秒間保持すると、インジェクションポンプ内のエアが抜けます。
- (8) 以上でエア抜きは完了ですのでエンジンを始動します。
- (9) 始動しないときは、(3)～(7)項を繰り返します。
- (10) 右サイドカバーを取付けます。

## ② 燃料フィルタの掃除と交換

- (1) 50時間ごとに掃除し、200時間ごとに交換します。
- (2) コックを《OFF》の位置にしてリテーニングナットを外します。
- (3) カップを取外し、きれいな軽油で洗浄します。

- (4) エレメントを取外し、きれいな軽油で洗浄または交換します。
- (5) Oリングに注意しながらエレメントとカップを取付け、リテーニングナットを締付けます。
- (6) エア抜き要領に従ってエア抜きをします。



## ③ 冷却水の保守管理

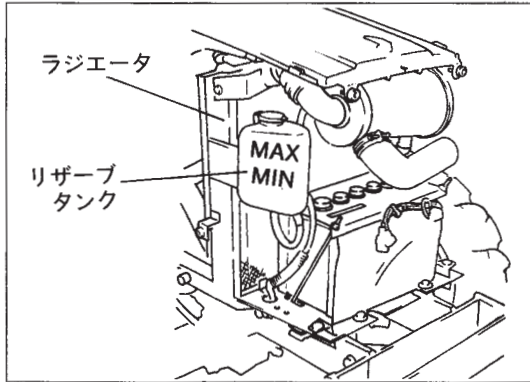


- ◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。
- ◆キャビン装備機は冷却水の交換時期・濃度管理を確実にこなしてください。キャビン装備機はヒーターが室内にあり、管理が不十分な場合ヒーターコアチューブが腐食し室内に熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。

ラジエータの冷却水の取扱いを誤ると、エンジンの寿命に大きな影響を与えます。

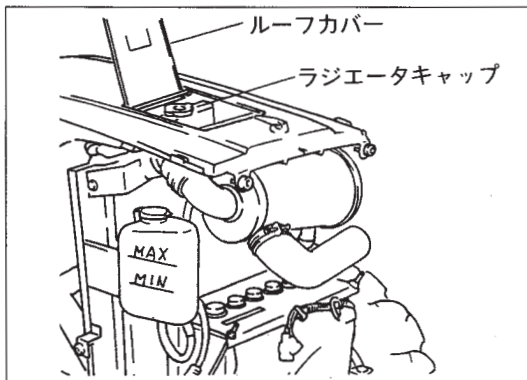
## ① 冷却水の点検

- (1) ラジエータにはリザーブタンクが付いていてラジエータ内の冷却水を適量にする構造になっています。「日常点検」し、冷却水が不足している時は補給します。
- (2) サイドカバー右を開いてリザーブタンク内の冷却水が《MAX》(上限), 《MIN》(下限)の間にあることを確認します。
- (3) 冷却水が不足している時は補給します。

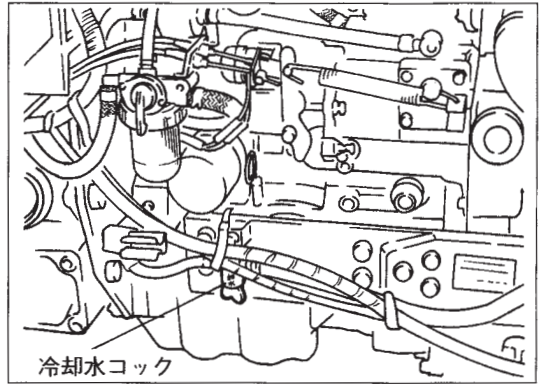


## ② 冷却水の交換

- (1) ボンネットのルーフカバーを開きラジエータキャップを外します。



- (2) 右サイドカバーを外し、エンジン冷却水コックをゆるめ、冷却水を排水します。  
リザーブタンクの排水はリザーブタンクを外して行います。



- (3) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰り返し、内部を洗浄します。
  - 洗浄剤を使用すると効果的です。
- (4) 排水が終わったら冷却水コックを閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を入れたのちラジエータキャップを閉めます。
  - 一度エンジンをかけると冷却水が循環してラジエータ内の水量が減りますので補給します。
  - エンジンラジエータ内部の腐食を防止するため、冷却水に防錆剤を添加します。
  - 冷却水量…6.4ℓ, 336・336H型 7.1ℓ

## ③ 不凍液の注入要領

- (1) 工場出荷のときは不凍液が注入され「外気温度-25℃」を保っていますが、納入後1年以上経過すると効力が低下しますので、冷却水を抜き「不凍液濃度基準」を参考に入替えます。

不凍液濃度基準

外気温度	℃	-5	-10	-15	-20	-25	-30
不凍液濃度	%	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50

- 不凍液は「ロングライフクーラント」を使用します。

- (2) 別容器 (ポリバケツ) に不凍液を必要量

(濃度基準表参照) 入れます。

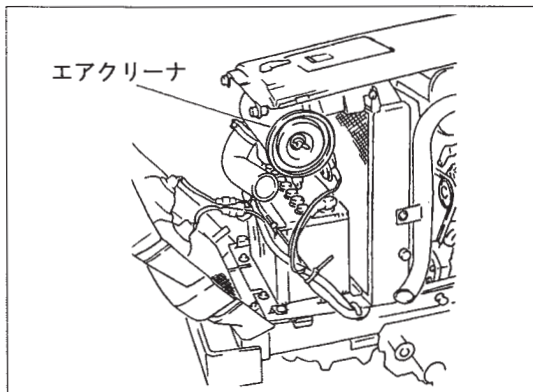
- (3) 清水を加えよく攪拌した後にラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。
- 一度エンジンをかけると冷却水が循環してラジエータ内の水量が減りますので補給します。

### 取扱いのポイント

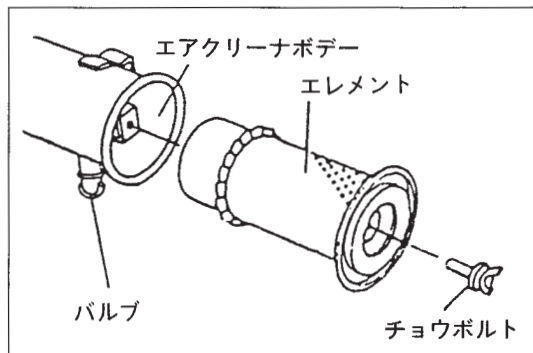
- 冷却水には清水を使用してください。泥水や塩水を使用しないでください。
- 冬季には冷却水が凍結し、エンジンやラジエータを破損することがあります。不凍液を混合してご使用ください。

## 4 エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたまま使用すると、エンジンの内部の摩耗、あるいは出力が低下します。



- 1 チョウボルトを外し、エレメントを取出します。
- 2 エレメント・エアクリーナボデーの内部・バルブの内部を掃除します。



### 取扱いのポイント

- コンプレッサで吹きつける場合は、空気圧「7 kgf/cm<sup>2</sup>以下」で行なってください。

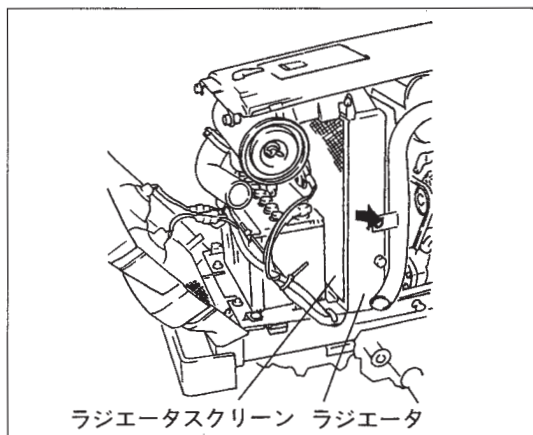
## 5 ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除



安全のポイント

- ◆ ラジエータ、ラジエータスクリーンの掃除をするときは、エンジンを停止してエンジンが冷えてから行ってください。

- 1 ラジエータスクリーンを左側に抜取り、手で「ゴミ・ワラ」等を取除きます。
- 2 ラジエータの目詰まりを点検し、詰まっている場合は、まずラジエータ前面の手で取れる大きな「ゴミ・ワラ」等を取除き、エアをファン側より吹きつけ「ホコリ・ゴミ」等を取除きます。



## ⑥ ミッションオイルの点検と交換

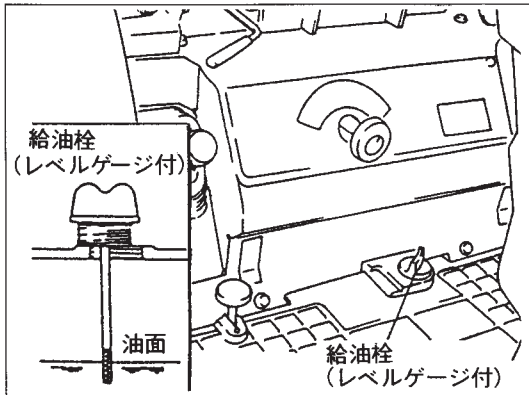


安全のポイント

◆ミッションオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

### ① 点検・補給

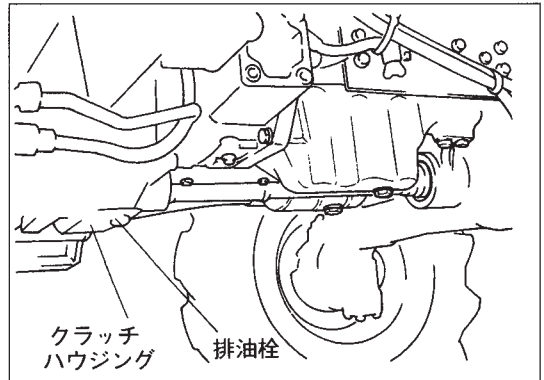
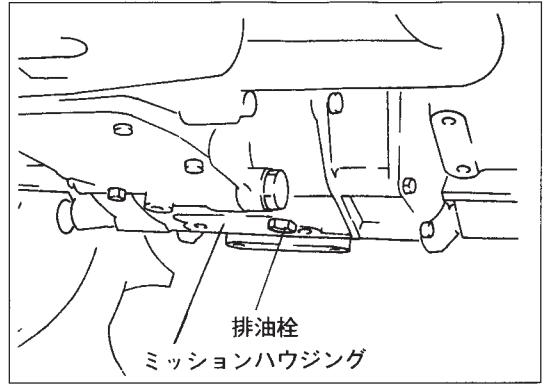
- ・給油栓を外し、レベルゲージの刻み線まであれば適量です。
- ・エンジンを始動しているときは、オイルレベルが低下します。検油する場合はエンジンを停止してから30分以上たってから行います。
- ・エンジン始動前にはオイルレベルを確認します。
- ・不足している場合はレベルゲージの刻み線まで補給します。



### ② オイルの交換

ミッションオイルの交換は、初回は100時間運転後に、第2回目からは200時間運転ごとに行います。

- (1) ミッションハウジング後方下部およびクラッチハウジング下部1個所の排油栓を外しオイルを抜きます。
- (2) オイルが暖かいうちに行くと容易に抜けます。



- (3) 排油栓を締め新しいギヤオイルを、レベルゲージの刻み線「上」まで給油します。
  - ・ギヤオイル……API, GL-4 級以上で  
湿式ブレーキ適性オイル
  - ・オイル量………41ℓ

### 取扱いのポイント

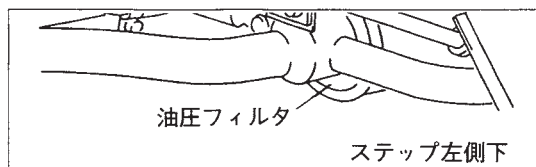
- オイルの量は、エンジン始動前かエンジンが冷えているときに調べてください。

## ⑦ 油圧フィルタの交換

油圧フィルタは「カートリッジタイプ」ですので、購入のうえ交換します。

- ・初回…100時間運転後に交換
  - ・第2回目より…300時間運転ごとに交換
- ① ステップ左下の油圧フィルタの回りの土などを取除きます。
  - ② 油圧フィルタは手でゆるまない場合には専用工具（市販品）を使用して、外します。

- ③ 油圧フィルタを交換したときは、「オイル量」が多く入るので、5分間運転してからレベルゲージで確認し規定量まで補給します。



### 取扱いのポイント

- 油圧フィルタを取付けるときはパッキン面にオイルを塗り、油圧フィルタを手で締め、パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。

## ⑧ フロントアクスルオイルの点検と交換

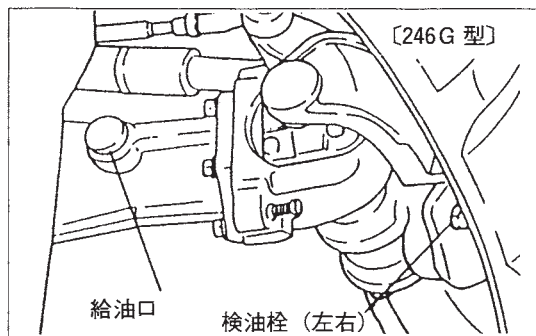
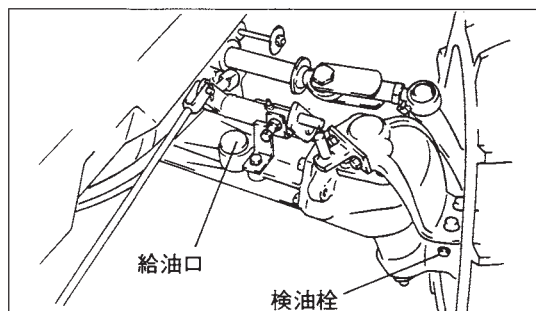


安全のポイント

- ◆フロントアクスルオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

### ① 点検・補給

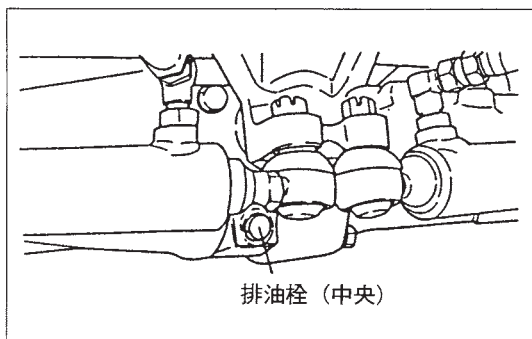
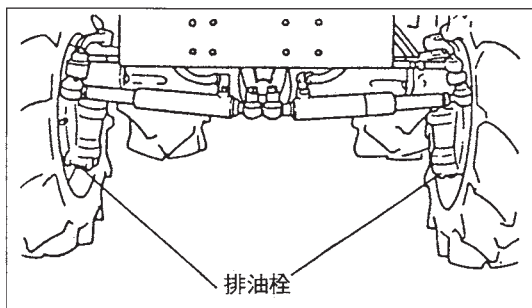
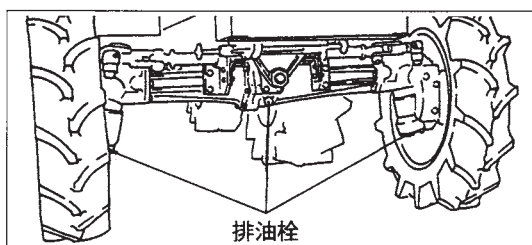
検油栓を外しオイルが出れば適量です。不足している場合は検油穴からオイルが出るまで補給します。



### ② オイルの交換

フロントアクスルオイルの交換は、初回は100時間運転後に、第2回目からは200時間運転ごとに行います。

- (1) 排油栓（3個所）を外し、オイルを抜きます。オイルが暖かいうちに行くと容易に抜けます。
- (2) 排油栓を締め、新しいギヤオイルを給油口（右）より規定量給油します。
  - ギヤオイル……API, GL-4 級, SAE80
  - オイル量………3.0ℓ
- (3) 左右の検油栓を取外し、オイルが出たら栓を締めます。



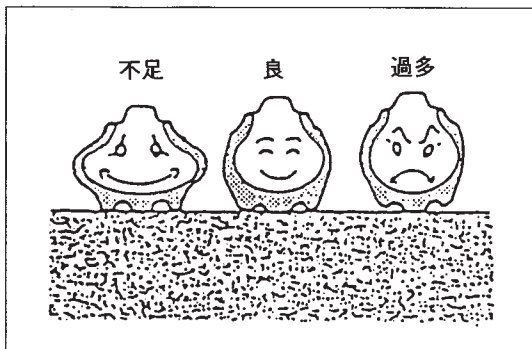
### 取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。
- 給油栓を外しデフシャフトの中心から下面までの間にオイルがあるか確認してください。



## 9 タイヤの点検

- 空気圧および損傷を点検します。損傷のひどい場合は交換します。
- 標準空気圧  
前輪……1.5kgf/cm<sup>2</sup> (150kPa)  
後輪……1.0kgf/cm<sup>2</sup> (100kPa)



### 取扱いのポイント

- フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を2.5kgf/cm<sup>2</sup> (250kPa) にしてください。

## 10 ハンドルの点検

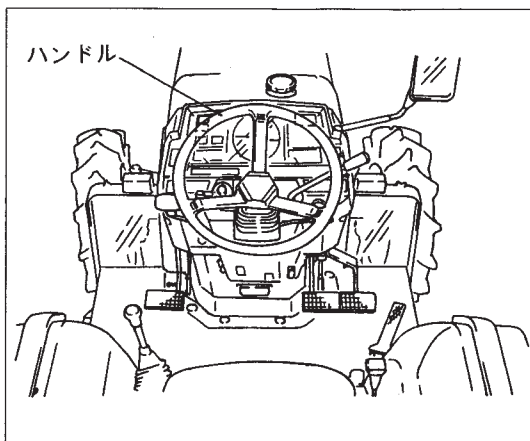


### 安全のポイント

- ◆ ハンドルに著しいガタや遊びがないか作業前に点検してください。著しいガタや遊びがあると、思わぬ事故になることがあります。

ハンドルの遊び量が適正でないと、ハンドルが重くなったり直進性が悪くなります。遊び量を点検します。

- ① ハンドルを軽く左右に動かして遊び量が40～70mmであれば適正です。
- ② 遊び量が適正でない場合はただちに点検サービスを受けます。



## 11 ホース類の点検



### 安全のポイント

- ◆ 燃料ホースの損傷（割れ、破れ、継ぎ部のゆるみ）、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し、もれている場合は、火災の原因となりますので交換してください。
- ◆ ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると、熱湯が吹き出します。
- ◆ パワーステアリングホースの継ぎ部のゆるみや、油もれがないか点検してください。油がもれるとパワーステアリングがきかなくなり事故を引起こす原因になります。

燃料ホース、ラジエータホース、パワーステアリングホースなど老化や傷による燃料もれ水もれ油もれがないか、また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

### 取扱いのポイント

- 燃料ホースは定期交換部品ですので2年ごとに交換してください。
- 燃料ホースを交換したときは、エア抜きをしてください。(88ページ参照)

## 12 電気配線の点検と掃除



安全のポイント

- ◆電気配線の点検時には、スタータスイッチを《STOP》(停止)にし、バッテリーコードのアース側⊖端子を外してください。
- ◆ワイヤハーネスおよびバッテリー⊕コードが損傷していると、ショートや漏電または焼損などで火災や損傷の原因となりますので交換してください。
- ◆エンジン、バッテリー、電気配線回りのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

### ① 電気配線の点検

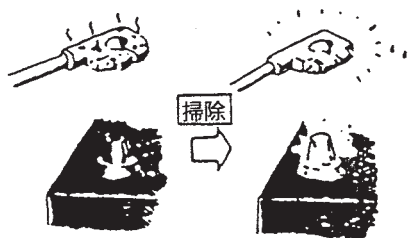
配線の端子部の「緩み」や「接続不良」または配線が「損傷」していると電気部品の性能を損うだけでなく、「ショート (短絡)」等をする可能性があります。

傷んだ配線は、交換、修理します。

### ② 電気配線の掃除

- (1) エンジン、バッテリー、電気配線部にたまっている「ワラやゴミ」などは「火災」の原因になりますので取除きます。
- (2) バッテリー端子にバッテリー液がかかると、端子が「腐食」することがあります。バッテリー端子が腐食すると、「接触抵抗」が大きくなり、電流が流れにくくなりますので、「定期的」に汚れや腐食をサンドペーパーやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。

「端子のチェック」



## 取扱いのポイント

- ◆エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。  
エンジン始動不良の原因となります。

## 13 バッテリーの点検と充電



安全のポイント

- ◆ブースタケーブル接続前にエンジンを停止してください。
- ◆ブースタケーブルは100A以上の仕様のもので使用してください。  
容量の小さいケーブルを使用するとケーブルが焼損し火災の原因となることがあります。
- ◆バッテリーを「着脱」したり充電器で「充電」するときは、エンジンを停止し、始動キーを抜取ってください。
- ◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると、電装部分が焼損し、負傷をすることがあります。
- ◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。
- ◆バッテリーを充電するときは、液口栓をすべて取外してください。
- ◆バッテリーは、充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し、「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり、「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。
- ◆⊖端子を取付けたままで充電すると発電器やハーネスを焼損することがあります。
- ◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をしてください。
- ◆バッテリー液 (電解液) は、希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。ヤケドをすることがあります。

◆充電のとき「バッテリー液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り、衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

◆バッテリー液が皮膚に付着したり目に入ったときは、直ちに水洗いをし、医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし、弱アルカリ性石けんで硫酸分を洗い流してください。

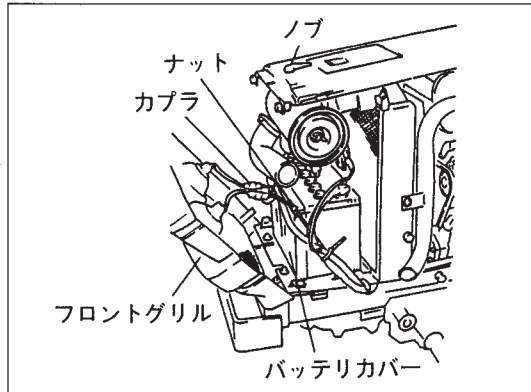
① ボンネット上のノブを時計方向に回して、フックを外し、フロントグリルの上側を少し前に倒します。

② 電気配線のカプラを2箇所外します。

③ フロントグリルを上方に引上げて取外します。

④ ナット2個を緩めて、バッテリーカバーを取外し、バッテリーの残存容量と液量を確認します。

指定バッテリー……65D31R



### ⑤ バッテリー取付金具の点検

バッテリーの取付けがゆるいと上下左右に動き、電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

取付金具でしっかり固定します。

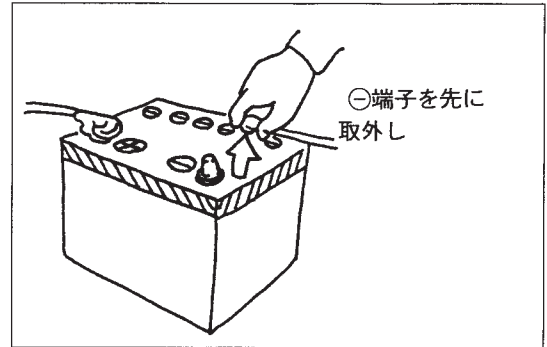
取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。

### ⑥ バッテリー着脱時の注意

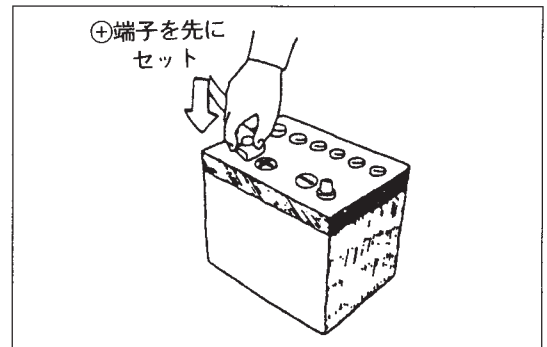
(1) バッテリーを「着脱」したり充電器で「充電」するとき、エンジンを停止し、「始動キー」を抜取り、すべての制御スイッチ

を「OFF」(切)にします。

(2) バッテリー端子を取外すときは「アース側⊖端子」を先に外します。



(3) バッテリー端子をセットするときは「プラス側⊕端子」を先に取付けます。

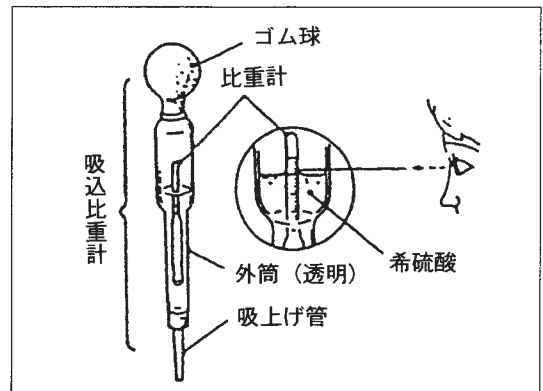


### ⑦ 残存容量の確認

バッテリー液の「比重」を測定する方法と、「バッテリーテスタ」で測定する方法があります。

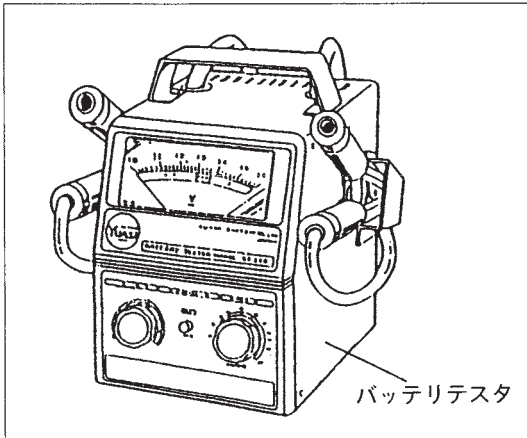
残存容量が低下していれば、ただちに補充電をします。

(1) バッテリー液の比重が「1.220(20°C)」以下であれば補充電をします。



比重 (20℃)	放電電気量 (%)	残容量 (%)
1.280	0	100
1.235	25	75
1.190	50	50
1.145	75	25
1.100	100	0

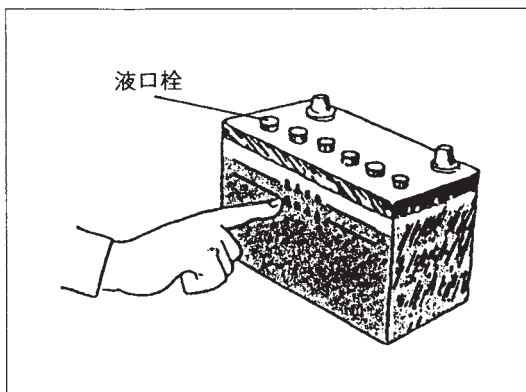
- (2) バッテリテスタで測定し、メータの指示範囲が黄ゾーン以下であれば補充充電をします。
- 緑ゾーン……………正常  
黄ゾーン……………やや放電  
赤ゾーン……………かなり放電



### ⑧ バッテリ液量の確認

使用状態での充電電流によりバッテリー液が電気分解され、しだいに液面が低下します。バッテリー液が不足して極板が空气中に露出しますと、バッテリーの寿命は著しく短くなります。

減っていれば、バッテリー補充液を「最高液面」まで注水補給します。

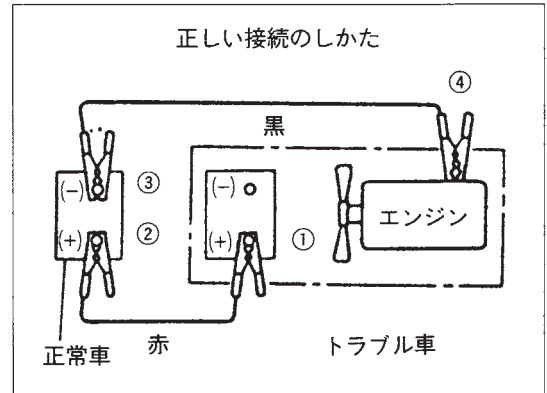


### ⑨ ブースタケーブルの使いかた

バッテリーが放電し、エンジンが始動できないとき、他車（12V仕様車）の良好なバッテリーを電源として始動するため、ブースタケーブルを使用します。ブースタケーブルは100A以上の仕様のもを使用します。このときは次の手順を守って行います。

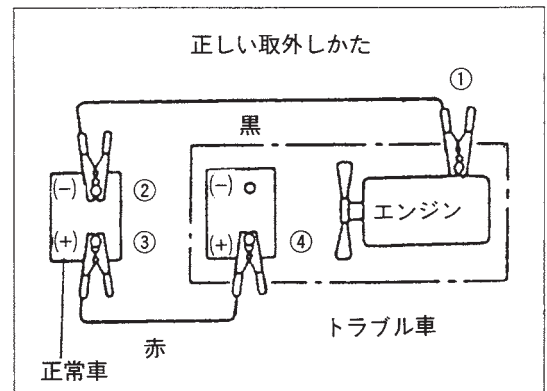
#### 「ブースタケーブルの接続のしかた」

- (1) 正常車のエンジンを停止して、図の①～④の順序でブースタケーブルを接続します。
- (2) 放電バッテリー搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくい時は正常車のエンジンをスタートしてから、放電バッテリー搭載車のエンジンをスタートさせます。



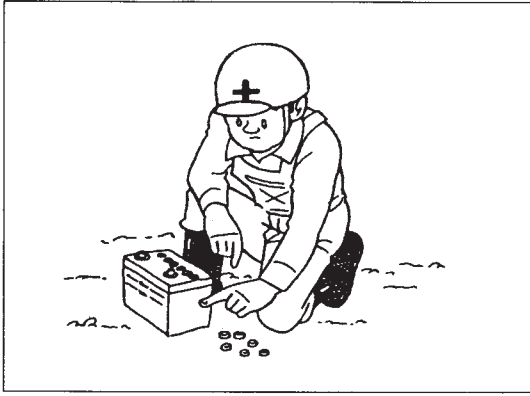
#### 「ブースタケーブルの取外し方」

- (1) エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは、接続の場合と逆の順序で行います。

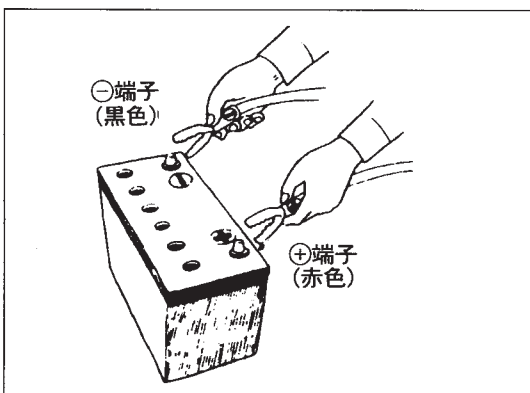


## 10 バッテリーの充電

- (1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し、「始動キー」を抜取ります。
- (2) 機械からバッテリーを取外します。
- (3) 充電するときは「液口栓」をすべて取外します。



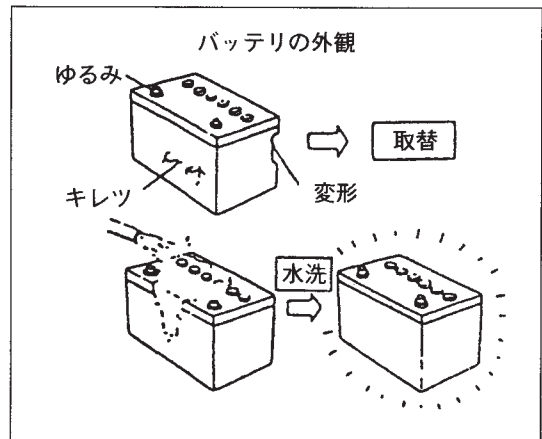
- (4) 急速充電はできるだけ避け、普通充電し液温が「45℃」を超えないようにします。
- (5) 「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をします。
- (6) 「火気」を近づけたり「スパーク」による電気火花が発生ないようにします。
- (7) 充電器のクリップを着脱するときは、充電器のスイッチを「切」にし、⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。



- (8) 充電のとき「バッテリー液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り、衣服や皮膚に付着ないようにします。

## 取扱いのポイント

- 各端子は「ゆるみ」がないように締付けてください。
- 取付けのとき、バッテリー部は布などで油等をふき取ってください。取付け後バッテリー部には、腐食防止のためグリスを塗布してください。
- バッテリー⊕端子のゴムブーツは、取付けてください。
- 厳寒時は、機械を格納するときにバッテリーを取外して暖かい所に保管してください。
- 亀裂や変形のあるバッテリーは新品と取替えてください。汚れていれば清水で洗浄してください。洗浄後は水分を拭きとってください。
- 化学繊維製布による拭きとりは、静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。



### 3 調整のしかた

- 各部は出荷のときに正しく調整されていますが、使用による摩耗や伸びが生じてくる場合がありますので再調整を行い、損耗の限度を超えた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。



安全のポイント

- 掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き、エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。

#### 1 ベルトの点検・調整

##### ファンベルトの張り調整

点検	ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し、たわみ量が「10～13mm」となっていますか。	
調整	<ol style="list-style-type: none"> <li>オルタネータ取付ボルト、ナットをゆるめます。</li> <li>オルタネータを外側に倒しベルトを張ります。</li> <li>オルタネータを内側に倒すとベルトはゆるみます。</li> <li>調整後は取付ボルトを確実に締付けます。</li> </ol>	

手入れのしかた

#### 2 ペダルの点検・調整

##### クラッチペダルの遊び調整

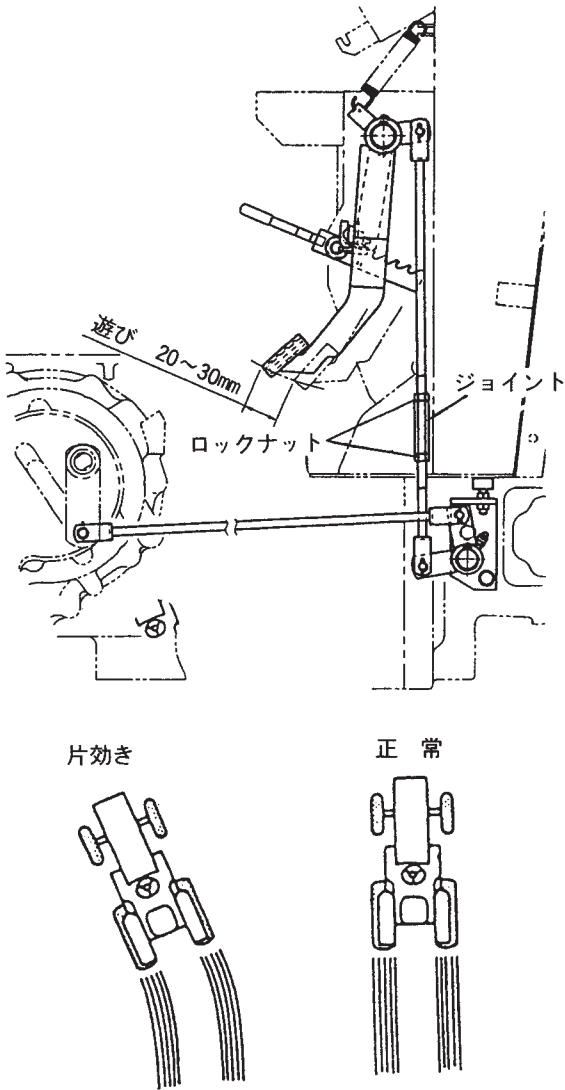
点検	クラッチペダルの遊び量が「20～30mm」となっていますか。	
調整	<ol style="list-style-type: none"> <li>ロックナットをゆるめます。</li> <li>ロッドを回して調整します。ねじ込む…遊びが少なくなります。ねじ戻す…遊びが多くなります。</li> <li>ロックナットを締付けます。締付トルク…1.2～1.7kgf・m</li> </ol>	



安全のポイント

- 調整後、クラッチペダルを踏込んで、クラッチが確実に切れることを確認してください。

## ブレーキペダルの遊び調整

点検	<p>左右のブレーキペダルの遊び量が各々「20～30mm」になっていますか。</p>	
調整	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ロックナットをゆるめます。</li> <li>② ロッドを回して調整します。 ねじ込む…遊びが少なくなります。 ねじ戻す…遊びが多くなります。</li> <li>③ ロックナットを締付けます。 締付トルク…2.1～3.0kgf・m</li> </ol>	
確認	<p>左右ともに正規の寸法が出たら次の要領で確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効き…片輪制動その場旋回を して見てブレーキの効きを確かめます。(左右)</li> <li>・片効き…左右ブレーキペダルを 連結板で連結し、普通走行で走り、両方のブレーキペダルを一緒に踏んで、タイヤスリップ跡により片効きの有為を確かめます。トラックが真っ直ぐ止まれば正常ですが、曲がって止まる場合は再調整します。</li> </ul>	



安全のポイント

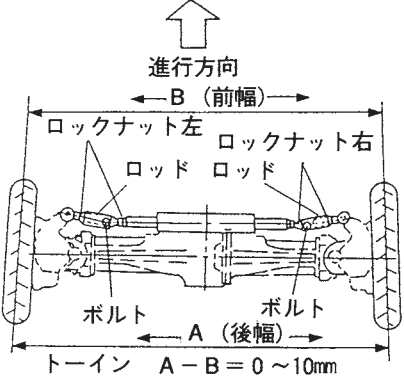
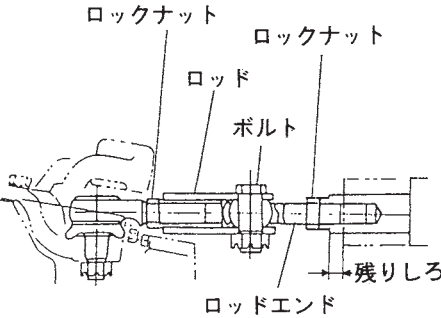
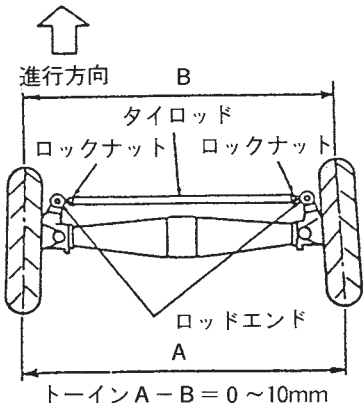
◆調整時左右のブレーキペダルの踏込み量を合わせてください。

ブレーキの効きが悪かったり、片効きなどがあると転落、転倒事故の原因となります。

### ③ トーインの点検・調整

- ・トーインは車の安定性を左右する重要な役目を持っています。走行中にハンドルがとられやすくなった時はトーインが狂っている恐れがありますから点検調整します。
- ・トーインとは前輪を上から見て前部が後部より狭くなっていることを言います。

#### タイロッドの調整

点検	<p>トーインが「0～10mm」になっていますか。 (タイヤ中心)</p>	
調	<p>シリンダのストロークのエンドでのロッドの残りしろが左右同じになるように、次の要領でロッドを調整します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 前輪の遊びがないことを確かめてから調整を行います。</li> <li>② 調整する側のロッドのロックナット（2箇所）をゆるめます。</li> <li>③ ロッドを回してロッドエンドをネジこめばトーインは大きくなります。</li> </ol> <p>調整は1回転単位とし、ボルトの頭は「上方」になるよう調整します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>④ 調整後はロックナットを締付けて、フロントタイヤの前端を手で左右に振ってみて異常な遊びのないことを確かめます。</li> </ol> <p>締付トルク 15～17kgf・m</p>	
整	<p>[246G型]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① タイロッドのロックナットを左右共ゆるめます。</li> <li>② タイロッドを回してロッドエンドにネジこめばトーインは大きくなり、逆にネジもどせばトーインは小さくなります。</li> <li>③ 調整後は左右のロックナットを締付けて、前輪の前端を手で左右に振ってみて異常な遊びのないことを確かめてください。</li> </ol> <p>注意：前輪の遊びが無いことを確かめてから調整を行なってください。</p>	



#### 安全のポイント

- ◆トーインの調整が悪いとハンドルを取られたり、異常に振られることがあります。

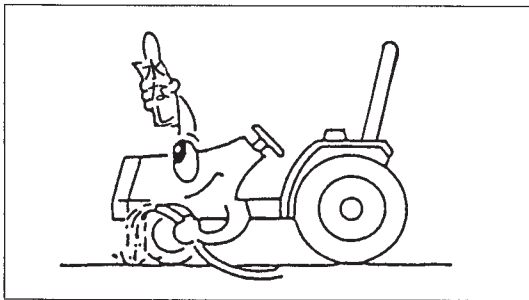


## 4 格納のしかた

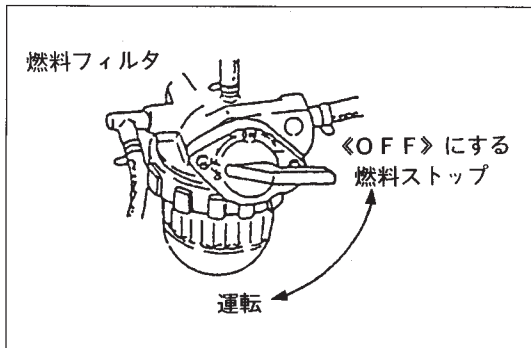
### 1 機械の掃除・洗浄・格納

トラクタを保管するときは各部の汚れをよく掃除したうえで次の処置をします。

- ① 金属露出部、ネジ部にグリスやオイルを塗って錆止めします。
- ② 油もれ個所、各部の油量を点検し約5分間エンジンを回してオイルを各部にゆきわたらせませます。
- ③ 不凍液の濃度を調整します。



- ④ 燃料タンクに軽油を満タンにし、燃料フィルタのコックを《OFF》にします。



- ⑤ タイヤの老化を防止するために空気圧を高めに入れてタイヤの下に板等を敷いて直接地面に置かない。
- ⑥ 作業機（ロータリなど）を地面におろします。

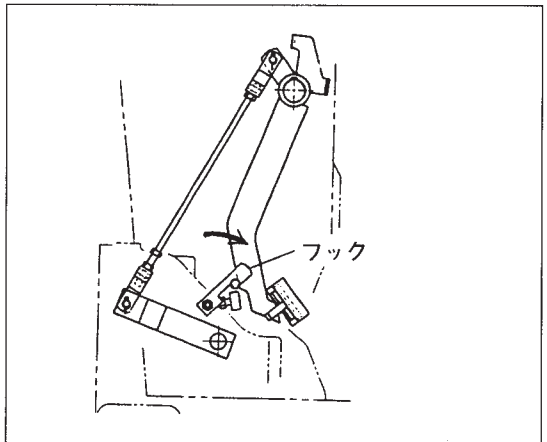


安全のポイント

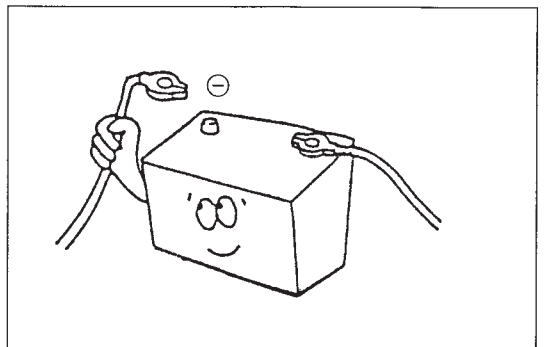
- ◆機械にシートカバーを掛ける時はエンジンが冷えてから行なってください。

エンジンが熱いときにシートカバーを掛けると火災の原因になることがあります。

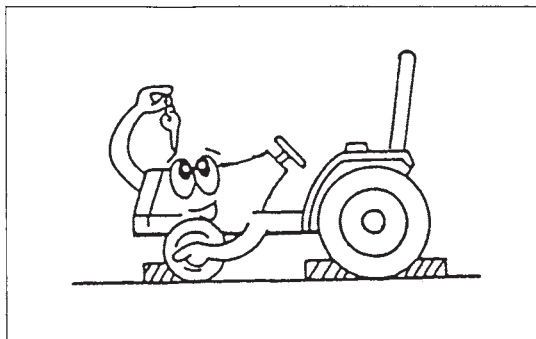
- ⑦ 保管場所は屋内とする。やむをえず屋外におく場合は風雨にさらさないようシートカバーを使用します。また停止直後の「熱い状態」ではシートカバーをかけない。
- ⑧ ウェイト類を取外します。
- ⑨ クラッチこ着防止のため、クラッチペダルを押下げ、フックをかけてクラッチ「切」の状態にします。



- ⑩ 保管中の不意な漏電、発火を防ぐためバッテリーを車体から取外し、風通しの良い屋内に保管します。また機体に取り付けたまま保管するときはバッテリーのマイナスターミナル（アース側）を外しておきます。



- ① 保管中、不意にトラクタが動き出すのを防ぐため、タイヤに歯止めをし、キーを抜取っておきます。



### 取扱いのポイント

- 錆の発生を防止するため、塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。
- 高圧洗車機にて洗浄する場合には、メータパネルおよび電装品に直接水をかけないでください。
- エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。

## ② 格納中の手入れ

- ① 1ヶ月に1度、防錆、バッテリー補充電のためエンジンを約10分間回します。
- ② 金属露出部、ネジ部を点検し、防錆処置をします。
- ③ 油もれ、水もれの有無を点検し不具合のある場合は処置します。
- ③ キャビン装備機のアアコンは、シーズンオフでも1週間に1度数分間運転してください。

運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ、アアコンを常時最良の状態に保つことができます。

### 取扱いのポイント

- エンジンを回す前に冷却水、バッテリーターミナル等保管準備で処置した項目を復元してください。

## ③ 再使用にあたって

格納後、はじめて使用するときには各部の点検を入念に行なった後に運転します。

- ① 冷却水、バッテリーターミナル等保管準備で処置した項目を正しく復元します。
- ② 始業点検を確実にいきます。

# 不調の発見と処置

- ・異常を感じたときは、すぐにその原因を調べて対策をし故障を大きくしないようにします。
- ・原因がわからないときは、「お買いあげ先」に相談のうえ処理します。
- ・そのときは「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」を合わせてお知らせください。



## 安全のポイント

- ◆掃除・点検・調整・整備は、機械を平坦な場所に置き、駐車ブレーキをかけ、作業機を降ろしエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆エンジン回りを点検・整備するときは、エンジンが冷えてから行なってください。

## 1 エンジン部

### 始動しない、または始動困難

状 況	原 因 (点検個所)	処 置	参照ページ
①スタータスイッチを回しても、スタータが回らない	○クラッチペダルの踏み忘れ	・ペダルをいっぱい踏込みます	34, 35
	○バッテリーの放電	・バッテリーを充電、交換をする	98, 102
	○各部端子のゆるみ	・はずれ、ゆるみ、腐食を点検し掃除して確実に締付け、グリスを塗布し防錆しておく	98
	○ヒューズブルリンクの溶断	・配線をチェックしヒューズブルリンク⑧を交換する	22, 95, 122
②スタータが回るが、回転が上がらない	○セフティスイッチの故障	・サービス工場での修理または交換をする	95~98 95
	○スタータの故障	・サービス工場での修理または交換をする	
	○バッテリーの放電	・バッテリーの充電をする	
③スタータが回るが、回転が上がらない	○アース不良	・接続部を掃除し、アースを確実にする	30, 31, 87
	○エンジンオイルの粘度不適	・適正粘度のオイルに交換する	

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
③スタータは回るが、エンジンがかからない	○燃料タンクに燃料がない	・補給する	30, 31, 88
	○燃料フィルタのコックが《ON》になっていない	・《ON》にする	31, 89
	○燃料フィルタ詰まり	・フィルタの掃除または交換をする	89, 121
	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	88, 89
	○燃料ポンプの故障	・燃料ポンプの交換	
	○エンジン本体の不具合	・サービス工場での修理	

### エンジン出力不足およびエンジン自然停止

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①エンジン回転が不規則	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	88, 89
	○燃料フィルタの水・ゴミ詰まり	・フィルタの掃除または交換をする	89, 121
	○噴射ノズルの水・ゴミ詰まり	・サービス工場での修理	
	○パイプ系の燃料もれ	・クランプの締付け、パイプ交換をする	
	○燃料噴射の不揃い	・サービス工場での修理	
②エンジンを低速にすると停止する	○インジェクションポンプの不良	・サービス工場での修理	
	○エンジンバルブクリアランス不良	・サービス工場での修理	
	○ノズル不良	・サービス工場での修理	
③エンジンが過回転する	○ガバナにゴミ等が詰まっている	・サービス工場での修理	
④運転中エンジンが突然停止した	○燃料不足	・燃料補給とエア抜きを行う	22, 95, 122
	○ヒューズブルリンク <sup>ⓑ</sup> の溶断	・配線をチェックしヒューズブルリンクを交換する	
	○ヒューズBの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	21, 95
	○ノズル不良	・サービス工場に依頼し交換をする	
	○オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付き	・サービス工場に依頼する	

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
⑤ エンジンが過熱する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ラジエータの目詰まり</li> <li>○ 冷却水の不足</li> <li>○ ファンベルトのゆるみ, 破損</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラジエータスクリーンを掃除する</li> <li>・ 冷却水を補給する</li> <li>・ ベルトの張り調整または交換をする</li> </ul>	<p style="text-align: center;">91</p> <p style="text-align: center;">30, 32, 89, 90 99, 121</p>
⑥ エンジンの排気色が白い (除く始動直後)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ エンジンオイル量が多すぎる</li> <li>○ エンジン本体の不具合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 点検し適正量にする</li> <li>・ サービス工場での修理</li> </ul>	<p style="text-align: center;">30, 31, 87</p>
⑦ エンジンの排気色が黒すぎる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ エアクリーナが詰まっている</li> <li>○ 燃料が悪い</li> <li>○ 燃料の供給過剰</li> <li>○ ノズル不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エレメントの掃除をする</li> <li>・ 正規の燃料に入替える</li> <li>・ サービス工場での修理</li> <li>・ サービス工場での修理</li> </ul>	<p style="text-align: center;">91</p> <p style="text-align: center;">30, 31, 88</p>
⑧ エンジンの出力不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ エアクリーナの詰まり</li> <li>○ 燃料不足, 燃料フィルタの詰まり</li> <li>○ 噴射時期不良</li> <li>○ バルブクリアランス調整不良</li> <li>○ 圧縮圧力の不足, バルブシート部よりガスもれ</li> <li>○ ノズルの焼付き, 詰まりおよびカーボンのたまり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エレメントを掃除する</li> <li>・ 燃料系統をチェックする</li> <li>・ サービス工場での修理</li> </ul>	<p style="text-align: center;">91, 121</p> <p style="text-align: center;">30, 31, 88 89, 121</p>
⑨ 運転中オイルランプが点灯する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ エンジンオイル量が少ない</li> <li>○ エンジンオイルの粘度が低い</li> <li>○ オイルフィルタの目詰まり</li> <li>○ プレッシャスイッチの故障</li> <li>○ オイルポンプの故障</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規定量まで補給する</li> <li>・ 適正粘度のオイル交換する</li> <li>・ オイルフィルタを交換する</li> <li>・ スイッチを交換する</li> <li>・ サービス工場での修理</li> </ul>	<p style="text-align: center;">30, 31, 87</p> <p style="text-align: center;">30, 31, 87, 125 87, 88, 121</p>
⑩ 運転中にチャージランプが点灯する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 配線の故障</li> <li>○ オルタネータの故障</li> <li>○ ファンベルトのゆるみまたは破損</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 端子のゆるみ汚損, アース不良の修理をする</li> <li>・ サービス工場での修理</li> <li>・ 張り調整またはベルト交換をする</li> </ul>	<p style="text-align: center;">95</p> <p style="text-align: center;">99, 121</p>

## 2 走行・運転操作部

### 走らない、ブレーキがきかない

状 況	原 因 (点検個所)	処 置	参照ページ
①クラッチがすべる	○ペダルの調整不良 ○クラッチライニングの摩耗・焼付き	・ペダルの遊びを調整する ・サービス工場でライニングを交換する	99
②クラッチが切れない	○ペダルの調整不良 ○クラッチライニングの錆付き	・ペダルの遊びを調整する ・サービス工場で修理する	99
③ブレーキの効きが悪 いまたは片 効きである	○ブレーキペダルの遊び量が大 きすぎる	・ペダルの遊びを調整する	100
	○ブレーキライニング摩耗・焼 付き ○左右の踏込み量が異なる	・サービス工場でライニングを 交換する ・踏込み量を左右同じにする	100
④ブレーキ ペダルの戻 りが悪い	○ブレーキ戻しスプリングの損 傷 ○各摺動部のグリス切れ	・スプリングを交換する ・グリスアップをする	30, 33
⑤ダイヤク イックター ンが作動し ない	○配線のギボシおよびカプラの 外れ	・点検しセットする	95
	○ヒューズDの断線  ○ソレノイドバルブ, ダイヤク イックターンスイッチ, 副変 速スイッチの故障	・配線をチェックしヒューズを 交換する ・サービス工場での修理する  故障したときはダイヤクイック ターンスイッチを速やかに切っ てください。	21, 95  7, 8, 45

## パワーステアリング

状 況	原 因 (点検個所)	処 置	参照ページ
① 圧力があ がらない	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 回路中のエア溜まり</li> <li>○ シール類の損傷</li> <li>○ 配管の損傷, 油もれ</li> <li>○ パワーステアリングのユニッ ト不良</li> <li>○ ポンプの不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サクション系配管を点検し完 全にエア抜きをする</li> <li>・ サービス工場での修理する</li> <li>・ 増締め, 又は交換する</li> <li>・ サービス工場での修理する</li> <li>・ サービス工場での修理する</li> </ul>	26  26
② ハンドル が重い  ハンドル がとられる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ タイヤ空気圧の不揃い</li> <li>○ ロッドエンドの遊び発生</li> <li>○ 使用オイルの粘性大</li> <li>○ トーイン不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 左右共に規定空気圧にする</li> <li>・ サービス工場での交換する</li> <li>・ オイル交換または暖機運転を 十分に行う</li> <li>・ 修正をする</li> </ul>	94  30, 92, 101
③ 追従性不 良	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 油量不足 (ミッションオイル)</li> <li>○ 各締付部のゆるみ発生</li> <li>○ ロッドエンドの遊び発生</li> <li>○ エア混入</li> <li>○ パワーステアリングユニット の不良</li> <li>○ ギヤポンプの損傷・摩耗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規定量まで補給する</li> <li>・ 増締めをする</li> <li>・ サービス工場での交換する</li> <li>・ サクション系配管を点検し完 全にエア抜きをする</li> <li>・ サービス工場での修理する</li> <li>・ サービス工場での修理・交換を する</li> </ul>	30, 32, 92
④ 前輪のふ らつき  (ハンドル の遊びが多 い)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各締付部のゆるみ発生</li> <li>○ ロッドエンドの遊び発生</li> <li>○ トーイン不良</li> <li>○ エア混入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 増締めをする</li> <li>・ サービス工場での交換する</li> <li>・ 修正をする</li> <li>・ サクション系配管を点検し完 全にエア抜きをする</li> </ul>	101  101 26
⑤ 油圧回路 系の異常音	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 油量不足 (ミッションオイル)</li> <li>○ 吸入抵抗過大によるキャビテー ション音</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規定量まで補給する</li> <li>・ 暖機運転を十分に行う</li> <li>・ オイル粘度を点検し, 指定オ イルに交換する</li> <li>・ 油圧フィルタの交換</li> <li>・ パイプのつぶれ等は修理</li> </ul>	30, 32, 92 26 26, 30, 32 92 92, 121

### 3 油圧部

#### 油圧関係

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①油圧回路の異常音	<ul style="list-style-type: none"> <li>○油量不足 (ミッションオイル)</li> <li>○吸入抵抗過大によるキャビテーション音</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規定量まで補給する</li> <li>・暖機運転を十分に行う</li> <li>・オイル粘度を点検し、指定オイルに交換する</li> <li>・油圧フィルタの交換をする</li> <li>・パイプのつぶれ等は修理する</li> </ul>	30, 32, 92 26 30, 32, 92 92, 121
②油圧が上がらない	<ul style="list-style-type: none"> <li>○油量不足 (ミッションオイル)</li> <li>○吸入パイプ系統からエアを吸込む</li> <li>○油圧フィルタの詰まり</li> <li>○ギヤポンプの故障</li> <li>○コントロールバルブの故障</li> <li>○シリンダの破損</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規定量まで補給する</li> <li>・フィルタケースや取付部などを増締め、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換する</li> <li>・交換する</li> <li>・サービス工場での修理する</li> <li>・サービス工場での修理する</li> <li>・サービス工場での交換する</li> </ul>	30, 32, 92 92, 121
③配管に油もれがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各部ジョイントのゆるみ</li> <li>○Oリングの切れ</li> <li>○パイプの亀裂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増締めを行う</li> <li>・交換する</li> <li>・サービス工場での交換する</li> </ul>	
④油圧レバーを上げにするとピーというリリーフバルブの音がする	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ストップ位置の調整不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上げ側ストップを調整します</li> </ul>	23
⑤リフトアームが下がらない	<ul style="list-style-type: none"> <li>○降下速度調節レバーがロック位置になっている</li> <li>○コントロールバルブの故障</li> <li>○リフト・シャフト回動部の焼き付き</li> <li>○バルブ下げスプリングの切損 (PAC車)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・《開》の方向に操作する</li> <li>・サービス工場での修理する</li> <li>・サービス工場での修理する</li> <li>・サービス工場での修理する</li> </ul>	24



## 4 電気・自動制御部

### 電気関係

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
① バッテリーが充電しない (運転中チャージランプが点灯する)	○配線の故障	・端子のゆるみ汚損, アース不良を修正する	21, 95
	○ヒューズブルリンク <sup>ⓑ</sup> の断線	・配線をチェックし, ヒューズ・ヒューズブルリンクを交換する	22, 122
	○ファンベルトのゆるみまたは破損	・張り調整またはベルト交換をする	99, 121
	○バッテリーの機能不良	・端子のゆるみ, 腐食, 電解液の不足などを修正する	95~98
	○オルタネータ不良	・サービス工場での修理する	
② 前照灯が暗い	○バッテリーの放電 ○オルタネータ不良	・充電する ・サービス工場での修理する	98
③ 前照灯が点灯しない	○ヒューズCの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21, 95
	○電球の切れ	・電球交換をする	122
	○配線のコネクタ外れ	・点検しセットする	95
	○接触不良	・アースおよびターミナルの点検掃除をする	95
④ ホーンが鳴らない	○ヒューズCの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21, 95
	○ホーンの損傷	・修理または交換する	
⑤ 方向指示灯が点滅しない	○電球切れ	・電球を交換する	122
	○ヒューズGの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21, 95
	○フラッシュユニットの故障	・交換する	
⑥ パネルランプ類が点灯しない	○電球切れ	・交換する	122
	○ヒューズBの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21

## 電気関係 (266H・286H・306H・336H型)

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①制動灯が点灯しない	○ヒューズGの断線 ○電球切れ	・配線をチェックしヒューズを交換する ・電球を交換する	21,95 122
②後退灯が点灯しない	○ヒューズGの断線 ○電球切れ ○リレーの損傷	・配線をチェックしヒューズを交換する ・電球を交換する ・修理または交換する	21,95 122
③車幅灯が点灯しない	○ヒューズGの断線 ○電球切れ ○リレーの損傷	・配線をチェックしヒューズを交換する ・電球を交換する ・修理または交換する	21,95 122
④尾灯が点灯しない	○ヒューズGの断線 ○電球切れ ○リレーの損傷	・配線をチェックをヒューズを交換する ・電球を交換する ・修理または交換する	21,95 122

## 自動制御関係 (マイコン装備機)

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①ポジションコントロールが作動しない	○ヒューズDの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する (再発するとき、それでも作動しないときは、点検サービスを受ける)	21,95
②傾斜自動が作動しない	○ヒューズDの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する (再発するとき、それでも作動しないときは、点検サービスを受ける)	21,95
③耕深自動が作動しない	○ヒューズDの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する (再発するとき、それでも作動しないときは、点検サービスを受ける)	21,95

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
④ブザーが鳴らない	○ヒューズBの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21,95

### キャビン関係 (キャビン装備機)

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①室内灯が点灯しない	○ヒューズKの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21,95
	○電球切れ	・電球を交換する	122
②カーステレオの時計が表示しない	○ヒューズKの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21,95
	○カーステレオのヒューズ (1A) の断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	
③カーステレオが作動しない	○ヒューズHの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21,95
	○カーステレオのヒューズ (3A) の断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	
④ウォッシュ液が出ない	○ヒューズHの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21,95
⑤ワイパが作動しない	○ヒューズHの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21,95
	○ブレーカが突出している	・配線をチェックしブレーカを押し上げる	70
⑥エアコンが作動しない	○ヒューズJの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21,95
⑦作業灯が点灯しない	○ヒューズIの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21,95
	○電球切れ	・電球を交換する	122

### 取扱いのポイント

- 各不調時の点検は、配線のソケット外れ、接触不良およびアース不良の点検も合わせて行ってください。
- ヒューズの断線が再発するときは点検サービスを受けてください。

# 付 表

## 1 主要諸元

型 式 名	MT225	MT245			MT265		
区 分	226型	246型	246G型	266型	266H型		
駆 動 方 式	4 輪駆動						
機 体 寸 法	全 長 (ロワリンク先端)	mm 3015					
	全 幅	mm 1280	mm 1290	mm 1205	mm 1355		
	全 高 (ハンドル上端)	mm 1880<1945> (1430)	mm 1905 (1460)	mm 1855<1920> (1410)	mm 1905 <1970> (1455)		
	最 低 地 上 高	mm 300	mm 315	mm 335	mm 345		
機 体 質 量 ( 重 量 )	kg 1210<1375>	kg 1225<1390>	kg 1220	kg 1270<1435>	kg 1280<1445>		
エ ン ジ ン	型 式 名	S4L9			S4L		
	種 類	水冷4サイクル4気筒ディーゼル					
	総 排 気 量 cc{ℓ}	1462 {1.462}			1500 {1.500}		
	出力/回転速度 PS{kW}/rpm	22.5{16.5}/2500	24.5{18.0}/2500		26.5{19.5}/2500		
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油					
	燃 料 タ ン ク 容 量 ℓ	28					
	バ ッ テ リ V・Ah	12・56 (5)					
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪	6-14	7-14		7-16	
		後 輪	9.5-22	9.5-24	9.5-26	11.2-24	
	軸 距 mm	1565				1605	
	輪 距	前 輪 mm	1070		950	1115	
		後 輪 mm	1015, 1160 (2段階)		940	1050~1350 (5段階)	
	ク ラ ッ チ 形 式	乾式単板					
ブ レ ー キ 形 式	ディスク式 (湿式)						
か じ 取 方 式	パワーステアリング						
変 速 部	変 速 方 式	[標準機]常時かみ合い式 [パルシフト装備機]同期かみ合い式					
	変 速 段 数	前進16段, 後進16段					
	走 行 速 度	前 進 km/h	0.24~12.54	0.25~13.23	0.26~13.86	0.26~13.04	0.28~21.28
		後 進 km/h	0.22~11.60	0.24~12.24	0.24~12.82	0.24~12.06	0.19~14.99
最 小 旋 回 半 径 m	2.1				2.2		
P T O	回 転 速 度 rpm 正転 逆転	543, 774, 965, 1266 513, 731, 912, 1197			555, 791, 986, 1294 500, 712, 888, 1165		
	軸 径 mm	35 (6スプライン)					
作 業 機 昇 降 装 置	制 御 方 式	ポジションコントロール					
	装 着 方 式	3点リンクI形					

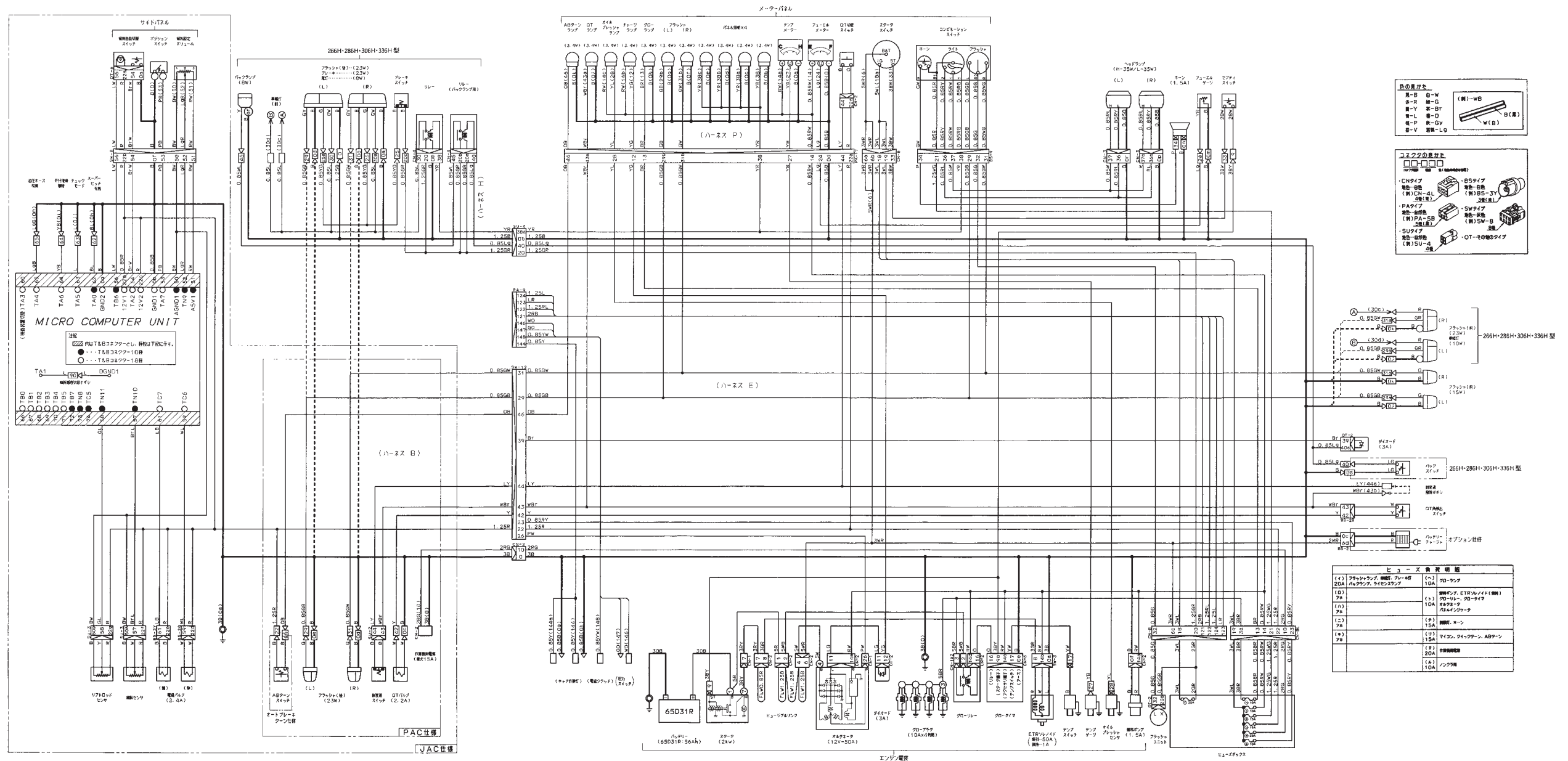
< > 内はキャビン装備機を示します。

※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

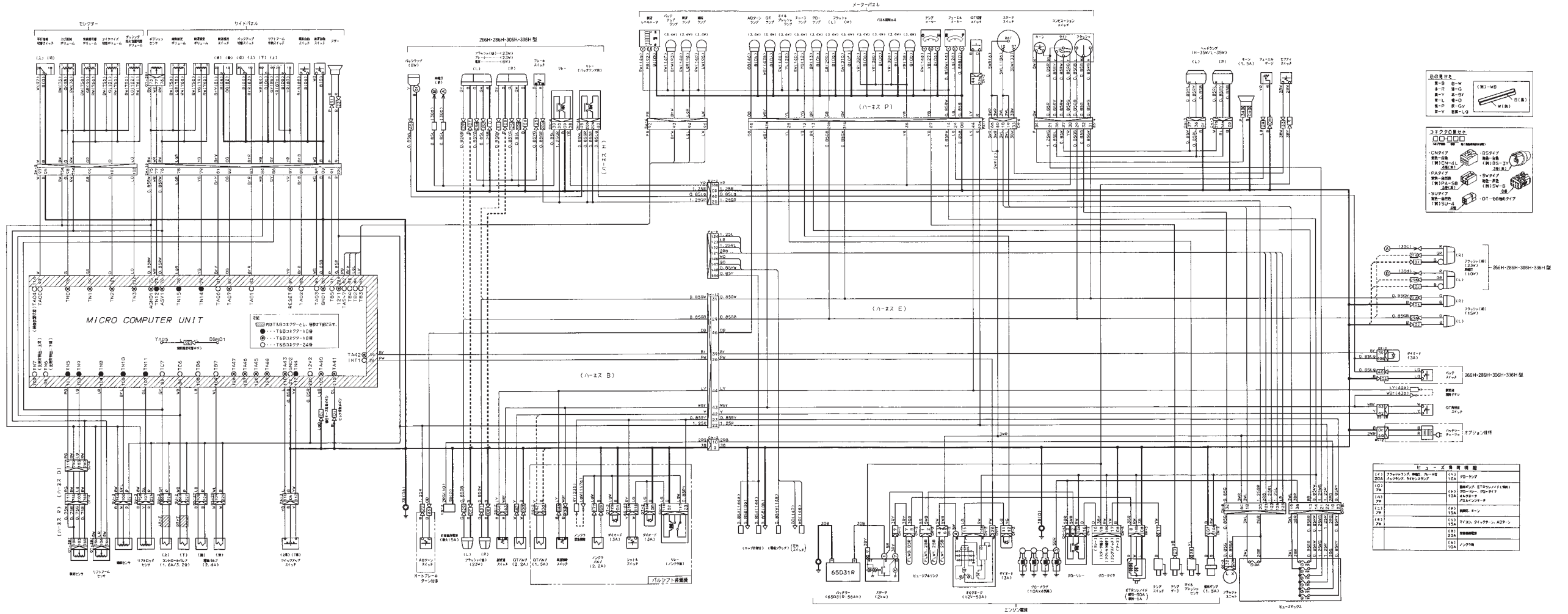
型 式 名		MT285	MT285H	MT305		MT336	
区 分		286型	286H型	306型	306H型	336型	336H型
駆 動 方 式		4 輪 駆 動					
機 体 寸 法	全 長 (ロワリンク先端)	mm	3015	3090			
	全 幅	mm	1390	1410			
	全 高 (ハンドル上端)	mm	1930 <1995> (1470)				
	最 低 地 上 高	mm	345				
機 体 質 量 ( 重 量 )		kg	1305<1470>	1315<1480>			
エ ン ジ ン	型 式 名		S4L				
	種 類		水冷4サイクル4気筒ディーゼル				
	総 排 気 量 cc{ℓ}		1500{1.500}				
	出力/回転速度 PS{kW}/rpm		28.5{21.0}/2500	30.5{22.4}/2700		33{24.3}/2800	
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油				
	燃料タンク容量 ℓ		28				
	バ ッ テ リ V・Ah		12・56 (5)				
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪	7-16				
		後 輪	11.2-26	12.4-24			
	軸 距 mm		1605	1755			
	輪 距	前 輪 mm	1115				
		後 輪 mm	1095~1395 (4段階)				
	ク ラ ッ チ 形 式		乾式単板				
	ブ レ ー キ 形 式		ディスク式 (湿式)				
	か じ 取 方 式		パワーステアリング				
	変 速 方 式		[標準機]常時かみ合い式 [バルシフト装備機]同期かみ合い式				
	変 速 段 数		前進16段, 後進16段				
走 行 速 度	前 進 km/h	0.28~13.75	0.29~22.35	0.28~13.88	0.30~22.65	0.28~13.59	0.30~22.17
	後 進 km/h	0.26~12.73	0.20~15.74	0.27~12.84	0.21~15.95	0.26~12.57	0.21~15.62
最 小 旋 回 半 径 m		2.2					
P T O	回 転 速 度 rpm	555,791,986,1294 500,712,888,1165		581,828,1033,1312 523,746,930,1181		569,811,1011,1284 512,730,910,1156	
	軸 径 mm		35 (6スプライン)				
作 業 機 昇 降 装 置		制 御 方 式	ポジションコントロール				
		装 着 方 式	3点リンクI形				

# 2 電気配線図

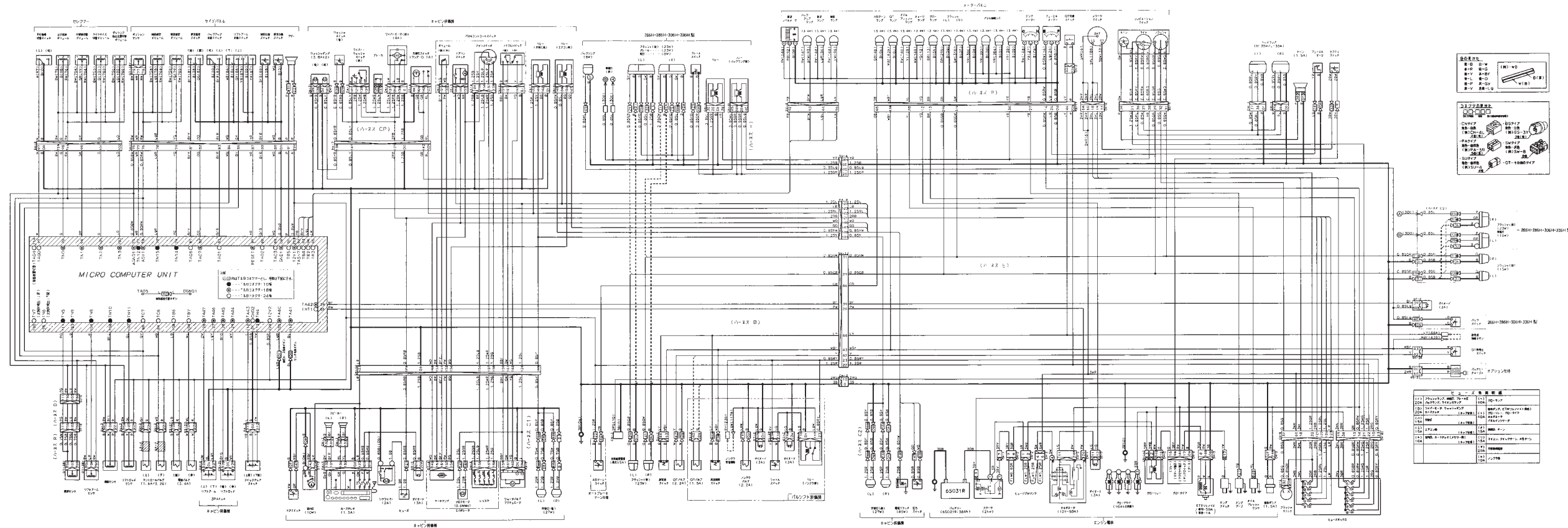
## 1 PAC仕様・JAC仕様機



# 2 MAC仕様機



3 MAC仕様機 [キャビン装備機]



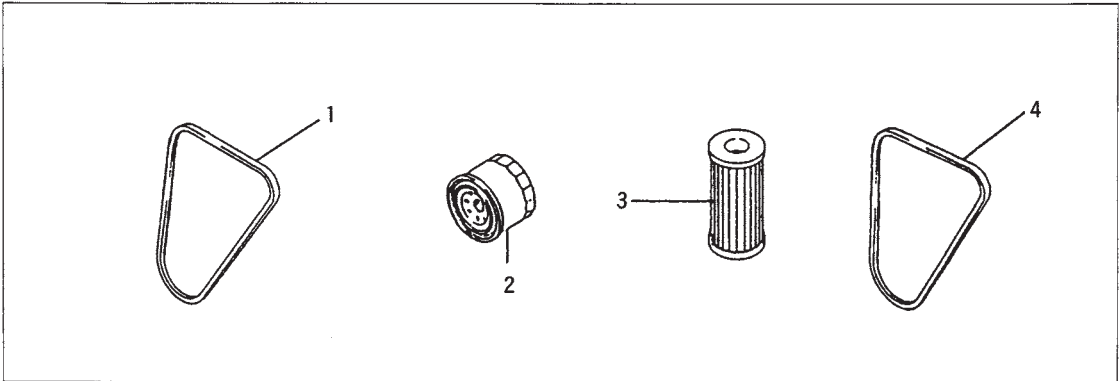
- 端子位置表
- ◎ R10
  - ◎ R11
  - ◎ R12
  - ◎ R13
  - ◎ R14
  - ◎ R15
  - ◎ R16
  - ◎ R17
  - ◎ R18
  - ◎ R19
  - ◎ R20
  - ◎ R21
  - ◎ R22
  - ◎ R23
  - ◎ R24
  - ◎ R25
  - ◎ R26
  - ◎ R27
  - ◎ R28
  - ◎ R29
  - ◎ R30
  - ◎ R31
  - ◎ R32
  - ◎ R33
  - ◎ R34
  - ◎ R35
  - ◎ R36
  - ◎ R37
  - ◎ R38
  - ◎ R39
  - ◎ R40
  - ◎ R41
  - ◎ R42
  - ◎ R43
  - ◎ R44
  - ◎ R45
  - ◎ R46
  - ◎ R47
  - ◎ R48
  - ◎ R49
  - ◎ R50
  - ◎ R51
  - ◎ R52
  - ◎ R53
  - ◎ R54
  - ◎ R55
  - ◎ R56
  - ◎ R57
  - ◎ R58
  - ◎ R59
  - ◎ R60
  - ◎ R61
  - ◎ R62
  - ◎ R63
  - ◎ R64
  - ◎ R65
  - ◎ R66
  - ◎ R67
  - ◎ R68
  - ◎ R69
  - ◎ R70
  - ◎ R71
  - ◎ R72
  - ◎ R73
  - ◎ R74
  - ◎ R75
  - ◎ R76
  - ◎ R77
  - ◎ R78
  - ◎ R79
  - ◎ R80
  - ◎ R81
  - ◎ R82
  - ◎ R83
  - ◎ R84
  - ◎ R85
  - ◎ R86
  - ◎ R87
  - ◎ R88
  - ◎ R89
  - ◎ R90
  - ◎ R91
  - ◎ R92
  - ◎ R93
  - ◎ R94
  - ◎ R95
  - ◎ R96
  - ◎ R97
  - ◎ R98
  - ◎ R99
  - ◎ R100
- コンポーネント位置表
- ◎ S10
  - ◎ S11
  - ◎ S12
  - ◎ S13
  - ◎ S14
  - ◎ S15
  - ◎ S16
  - ◎ S17
  - ◎ S18
  - ◎ S19
  - ◎ S20
  - ◎ S21
  - ◎ S22
  - ◎ S23
  - ◎ S24
  - ◎ S25
  - ◎ S26
  - ◎ S27
  - ◎ S28
  - ◎ S29
  - ◎ S30
  - ◎ S31
  - ◎ S32
  - ◎ S33
  - ◎ S34
  - ◎ S35
  - ◎ S36
  - ◎ S37
  - ◎ S38
  - ◎ S39
  - ◎ S40
  - ◎ S41
  - ◎ S42
  - ◎ S43
  - ◎ S44
  - ◎ S45
  - ◎ S46
  - ◎ S47
  - ◎ S48
  - ◎ S49
  - ◎ S50
  - ◎ S51
  - ◎ S52
  - ◎ S53
  - ◎ S54
  - ◎ S55
  - ◎ S56
  - ◎ S57
  - ◎ S58
  - ◎ S59
  - ◎ S60
  - ◎ S61
  - ◎ S62
  - ◎ S63
  - ◎ S64
  - ◎ S65
  - ◎ S66
  - ◎ S67
  - ◎ S68
  - ◎ S69
  - ◎ S70
  - ◎ S71
  - ◎ S72
  - ◎ S73
  - ◎ S74
  - ◎ S75
  - ◎ S76
  - ◎ S77
  - ◎ S78
  - ◎ S79
  - ◎ S80
  - ◎ S81
  - ◎ S82
  - ◎ S83
  - ◎ S84
  - ◎ S85
  - ◎ S86
  - ◎ S87
  - ◎ S88
  - ◎ S89
  - ◎ S90
  - ◎ S91
  - ◎ S92
  - ◎ S93
  - ◎ S94
  - ◎ S95
  - ◎ S96
  - ◎ S97
  - ◎ S98
  - ◎ S99
  - ◎ S100
- L10
- ◎ L11
- ◎ L12
- ◎ L13
- ◎ L14
- ◎ L15
- ◎ L16
- ◎ L17
- ◎ L18
- ◎ L19
- ◎ L20
- ◎ L21
- ◎ L22
- ◎ L23
- ◎ L24
- ◎ L25
- ◎ L26
- ◎ L27
- ◎ L28
- ◎ L29
- ◎ L30
- ◎ L31
- ◎ L32
- ◎ L33
- ◎ L34
- ◎ L35
- ◎ L36
- ◎ L37
- ◎ L38
- ◎ L39
- ◎ L40
- ◎ L41
- ◎ L42
- ◎ L43
- ◎ L44
- ◎ L45
- ◎ L46
- ◎ L47
- ◎ L48
- ◎ L49
- ◎ L50
- ◎ L51
- ◎ L52
- ◎ L53
- ◎ L54
- ◎ L55
- ◎ L56
- ◎ L57
- ◎ L58
- ◎ L59
- ◎ L60
- ◎ L61
- ◎ L62
- ◎ L63
- ◎ L64
- ◎ L65
- ◎ L66
- ◎ L67
- ◎ L68
- ◎ L69
- ◎ L70
- ◎ L71
- ◎ L72
- ◎ L73
- ◎ L74
- ◎ L75
- ◎ L76
- ◎ L77
- ◎ L78
- ◎ L79
- ◎ L80
- ◎ L81
- ◎ L82
- ◎ L83
- ◎ L84
- ◎ L85
- ◎ L86
- ◎ L87
- ◎ L88
- ◎ L89
- ◎ L90
- ◎ L91
- ◎ L92
- ◎ L93
- ◎ L94
- ◎ L95
- ◎ L96
- ◎ L97
- ◎ L98
- ◎ L99
- ◎ L100

各種部品仕様表	
101	マイクロコンピュータ
102	電源レギュレーション装置
103	デジタル・アナログ変換器
104	データロギング装置
105	無線電送受信機
106	無線電送受信機
107	無線電送受信機
108	無線電送受信機
109	無線電送受信機
110	無線電送受信機
111	無線電送受信機
112	無線電送受信機
113	無線電送受信機
114	無線電送受信機
115	無線電送受信機
116	無線電送受信機
117	無線電送受信機
118	無線電送受信機
119	無線電送受信機
120	無線電送受信機
121	無線電送受信機
122	無線電送受信機
123	無線電送受信機
124	無線電送受信機
125	無線電送受信機
126	無線電送受信機
127	無線電送受信機
128	無線電送受信機
129	無線電送受信機
130	無線電送受信機
131	無線電送受信機
132	無線電送受信機
133	無線電送受信機
134	無線電送受信機
135	無線電送受信機
136	無線電送受信機
137	無線電送受信機
138	無線電送受信機
139	無線電送受信機
140	無線電送受信機
141	無線電送受信機
142	無線電送受信機
143	無線電送受信機
144	無線電送受信機
145	無線電送受信機
146	無線電送受信機
147	無線電送受信機
148	無線電送受信機
149	無線電送受信機
150	無線電送受信機



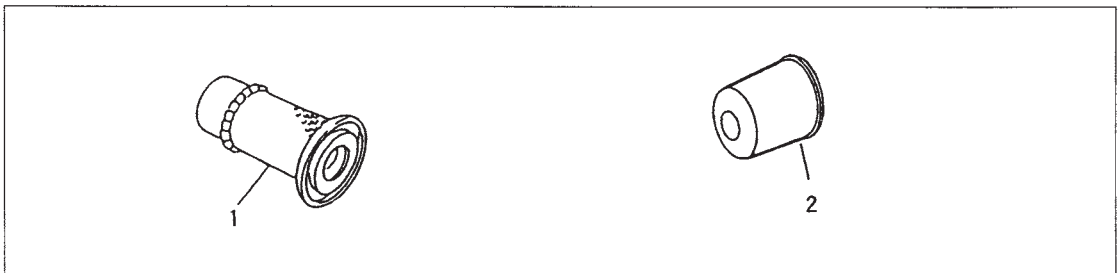
### 3 主な消耗部品

#### 1 エンジン関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型 寸	備 考
1	MD041704	ファンベルト	1		HM L=970
2	MD134953	フィルタアセンブリ	1		
3	MM320886	フュエルエレメント	1		
4	1036 6359 000	コンプレッサベルト	1		A ゴールド L=1324

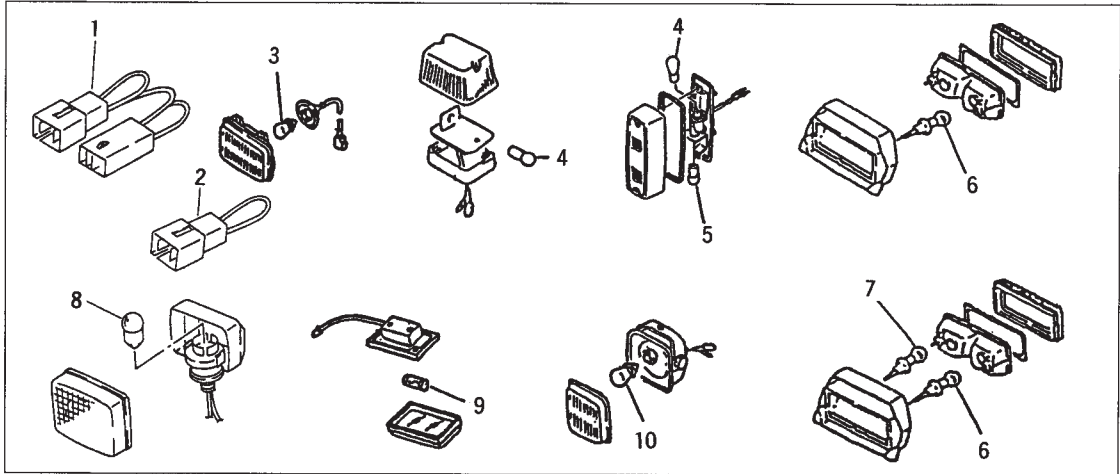
#### 2 エアクリーナ・油圧ライン関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型 寸	備 考
1	1031 0511 200	エレメント	1		
2	1035 2509 000	油圧フィルタ	1		

・ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

### ③ 電装関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型 寸	備 考
1	1035 2879 200	ヒューズブルリンクA	1		
2	3732 0838 000	ヒューズブルリンクB	1		
3	0980 8123 509	バルブ	2	12V-35/35W	前照灯
	6740 4-01 720	バルブ	2	35/35W	前照灯 (266H・286H・306H・336H)
4	0980 8121 504	バルブ	2	12V-15W	方向指示灯(前)
	0980 8122 304	バルブ	2	12V-23W	方向指示灯(前) (266H・286H・306H・336H)
5	0980 8121 001	バルブ	2	12V-10W	車幅灯 (266H・286H・306H・336H)
6	0980 8121 504	バルブ	2	12V-15W	方向指示灯(後)
	0980 8122 304	バルブ	2	12V-23W	方向指示灯(後) (266H・286H・306H・336H)
7	1035 2816 200	バルブ	2	12V-23/8W	制動灯/尾灯 (266H・286H・306H・336H)
8	0980 8120 801	バルブ	1	12V-8W	後退灯 (266H・286H・306H・336H)
9	3532 3833 200	バルブ	1	12V-10W	室内灯〔キャビン装備機〕
10	1035 6281 200	バルブ	4	12V-27W	作業灯〔キャビン装備機〕

・ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

#### 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年といたします。  
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただきます場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

## 4 アタッチメント一覧表

次のアタッチメントを基本作業機として準備しておりますのでご利用ください。

	コードNo	名 称	型 式	226型	226L型	246型	246L型	266型	266L型	286型	306型	336型	主 な 仕 様
1	3210640200	ドローバ	DH-GO	○	○	○	○	○	○	○	○	○	引出し式
2	3210120030	バンパウエイト	BW-1843MT	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20kg 5個まで装着可
3	3210150161	バンパウエイト	BW-F1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20kg 6個まで装着可
4	3210150171	バンパウエイト	BW-F2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	22kg 6個まで装着可
5	3210150211	シャージウエイト	SW-F2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	32kg
6		ルーフキット	F-GO2F	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2柱折り畳み式
7	3214011311	LK ホイル (SB)	RSB15-922F2	○									9.5-22用
8	3214112411	LK ホイル (LB)	RLB17S-922F2	○									9.5-22用
9	3214112761	LK ホイル (LA)	RLA200-922F2	○									9.5-22用
10	3214112421	LK ホイル (LB)	RLB17S-924F2	○	○								9.5-24用
11	3214112771	LK ホイル (LA)	RLA200-924F2	○	○								9.5-24用
12	3214112431	LK ホイル (LB)	RLB17S-1124F2				○	○					11.2-24用
13	3214112781	LK ホイル (LA)	RLA200-1124F2				○	○					11.2-24用
14	3214113080	LK ホイル (LA)	RLA200-1126GO						○	○	○	○	11.2-26用
15		ダイヤホイル		○									9.5-22用
16		ダイヤホイル			○	○							9.5-24用
17		ダイヤホイル					○	○					11.2-24用
18		ダイヤホイル							○	○	○	○	11.2-26用
19	3254111351	代かきロータ(サイド用)	PRS-142F2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB141S用
20	3254111361	代かきロータ(サイド用)	PRS-152F2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB151S用
21	3254211300	代かきロータ(センタ用)	PRC-14AL1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB141C用
22	3254210506	代かきロータ(センタ用)	PRC-25F2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB151C用
23	3250160070	延長パイプキット	EXP-F2C3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R1416C.R1516C用.延長幅150mm×2
24		延長カバーキット	EXC-GOMC	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB140C.RB150C用.延長幅150mm×2
25	3255910306	クイックレベラ	JKL-1440F1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	レベラ幅2.2m
26	3255910181	クイックレベラ	JKL-1440DXF1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	レベラ幅2.2m. デラックス型
27	3255910276	クイックレベラ	JKL-1640F2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	レベラ幅2.4m
28	3255910216	クイックレベラ	JKL-1640DXF2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	レベラ幅2.4m. デラックス型
29	3250511641	うね立器ブラケット	TB-GSF23N	○	○	○	○	○	○	○	○	○	固定式 (ℓ:130)
30	3250511141	反転うね立器ブラケット	TBL-GSF23N	○	○	○	○	○	○	○	○	○	反転式 (ℓ:130)
31	3250511240	うね立器45型	RR-45F23N	○	○	○	○	○	○	○	○	○	底幅135mm
32	3250511250	うね立器6型	RR-60F23N	○	○	○	○	○	○	○	○	○	底幅180mm
33	3252111010	反転式片培土器 (右)	FKR12-FN	○	○	○	○	○	○	○	○	○	横反転式 (右用) 底幅120mm
34	3252111020	反転式片培土器 (左)	FKL12-FN	○	○	○	○	○	○	○	○	○	横反転式 (左用) 底幅120mm
35	3252111030	反転式片培土器 (右)	FKR19-FN	○	○	○	○	○	○	○	○	○	横反転式 (右用) 底幅190mm
36	3252111040	反転式片培土器 (左)	FKL19-FN	○	○	○	○	○	○	○	○	○	横反転式 (左用) 底幅190mm
37		ロードマスタ	HLD-2230	○	○	○	○	○	○	○	○	○	制限荷重350kg. 手動レバー式
38		ロードマスタ MC	HLD-2230MC	○	○	○	○	○	○	○	○	○	制限荷重350kg. 電磁バルブ式

コードNo	名称	型式	226型	226L型	246型	246L型	266型	266L型	286型	306型	336型	主な仕様
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
39	標準バケット	B-1014HLD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	作業幅1037mm,容量0.14m <sup>3</sup>
40	爪付きバケット	TB-10145HLD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	作業幅1037mm,容量0.14m <sup>3</sup> ,爪5本
41	広幅バケット	WB-1522HLD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	作業幅1545mm,容量0.22m <sup>3</sup>
42	マニアフォーク	M-1066HLD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	作業幅1052mm,タイン長600mm,タイン6本
43	ハイフォーク	H-14117HLD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	作業幅1478mm,タイン長1100mm,タイン7本
44	グレーダ	G-12HLD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	作業幅1228mm
45	広幅爪付バケット	WTB-15227HLD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	作業幅1545mm,容量0.22m <sup>3</sup> ,爪7本
46	ロールグラブ	RG-25HLD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
47	広幅マニアフォーク	WM-1267HLD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	作業幅1228mm,タイン長600mm,タイン7本
48	パレットフォーク	P-1182HLD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	作業幅1150mm,タイン長805mm,フォーク2本
49	3212410580	サブバルブ1連(手動)	D1-2228GO	○	○	○	○	○	○	○	○	安全フレーム用手動レバー式,単複切換式1連
50	3212410590	サブバルブ2連(手動)	D2-2228GO	○	○	○	○	○	○	○	○	安全フレーム用手動レバー式,単複切換式2連
51		電磁式サブバルブ1連	DS-2228GOMCAB	○	○	○	○	○	○	○	○	キャビン専用電磁式,単複切換式1連

## 5 潤滑油

# 使用オイル表

オイルを使用する場合は下記の表を参照の上温度条件に合わせて使用します。

### 1 エンジン

メーカ	商 品 名
純 正 油	マルチ STOU オイル (SAE10W-30)
全 農	クミアイエンジンオイル (ディーゼル用)
三 菱 石 油	ダイヤモンドHDS-3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル

#### 取扱いのポイント

- やむをえず他のメーカーのオイルを使用される場合はAPIサービス分類CD級以上のオイルをお使いください。

### 2 ミッション、フロントアクスル

APIサービス分類 GL-4級以上のオイルで湿式ブレーキ適性のあるもの。

銘柄 (メーカー)	オ イ ル 商 品 名
純 正 油	マルチ GB オイル (SAE80W)
〃	マルチ STOU オイル (SAE10W-30)
三 菱 石 油	ダイヤモンドファームギヤオイルB (SAE80W)
〃	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル (SAE10W-30)
日 本 石 油	アントイルB (SAE80W)
全 農	クミアイトラクタオイル (SAE80W)
昭和シェル石油	ギヤオイルHTS-56スーパー (SAE80W)

※商品名は変更することがあります。

#### 取扱いのポイント

- パルシフト装備機のトランスミッションオイルは、マルチ STOU オイルをお使いください。

## 《三菱農機 純正油 マルチオイルペア》

- マルチS<sup>ト</sup>T<sup>ニ</sup>O<sup>ニ</sup>U<sup>ニ</sup>オイルは、1種類でエンジンオイル、ギヤオイルとして、一年中ご使用いただける、オールシーズンタイプのオイルです。
- マルチGBオイルは、ギヤ及び湿式ブレーキの特性を考慮して開発された、ギヤ（G）と湿式ブレーキ（B）専用オイルです。

スト  
マルチSTOUオイル



マルチGBオイル



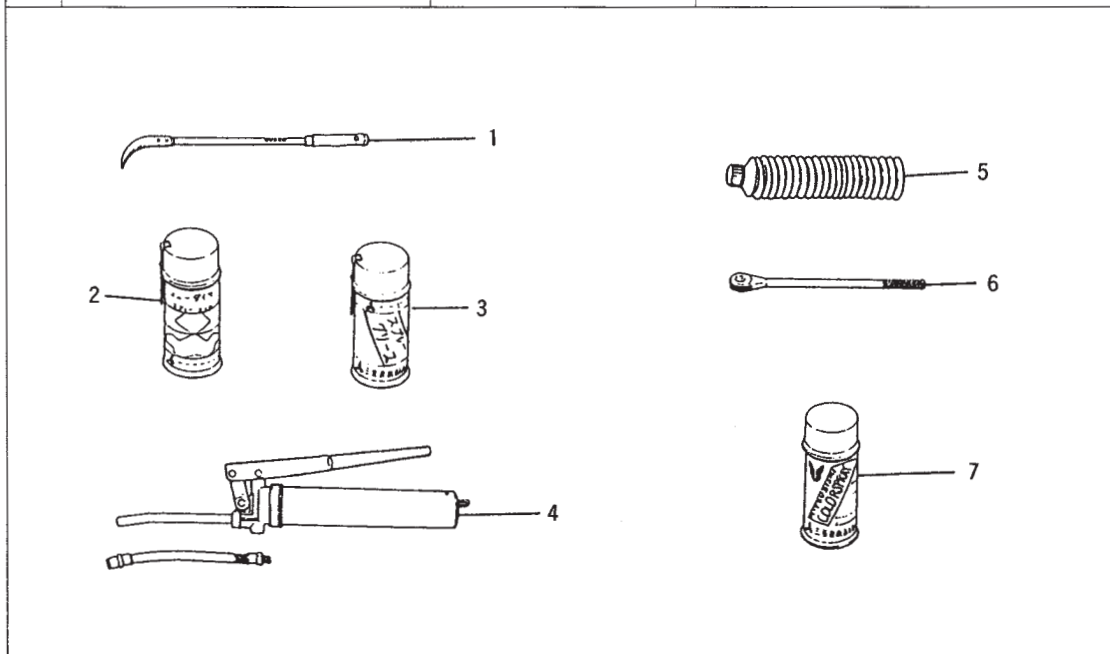
性状		品名	マルチSTOUオイル	マルチGBオイル
比	重	15/4℃	0.883	0.893
引	火	点	210	230
流	動	点	-37.5	-35.0
動粘度cSt	@	40℃	62.2	78.4
	@	100℃	10.8	9.8
粘	度	指	168	104
A P I サービス分類			SD/CD/GL-4	GL-4
S A E 粘度番号			10W-30	80W
荷	姿		ドラム・20ℓ缶	ドラム・20ℓ缶

• お買い求めは、弊社「特約販売店」で取扱っていますのでご相談ください。

## 6 トラクタ関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No	商 品 名	商 品 番 号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1-420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850-666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	ラチェットレンチ（17）	HT3100	爪の脱着，増締
7	カラースプレー（赤） 〃（白） 〃（黒）	0975 0000 490 0975 0000 160 0975 0000 470	補修用塗料



・ご用命のときは、「商品番号」・「商品名」をお知らせください。



# 農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表



型式名：三菱 CF336

合格番号：95032

種類：安全キャブ

依頼者名：三菱農機株式会社

住所：島根県八束郡東出雲町大字揖屋町  
667番地1

## I 装着可能トラクター

### 1. 型式名

三菱 MT336	三菱 MT305	三菱 MT285H	三菱 MT285
三菱 MT265	三菱 MT245	三菱 MT225	

### 2. 主要諸元(最大及び最小トラクター)

■型式名	:	三菱 MT336	三菱 MT225
■種類	:	4輪駆動	4輪駆動
■質量(キャブ付き)	kg	1506	1404
■軸距	mm	1755	1565
■機関出力/回転数	kW{PS}/rpm	24.3{33.0}/2800	16.5{22.5}/2500

## II 構造の概要

### 1. 構造及び装着法

供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してセンターケース部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

ウインドスクリーン、ドア(両側)、後窓を装備。

### 2. 主な装備

シートベルト(2点式)、暖冷房装置、電動ワイパー(前・後)、ルーフハッチ

### 3. 主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材(内張下面)までの高さ	:	92.5 cm
■フットプレートから屋根部材(内張下面)までの高さ	:	132.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅	:	89.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅	:	82.5 cm
■戸口の幅	(上部)	: 69.5 cm
	(中部)	: 97.5 cm
	(下部)	: 32.0 cm
■戸口の高さ	(フットプレートから)	: 125.0 cm
■最低位ステップの高さ		: 42.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	(キャブ上端まで)	: 199.0 cm
■キャブの全幅	(フェンダーを含む)	: 125.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		: 27.5 cm

※1. 三菱 MT336 (タイヤサイズ : 前輪 7-16 後輪 12.4-24) に装着時。

2. トラクターシートの銘柄型式 : 難波プレス工業, GXシート

3. ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。



#### 4. 主要材料

- 主 フ レ ー ム： STKR 400, STK 400, SS 400, SPHC, SPCC, S25C
- 装着ブラケット： SS 400, STKM 12C
- 組立・装着ボルト： S45C, SCM 435

---

### III 検査成績

---

#### 1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、キャブの後部右側、側部左側に対して実施。

- 基準質量： 1600 kg
- 所要吸収エネルギー： 後部負荷 2.58 kJ { 263 kgf・m }  
側部負荷 3.34 kJ { 340 kgf・m }
- 圧壊力： 23.54 kN { 2400 kgf }

2) 試験後のキャブの永久変位

- 後部(前方へ)： 右側 2.0 cm 左側 3.0 cm
- 前部(後方へ)： 右側 -2.0 cm 左側 -4.0 cm
- 側部(右側方へ)： 前側 19.5 cm 後側 17.5 cm
- 上部(下方へ)： 前部 右側 5.5 cm 左側 0.0 cm  
後部 右側 3.5 cm 左側 -1.0 cm

3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差： 7.5 cm

#### 2. 騒音※

- 86 dBA (三菱 MT 3 3 6) 84 dBA (三菱 MT 2 2 5)

※ 7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音、運転者の耳もと

---

### IV 付記

---

強度試験はコードⅡにより実施した。



# 農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表



型式名：三菱 2F285

合格番号：95033

種類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：三菱農機株式会社

住所：島根県八束郡東出雲町大字揖屋町  
667番地1

## I 装着可能トラクター

### 1. 型式名

三菱 MT336	三菱 MT305	三菱 MT285H	三菱 MT285
三菱 MT265	三菱 MT245	三菱 MT225	

### 2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型式名	:	三菱 MT336	三菱 MT225
■種類	:	4輪駆動	4輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	1338	1199
■軸距	mm	1755	1565
■機関出力 / 回転数	kW(PS)/rpm	24.3(33.0)/2800	16.5(22.5)/2500

## II 構造の概要

### 1. 構造及び装着法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり、防振ゴム・取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

### 2. 主な装備

シートベルト（2点式）

### 3. 主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ	:	82.5 cm
■フットプレートから屋根部材（下面）までの高さ	:	125.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅	:	80.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	:	— cm
■戸口の幅	(上部)	— cm
	(中部)	— cm
	(下部)	— cm
■戸口の高さ	(フットプレートから)	— cm
■最低位ステップの高さ	:	42.5 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高（屋根部材上面まで）	:	194.5 cm
■フレームの全幅	:	102.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	:	32.5 cm

※1. 三菱 MT336（タイヤサイズ：前輪 7-16 後輪 12.4-24）に装着時。

2. トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業、GOシート

3. ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

#### 4. 主要材料

- 主 フ レ ー ム： STKR 400, STK 400, STKM 11A, STKM 12C, SS 400, SM 490 B
- 装着ブラケット： SS 400
- 組立・装着ボルト： S45C, SCM 435

---

### III 検査成績

---

#### 1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、フレームの後部右側、側部左側に対して実施。

- 基準質量： 1350 kg
- 所要吸収エネルギー： 後部負荷 2.17 kJ { 222 kgf・m }  
側部負荷 2.99 kJ { 305 kgf・m }
- 圧壊力： 19.86 kN { 2025 kgf }

2) 試験後のフレームの永久変位

- 後部(前方へ)： 右側 9.5 cm 左側 10.5 cm
- 側部(右側方へ)： 15.0 cm
- 上部(下方へ)： 右側 1.0 cm 左側 -2.0 cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差： 8.0 cm

#### 2. 騒音※

- 86 dBA [三菱 MT 3 3 6] 85 dBA [三菱 MT 2 2 5]

※ 7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音、運転者の耳もと

---

### IV 付 記

---

本フレームは、既合格機(合格番号 93032)であり、装着トラクター1型式(三菱 MT 3 3 6)の追加に伴って受検したものである。従って、下記の試験成績を転用した。

強度試験, 分解調査

# お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買いあげ先へお問合わせください。

- ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は……？

型 式

機械番号(製造番号)

- ご使用状況は……？

(何速で,どんな作業のとき)

- どのくらい使用されましたか？

(約 \_\_\_\_\_ アール使用後)

- トラブルが発生したときの状況を,できるだけ詳しくお教えてください。



どんなに小さなことでも,  
お気軽にお問合わせ  
ください。

(ご相談窓口) お買いあげ先

T E L ( )



未来をひらく

## 三菱農機株式会社

- 本社** 島根県八東郡東出雲町大字揖屋町667-1  
〒699-0195 ☎ (0852)52-2111(代)
- 営業本部** 東京都新宿区富久町15番地1号 三菱重工新宿ビル  
〒162-0067 ☎ (03)5360-7330(代)
- 札幌支店** 千歳市上長郡1046  
〒066-0077 ☎ (0123)22-1213
- 仙台支店** 宮城県多賀城市宮内2-3-1  
〒985-0844 ☎ (022)364-1181
- 秋田営業所** 秋田市寺内神楽敷295-28  
〒011-0901 ☎ (0188)46-6530
- 東京支店** 埼玉県北葛飾郡葛宮町桜田2-133-4  
〒340-0203 ☎ (0480)58-9511
- 新潟営業所** 新潟県西蒲原郡黒崎町大字山田字中道上  
〒950-1101 ☎ (025)267-6112
- 千葉営業所** 千葉県八街市吉倉字菜飯506-21  
〒289-1133 ☎ (043)445-6144
- 名古屋支店** 愛知県海部郡美和町大字ニツ寺字東高須賀1  
〒490-1207 ☎ (052)445-4300
- 三重営業所** 三重県安芸郡安濃町大字内多字蓮書田2504-1  
〒514-2303 ☎ (0592)68-1255
- 西日本支店** 岡山県邑久郡邑久町豆田字東大上161番1  
〒701-4254 ☎ (08692)4-0808
- 広島営業所** 広島県市西条町大字御園字字湯之元6400-5  
〒739-0024 ☎ (0824)22-6767
- 島根支店** 島根県八東郡東出雲町大字下巻東1508  
〒699-0102 ☎ (0852)52-2110
- 九州支店** 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜7-1  
〒841-0048 ☎ (0942)85-2821
- 熊本営業所** 熊本県熊本市下現川町2202-1  
〒861-5522 ☎ (096)322-1142

## 販売会社

(販売会社は広域販売会社のみを記載)

- 北海道** 北海道千歳市上長郡1046  
三菱農機販売株式会社 〒066-0077 ☎ (0123)22-1234
- 東日本** 宮城県多賀城市宮内2-3-1  
三菱農機販売株式会社 〒985-0844 ☎ (022)364-1188
- 関東甲信越** 埼玉県北葛飾郡葛宮町桜田2-133-4  
三菱農機販売株式会社 〒340-0203 ☎ (0480)58-9521
- 北陸** 福井県福井市問屋町2-38  
三菱農機販売株式会社 〒918-8231 ☎ (0776)22-1965
- 東海** 愛知県海部郡美和町大字ニツ寺字東高須賀1  
三菱農機販売株式会社 〒490-1207 ☎ (052)445-4861
- 西日本** 岡山県邑久郡邑久町豆田161-1  
三菱農機販売株式会社 〒701-4254 ☎ (08692)4-0820
- 山陰** 島根県八東郡東出雲町大字下巻東1508  
三菱農機販売株式会社 〒699-0102 ☎ (0852)52-2110
- 九州** 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜7-1  
三菱農機販売株式会社 〒841-0048 ☎ (0942)84-1888